

奥多摩町まちづくり住民アンケート調査

調査報告書

平成 21 年 8 月

東京都 奥多摩町

〔目次〕

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
3. 回収状況.....	1
4. グラフ中の標記について.....	1
II. 調査結果.....	2
【回答者の属性】.....	2
問1 性別.....	2
問2 年齢.....	2
問3 家族構成.....	2
問4 既婚・未婚の状況.....	3
問5 居住地区.....	3
【奥多摩町での住みよさについて】.....	4
問6 現在の住み良さ.....	4
問7 居住意向.....	7
【奥多摩町の行政運営について】.....	10
問8 行政運営の満足度.....	10
問9 分野別行政運営の満足度.....	13
【奥多摩町のまちづくり施策について】.....	16
問10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価.....	16
問11 最重要と考える奥多摩創造プロジェクト.....	19
問12 分野別施策の実施状況の満足度.....	21
問13 住民意向のまちづくりへの反映.....	32
問14 まちづくりへの取組み.....	35
問15 産業振興の重点.....	37
問16 新規転入・若者定住促進策.....	40
問17 教育の重点.....	42
問18 行財政改革の重点.....	44
問19 行政への住民参加状況.....	47
問20 住民と行政との役割分担.....	49
問21 参加したい活動.....	50
問22 希望する情報提供.....	52
問23 住民参加促進手法.....	54

【奥多摩町での生活について】	57
問 24 生活の中で大切にしたいこと	57
問 25 豊かさとは.....	59
問 26 生活上の関心事.....	61
問 27 生活の満足度	63
資料編	65
問 9 分野別行政運営の満足度	65
問 10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価.....	68
問 12 分野別施策の実施状況の満足度	71
問 12 分野別施策の実施状況の満足度（過去調査との比較）	95
問 13 住民意向のまちづくへの反映.....	105
問 14 まちづくりへの取り組み	106
問 19 行政への住民参加状況.....	107
問 27 生活の満足度	108

I. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、奥多摩町のまちづくりや施策、町政運営等に対する評価・意向を把握するために実施しました。

2. 調査の方法

- ◆調査地域 : 奥多摩町全域
- ◆調査対象 : 奥多摩町に居住する 16 歳以上の住民 1,500 名
※住民基本台帳より無作為抽出
- ◆調査方法 : 郵送による配布・回収
- ◆調査時期 : 平成 21 年 4 月 27 日～5 月 16 日

3. 回収状況

- ◇配布数 : 1,500 票
- ◇有効回収数 : 675 票
- ◇有効回収率 : 45.0%

4. グラフ中の標記について

◇グラフの基数は、特に標記のない限り総数（N=675）です。基数が総数と異なるときには、その都度グラフ上に表記します。

◇各設問において、次の略称を使用しています。

SA：シングルアンサー（一つだけ選択回答）

xLA：リミテッドアンサー（x 以内選択回答）

MA：マルチアンサー（複数選択回答）

◇加重平均は以下によります。

「満足」に 2 ポイント、「やや満足」に 1 ポイント、「やや不満」に -1 ポイント、「不満」に -2 ポイントを与え、無回答を除く合計で割ったものです。

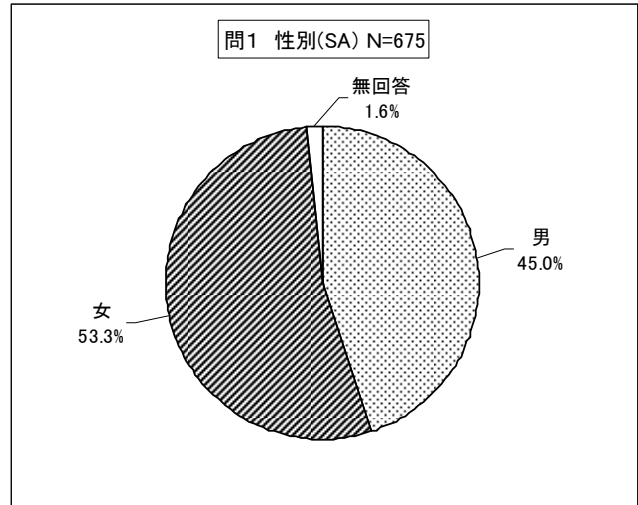
全員が「満足」の場合は 2 ポイントとなり、「満足」と「不満」がそれぞれ 50% の場合は 0 ポイントとなります。

II. 調査結果

【回答者の属性】

問 1 性別

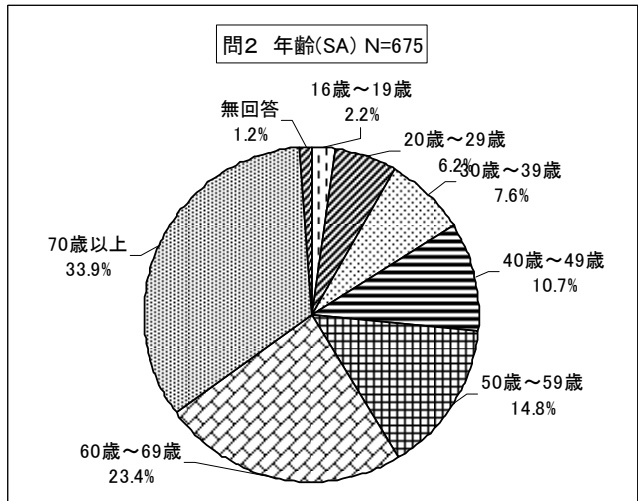
回答者の性別は、「男」が 45.0% (304 人)、「女」が 53.3% (360 人) となっており、やや「女」の割合が高くなっています。



問 2 年齢

回答者の年齢は、「70 歳以上」が最も高く 33.9% (229 人) となっており、次いで「60 歳～69 歳」が 23.4% (158 人)、「50 歳～59 歳」が 14.8% (100 人)、「40 歳～49 歳」10.7% (72 人) と続いています。

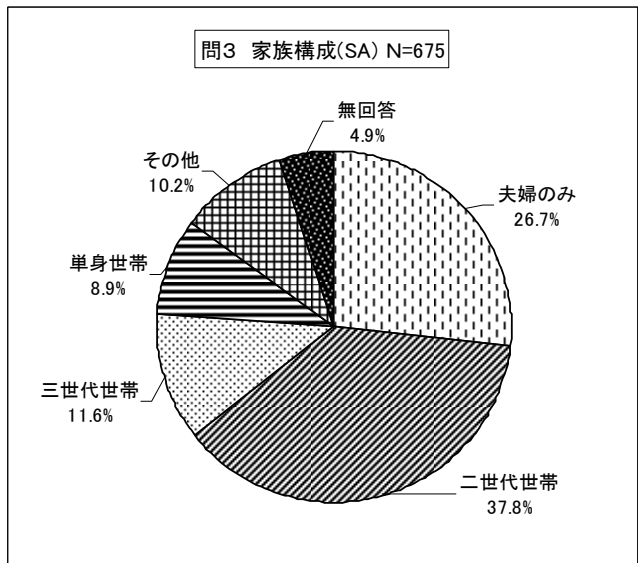
60 代以上の回答者が 57.3% を占め、高齢層の回答比率が高くなっています。



問 3 家族構成

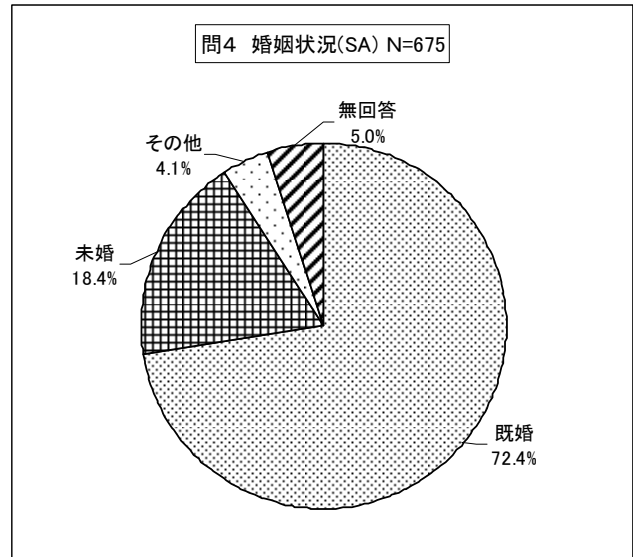
回答者の家族構成は、「二世世代世帯」が最も高く 37.83% (255 人) となっており、次いで「夫婦のみ」が 26.7% (180 人)、「三世世代世帯」が 11.6% (78 人)、「単身世帯」8.9% (60 人) と続いています。

三世世代世帯は全体の十分の一にとどまっている一方、二世世代世帯と夫婦のみの世帯を合わせると 64.5% となっており、核家族化の傾向がみられます。



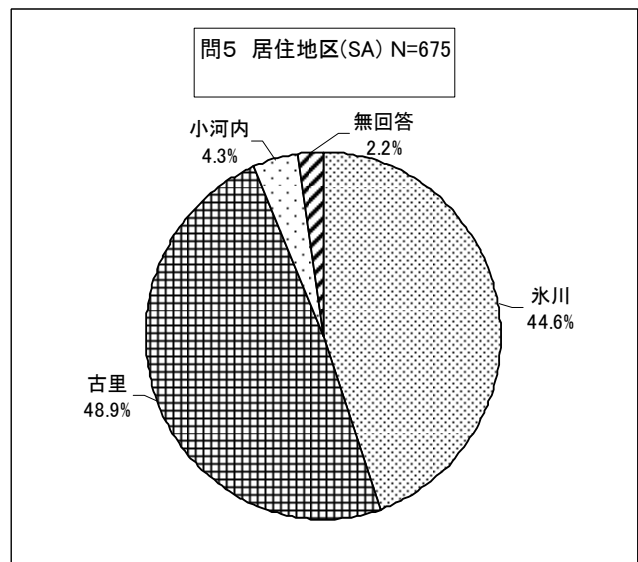
問 4 既婚・未婚の状況

回答者の婚姻状況は、「既婚」が 72.4%（489 人）と多く、「未婚」は 18.4%（124 人）にとどまっています。



問 5 居住地区

回答者の居住地区は、「古里」地区が 48.9%（330 人）、「氷川」地区が 44.6%（301 人）と 2 つの地区が高い割合を占め、「小河内」地区は 4.3%（29 人）となっています。

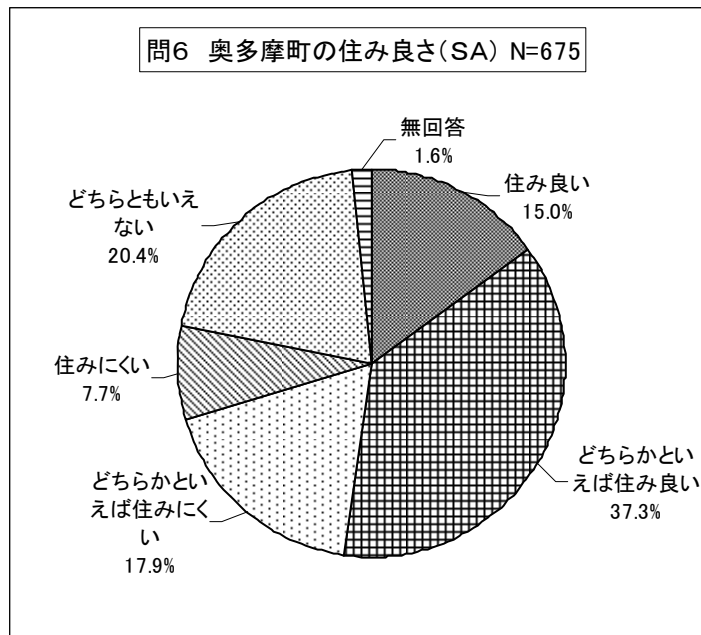


【奥多摩町での住みよさについて】

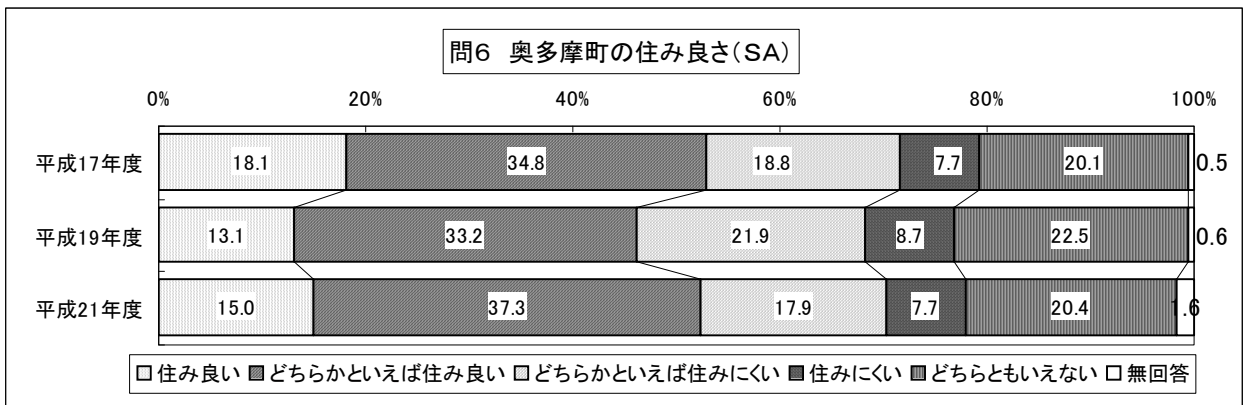
問 6 現在の住み良さ

奥多摩町の住み良さについては、“住み良い”（「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」を合わせた回答）が 52.3%、一方、“住みにくい”（「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」を合わせた回答）が 25.6%となっており、“住み良い”が大きく上回っています。

なお、年齢別にみると、20 代までは“住みにくい”が上回るのに対し、30 代以降は“住み良い”が上回り、年齢が高まるにつれて“住み良い”が増える傾向にあります。特に「30 歳～39 歳」は“住み良い”が 64.7%に達し、めだっています。

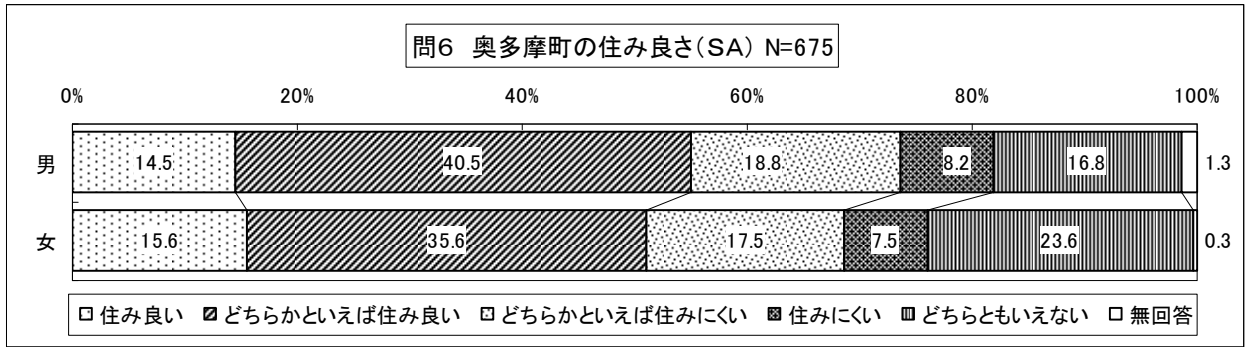


□前回調査との比較

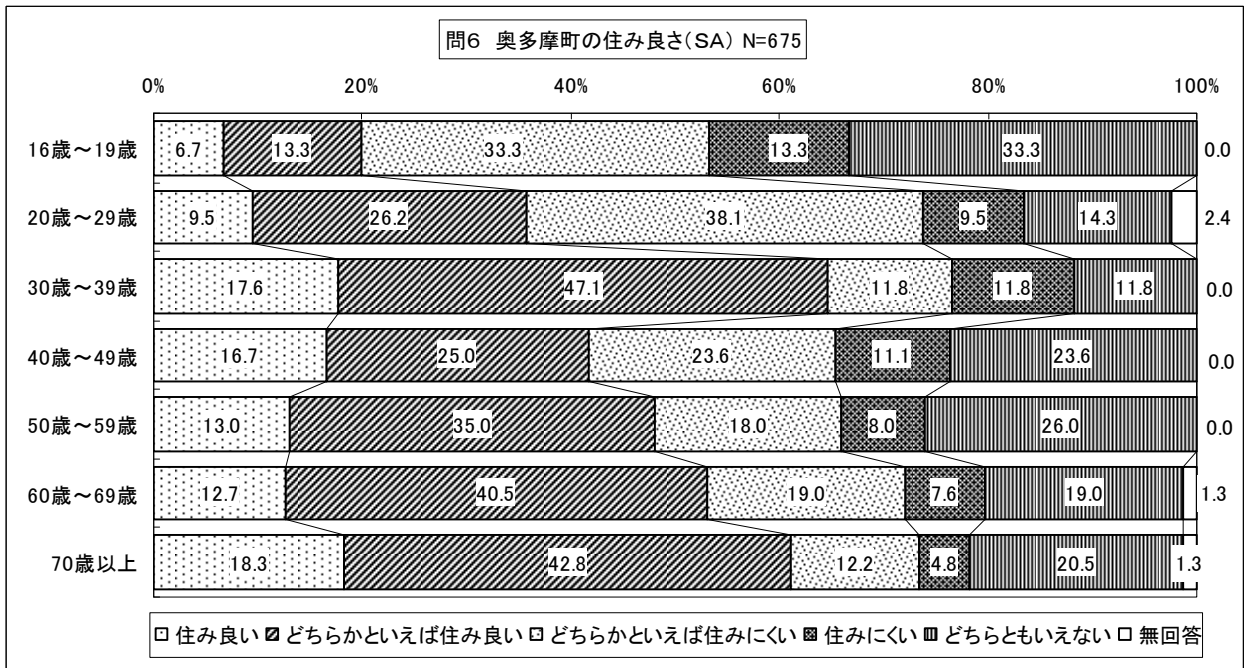


(平成 17 年度 N=730 平成 19 年度 N=666 平成 21 年度 N=675)

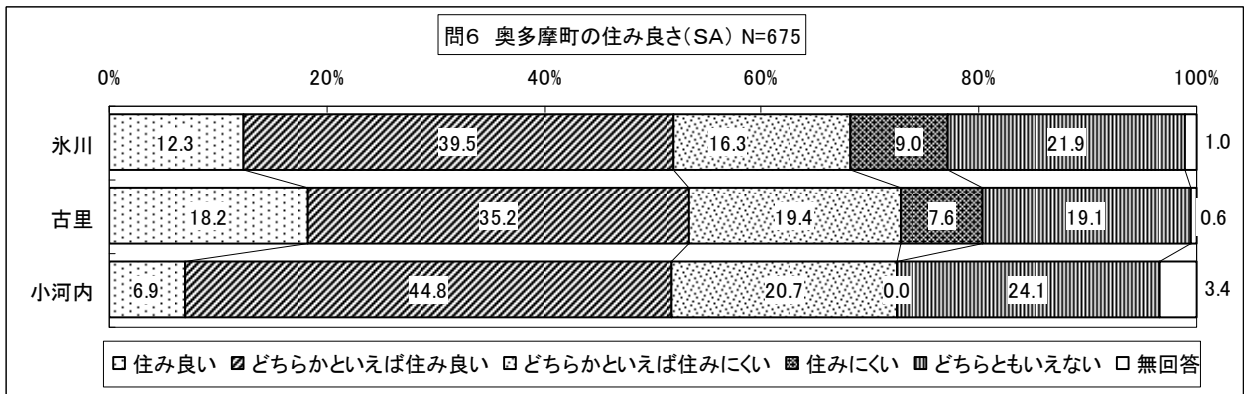
□性別



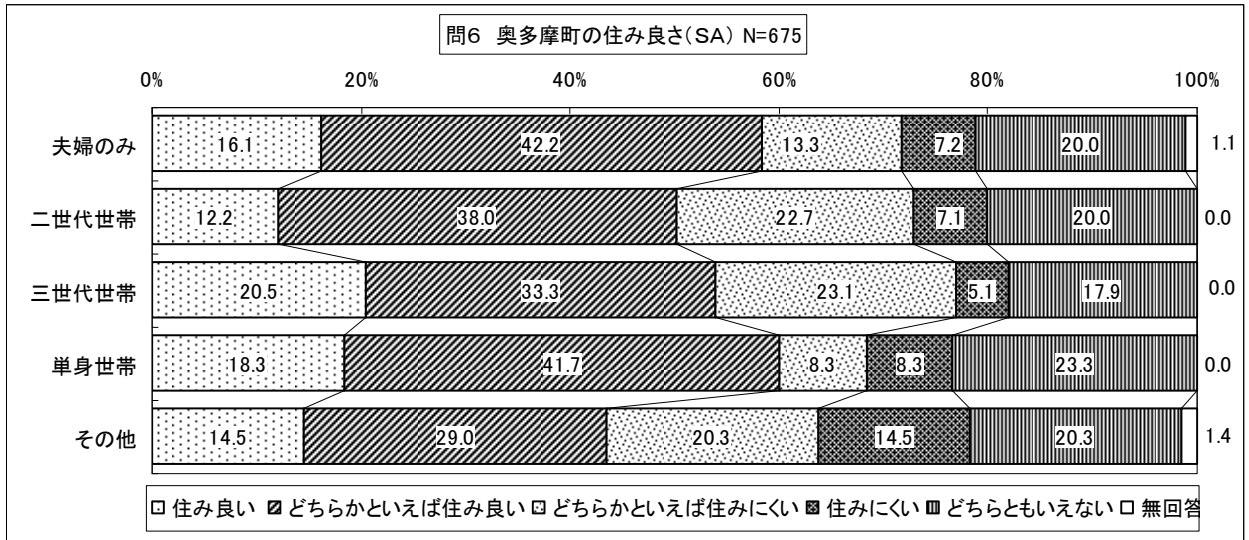
□年齢別



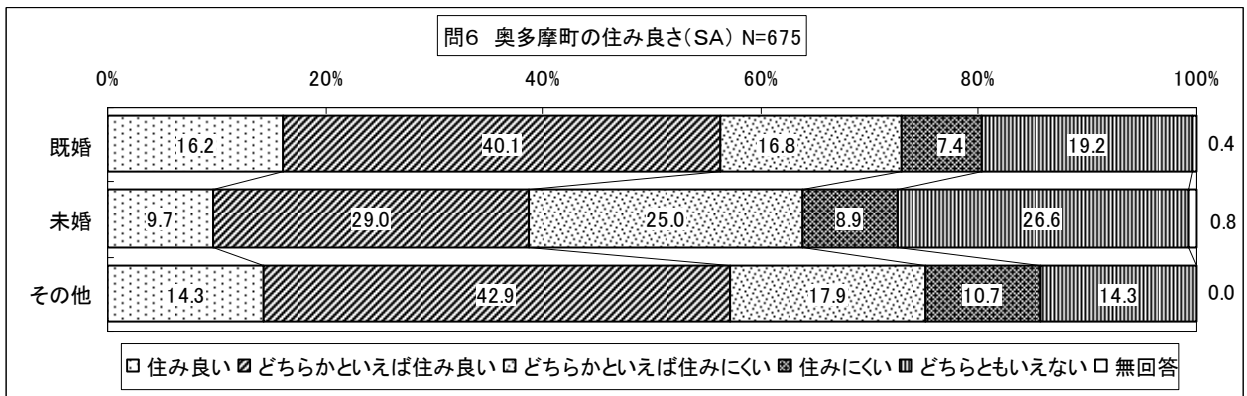
□居住地区別



□家族構成別



□未婚・既婚別



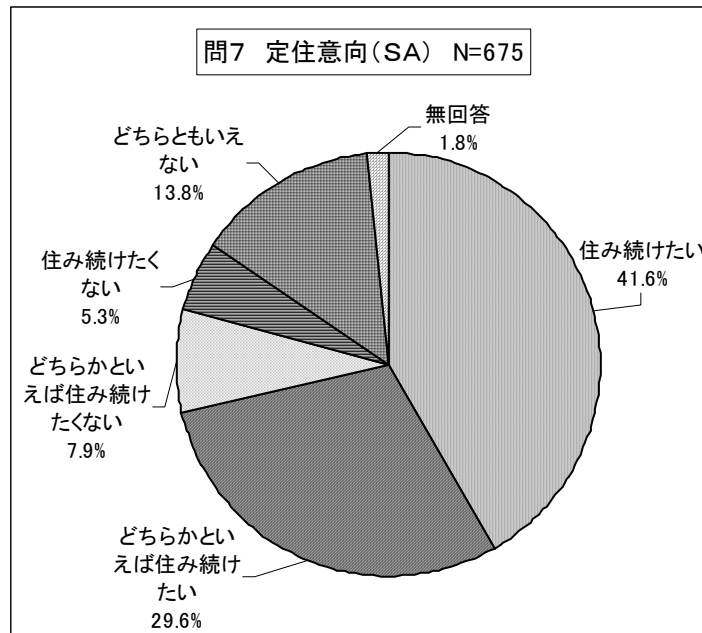
問 7 居住意向

奥多摩町の定住意向は、回答者の 41.6%が「住み続けたい」と回答しており、「どちらかといえど住み続けたい」も 29.6%となっており、この2つを合わせた定住意向（“住み続けたい”）は 71.2%と高くなっています。

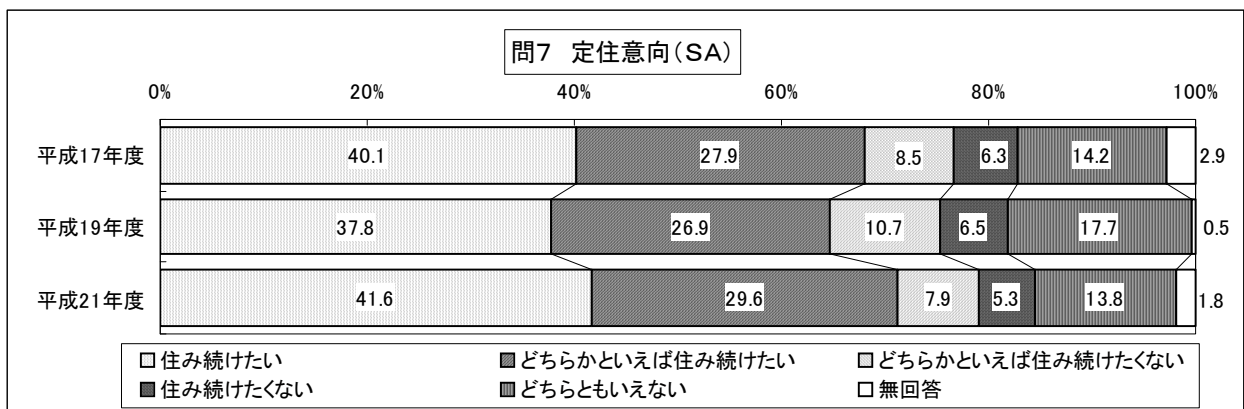
一方、“移転したい”（「どちらかといえど住み続けたくない」と「住み続けたくない」）を合わせた回答は約 1 割（13.2%）となっています。

なお、年齢別にみると、10代は“住み続けたい”と“移転したい”がともに 33.3%と拮抗していますが、20代以降、年齢が高まるにつれて“住み続けたい”が上回り定住意向が高まる傾向が顕著です。特に「30歳～39歳」は“住み続けたい”が 68.6%に達し、前問の「住み良さ」と同様の傾向にあります。

また、「既婚」では“住み続けたい”が 76.3%を占めるのに対し、「未婚」では“住み続けたい”は 52.4%と相対的に低く、「どちらとも言えない」（24.2%）へとシフトしていることが伺われます。

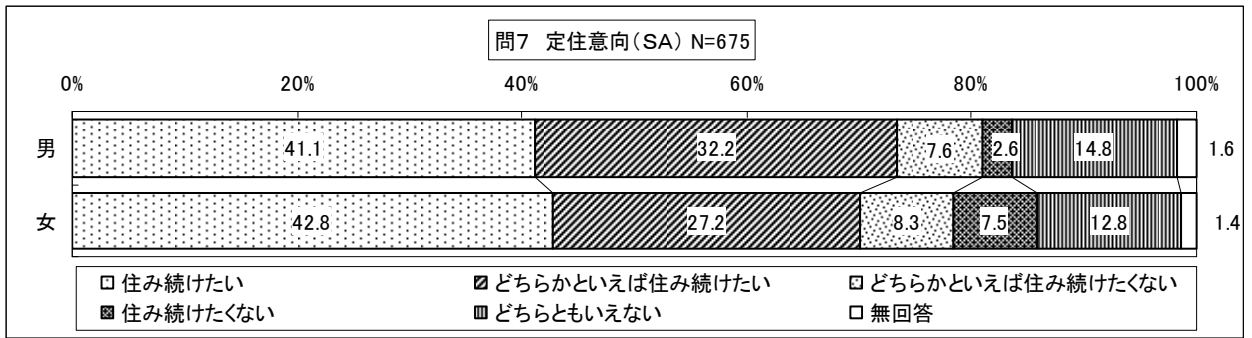


□前回調査との比較

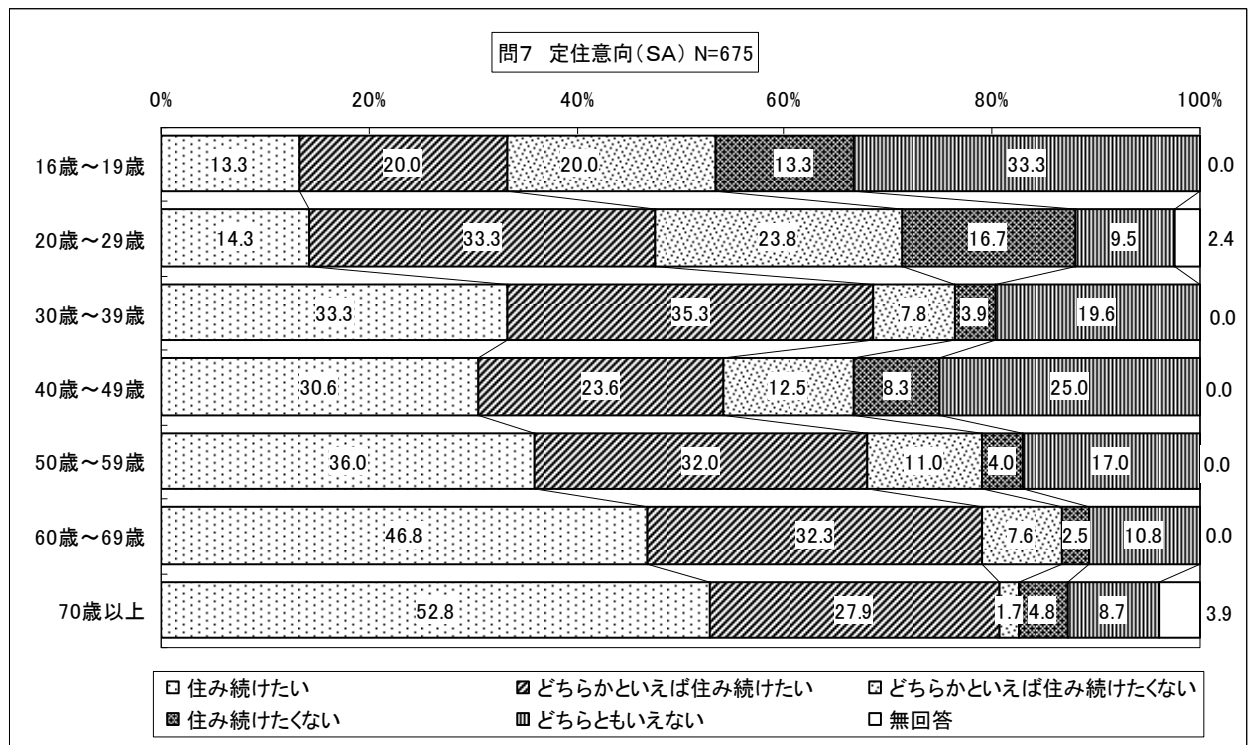


(平成 17 年度 N=730 平成 19 年度 N=666 平成 21 年度 N=675)

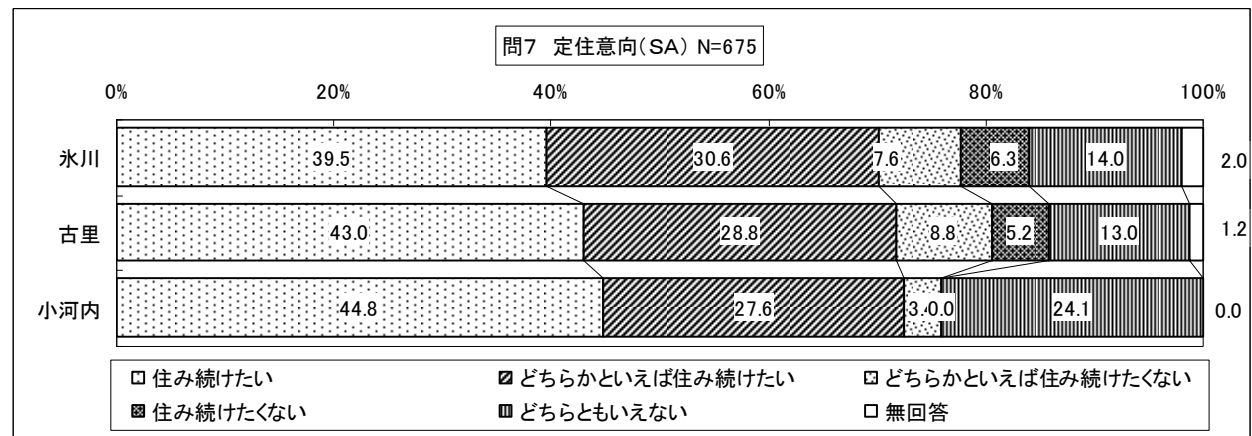
□性別



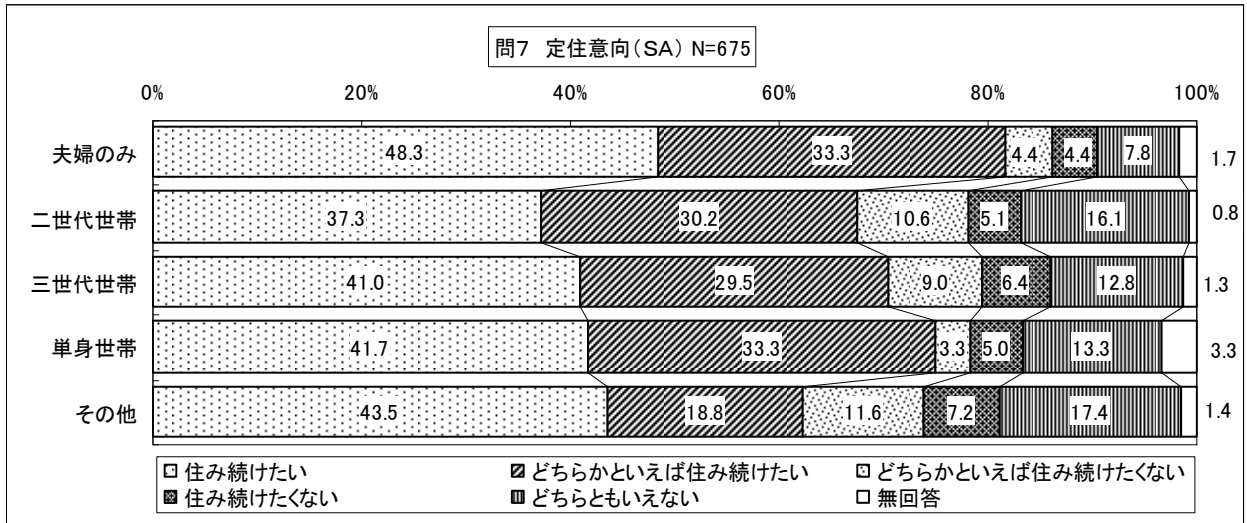
□年齢別



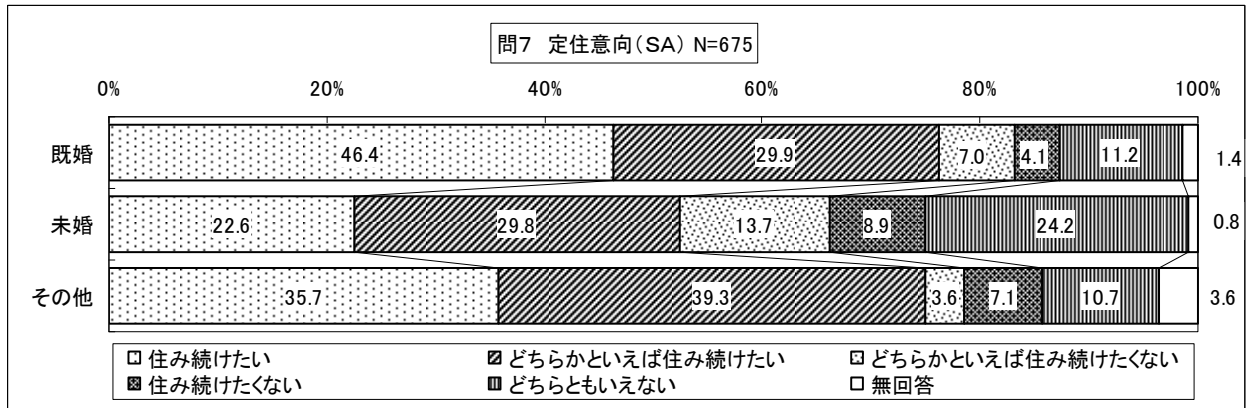
□居住地区別



□家族構成別



□未婚・既婚別



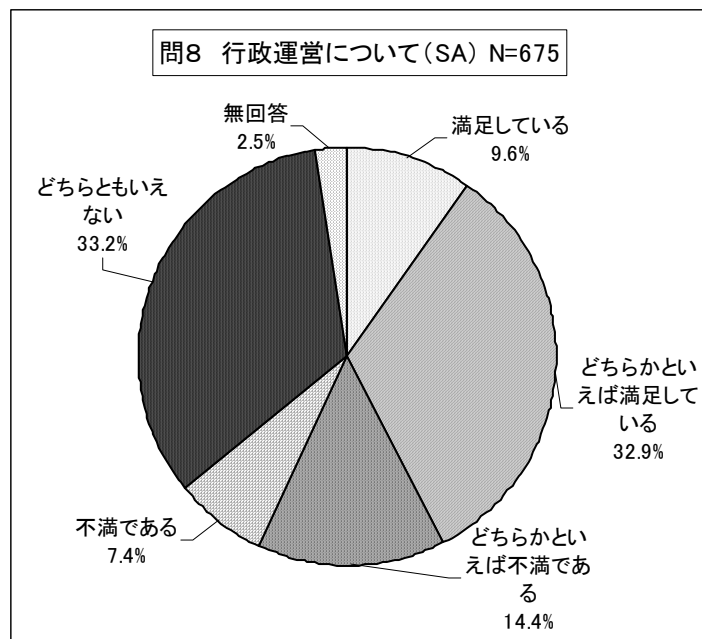
【奥多摩町の行政運営について】

問 8 行政運営の満足度

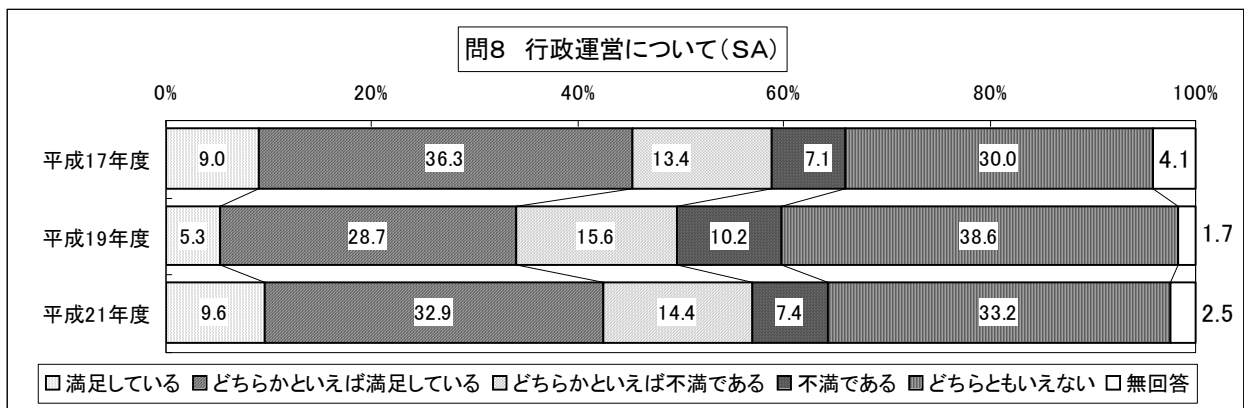
奥多摩町の行政運営についてお聞きしたところ、「満足している」が 9.6%、「どちらかといえば満足している」が 32.9%であり、“満足している”と感じている回答者割合は 42.5%となっています。

一方、「どちらかといえば不満である」が 14.4%、「不満である」が 7.4%であり、“不満”と感じている回答者割合は 21.8%となっています。

なお、「どちらともいえない」が 33.2%と約 3 割を占めています。

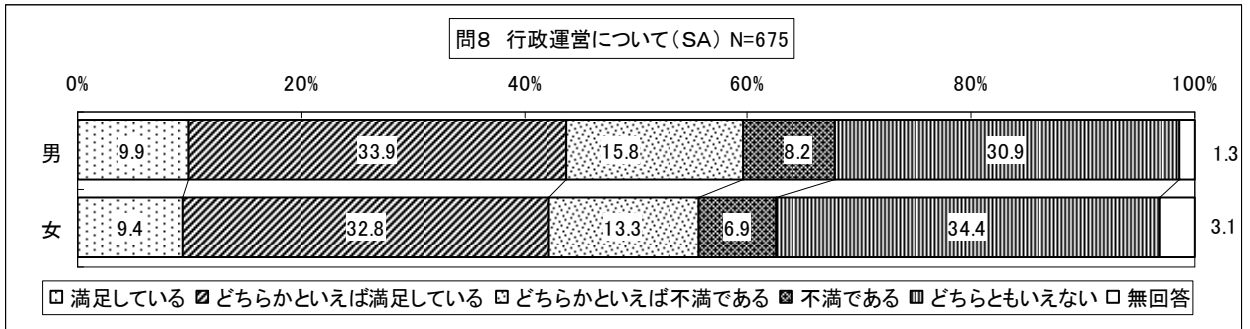


□前回調査との比較

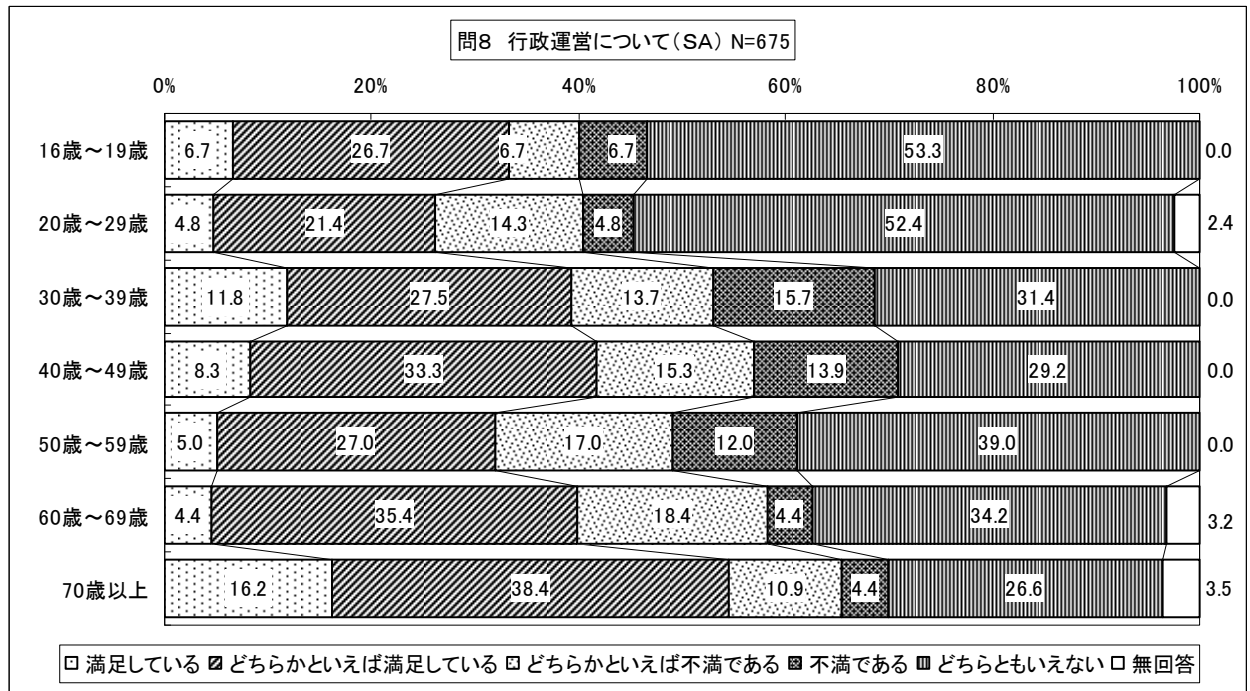


(平成 17 年度 N=730 平成 19 年度 N=666 平成 21 年度 N=675)

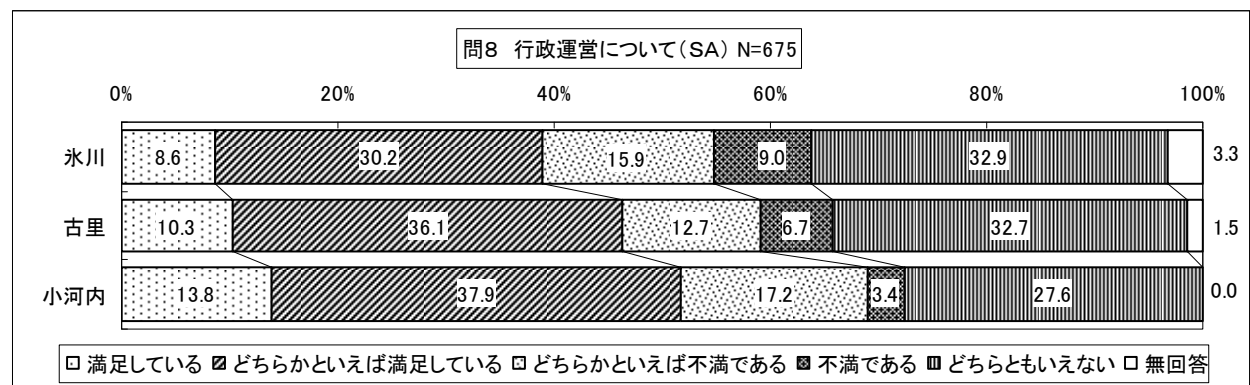
□性別



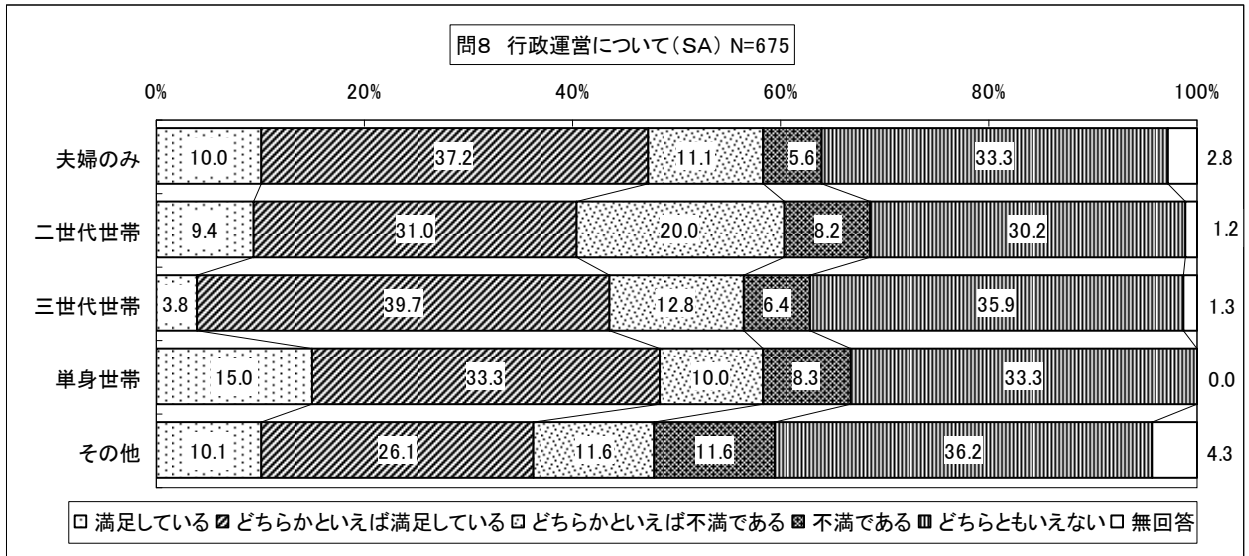
□年齢別



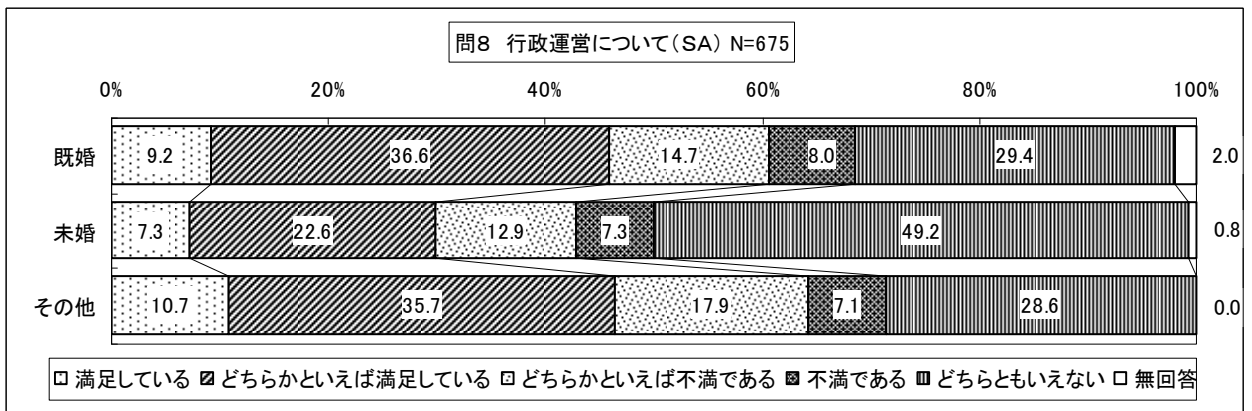
□居住地区別



□家族構成別



□未婚・既婚別

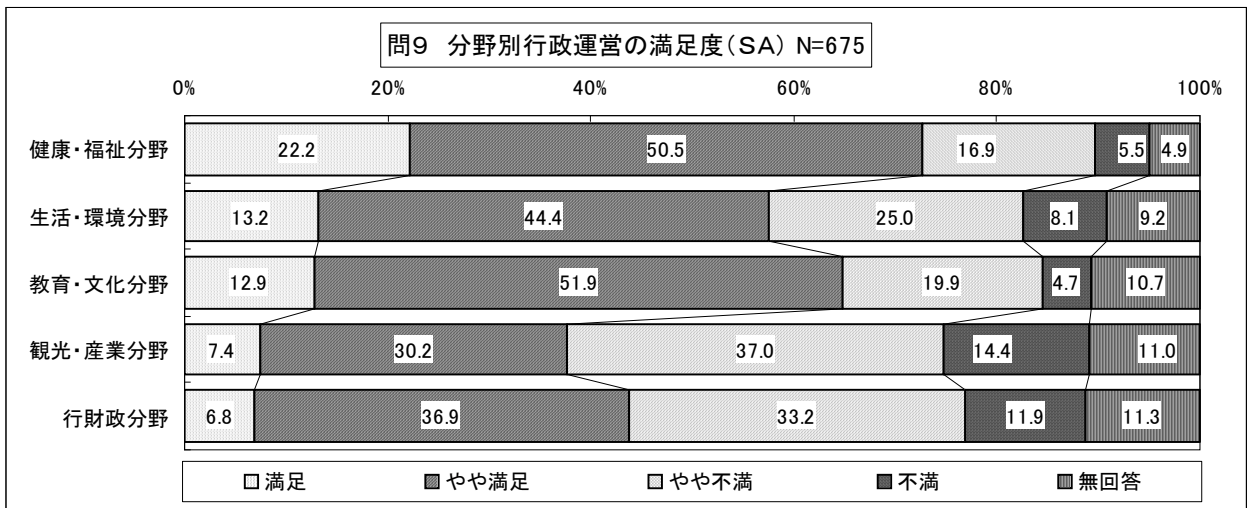


問9 分野別行政運営の満足度

分野別行政運営についてお聞きしたところ、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”と感じている割合が“不満”と感じている割合を上回る項目は、「健康・福祉分野」、「生活・環境分野」、「教育・文化分野」の3分野です。これらの“満足している”の割合としては、「健康・福祉分野」が最も高く72.7%となっており、次いで「教育・文化分野」が64.8%、「生活・環境分野」が57.6%と続いています。

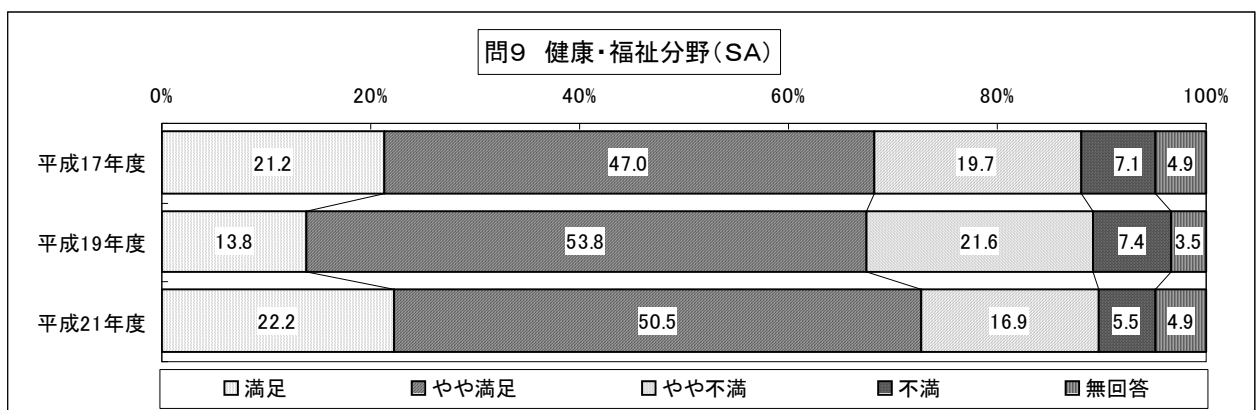
一方、「不満」と「やや不満」を合わせた“不満”を感じている割合が上回る分野は、「観光・産業分野」、「行財政分野」の2項目です。これらの“不満”の割合は、「観光・産業分野」が51.4%、次いで「行財政分野」が45.1%と続いています。

なお、前回調査との比較では、平成21年度調査（今回の調査）は、いずれの分野も“満足している”割合が増えるか、あるいは“不満”の割合が減っており、満足感は僅かに高まっています。



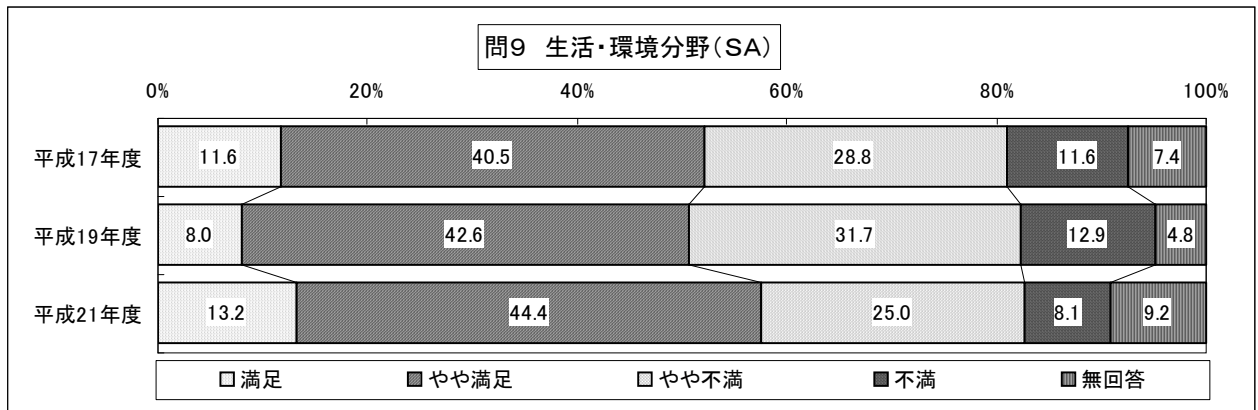
□前回調査との比較

【健康・福祉分野】

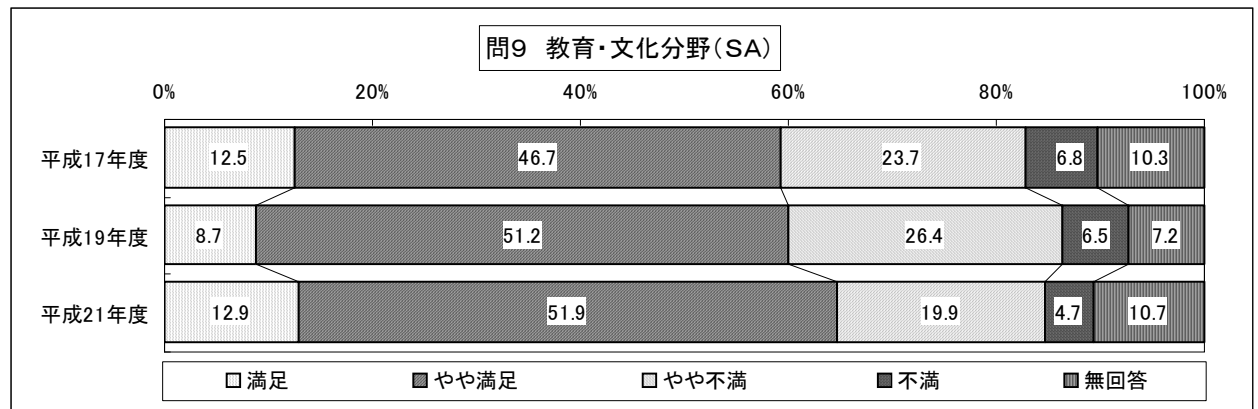


(平成17年度 N=730 平成19年度 N=666 平成21年度 N=675) 以下同様

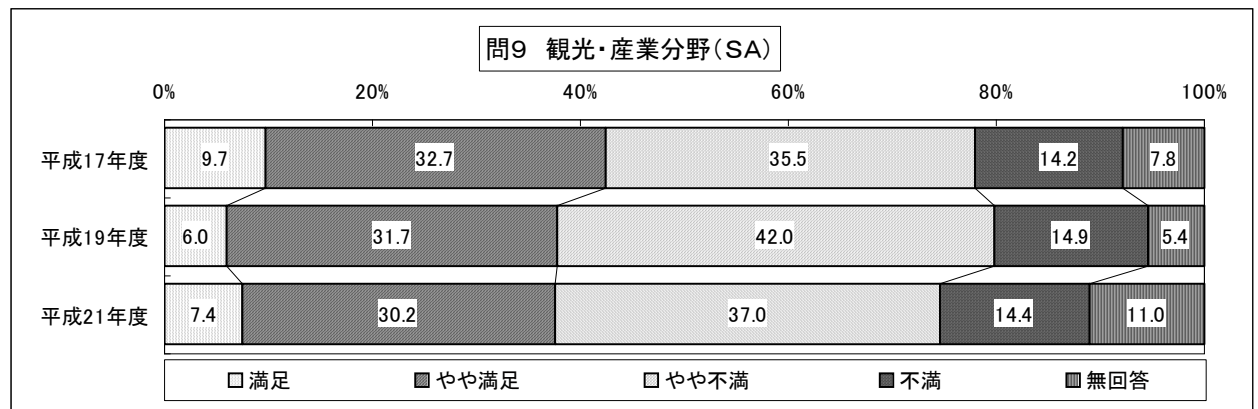
【生活環境分野】



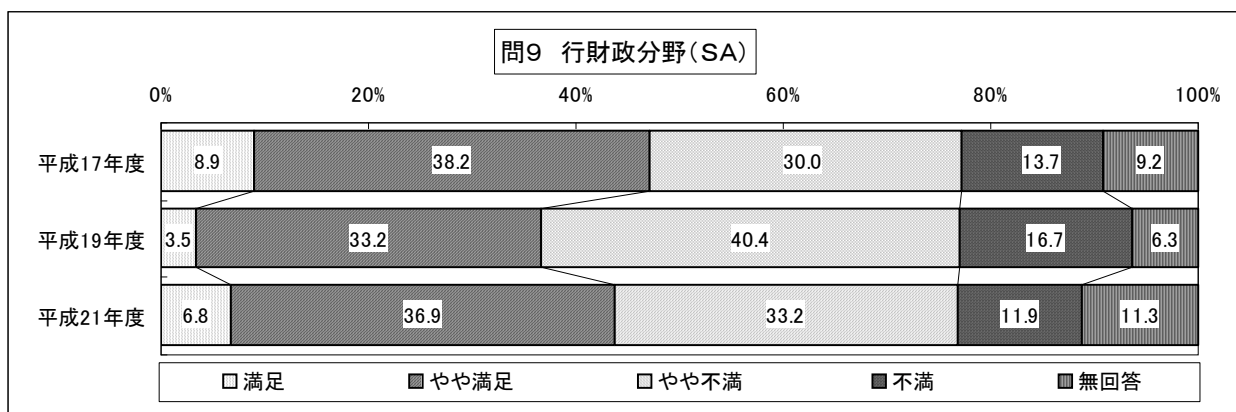
【教育・文化分野】



【観光・産業分野】



【行財政分野】



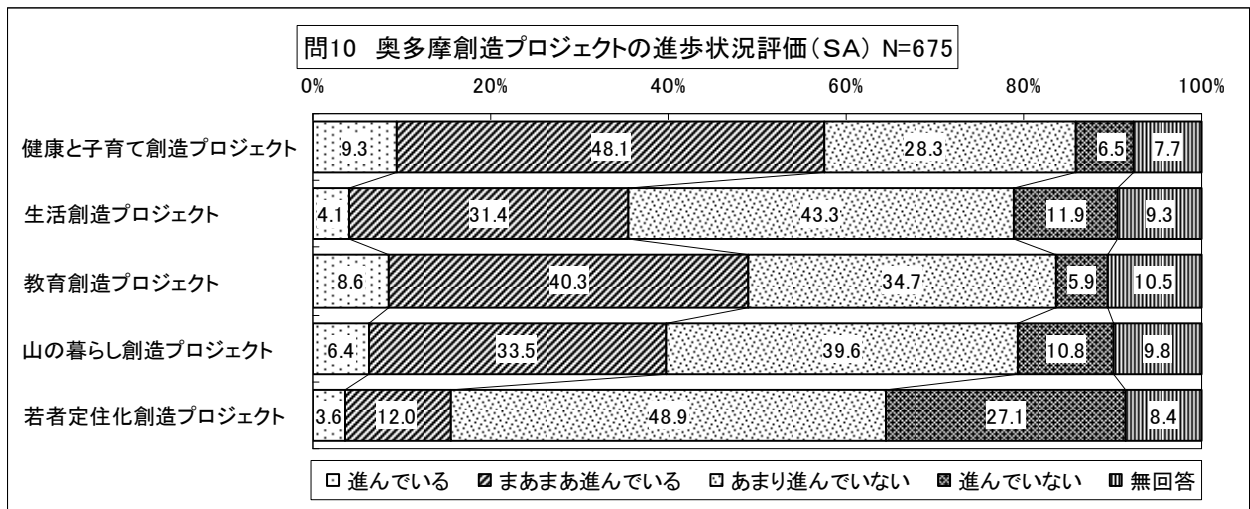
【奥多摩町のまちづくり施策について】

問 10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価

奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価については、「進んでいる」と「まあまあ進んでいる」を合わせた“進んでいる”と感じている割合が、“進んでいない”と感じている割合を上回る項目は、「健康と子育てプロジェクト」と「教育創造プロジェクト」の2つのプロジェクトです。これらの“進んでいる”の割合としては、「健康と子育てプロジェクト」が57.4%と高く、次いで「教育創造プロジェクト」が48.9%と続いています。

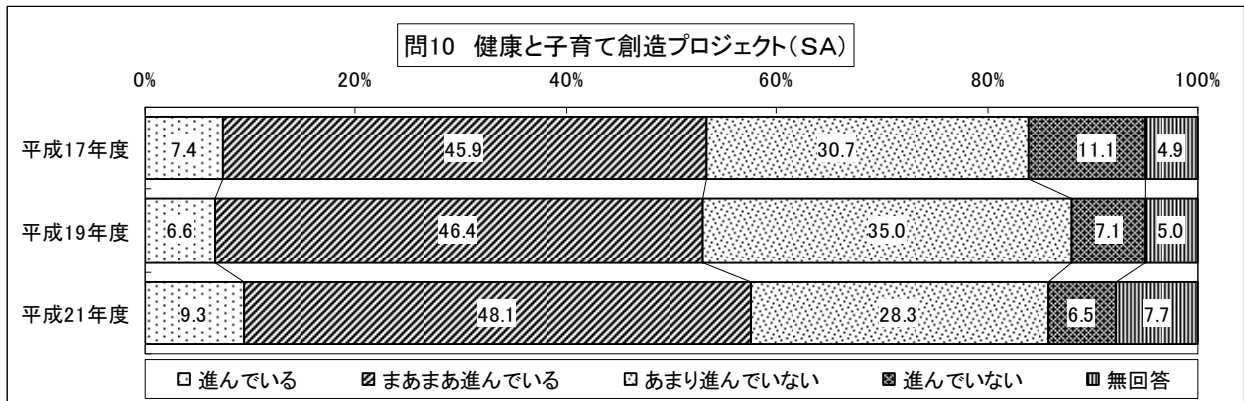
一方、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせた“進んでいない”と感じている割合が上回るプロジェクトは、「生活創造プロジェクト」、「山の暮らし創造プロジェクト」、「若者定住化創造プロジェクト」の3つのプロジェクトです。これらの“進んでいない”の割合は、「若者定住化創造プロジェクト」が76.0%に達し最も多くなっており、次いで「生活創造プロジェクト」が55.2%、「山の暮らし創造プロジェクト」が50.4%と続いています。

なお、前回調査との比較では、いずれのプロジェクトも“進んでいる”割合が増えるか、あるいは“進んでいない”の割合が減っており、進捗度の評価は僅かに改善しています。



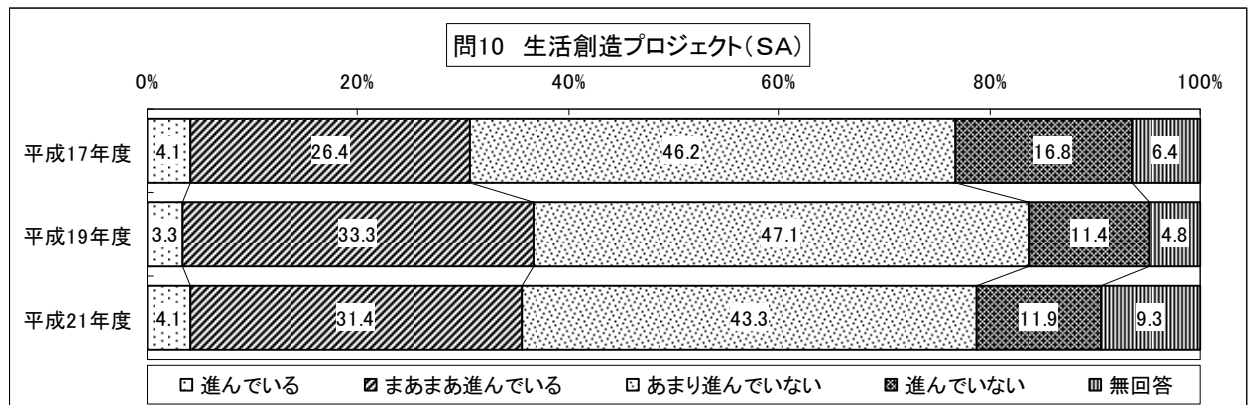
□前回調査との比較

【健康と子育て創造プロジェクト】

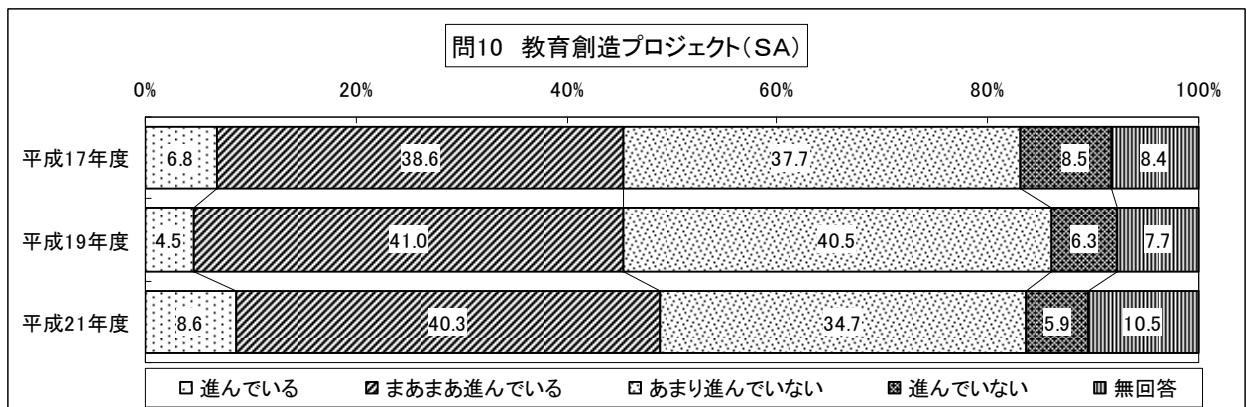


(平成 17 年度 N=730 平成 19 年度 N=666 平成 21 年度 N=675) 以下同様

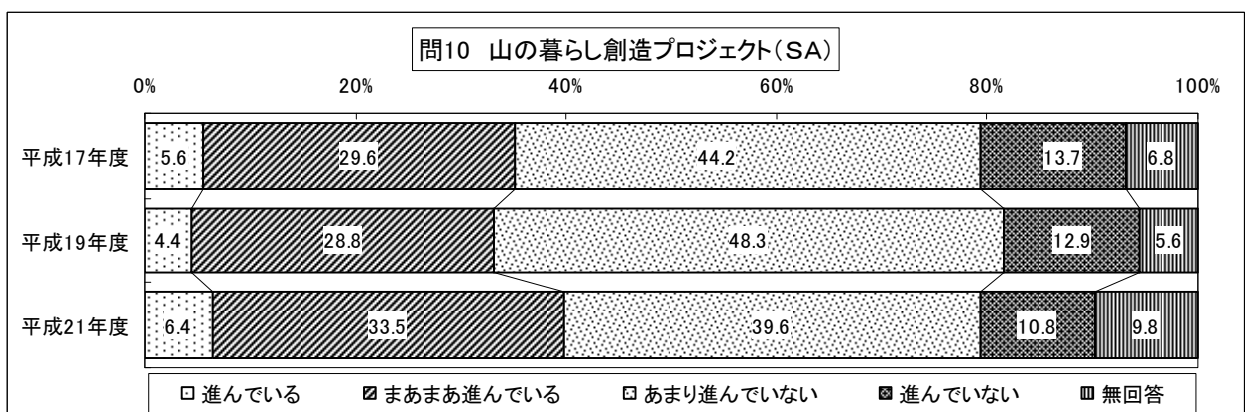
【生活創造プロジェクト】



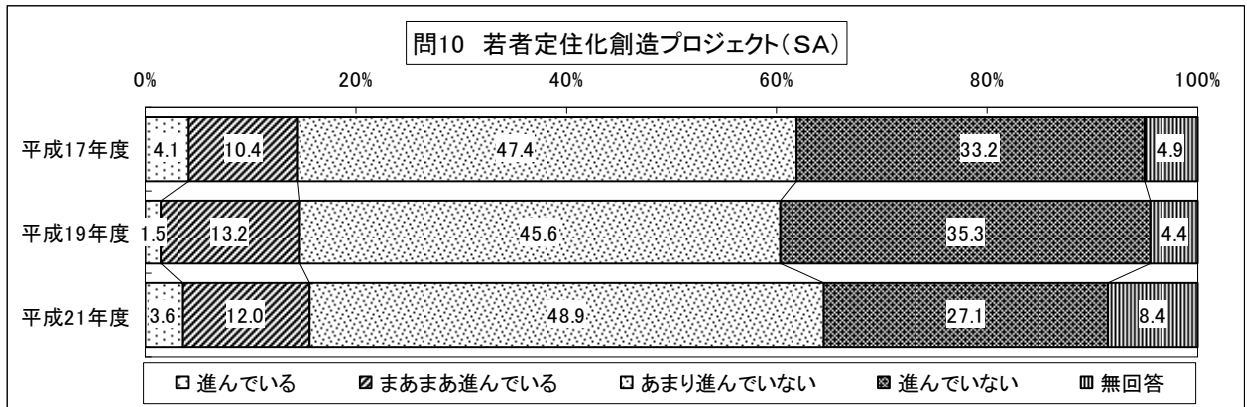
【教育創造プロジェクト】



【山の暮らし創造プロジェクト】



【若者定住化創造プロジェクト】

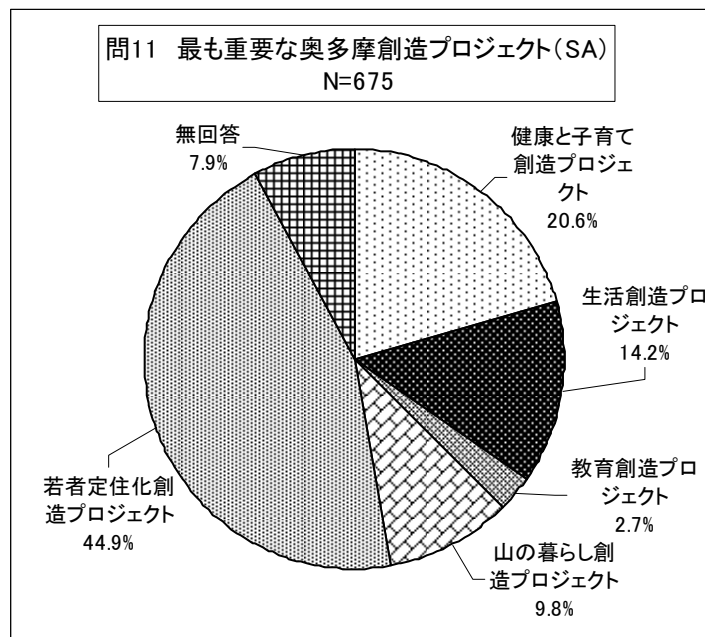


問11 最重要と考える奥多摩創造プロジェクト

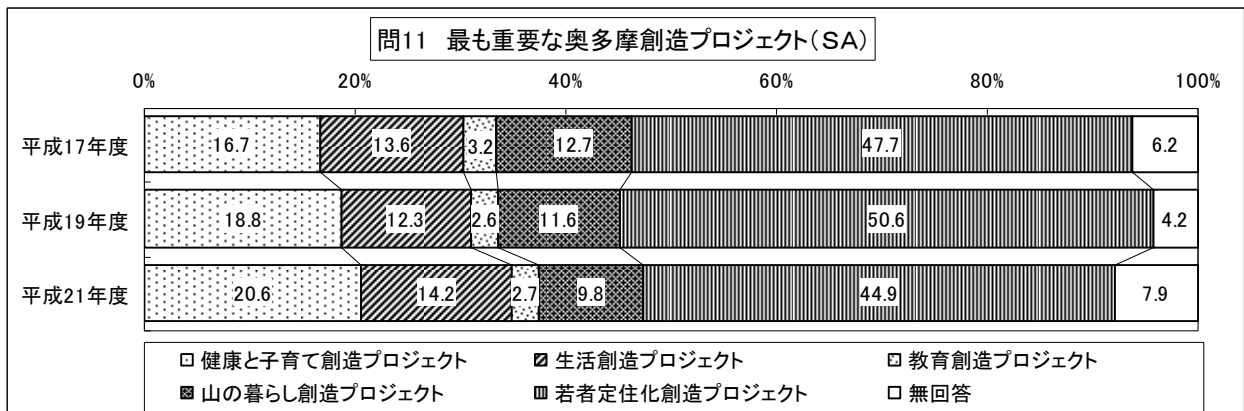
最重要と考える奥多摩創造プロジェクトについてお聞きしたところ、「若者定住化創造プロジェクト」が最も多く44.9%に達し、次いで「健康と子育て創造プロジェクト」が20.6%、「生活創造プロジェクト」が14.2%と続いています。

なお、男女別には「女性」で「健康と子育て創造プロジェクト」が多く、ややめだちます。また、年齢別には、「若者定住化創造プロジェクト」がいずれの世代でも最も多くなっており、世代共通の重点プロジェクトと言えますが、30代で「健康と子育て創造プロジェクト」が、10代では「生活創造プロジェクト」がそれぞれ他の世代に比べめだっています。

前回調査との比較では、「健康と子育て創造プロジェクト」が僅かに高まっていく傾向がみられます。

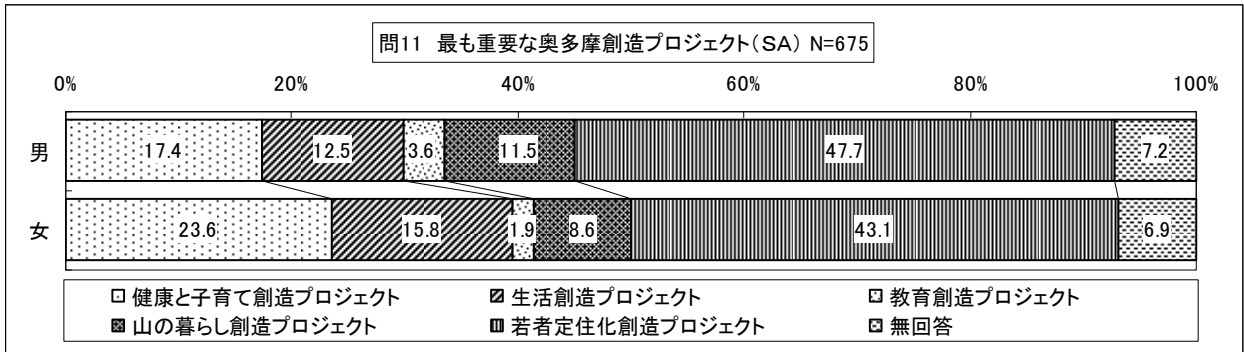


□前回調査との比較

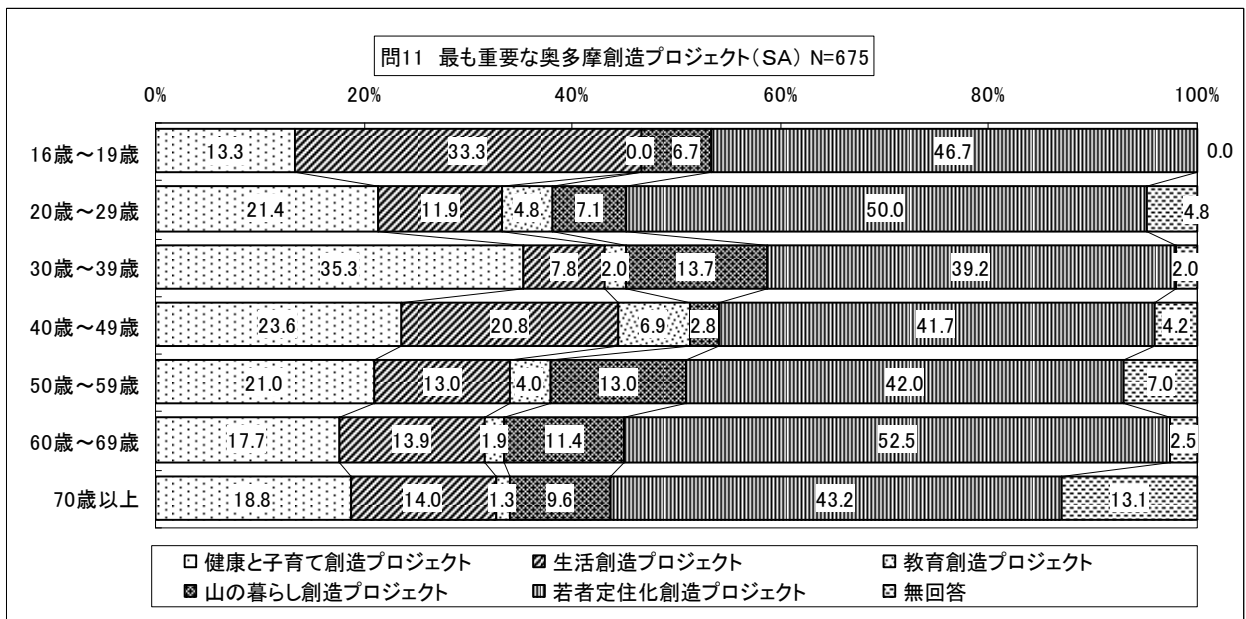


(平成17年度 N=730 平成19年度 N=666 平成21年度 N=675)

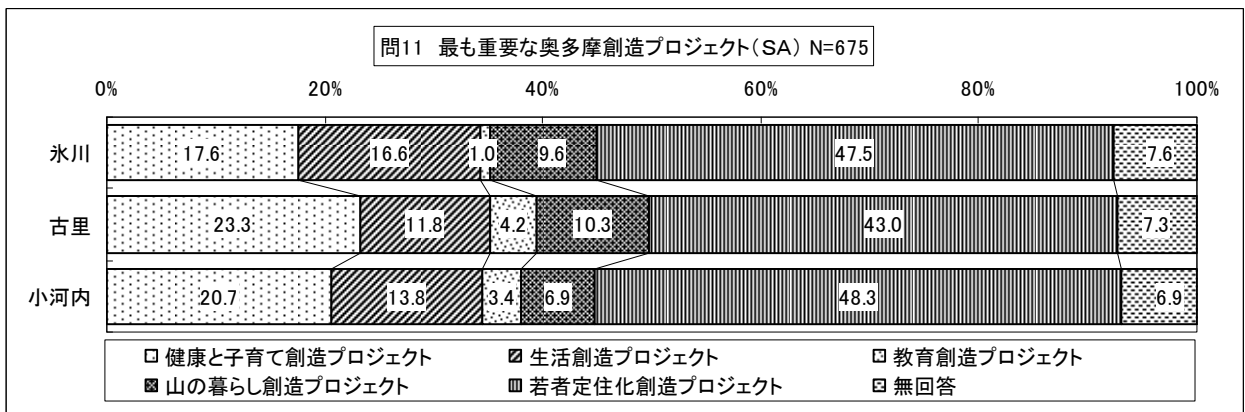
□性別



□年齢別



□居住地区別



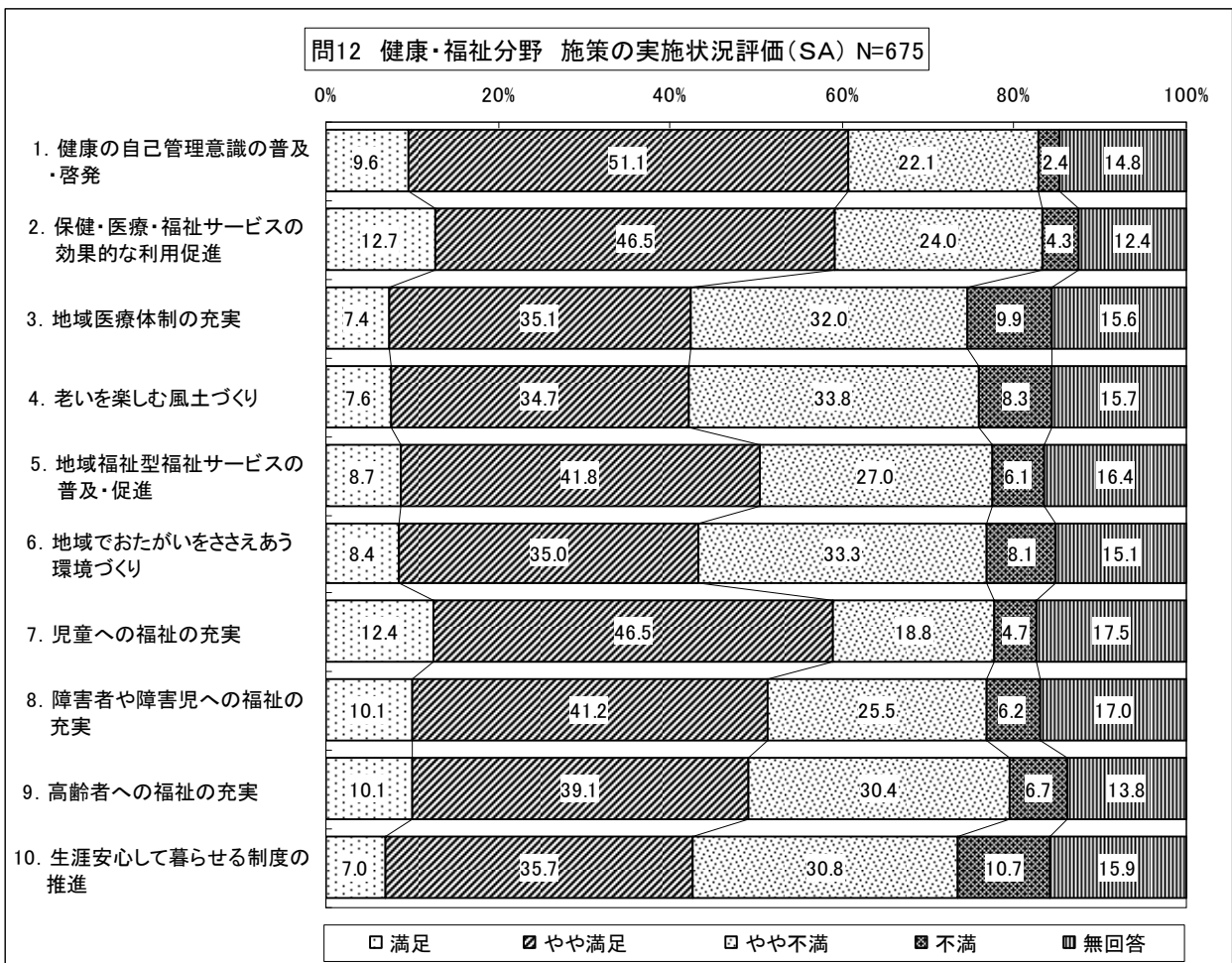
問12 分野別施策の実施状況の満足度

【健康・福祉分野】

健康・福祉分野の施策の実施状況については、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”割合は「健康の自己管理意識の普及・啓発」、「保険・医療・福祉サービスの効果的な利用促進」、「児童への福祉の充実」が特に高くなっています。

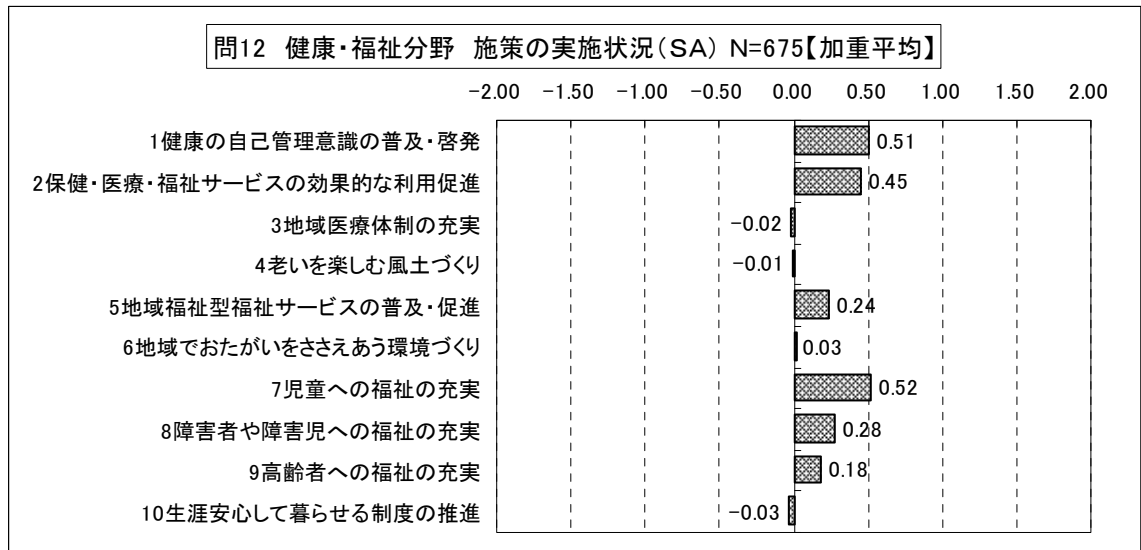
一方、「地域医療体制の充実」、「生涯安心して暮らせる制度の推進」、「老いを楽しむ風土づくり」は不満の割合が多少高く、評価は拮抗しています。

なお、前回調査との比較（加重平均）では、あまり大きな変化は見られませんが、「地域おたがいにささえあう環境づくり」及び「高齢者への福祉の充実」を除き、評価は僅かに高まっています。

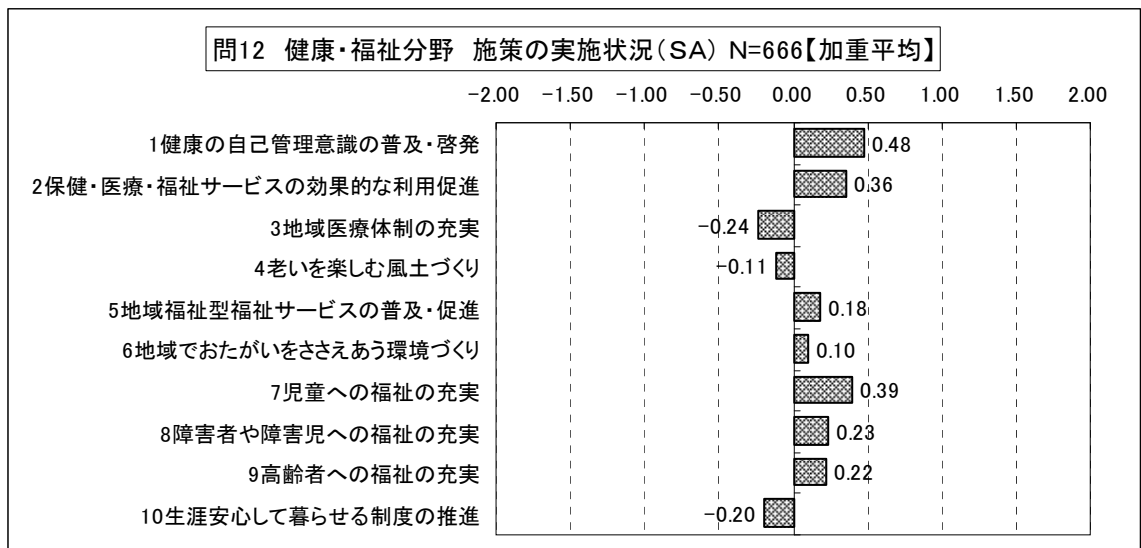


□過去調査との比較

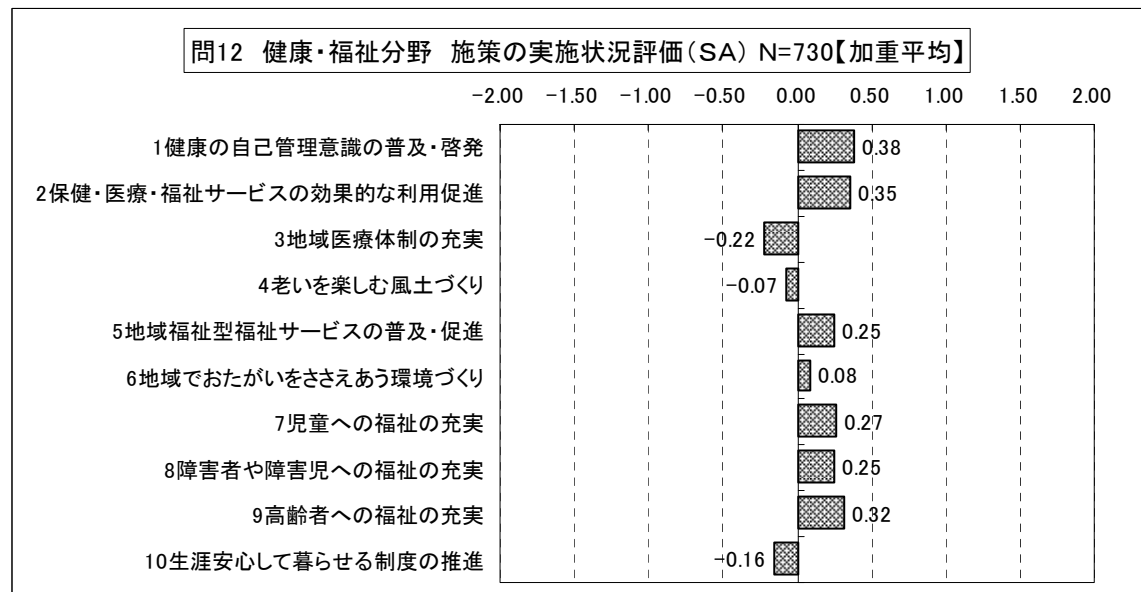
【平成 21 年度】



【平成 19 年度】



【平成 17 年度】

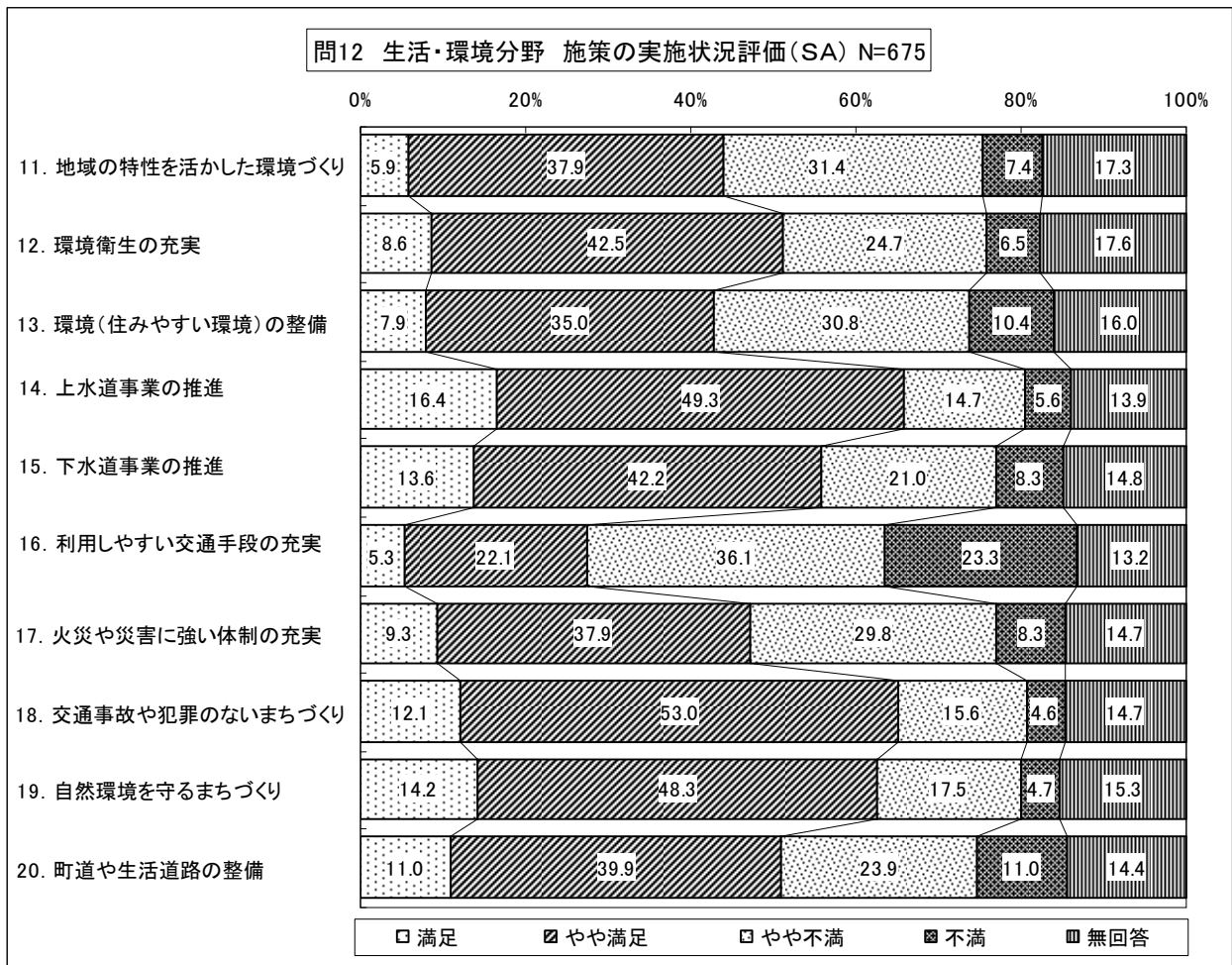


【生活・環境分野】

生活・環境分野の施策の実施状況については、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”割合は「上水道の推進」、「交通事故や犯罪のないまちづくり」、「自然環境を守るまちづくり」が特に高くなっています。

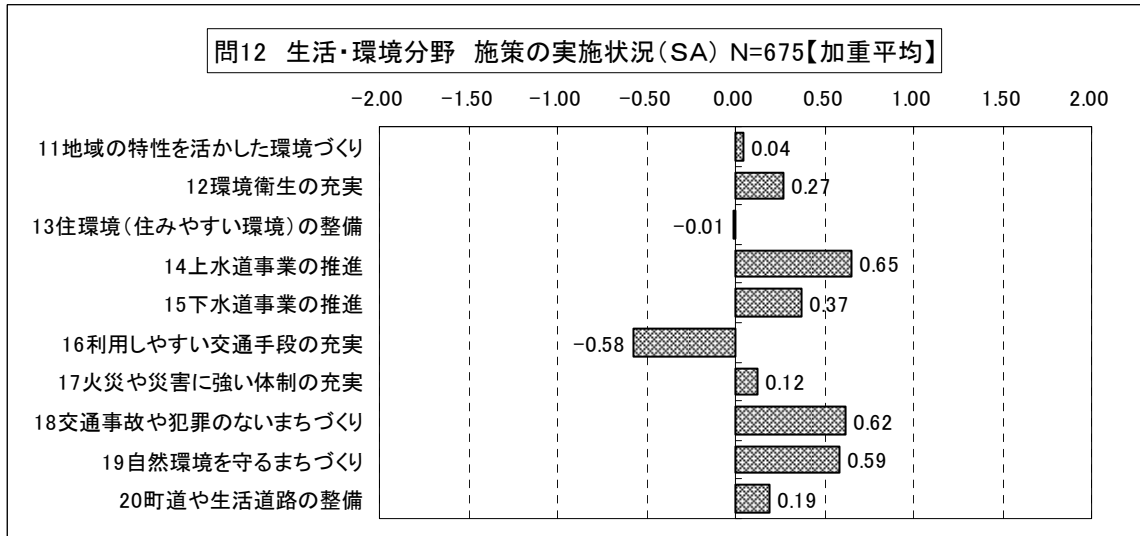
一方、「利用しやすい交通手段の充実」は不満の割合が著しく高く、「環境（住みやすい環境）の整備」は評価が拮抗しています。

なお、前回調査との比較（加重平均）では、あまり大きな変化は見られませんが、「地域特性を活かした環境づくり」及び「火災や災害に強い体制の充実」、「町道や生活道路の整備」は、僅かですが肯定的評価に転じ、また、その他の施策も総じて評価が高まっています。

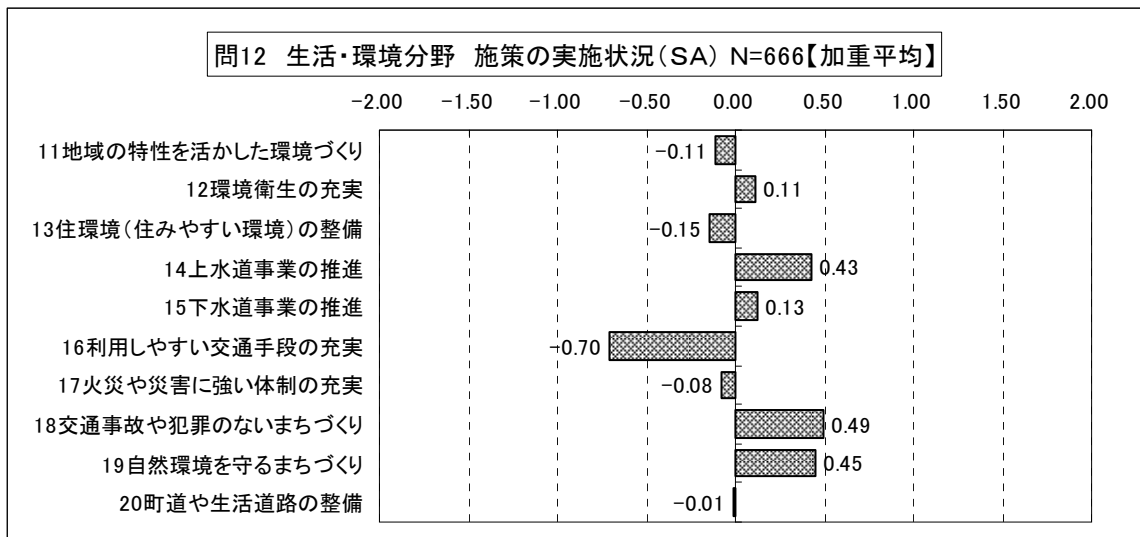


□過去調査との比較

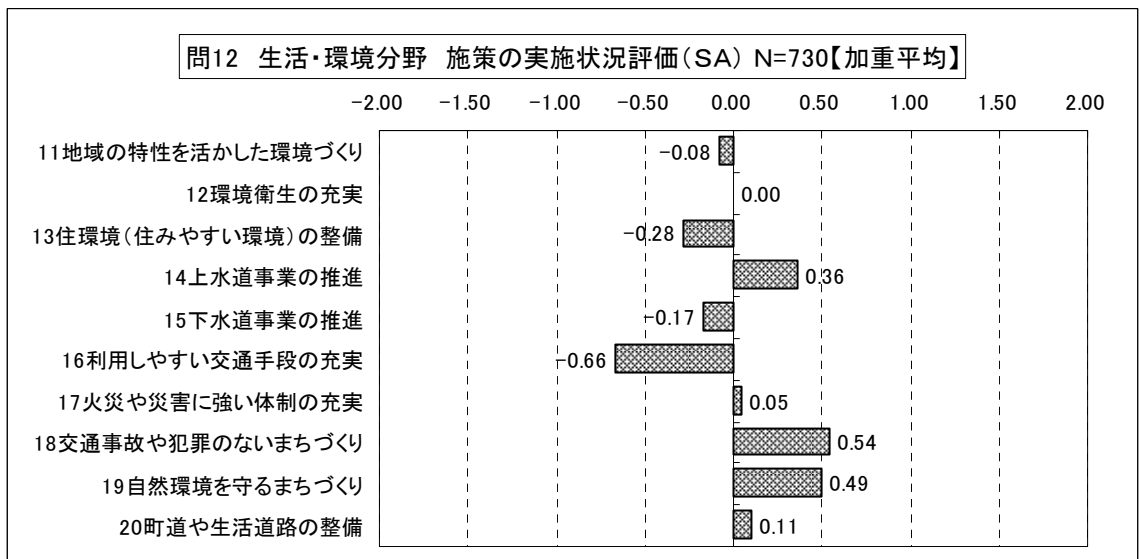
【平成 21 年度】



【平成 19 年度】



【平成 17 年度】

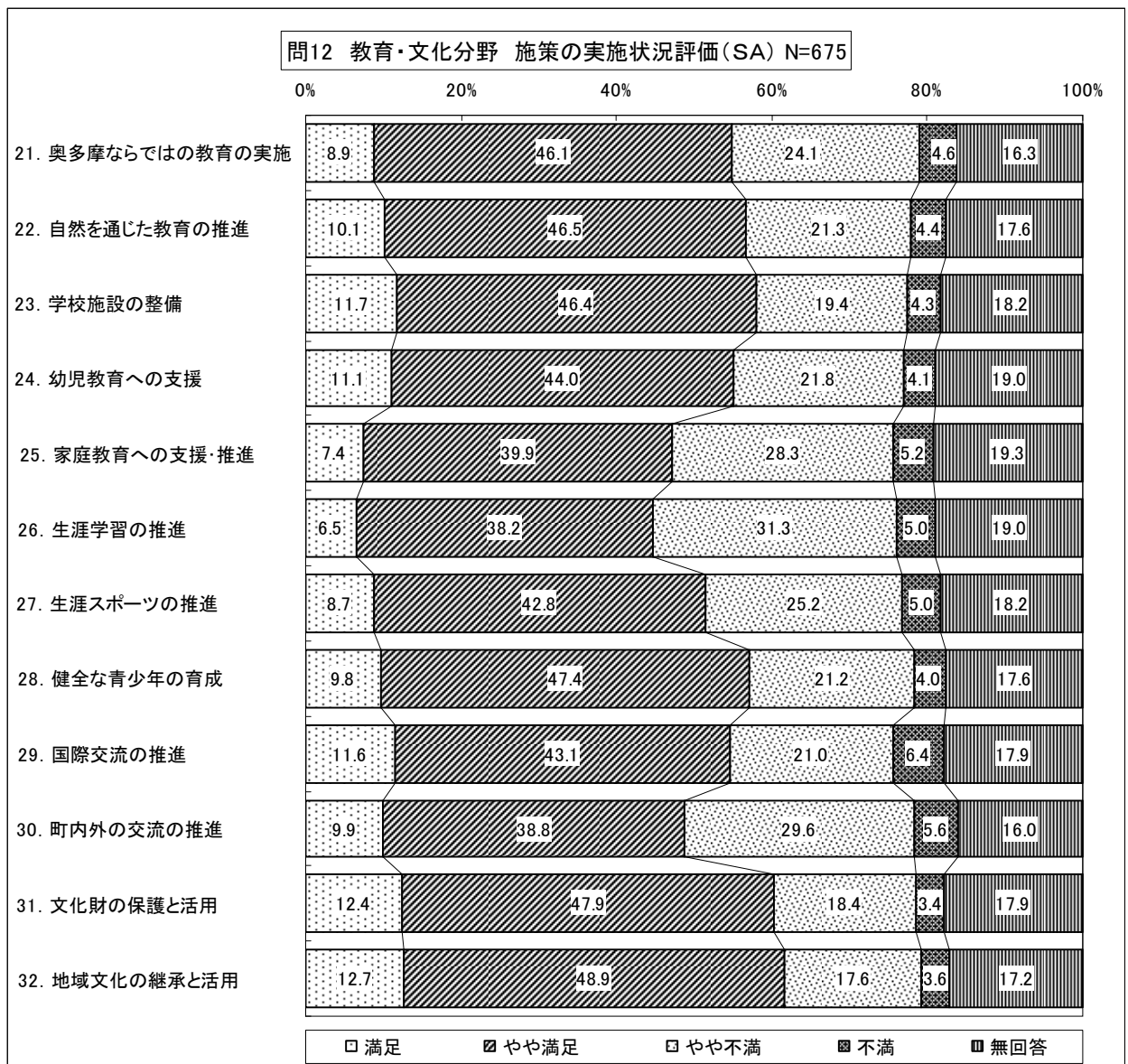


【教育・文化分野】

教育・環境分野の施策の実施状況については、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”割合が、いずれの施策でも高くなっています。中でも「文化財の保護と活用」、「地域文化の継承と活用」、「学校施設の整備」、「健全な青少年の育成」「自然を通じた教育の推進」などがめだっています。

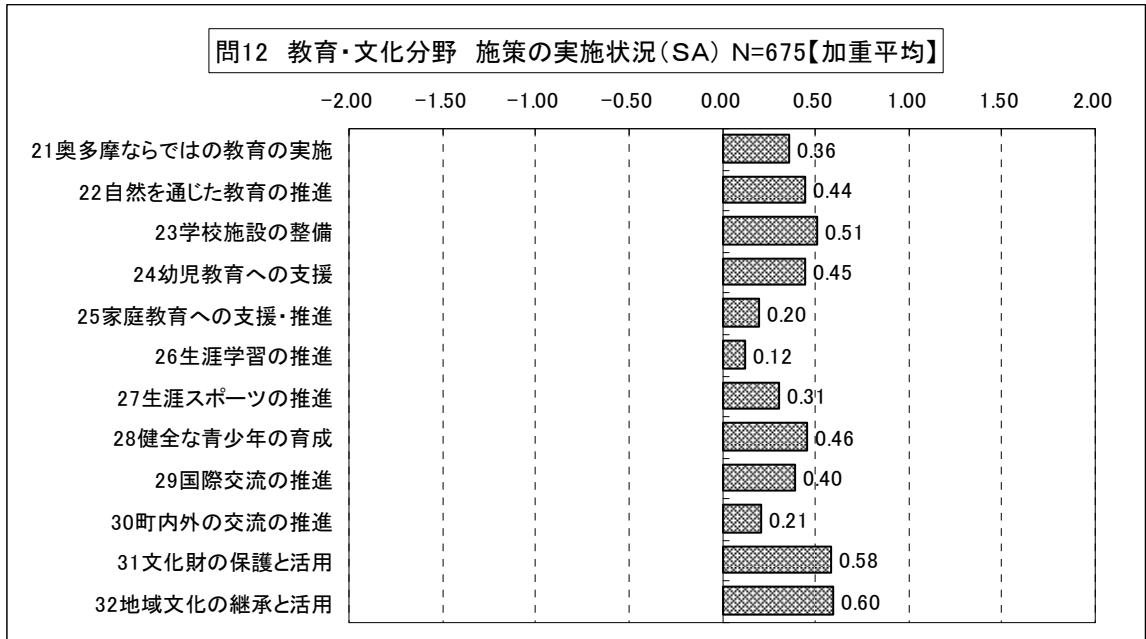
また、「生涯学習の推進」、「家庭教育への支援・推進」、「町内外の交流の推進」は、他の施策に比べると、“満足している”割合が多少低くなっています。

なお、前回調査との比較（加重平均）では、あまり大きな変化は見られませんが、「町内外の交流の推進」は、肯定的評価に転じるとともに、その他の施策も概ね評価が高まっています。

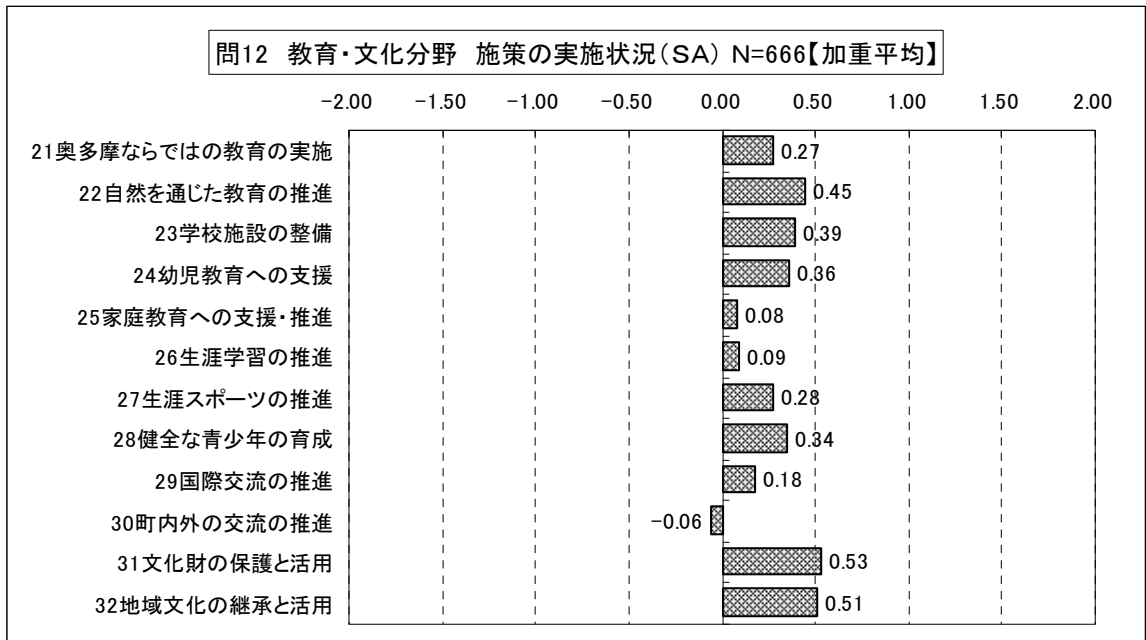


□過去調査との比較

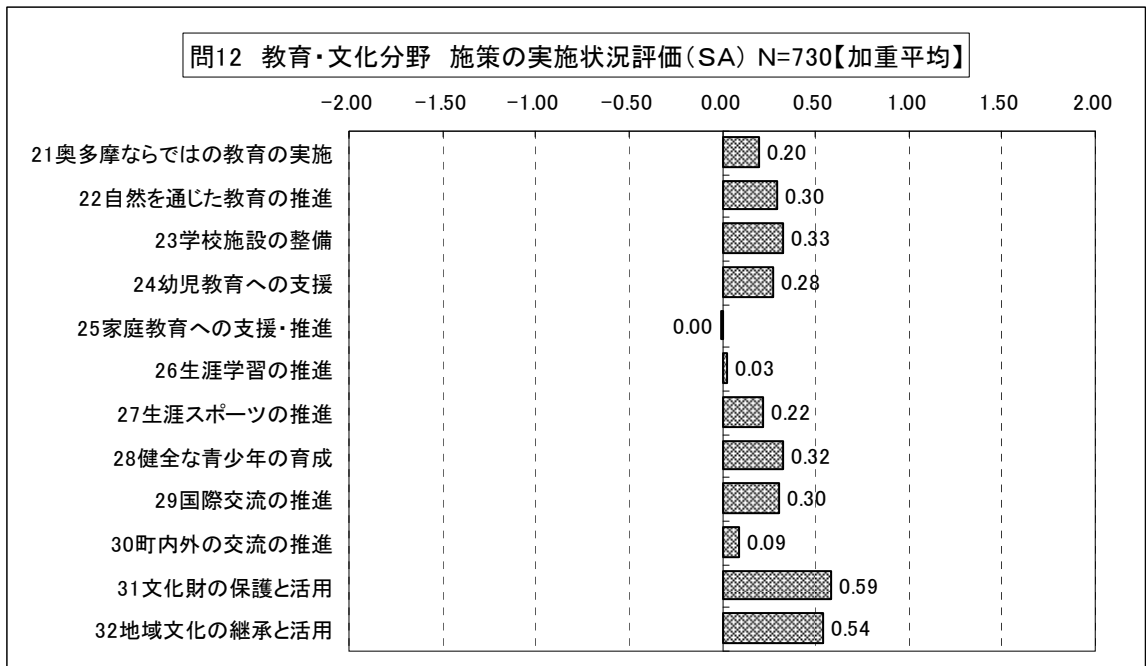
【平成 21 年度】



【平成 19 年度】



【平成 17 年度】

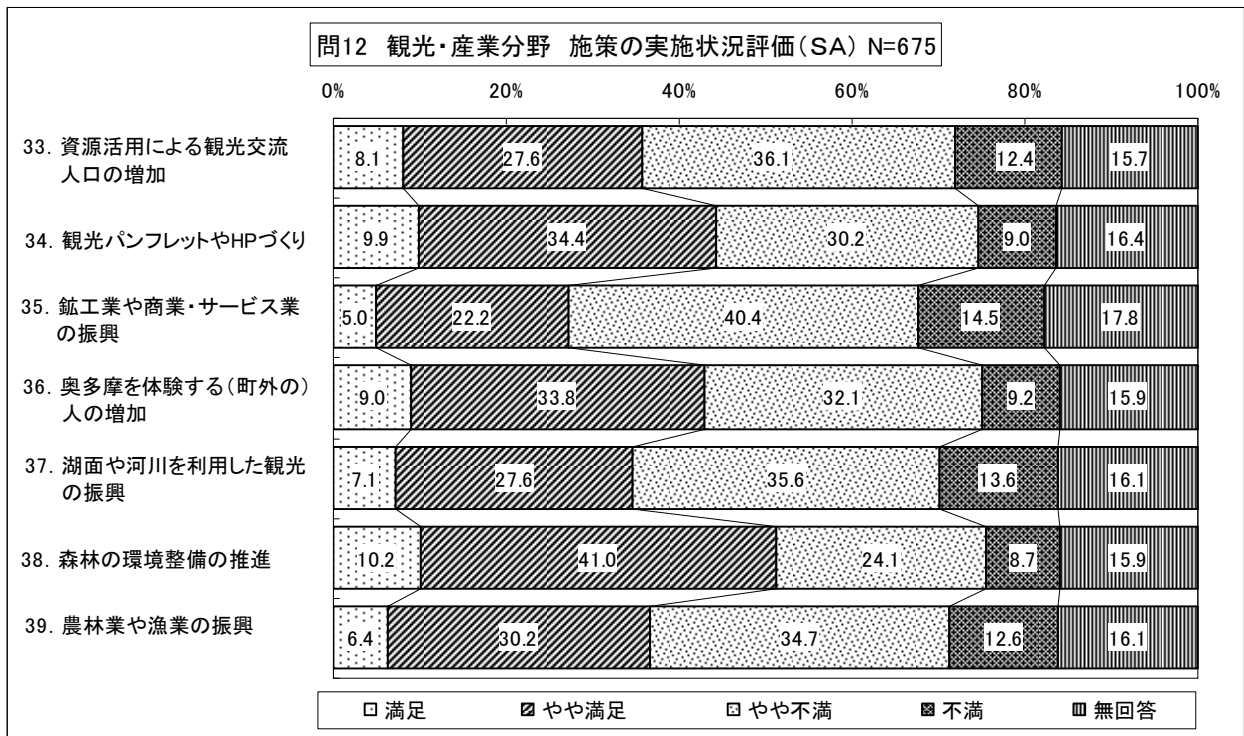


【観光・産業分野】

観光・産業分野の施策の実施状況については、多くの施策で、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”割合よりも、「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合のほうが上回っています。

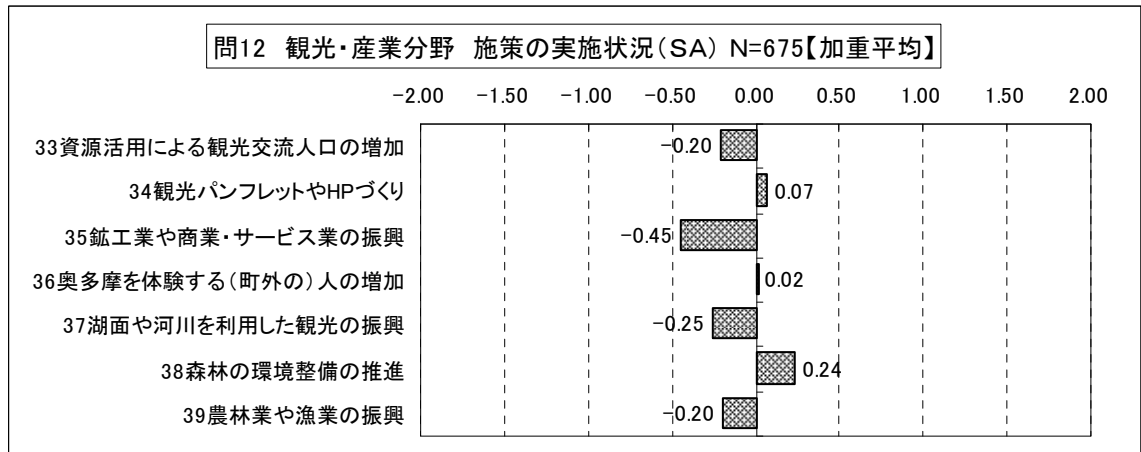
“満足している”割合が上回る施策としては「森林の環境整備の推進」があげられ、「観光パンフレットやHPづくり」、「奥多摩を体験する（町外の）人の増加」は評価が拮抗しています。一方、“不満”の割合が上回っている施策は「資源活用による観光交流人口の増加」、「鉱工業や商業・サービス業の振興」、「湖面や河川を利用した観光」、「農林業や漁業の振興」ですが、中でも、「鉱工業や商業・サービス業の振興」は不満の度合いが高くなっています。

なお、前回調査との比較（加重平均）では、「奥多摩を体験する（町外の）人の増加」は僅かに肯定的評価に転じ、「森林の環境整備の推進」は評価が高まっていますが、あまり大きな変化は見られません。

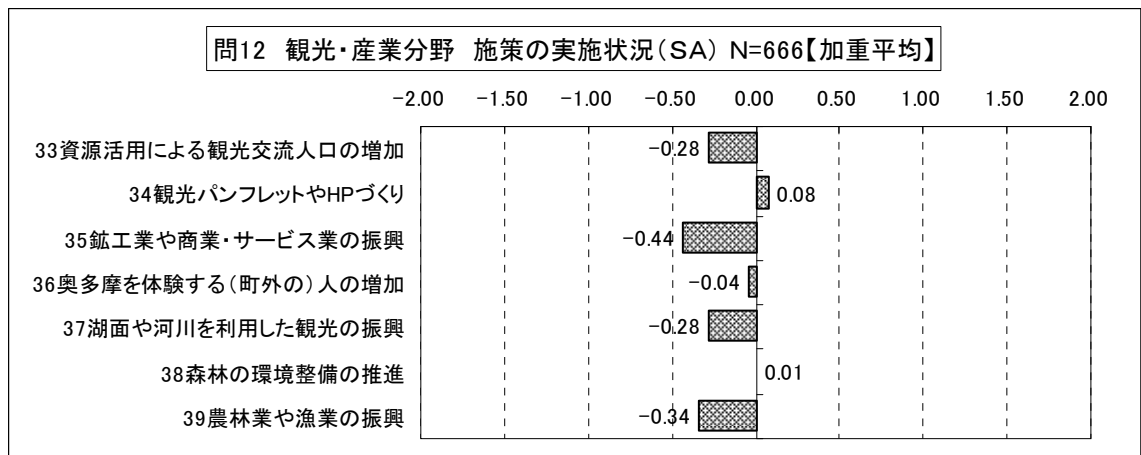


□過去調査との比較

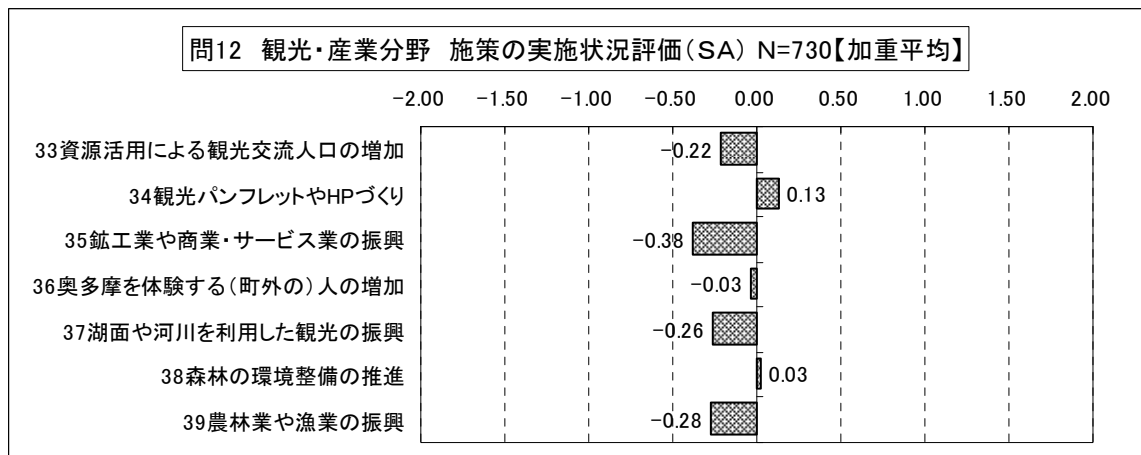
【平成 21 年度】



【平成 19 年度】



【平成 17 年度】



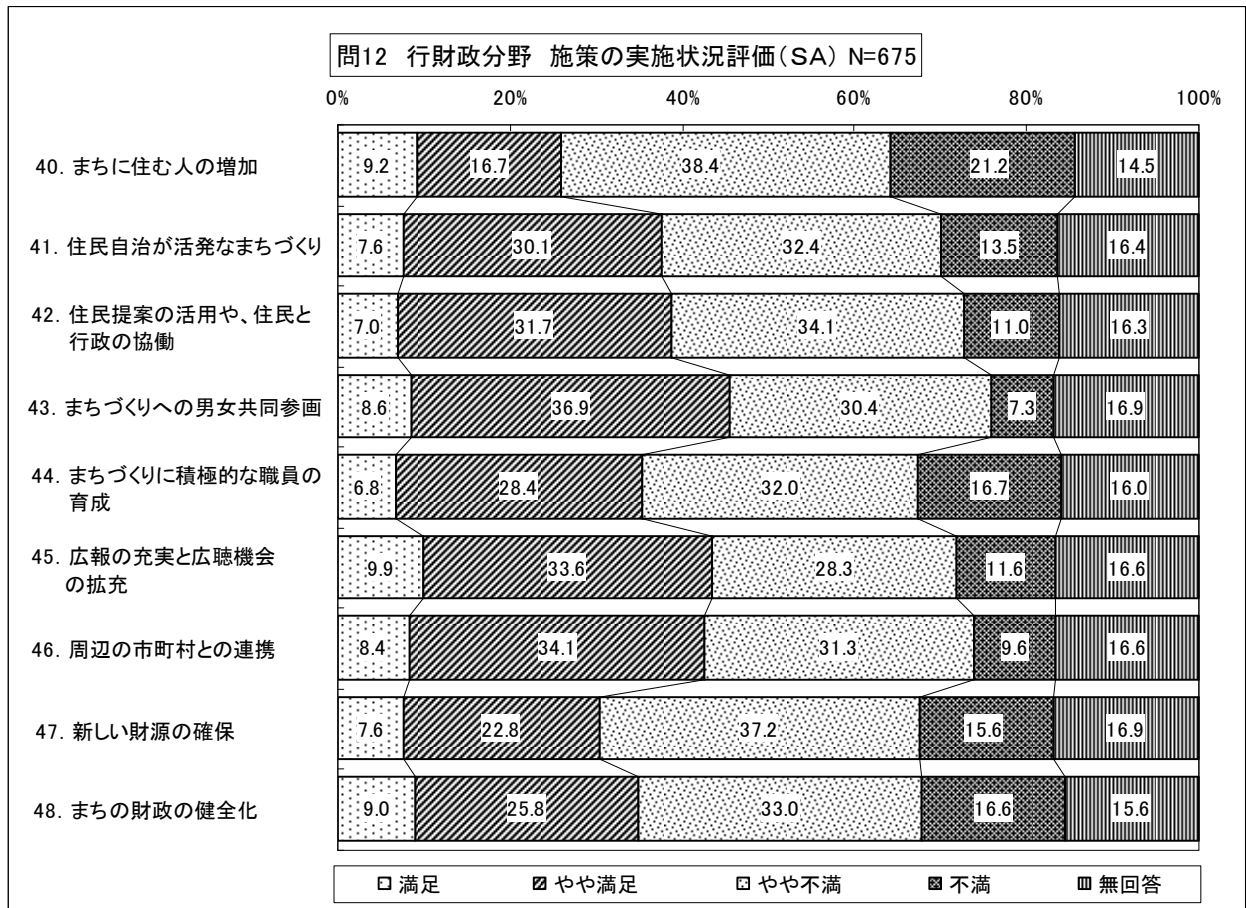
【行財政分野】

行財政分野の施策の実施状況については、多くの施策で、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”割合よりも、「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合のほうが上回っています。

“満足している”割合が上回る施策としては「まちづくりへの男女共同参画」があげられ、「広報の充実と公聴機会の拡充」、「周辺市町村との連携」は評価が拮抗しています。

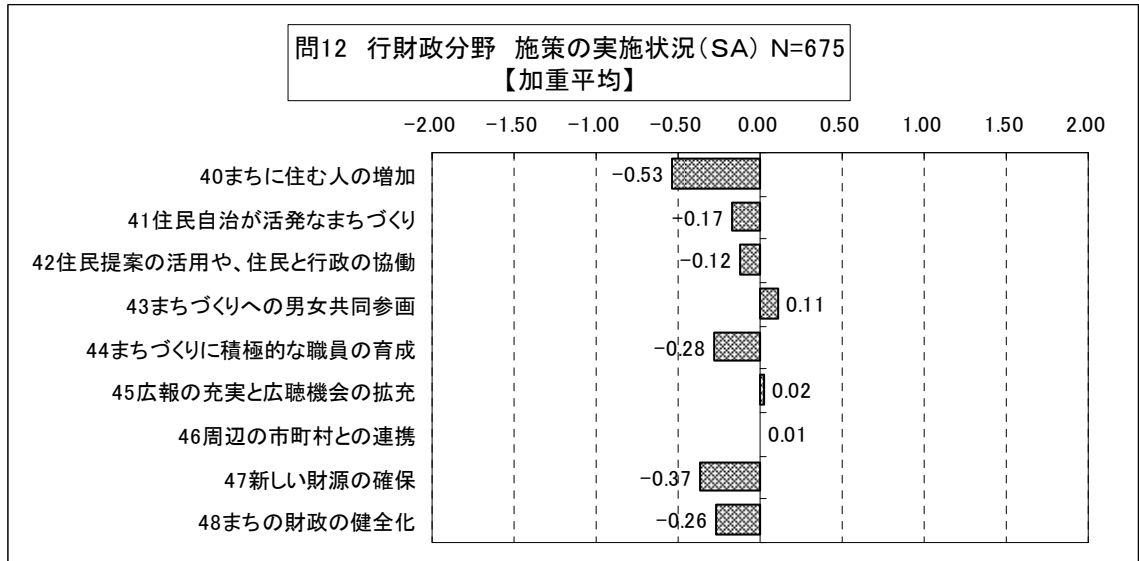
一方、“不満”の割合が上回っている施策は「まちに住む人の増加」、「住民自治が活発なまちづくり」、「住民提案の活用や、住民と行政の協働」、「まちづくりに積極的な職員の育成」、「新しい財源の確保」、「まちの財政の健全化」ですが、中でも、「まちに住む人の増加」や「新しい財源の確保」は不満の割合が高くなっています。

なお、前回調査との比較（加重平均）では、「広報の充実と公聴機会の拡充」、「周辺市町村との連携」は僅かに肯定的評価に転じ、「まちの財政の健全化」や「新しい財源の確保」は否定的評価がやや低くなるなど、厳しい評価であることは変わりありませんが、やや改善方向が見られます。

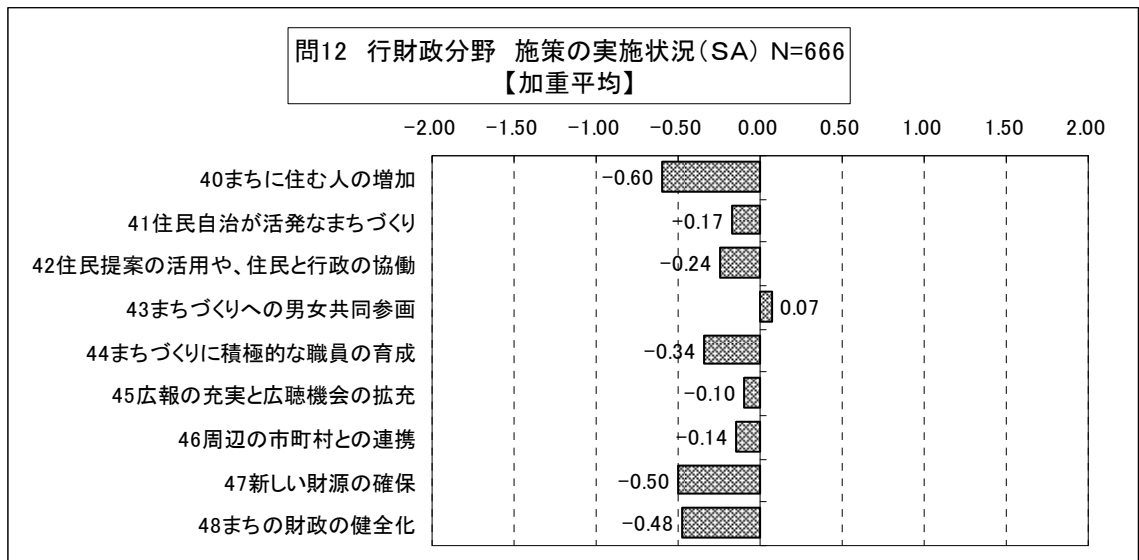


□過去調査との比較

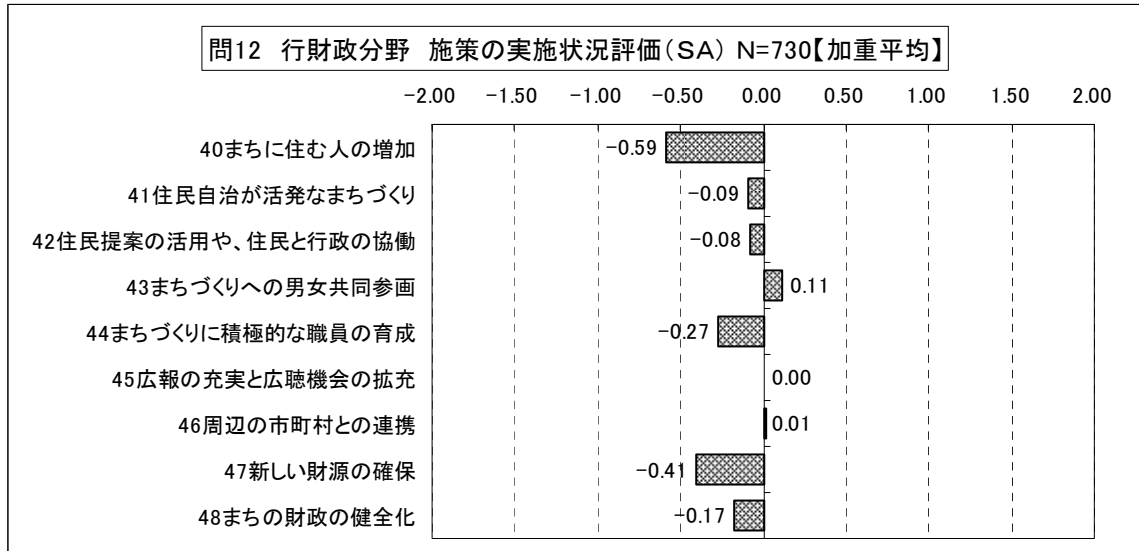
【平成 21 年度】



【平成 19 年度】



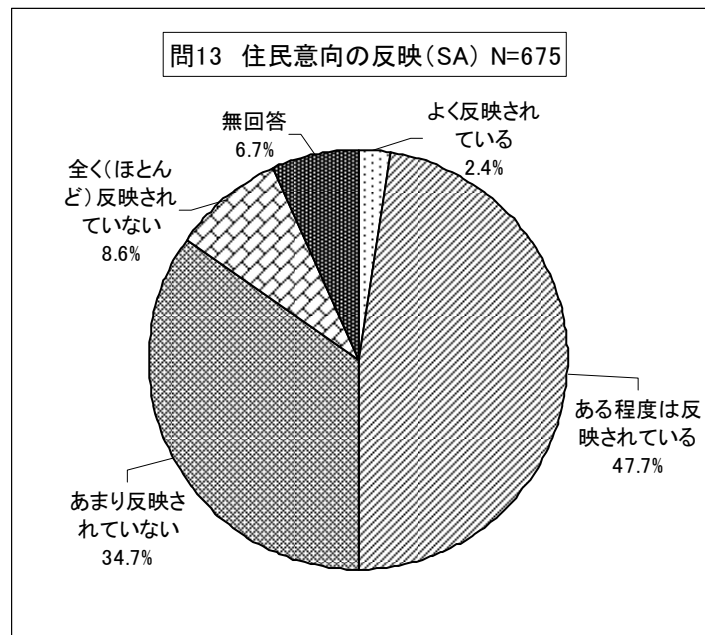
【平成 17 年度】



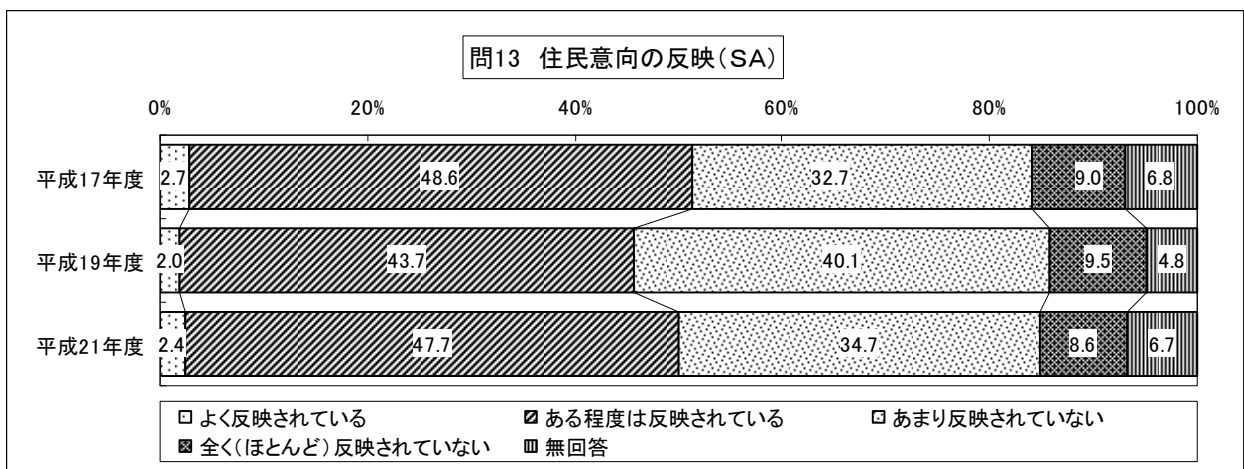
問 13 住民意向のまちづくりへの反映

町民の意向が町政に反映していると感じているかについてお聞きしたところ、「よく反映されている」が 2.4%、「ある程度は反映されている」が 47.3%であり、「反映されている」と感じている割合は 49.7%となっています。一方、「あまり反映されていない」が 34.7%、「全く反映されていない」が 8.6%であり、「反映されていない」と感じている割合は 43.3%となっており、「反映されている」がやや上回っています。

なお、年齢別には、10代、40代、60代で“反映されていない”が上回り、特に40代でめだっています。また、地区別では「氷川」、婚姻状況別では「未婚」でそれぞれ“反映されていない”が上回っています。

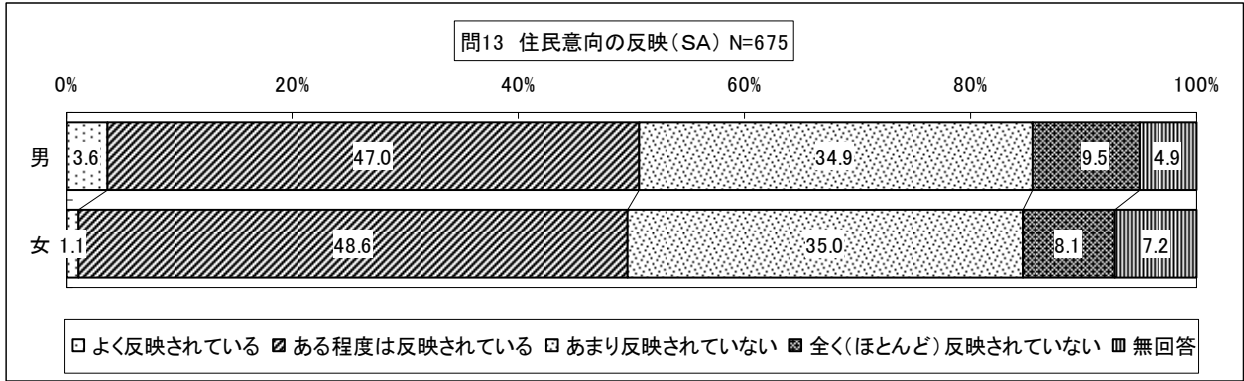


□前回調査との比較

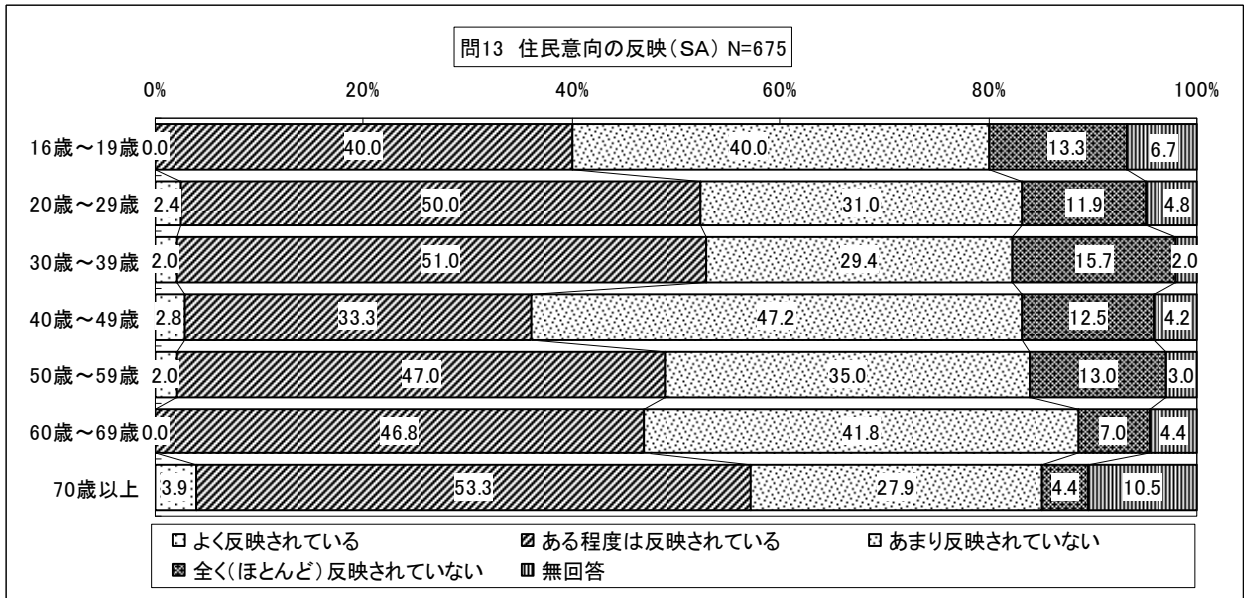


(平成 17 年度 N=730 平成 19 年度 N=666 平成 21 年度 N=675)

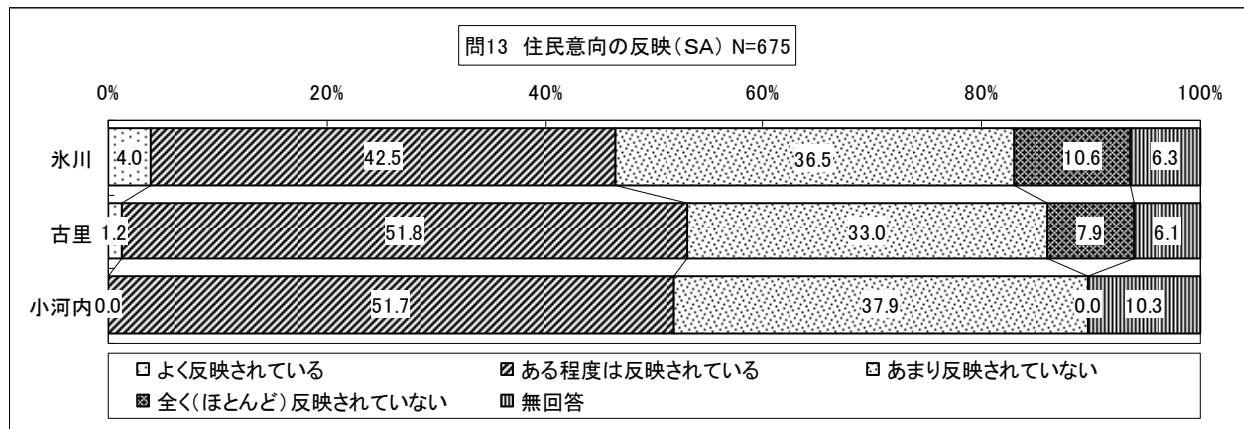
□性別



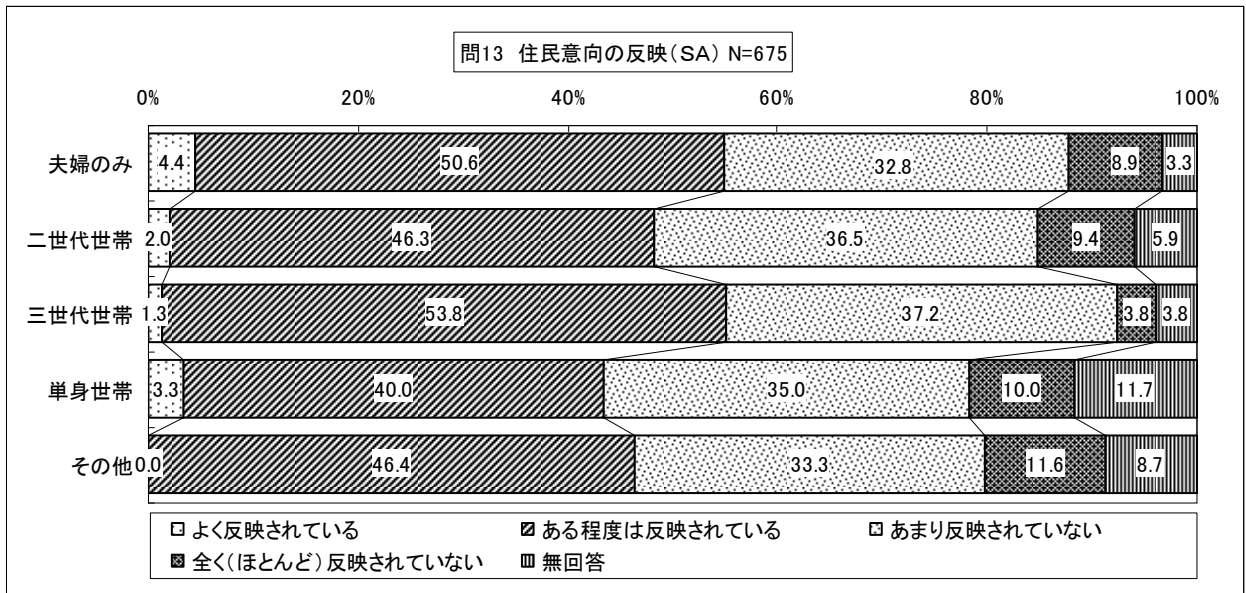
□年齢別



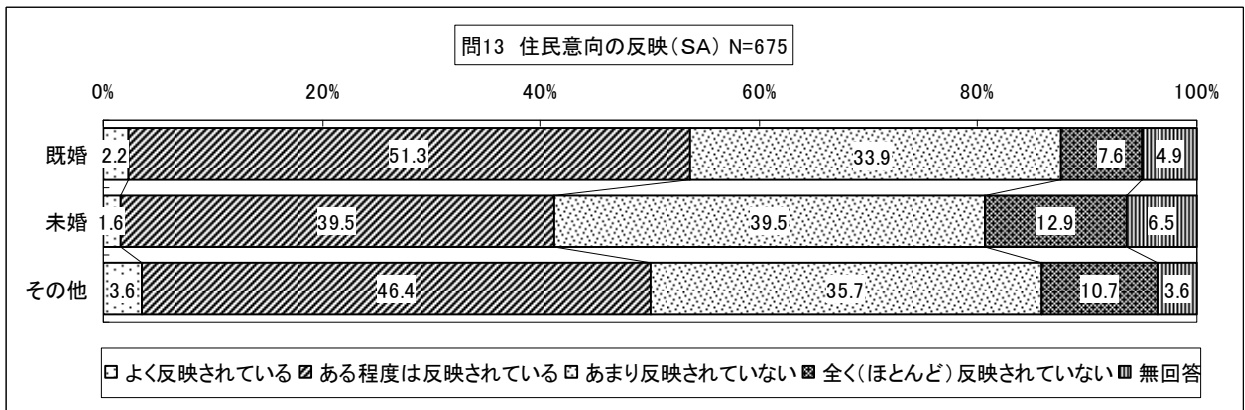
□居住地区別



□家族構成別



□未婚・既婚別



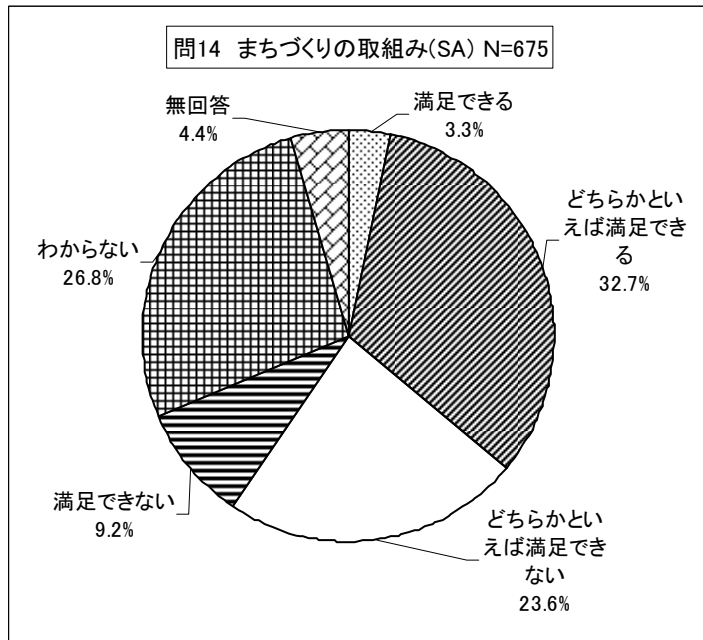
問 14 まちづくりへの取組み

奥多摩町のまちづくへの取組みについての評価をお聞きしたところ、「満足できる」が 3.3%、「どちらかといえば満足できる」が 32.7%であり、「満足できる」と感じている割合は 36.0%となっています。

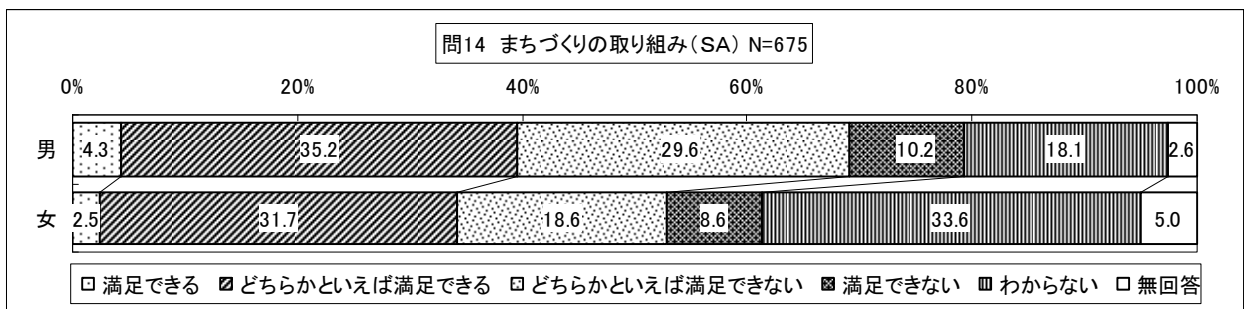
一方、「どちらかといえば満足できない」が 23.6%、「満足できない」が 9.2%であり、「満足できない」と感じている割合は 32.8%となっており、「満足できる」が僅かに上回っています。なお、性別には、「男性」で評価が拮抗するのに対し、「女性」では「満足できる」が僅かに上回るとともに、「わからない」も 33.6%と目立っています。

また、年齢別には若い世代及び 70 代以上で「満足できる」が上回る一方、30 代～60 代は「満足できない」が上回っています。

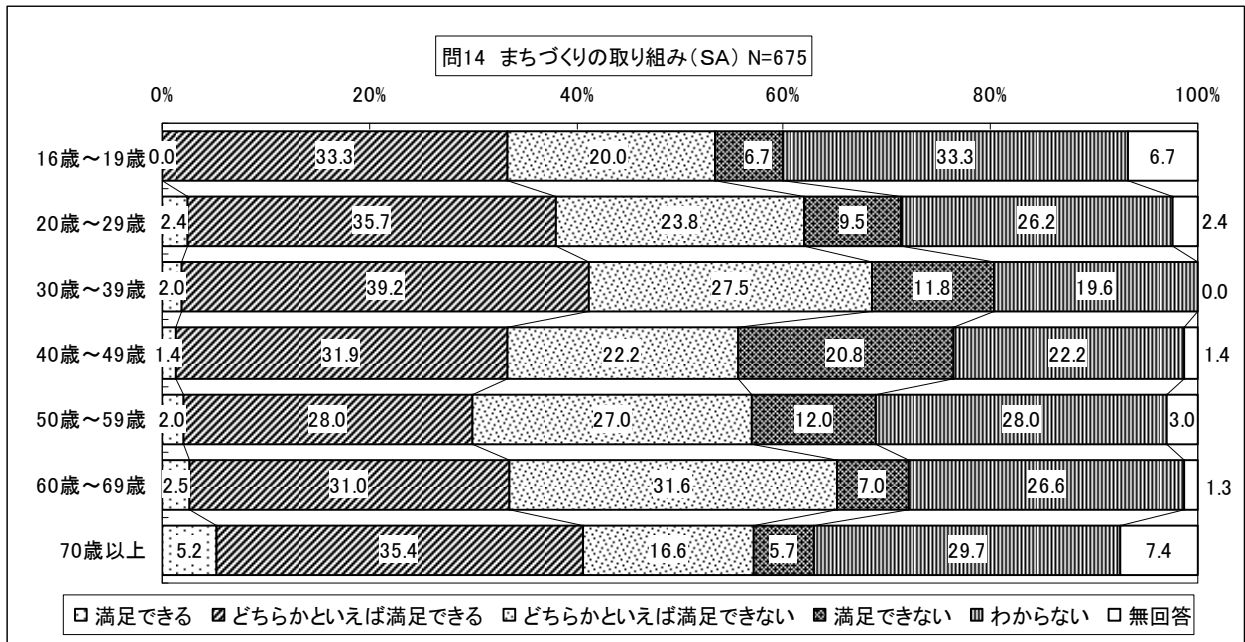
地区別には、「小河内」、「古里」の順に「満足できる」が高くなり、「氷川地区」では評価が拮抗しています。



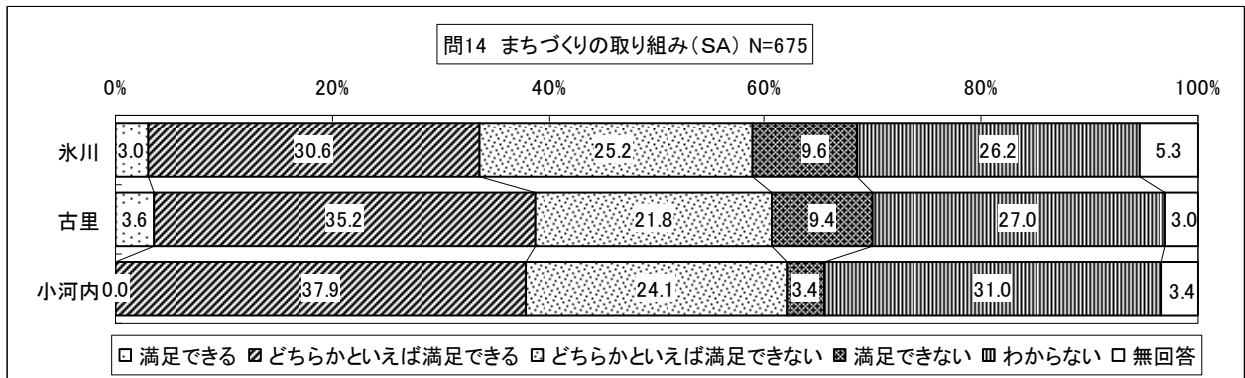
□性別



□年齢別

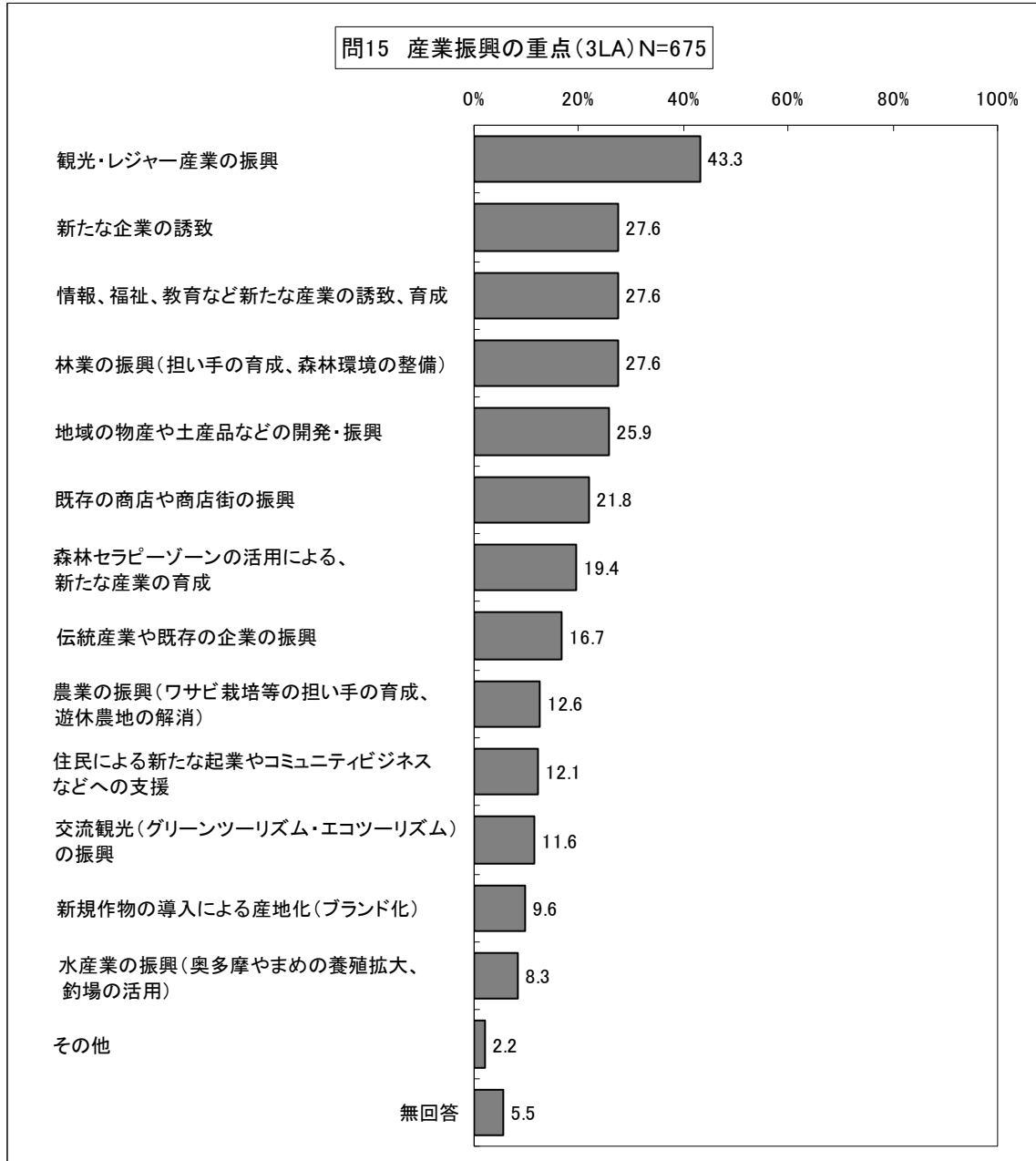


□居住地区別



問 15 産業振興の重点

奥多摩町の産業振興の重点についてお聞きしたところ、「観光・レジャー産業の振興」が 43.3%と最も多く、次いで「新たな企業誘致」、「情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成」、「林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）」がともに 27.6%、「地域の物産や土産品などの開発・振興」25.9%が続きます。



□属性別の上位項目

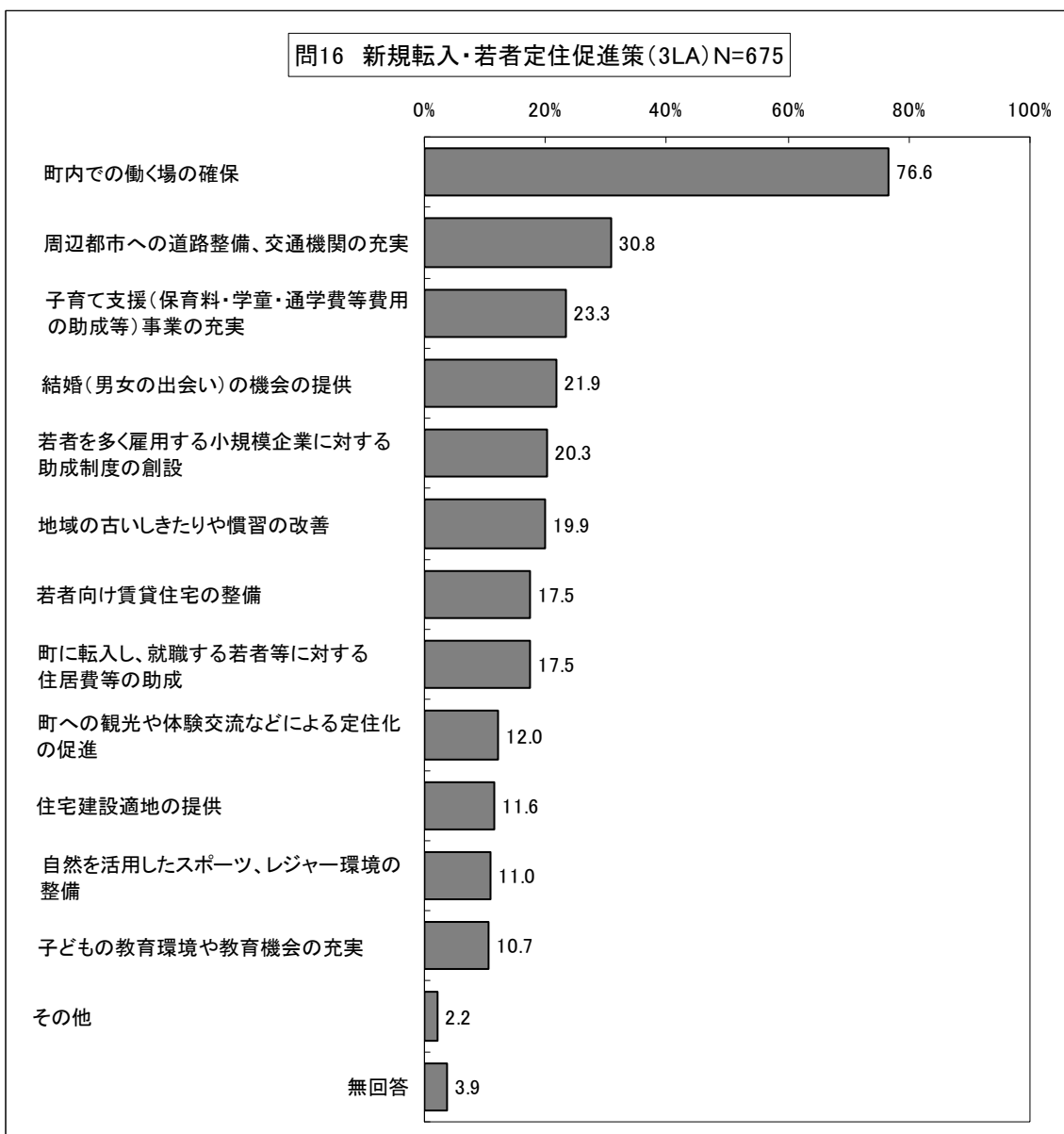
属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 観光・レジャー産業の振興(43.3)	2位 新たな企業の誘致(27.6) 2位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(27.6) 2位 林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）(27.6)		
性別	男性	1位 観光・レジャー産業の振興(45.1)	2位 林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）(34.2)	3位 新たな企業の誘致(31.9)	4位 地域の物産や土産品などの開発・振興(28.0)
	女性	1位 観光・レジャー産業の振興(42.8)	2位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(30)	3位 既存の商店や商店街の振興(28.9)	4位 地域の物産や土産品などの開発・振興(24.4)
年齢別	16歳～19歳	1位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(46.7)		3位 観光・レジャー産業の振興(26.7)	
		1位 既存の商店や商店街の振興(46.7)		3位 交流観光（グリーンツーリズム・エコツーリズム）の振興(26.7)	
				3位 森林セラピーゾーンの活用による、新たな産業の育成(26.7)	
	20歳～29歳	1位 観光・レジャー産業の振興(45.2)	2位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(26.2)		
			2位 交流観光（グリーンツーリズム・エコツーリズム）の振興(26.2)		
			2位 森林セラピーゾーンの活用による、新たな産業の育成(26.2)		
	30歳～39歳	1位 観光・レジャー産業の振興(47.1)	2位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(33.3)	3位 林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）(29.4)	4位 新たな企業の誘致(19.6)
					4位 地域の物産や土産品などの開発・振興(19.6)
40歳～49歳	1位 観光・レジャー産業の振興(48.6)	2位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(33.3)	3位 新たな企業の誘致(30.6)	4位 既存の商店や商店街の振興(19.6)	
				4位 林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）(25.0)	
50歳～59歳	1位 観光・レジャー産業の振興(61.0)	2位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(32.0)	3位 新たな企業の誘致(30.0)	4位 林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）(25.0)	
60歳～69歳	1位 観光・レジャー産業の振興(43.7)	2位 林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）(35.4)	3位 新たな企業の誘致(29.7)	4位 地域の物産や土産品などの開発・振興(28.0)	
70歳以上	1位 観光・レジャー産業の振興(34.9)	2位 地域の物産や土産品などの開発・振興(30.6)	3位 新たな企業の誘致(28.4)	4位 林業の振興（担い手の育成、森林環境の整備）(26.6)	

属性		1位	2位	3位	4位
地区別	氷川	1位 観光・レジャー産業の振興(42.5)	2位 新たな企業の誘致(28.6)	3位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(26.9) 3位 地域の物産や土産品などの開発・振興(26.9)	
	古里	1位 観光・レジャー産業の振興(43)	2位 林業の振興(担い手の育成、森林環境の整備)(31.2)	3位 情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成(28.5)	4位 新たな企業の誘致(27.3)
	小河内	1位 観光・レジャー産業の振興(58.6)	2位 地域の物産や土産品などの開発・振興(51.7)	3位 伝統産業や既存の企業の振興(31)	4位 森林セラピーゾーンの活用による、新たな産業の育成(20.7) 4位 林業の振興(担い手の育成、森林環境の整備)(20.7)

問 16 新規転入・若者定住促進策

奥多摩町の新規転入・若者定住促進策についてお聞きしたところ、「町内での働く場の確保」が 76.6%に達し最も多く、次いで「周辺都市への道路整備、交通機関の充実」が 30.8%、「子育て支援（保育料・学童・通学費等費用の助成等）事業の充実」が 23.3%、「結婚（男女の出会い）の機会の提供」が 21.9%と続きます。

なお、年齢別には、いずれの世代も「町内での働く場の確保」が最も多くなっていますが、若い世代についてみると、10代では「若者を多く雇用する小規模企業に対する助成制度の創設」、「若者向け賃貸住宅の整備」、「結婚（男女の出会い）の機会の提供」などが上位となり、また、20代では「周辺都市への道路整備、交通機関の充実」、「町に転入し、就職する若者等に対する住居費等の助成」、「子育て支援（保育料・学童・通学費等費用の助成等）事業の充実」などがめだっています。



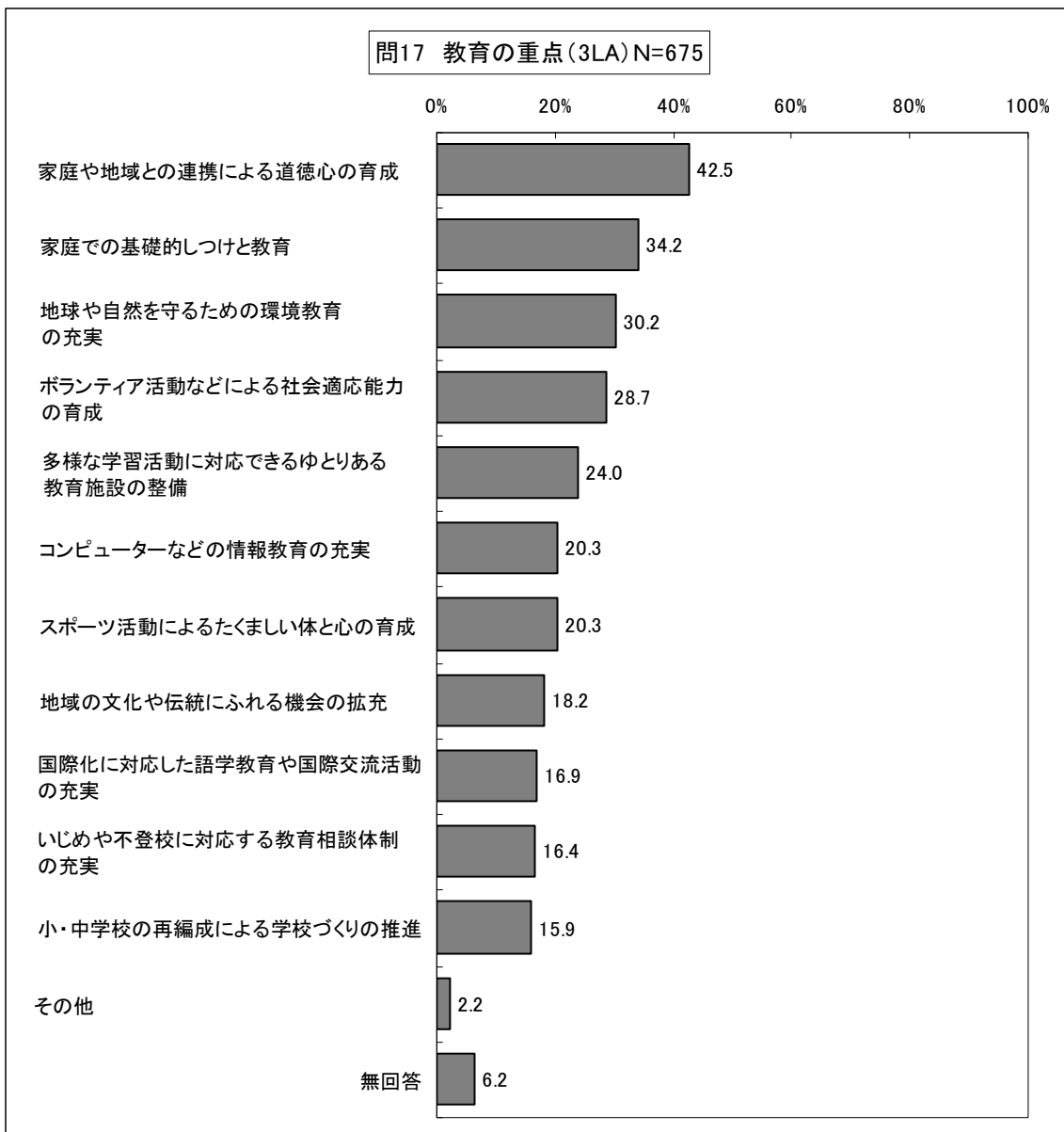
□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 町内での働く場の確保(76.6)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(30.8)	3位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(23.3)	4位 結婚(男女の出会い)の機会の提供(21.9)
性別	男性	1位 町内での働く場の確保(76.6)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(30.9)	3位 若者を多く雇用する小規模企業に対する助成制度の創設(23.4)	4位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(22.7)
	女性	1位 町内での働く場の確保(77.5)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(31.1)	3位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(24.2)	4位 結婚(男女の出会い)の機会の提供(23.3)
年齢別	16歳～19歳	1位 町内での働く場の確保(66.7)		3位 若者を多く雇用する小規模企業に対する助成制度の創設(33.3) 3位 若者向け賃貸住宅の整備(33.3)	
	20歳～29歳	1位 町内での働く場の確保(64.3)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(59.5)	3位 町に転入し、就職する若者等に対する住居費等の助成(26.2)	4位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(23.8) 4位 若者向け賃貸住宅の整備(23.8)
	30歳～39歳	1位 町内での働く場の確保(72.5)	2位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(33.3)	3位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(31.4)	4位 若者向け賃貸住宅の整備(19.6) 4位 地域の古いしきたりや慣習の改善(19.6)
	40歳～49歳	1位 町内での働く場の確保(79.2)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(37.5)	3位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(31.9)	4位 若者向け賃貸住宅の整備(26.4)
	50歳～59歳	1位 町内での働く場の確保(79.0)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(33.0)	3位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(30.0)	4位 地域の古いしきたりや慣習の改善(21.0) 4位 町への観光や体験交流などによる定住化の促進(21.0)
	60歳～69歳	1位 町内での働く場の確保(76.6)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(32.9)	3位 地域の古いしきたりや慣習の改善(25.9)	4位 結婚(男女の出会い)の機会の提供(25.3)
	70歳以上	1位 町内での働く場の確保(80.3)	2位 結婚(男女の出会い)の機会の提供(32.8)	3位 若者を多く雇用する小規模企業に対する助成制度の創設(23.1)	4位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(19.2)
地区別	氷川	1位 町内での働く場の確保(79.1)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(29.2)	3位 結婚(男女の出会い)の機会の提供(20.9) 3位 地域の古いしきたりや慣習の改善(20.9)	
	古里	1位 町内での働く場の確保(73.6)	2位 周辺都市への道路整備、交通機関の充実(34.5)	3位 子育て支援(保育料・学童・通学費等費用の助成等)事業の充実(26.7)	4位 地域の古いしきたりや慣習の改善(20.6)
	小河内	1位 町内での働く場の確保(89.7)	2位 結婚(男女の出会い)の機会の提供(44.8)	3位 若者を多く雇用する小規模企業に対する助成制度の創設(27.6)	4位 町に転入し、就職する若者等に対する住居費等の助成(20.7) 4位 若者向け賃貸住宅の整備(20.7)

問 17 教育の重点

21 世紀を担う子どもたちに対する教育の重点についてお聞きしたところ、「家庭や地域との連携による道德心の育成」が 42.5%と最も多く、次いで、「家庭での基礎的しつけと教育」が 34.2%、「地球や自然を守るための環境教育の充実」が 30.2%、「ボランティア活動などによる社会適応能力の育成」が 28.7%と続きます。

なお、年齢別には、若い世代についてみると、10 代では「ボランティア活動などによる社会適応能力の育成」、20 代では「コンピューターなどの情報教育の充実」が最も多くなっています。また、年齢が高まるにつれて「家庭や地域との連携による道德心の育成」が増加する傾向が見られるとともに、60 代以上で「家庭での基礎的しつけと教育」がめだっています。

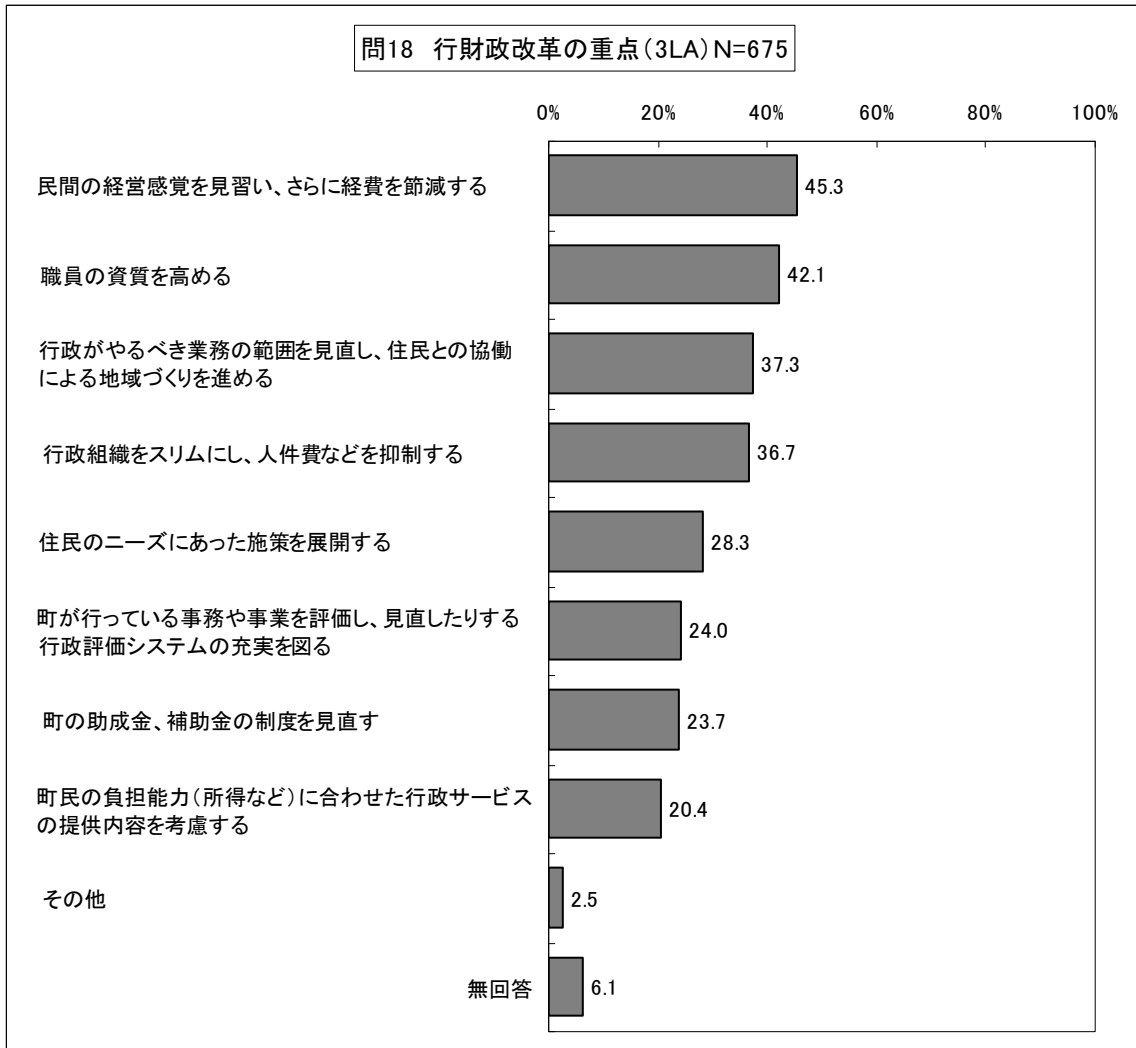


□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(42.5)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(34.2)	3位 地球や自然を守るための環境教育の充実(30.2)	4位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(28.7)
性別	男性	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(43.8)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(35.5)	3位 地球や自然を守るための環境教育の充実(33.2)	4位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(29.3)
	女性	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(42.2)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(33.6)	3位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(28.6)	4位 地球や自然を守るための環境教育の充実(28.1)
年齢別	16歳～19歳	1位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(53.3)	2位 スポーツ活動によるたくましい体と心の育成(40.0)		4位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(33.3)
			2位 地域の文化や伝統にふれる機会の拡充(40.0)		4位 地球や自然を守るための環境教育の充実(33.3)
	20歳～29歳	1位 コンピューターなどの情報教育の充実(38.1)	2位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(35.7)	3位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(33.3)	4位 地球や自然を守るための環境教育の充実(28.6)
	30歳～39歳	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(35.3)	2位 スポーツ活動によるたくましい体と心の育成(31.4)		4位 コンピューターなどの情報教育の充実(27.5)
			2位 地球や自然を守るための環境教育の充実(31.4)		
	40歳～49歳	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(36.1)	2位 スポーツ活動によるたくましい体と心の育成(29.2)		4位 小・中学校の再編成による学校づくりの推進(27.8)
			2位 地球や自然を守るための環境教育の充実(29.2)		
50歳～59歳	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(40.0)	2位 地球や自然を守るための環境教育の充実(37.0)	3位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(35.0)	4位 家庭での基礎的しつけと教育(28.0)	
				4位 小・中学校の再編成による学校づくりの推進(28.0)	
				4位 多様な学習活動に対応できるゆとりある教育施設の整備(28.0)	
60歳～69歳	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(43.7)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(41.8)	3位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(33.5)	4位 地球や自然を守るための環境教育の充実(31.0)	
70歳以上	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(49.8)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(44.5)	3位 地球や自然を守るための環境教育の充実(27.9)	4位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(26.6)	
地区別	氷川	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(46.5)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(34.2)	3位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(29.9)	4位 地球や自然を守るための環境教育の充実(28.6)
	古里	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(37.9)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(33.9)	3位 地球や自然を守るための環境教育の充実(31.8)	4位 ボランティア活動などによる社会適応能力の育成(28.8)
	小河内	1位 家庭や地域との連携による道徳心の育成(55.2)	2位 家庭での基礎的しつけと教育(48.3)	3位 多様な学習活動に対応できるゆとりある教育施設の整備(34.5)	
3位 地球や自然を守るための環境教育の充実(34.5)					

問 18 行財政改革の重点

行財政改革の重点についてお聞きしたところ、「民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する」が 45.3%と最も多く、次いで「職員の資質を高める」が 42.1%、「行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める」が 37.3%、「行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する」が 36.7 と続きます。



□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(45.3)	2位 職員の資質を高める(42.1)	3位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(37.3)	4位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(36.7)
性別	男性	1位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(50.3)	2位 職員の資質を高める(42.4)	3位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(37.5)	4位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(37.2)
	女性	1位 職員の資質を高める(42.2)	2位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(41.4)	3位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(37.8)	4位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(36.4)
年齢別	16歳～19歳	1位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(53.3)		3位 町の助成金、補助金の制度を見直す(33.3)	4位 職員の資質を高める(26.7)
		1位 住民のニーズにあった施策を展開する(53.3)			4位 町が行っている事務や事業を評価し、見直したりする行政評価システムの充実を図る(26.7)
	20歳～29歳	1位 住民のニーズにあった施策を展開する(42.9)	2位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(40.5)	3位 職員の資質を高める(38.1)	4位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(33.3)
					4位 町が行っている事務や事業を評価し、見直したりする行政評価システムの充実を図る(33.3)
	30歳～39歳	1位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(47.1)	2位 職員の資質を高める(39.2)	3位 住民のニーズにあった施策を展開する(37.3)	4位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(35.3)
	40歳～49歳	1位 職員の資質を高める(45.8)	2位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(44.4)	3位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(33.3)	
				3位 住民のニーズにあった施策を展開する(33.3)	
	50歳～59歳	1位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(50.0)	2位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(46.0)	3位 職員の資質を高める(45.0)	4位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(41.0)
60歳～69歳	1位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(50.6)	2位 職員の資質を高める(46.2)	3位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(44.3)	4位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(39.9)	
70歳以上	1位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(42.4)	2位 職員の資質を高める(40.2)	3位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(37.6)	4位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(36.2)	

属性		1 位	2 位	3 位	4 位
地区別	氷川	1 位 職員の資質を高める(46.2)	2 位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(45.5)	3 位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(39.5)	4 位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(32.9)
	古里	1 位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(44.5)	2 位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(40.0)	3 位 職員の資質を高める(39.7)	4 位 行政組織をスリムにし、人件費などを抑制する(34.5)
	小河内	1 位 行政がやるべき業務の範囲を見直し、住民との協働による地域づくりを進める(58.6)	2 位 民間の経営感覚を見習い、さらに経費を節減する(48.3)	3 位 住民のニーズにあった施策を展開する(44.8)	4 位 職員の資質を高める(37.9)

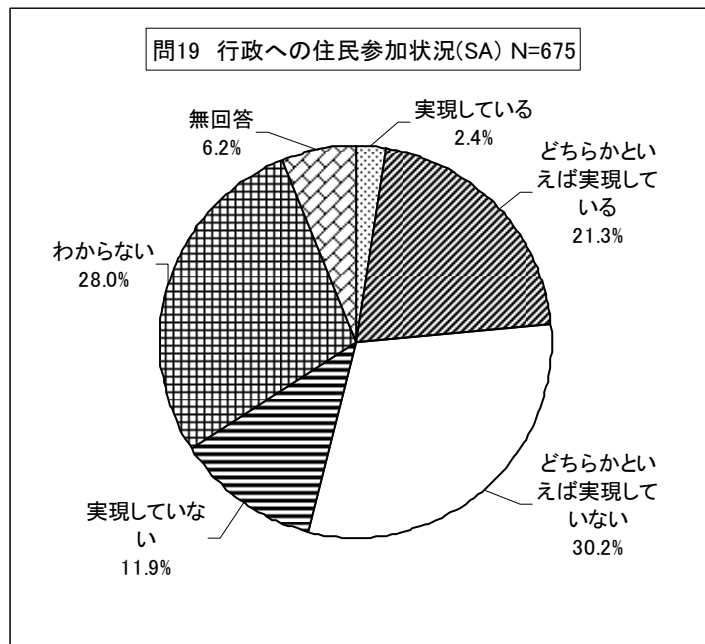
問 19 行政への住民参加状況

奥多摩町での住民参加が実現しているか否かをお聞きしたところ、「実現している」が 2.4%、「どちらかといえば実現している」が 21.3%であり、「実現している」と感じている割合は 23.7% となっています。

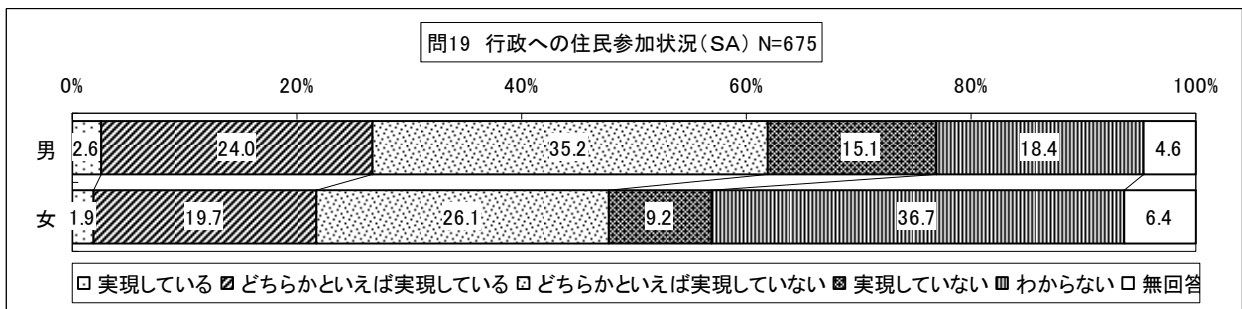
一方、「どちらかといえば実現していない」が 30.2%、「実現していない」が 11.9%であり、「実現していない」と感じている割合は 42.1%となっており、「実現していない」が大きく上回っています。

なお、性別には、男女とも“実現していない”が上回りますが、「男性」でより高い割合となっています。

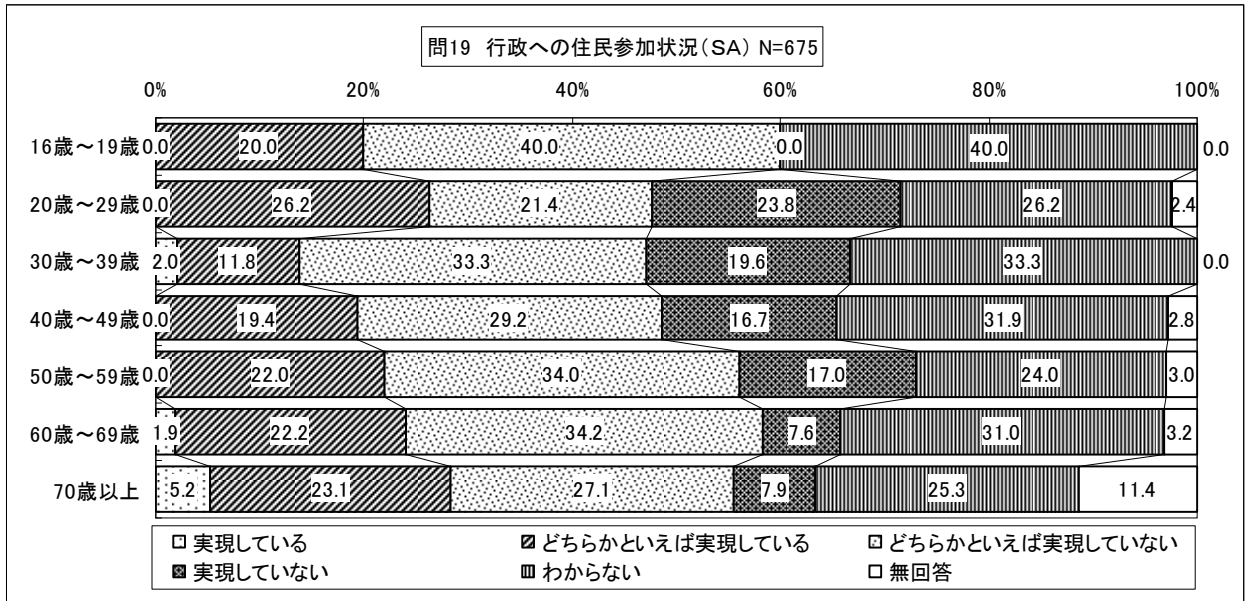
また、年齢別には 30 代～50 代で“実現していない”が他に比べ高い割合となっています。



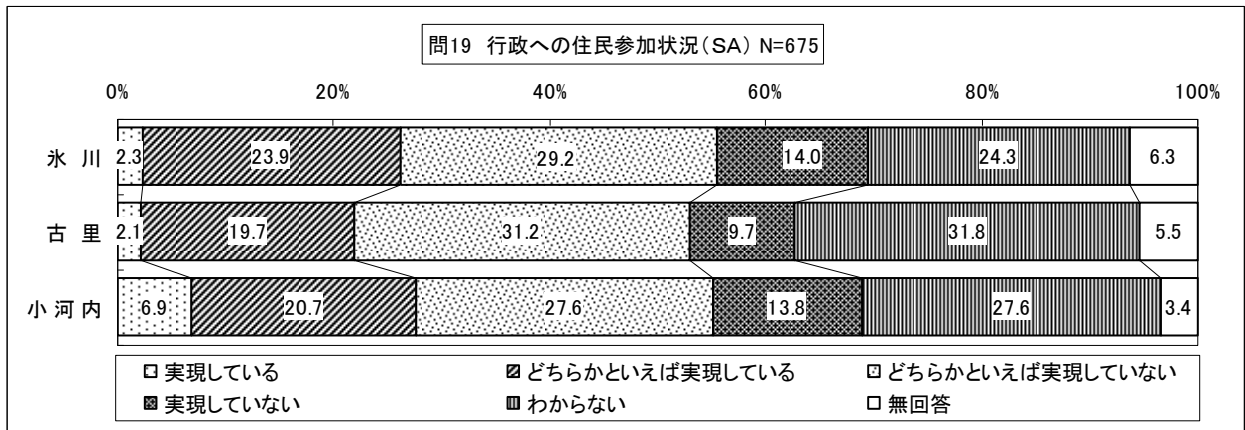
□性別



□年齢別



□居住地区別

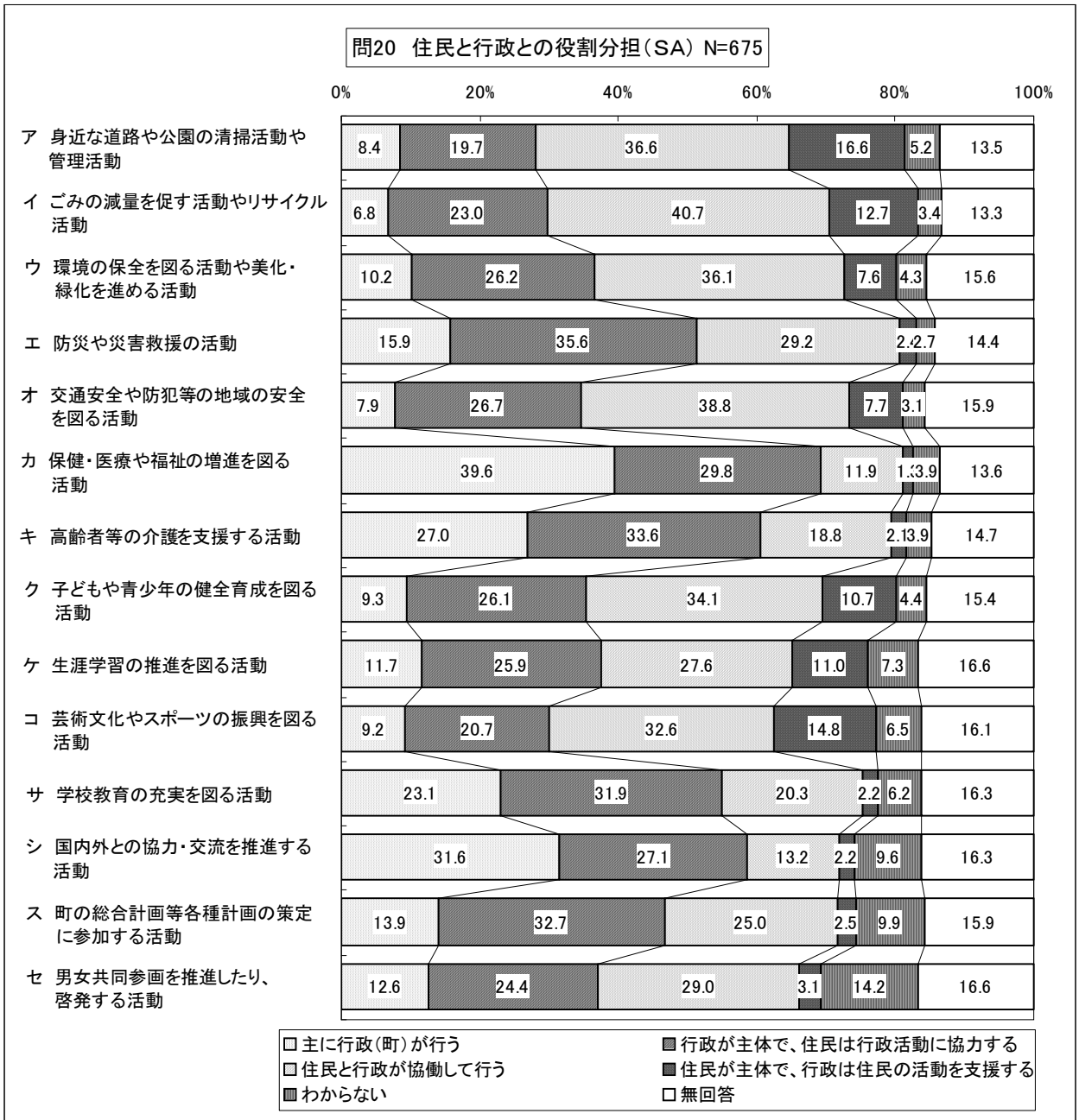


問20 住民と行政との役割分担

各種の活動についての住民と行政との役割分担のあり方をお聞きしたところ、14の活動のうち「主に行政（町）が行う」が最も多かった活動が2つ、「行政が主体で、住民は行政活動に協力する」が4つ、「住民と行政が協働して行う」が8つとなり、多くの活動は「住民と行政が協働して行う」ことが望まれています。

なお、「主に行政（町）が行う」が最も多かったのは、「保健・医療や福祉の増進を図る活動」、「国内外との協力・交流を推進する活動」です。また、「行政が主体で、住民は行政活動に協力する」が最も多かったのは、「防災や災害救援の活動」、「高齢者等の介護を支援する活動」、「学校教育の充実を図る活動」、「町の総合計画等各種計画の策定に参加する活動」です。

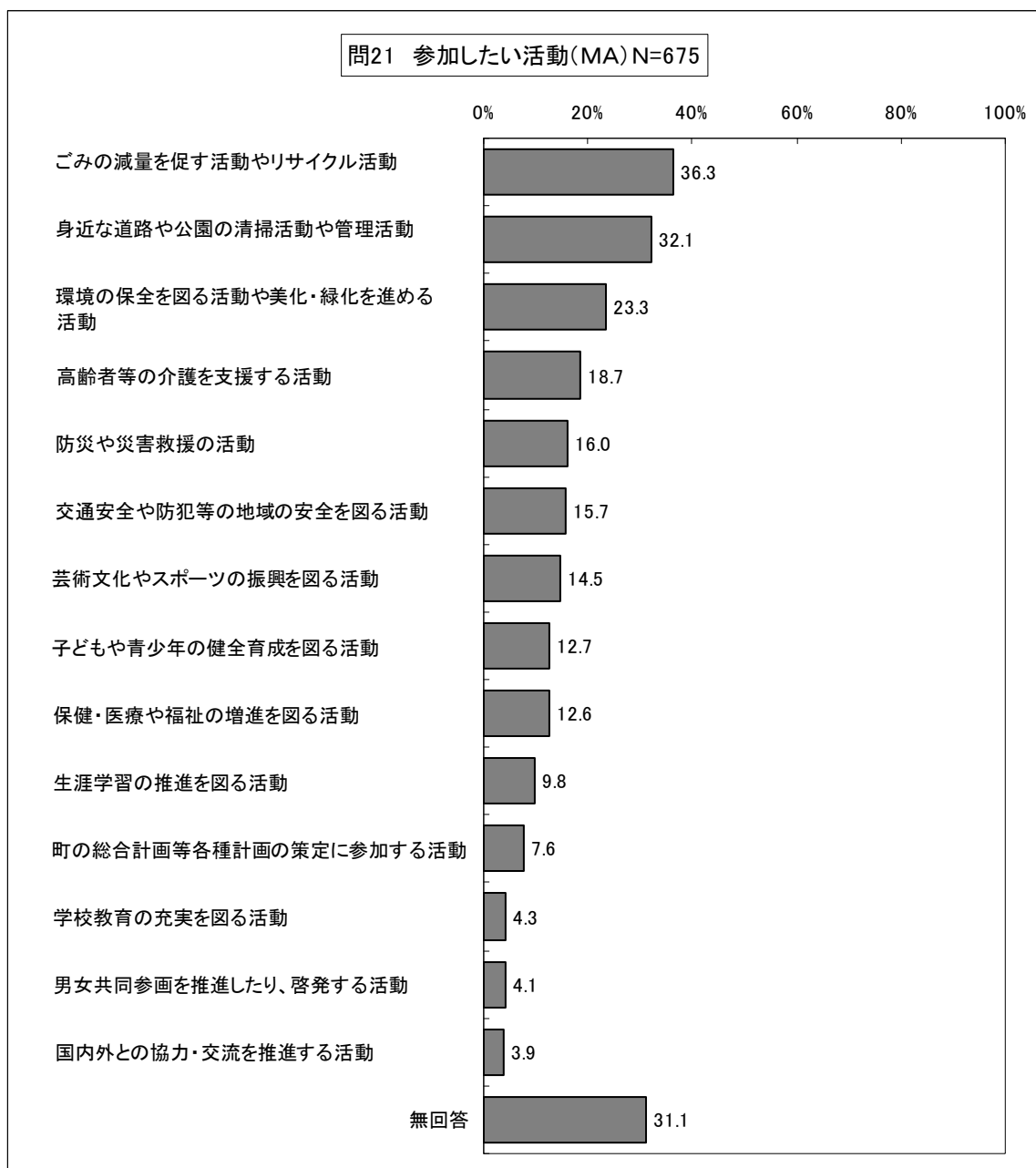
「住民と行政が協働して行う」が最も多かったのは、「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」、「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」、「環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」、「交通安全や防犯等の地域の安全を図る活動」、「子どもや青少年の健全育成を図る活動」、「生涯学習の推進を図る活動」、「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」です。



問 21 参加したい活動

前問（問 20）の活動のうち、積極的に参加したい活動についてお聞きしたところ、「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」が最も多く 36.3%、次いで「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」が 32.1%、「環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」が 23.3%、「高齢者等の介護を支援する活動」が 18.7%と続きます。

なお、性別には、あまり大きな差はないものの、「女性」で「高齢者等の介護を支援する活動」が 3 位にランクされめだっています。また、年齢別には、「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」は 20 代以降、「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」は 30 代以降で 2 位以内にランクされ類似する傾向にあります。10 代では「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」が最も多く、若い世代ほど参加意向が高い活動となっています。



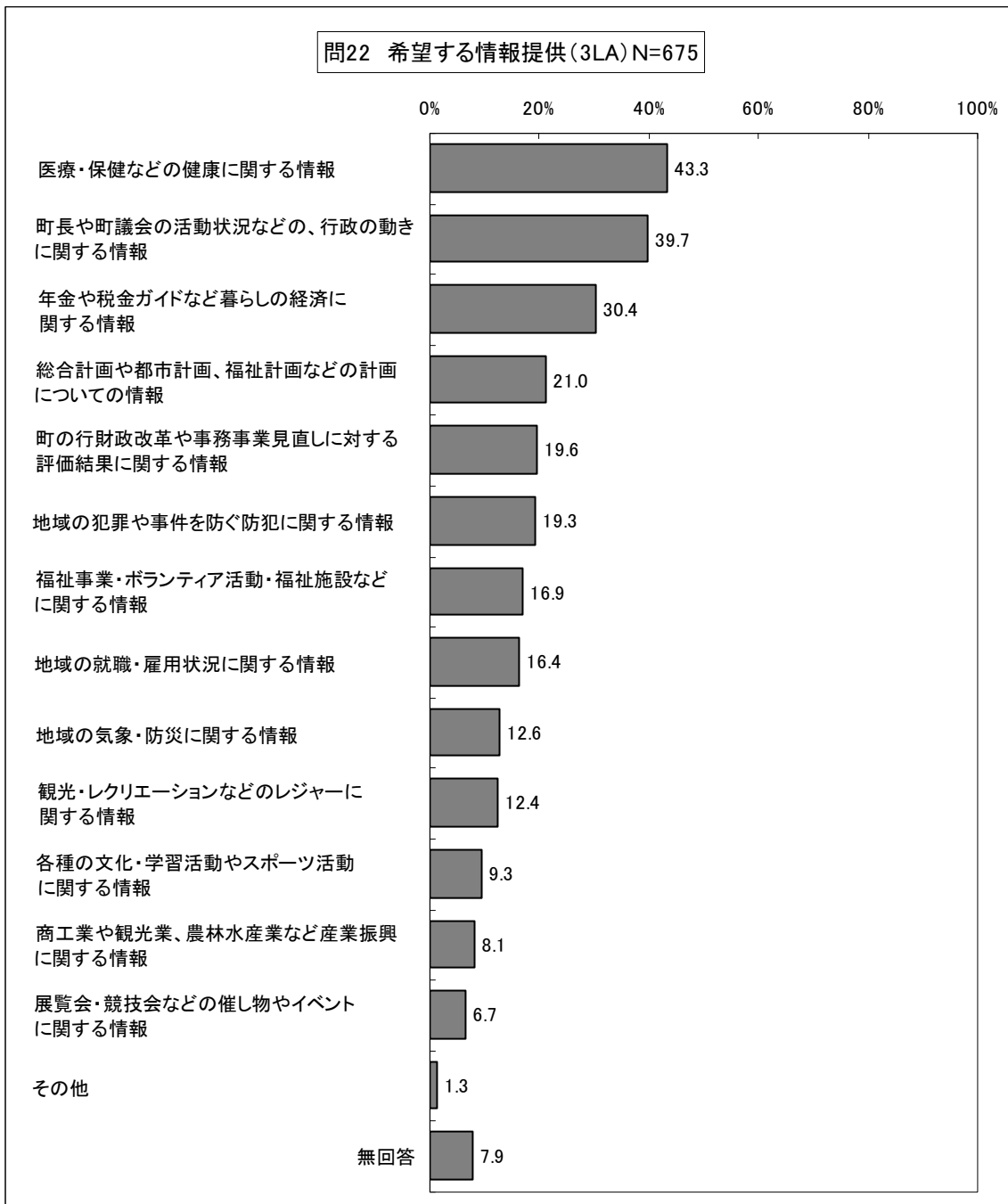
□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(36.3)	2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(32.1)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(23.3)	4位 高齢者等の介護を支援する活動(18.7)
性別	男性	1位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(35.2)	2位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(32.9)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(28)	4位 交通安全や防犯等の地域の安全を図る活動(19.7)
	女性	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(39.4)	2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(30)	3位 高齢者等の介護を支援する活動(20.6)	4位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(20)
年齢別	16歳～19歳	1位 芸術文化やスポーツの振興を図る活動(46.7)	2位 保健・医療や福祉の増進を図る活動(26.7)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(20.0) 3位 男女共同参画を推進したり、啓発する活動(20.0) 3位 防災や災害救援の活動(20.0)	
	20歳～29歳	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(33.3)	1位 芸術文化やスポーツの振興を図る活動(33.3)	3位 子どもや青少年の健全育成を図る活動(26.2)	4位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(19.0)
	30歳～39歳	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(47.1)	2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(27.5)	3位 芸術文化やスポーツの振興を図る活動(23.5) 3位 子どもや青少年の健全育成を図る活動(23.5)	
	40歳～49歳	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(31.9)	2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(23.6)	3位 子どもや青少年の健全育成を図る活動(22.2) 3位 防災や災害救援の活動(22.2)	
	50歳～59歳	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(46.0)	2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(36.0)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(31.0)	4位 防災や災害救援の活動(27.0)
	60歳～69歳	1位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(47.5)	2位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(44.9)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(33.5)	4位 高齢者等の介護を支援する活動(22.8)
	70歳以上	1位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(28.4)	2位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(27.9)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(17.9) 3位 高齢者等の介護を支援する活動(17.9)	
地区別	氷川	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(35.2)	2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(30.9)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(20.9)	4位 高齢者等の介護を支援する活動(19.9)
	古里	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(37.6)	2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(33.6)	3位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(24.8)	4位 高齢者等の介護を支援する活動(18.2)
	小河内	1位 ごみの減量を促す活動やリサイクル活動(34.5)	2位 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動(31.0) 2位 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動(31.0)		4位 交通安全や防犯等の地域の安全を図る活動(24.1) 4位 防災や災害救援の活動(24.1)

問 22 希望する情報提供

奥多摩町からの情報提供として希望するものについてお聞きしたところ、「医療・保健などの健康に関する情報」が最も多く 43.3%、次いで「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」が 39.7%、「年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報」が 30.4%と続きます。

なお、性別には、「男性」では「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」が、「女性」では「医療・保健などの健康に関する情報」が、それぞれ最も多くなっています。また、年齢別には、20 代以上は「医療・保健などの健康に関する情報」や「町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報」が上位にランクされていますが、10 代では「地域の就職・雇用状況に関する情報」が最も多くなるとともに、30 代までの若い世代でめだっています。



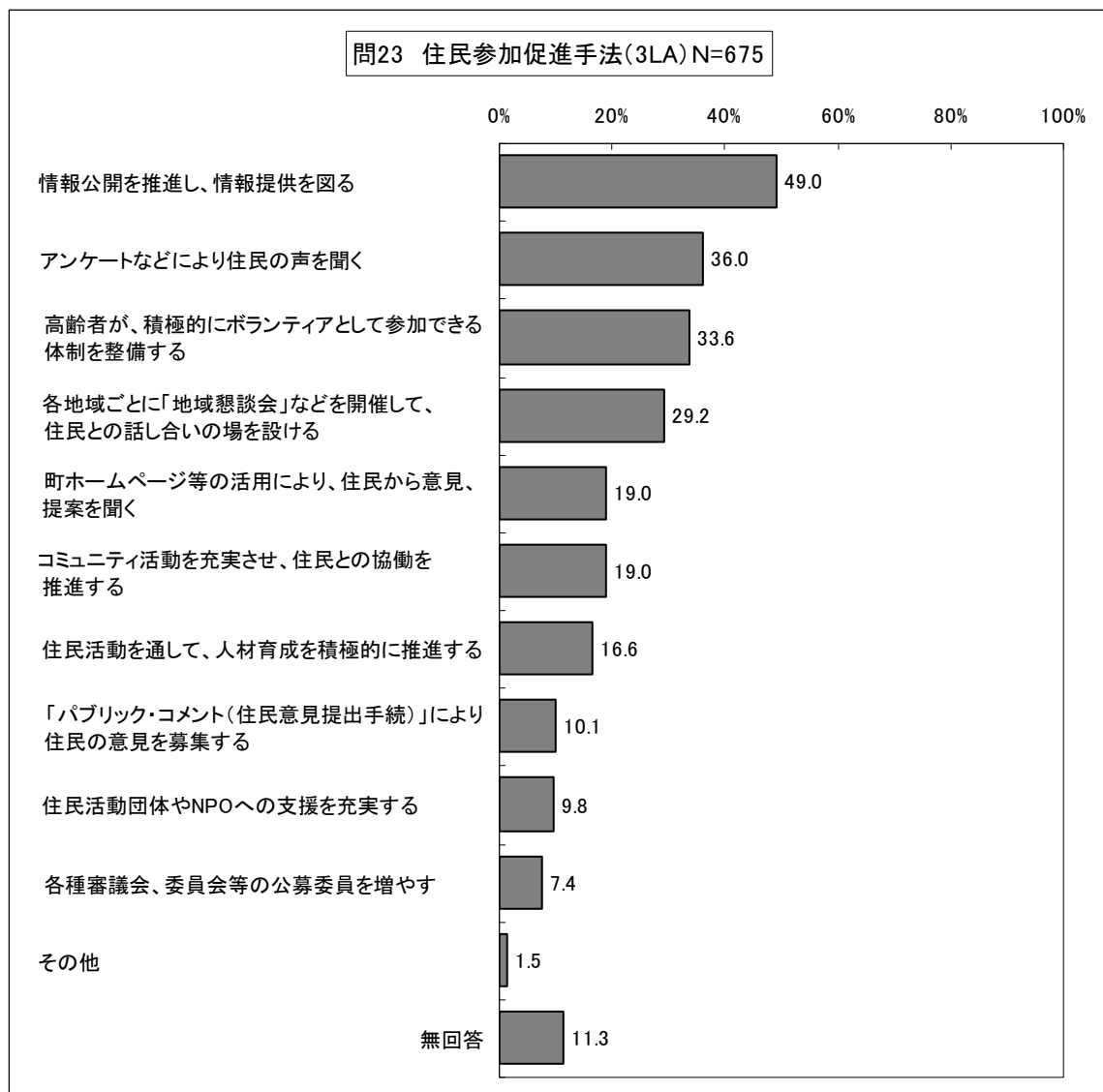
□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 医療・保健などの健康に関する情報(43.3)	2位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(39.7)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(30.4)	4位 総合計画や都市計画、福祉計画などの計画についての情報(21)
性別	男性	1位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(44.7)	2位 医療・保健などの健康に関する情報(37.2)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(31.9)	4位 町の行財政改革や事務事業見直しに対する評価結果に関する情報(26.6)
	女性	1位 医療・保健などの健康に関する情報(48.3)	2位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(35.8)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(29.2)	4位 地域の犯罪や事件を防ぐ防犯に関する情報(22.2)
年齢別	16歳～19歳	1位 地域の就職・雇用状況に関する情報(40)	1位 地域の犯罪や事件を防ぐ防犯に関する情報(40)	3位 地域の気象・防災に関する情報(33.3)	4位 展覧会・競技会などの催し物やイベントに関する情報(26.7)
	20歳～29歳	1位 医療・保健などの健康に関する情報(35.7)	2位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(28.6)	3位 地域の就職・雇用状況に関する情報(26.2) 3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(26.2)	
	30歳～39歳	1位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(31.4)	2位 医療・保健などの健康に関する情報(29.4)	3位 地域の就職・雇用状況に関する情報(27.5)	4位 各種の文化・学習活動やスポーツ活動に関する情報(23.5) 4位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(23.5)
	40歳～49歳	1位 医療・保健などの健康に関する情報(38.9)	2位 地域の就職・雇用状況に関する情報(30.6)	3位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(29.2)	4位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(22.2)
	50歳～59歳	1位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(46)	2位 医療・保健などの健康に関する情報(37)	3位 町の行財政改革や事務事業見直しに対する評価結果に関する情報(29)	4位 総合計画や都市計画、福祉計画などの計画についての情報(26)
	60歳～69歳	1位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(48.7)	2位 医療・保健などの健康に関する情報(44.9)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(34.8)	4位 町の行財政改革や事務事業見直しに対する評価結果に関する情報(24.1)
	70歳以上	1位 医療・保健などの健康に関する情報(53.7)	2位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(40.2)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(36.7)	4位 地域の犯罪や事件を防ぐ防犯に関する情報(24)
地区別	氷川	1位 医療・保健などの健康に関する情報(43.2)	2位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(37.5)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(32.6)	4位 総合計画や都市計画、福祉計画などの計画についての情報(23.3)
	古里	1位 医療・保健などの健康に関する情報(44.2)	2位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(41.2)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(28.5)	4位 町の行財政改革や事務事業見直しに対する評価結果に関する情報(20)
	小河内	1位 町長や町議会の活動状況などの、行政の動きに関する情報(48.3)	2位 医療・保健などの健康に関する情報(37.9)	3位 年金や税金ガイドなど暮らしの経済に関する情報(24.1)	4位 地域の就職・雇用状況に関する情報(20.7) 4位 町の行財政改革や事務事業見直しに対する評価結果に関する情報(20.7)

問 23 住民参加促進手法

行政への住民参加をより一層進める手法についてお聞きしたところ、「情報公開を推進し、情報提供を図る」が最も多く 49.0%、次いで「アンケートなどにより住民の声を聞く」が 36.0%、「高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する」が 33.6%、「各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける」が 29.2%と続きます。

なお、年齢別には、「情報公開を推進し、情報提供を図る」や「アンケートなどにより住民の声を聞く」はいずれの年代でも上位となっていますが、60代以上で「高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する」がめだっています。また、地区別でも概ね同様の傾向にあります。また、「小河内」で「各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける」がめだっています。



□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(49)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(36)	3位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(33.6)	4位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(29.2)
性別	男性	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(53.3)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(35.5)	3位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(31.6)	4位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(30.9)
	女性	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(46.4)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(36.1) 2位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(36.1)		4位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(28.3)
年齢別	16歳～19歳	1位 アンケートなどにより住民の声を聞く(53.3)	2位 情報公開を推進し、情報提供を図る(40)	3位 「パブリック・コメント（住民意見提出手続）」により住民の意見を募集する(26.7)	3位 町ホームページ等の活用により、住民から意見、提案を聞く(26.7)
	20歳～29歳	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(50)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(35.7)	3位 町ホームページ等の活用により、住民から意見、提案を聞く(28.6)	4位 コミュニティ活動を充実させ、住民との協働を推進する(23.8)
	30歳～39歳	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(47.1)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(37.3)	3位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(25.5)	4位 コミュニティ活動を充実させ、住民との協働を推進する(21.6) 4位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(21.6)
	40歳～49歳	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(54.2)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(38.9)	3位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(31.9)	4位 町ホームページ等の活用により、住民から意見、提案を聞く(25)
	50歳～59歳	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(64)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(33)	3位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(30)	4位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(29)
	60歳～69歳	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(50)	2位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(43)	3位 アンケートなどにより住民の声を聞く(33.5)	4位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(31.6)
	70歳以上	1位 情報公開を推進し、情報提供を図る(41.9)	2位 アンケートなどにより住民の声を聞く(37.6)	3位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(36.7)	4位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(34.1)

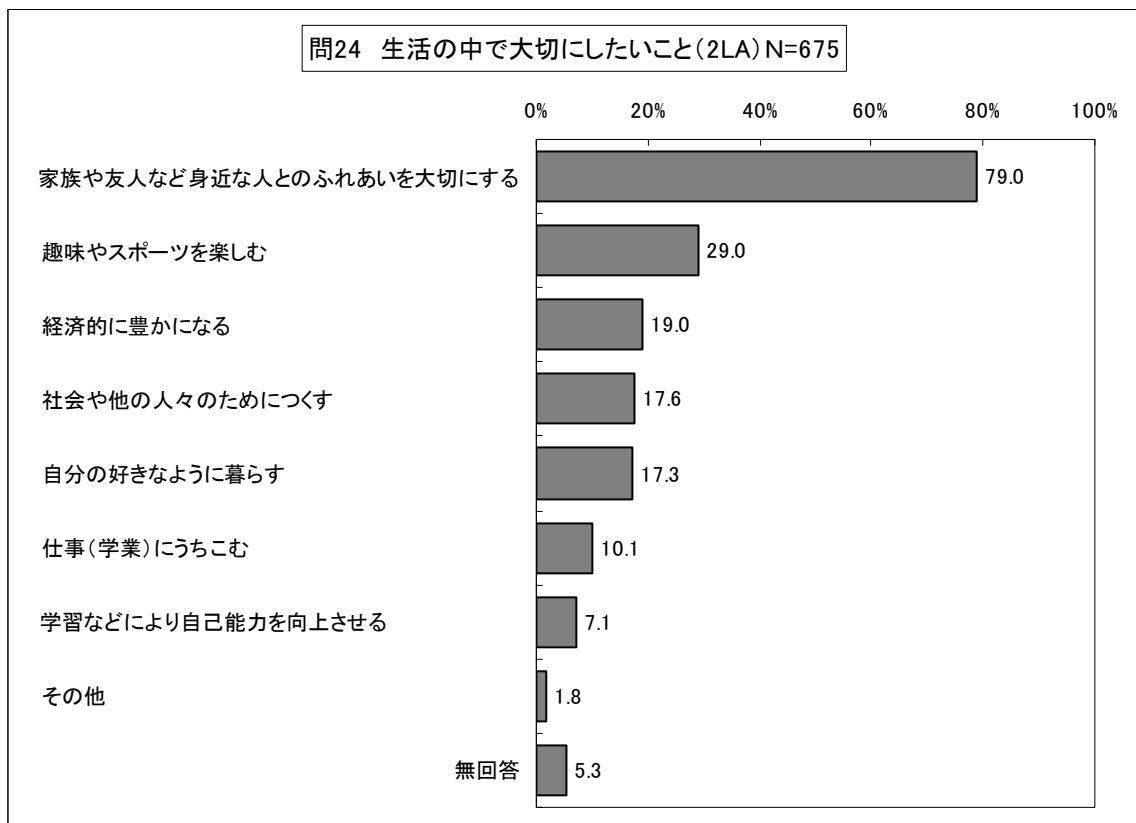
属性		1 位	2 位	3 位	4 位
地区別	氷川	1 位 情報公開を推進し、情報提供を図る(47.8)	2 位 アンケートなどにより住民の声を聞く(35.5) 2 位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(35.5)		4 位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(30.2)
	古里	1 位 情報公開を推進し、情報提供を図る(50)	2 位 アンケートなどにより住民の声を聞く(36.7)	3 位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(33)	4 位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(26.1)
	小河内	1 位 情報公開を推進し、情報提供を図る(51.7)	2 位 各地域ごとに「地域懇談会」などを開催して、住民との話し合いの場を設ける(41.4)	3 位 アンケートなどにより住民の声を聞く(34.5) 3 位 高齢者が、積極的にボランティアとして参加できる体制を整備する(34.5)	

【奥多摩町での生活について】

問 24 生活の中で大切にしたいこと

日々の生活の中で、大切にしたいことについてお聞きしたところ、「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」が 79.0%に達し最も多く、次いで「趣味やスポーツを楽しむ」が 29.0%、「経済的に豊かになる」が 19.0%と続きます。

なお、性別、年齢別には、「家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする」や「趣味やスポーツを楽しむ」がいずれも 1 位、2 位にランクされ、大きな差はありません。



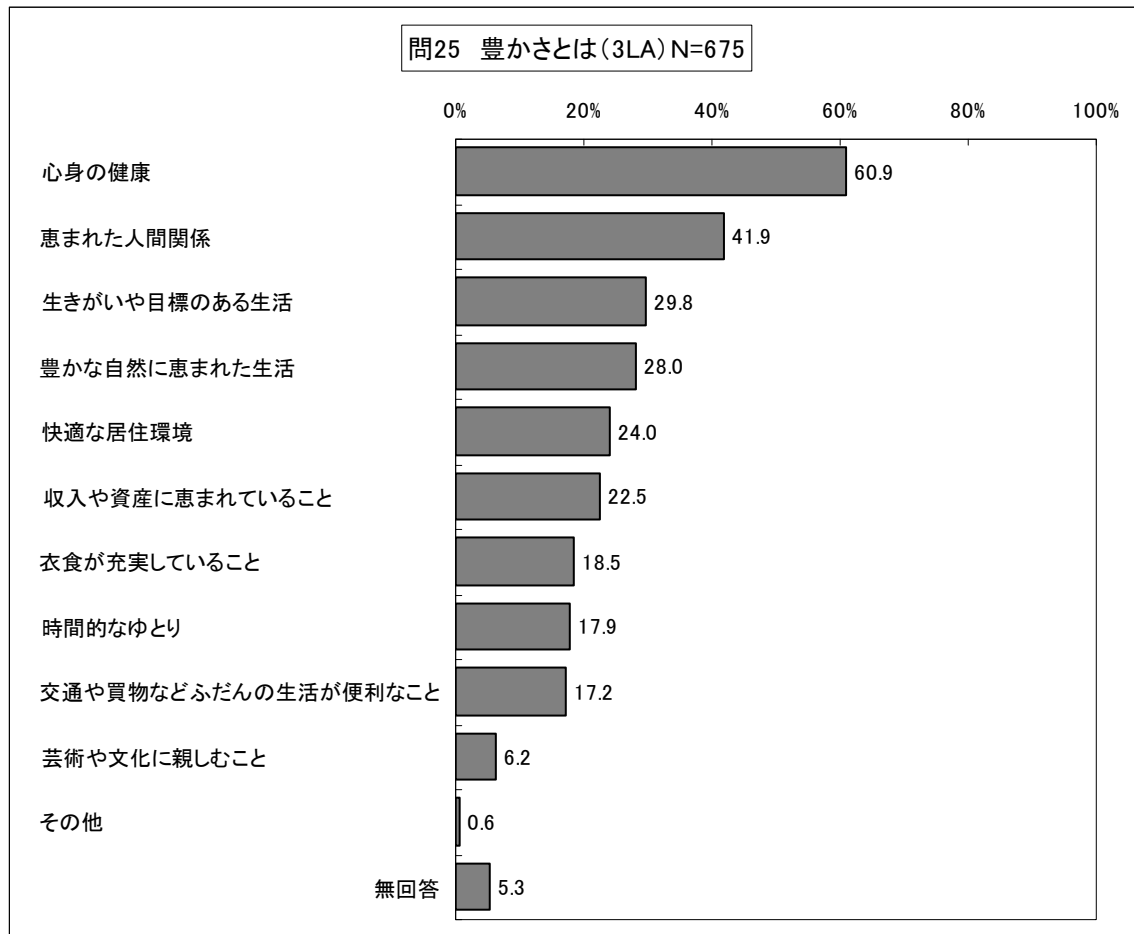
□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(79)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(29)	3位 経済的に豊かになる(19.0)	4位 社会や他の人々のためにつくす(17.6)
性別	男性	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(73.7)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(36.2)	3位 経済的に豊かになる(18.4) 3位 自分の好きなように暮らす(18.4)	
	女性	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(84.4)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(23.6)	3位 経済的に豊かになる(19.4)	4位 社会や他の人々のためにつくす(19.2)
年齢別	16歳～19歳	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(73.3)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(53.3)	3位 仕事(学業)にうちこむ(33.3)	4位 学習などにより自己能力を向上させる(26.7)
	20歳～29歳	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(66.7)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(33.3)	3位 自分の好きなように暮らす(28.6)	4位 仕事(学業)にうちこむ(23.8)
	30歳～39歳	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(74.5)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(33.3)	3位 経済的に豊かになる(21.6)	4位 自分の好きなように暮らす(17.6)
	40歳～49歳	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(75)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(36.1)	3位 経済的に豊かになる(29.2)	4位 仕事(学業)にうちこむ(16.7)
	50歳～59歳	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(79.0)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(29.0)	3位 経済的に豊かになる(26.0)	4位 自分の好きなように暮らす(19.0)
	60歳～69歳	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(84.8)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(31.6)	3位 社会や他の人々のためにつくす(26.6)	4位 経済的に豊かになる(17.1)
	70歳以上	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(80.8)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(22.3)	3位 自分の好きなように暮らす(19.2)	4位 社会や他の人々のためにつくす(18.8)
地区別	氷川	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(80.1)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(29.2)	3位 社会や他の人々のためにつくす(20.3)	4位 経済的に豊かになる(19.3) 4位 自分の好きなように暮らす(19.3)
	古里	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(78.2)	2位 趣味やスポーツを楽しむ(29.7)	3位 経済的に豊かになる(17.9)	4位 自分の好きなように暮らす(17.0)
	小河内	1位 家族や友人など身近な人とのふれあいを大切にする(82.8)	2位 経済的に豊かになる(24.1)	3位 趣味やスポーツを楽しむ(20.7)	4位 社会や他の人々のためにつくす(17.2)

問 25 豊かさとは

豊かさについてお聞きしたところ、「心身の健康」が 60.9%に達し最も多く、次いで「恵まれた人間関係」が 41.9%、「生きがいや目標のある生活」が 29.8%、「豊かな自然に恵まれた生活」が 28.0%と続きます。

なお、性別、年齢別には、あまり大きな差はみられません、10代で「時間的なゆとり」が最も多く特徴的です。



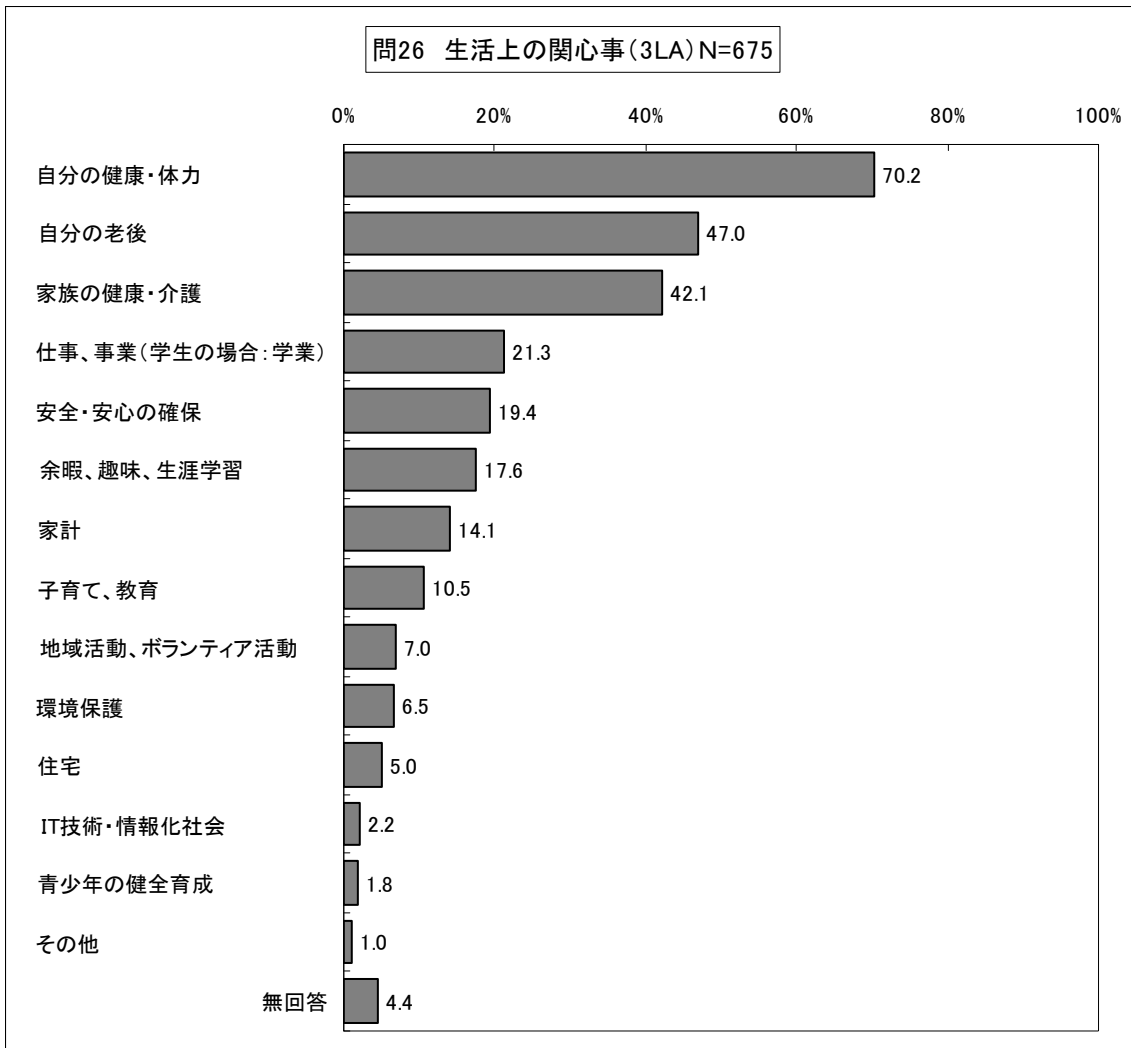
□属性別の上位項目

属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 心身の健康(60.9)	2位 恵まれた人間関係(41.9)	3位 生きがいや目標のある生活(29.8)	4位 豊かな自然に恵まれた生活(28)
性別	男性	1位 心身の健康(58.9)	2位 恵まれた人間関係(37.5)	3位 生きがいや目標のある生活(31.6)	4位 豊かな自然に恵まれた生活(29.6)
	女性	1位 心身の健康(63.6)	2位 恵まれた人間関係(45.8)	3位 生きがいや目標のある生活(28.6)	4位 豊かな自然に恵まれた生活(27.2)
年齢別	16歳～19歳	1位 心身の健康(40)		3位 恵まれた人間関係(33.3)	
		1位 時間的なゆとり(40)		3位 生きがいや目標のある生活(33.3)	
				3位 快適な居住環境(33.3)	
				3位 交通や買物などふだんの生活が便利なこと(33.3)	
	20歳～29歳	1位 心身の健康(52.4)	2位 恵まれた人間関係(35.7)	3位 生きがいや目標のある生活(33.3)	
			3位 収入や資産に恵まれていること(33.3)		
	30歳～39歳	1位 心身の健康(64.7)	2位 恵まれた人間関係(41.2)	3位 快適な居住環境(35.3)	
40歳～49歳	1位 心身の健康(55.6)	2位 恵まれた人間関係(45.8)	3位 収入や資産に恵まれていること(33.3)	4位 快適な居住環境(29.2)	
50歳～59歳	1位 心身の健康(71)	2位 恵まれた人間関係(42)	2位 生きがいや目標のある生活(42)	4位 豊かな自然に恵まれた生活(26)	
60歳～69歳	1位 心身の健康(67.1)	2位 恵まれた人間関係(42.4)	3位 生きがいや目標のある生活(37.3)	4位 豊かな自然に恵まれた生活(32.3)	
70歳以上	1位 心身の健康(57.2)	2位 恵まれた人間関係(42.8)	3位 豊かな自然に恵まれた生活(38.4)	4位 生きがいや目標のある生活(22.3)	
地区別	氷川	1位 心身の健康(58.8)	2位 恵まれた人間関係(41.5)	3位 生きがいや目標のある生活(32.2)	4位 豊かな自然に恵まれた生活(29.2)
	古里	1位 心身の健康(63.3)	2位 恵まれた人間関係(42.4)	3位 豊かな自然に恵まれた生活(27)	4位 快適な居住環境(26.7)
					4位 生きがいや目標のある生活(26.7)
小河内	1位 心身の健康(58.6)	2位 恵まれた人間関係(37.9)	2位 生きがいや目標のある生活(37.9)	4位 豊かな自然に恵まれた生活(31)	

問 26 生活上の関心事

最近の生活上の関心事についてお聞きしたところ、「自分の健康・体力」が 70.2%に達し最も多く、次いで「自分の老後」が 47.0%、「家族の健康・介護」が 42.1%と続きます。

なお、年齢別には、20 代以下で「仕事、事業（学生の場合：学業）」が最も多く、40 代以上では「自分の健康・体力」が 1 位にランクされます。また、30 代では「子育て、教育」が最も多く特徴的です。



□属性別の上位項目

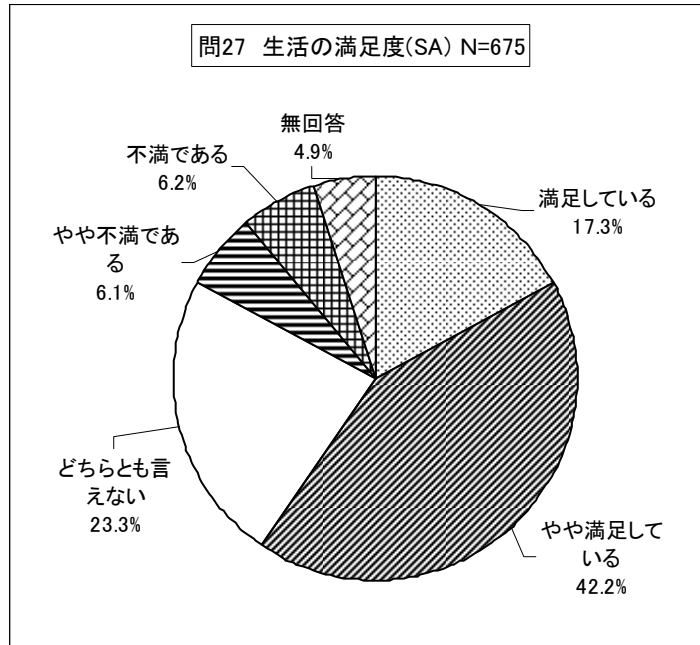
属性		1位	2位	3位	4位
全体		1位 自分の健康・体力 (70.2)	2位 自分の老後(47.0)	3位 家族の健康・介護 (42.1)	4位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(21.3)
性別	男性	1位 自分の健康・体力 (70.4)	2位 自分の老後(43.1)	3位 家族の健康・介護 (41.8)	4位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(27.0)
	女性	1位 自分の健康・体力 (70.8)	2位 自分の老後(50.6)	3位 家族の健康・介護 (42.8)	4位 家計(19.2)
年齢別	16歳～ 19歳	1位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(66.7)	2位 余暇、趣味、生涯 学習(40.0)	3位 子育て、教育 (33.3) 3位 自分の健康・体力 (33.3)	
	20歳～ 29歳	1位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(69)	2位 自分の健康・体力 (40.5)	3位 余暇、趣味、生涯 学習(35.7)	4位 家族の健康・介護 (28.6)
	30歳～ 39歳	1位 子育て、教育 (52.9)	2位 家族の健康・介護 (37.3) 2位 自分の健康・体力 (37.3)		4位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(31.4)
	40歳～ 49歳	1位 自分の健康・体力 (50.0)	2位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(45.8)	3位 家族の健康・介護 (38.9)	4位 子育て、教育 (31.9)
	50歳～ 59歳	1位 自分の健康・体力 (69.0)	2位 家族の健康・介護 (41.0)	3位 自分の老後(40.0)	4位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(29.0)
	60歳～ 69歳	1位 自分の健康・体力 (87.3)	2位 自分の老後(55.7)	3位 家族の健康・介護 (46.2)	4位 安全・安心の確保 (19.6)
	70歳 以上	1位 自分の健康・体力 (81.7)	2位 自分の老後(65.1)	3位 家族の健康・介護 (45.9)	4位 安全・安心の確保 (26.6)
地区別	氷川	1位 自分の健康・体力 (73.1)	2位 自分の老後(49.8)	3位 家族の健康・介護 (41.2)	4位 安全・安心の確保 (21.9)
	古里	1位 自分の健康・体力 (68.5)	2位 自分の老後(44.8)	3位 家族の健康・介護 (41.5)	4位 仕事、事業（学生 の場合：学業）(21.5)
	小河内	1位 自分の健康・体力 (72.4)	2位 家族の健康・介護 (55.2)	3位 自分の老後(51.7)	4位 安全・安心の確保 (31.0)

問27 生活の満足度

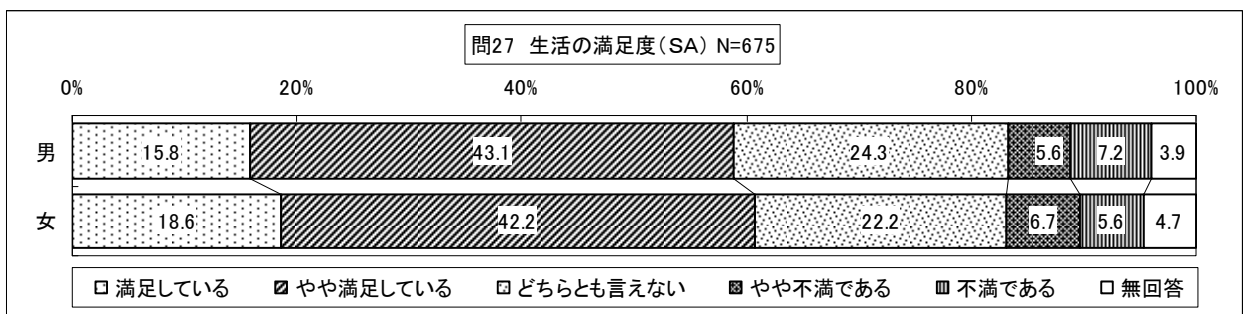
現在の生活の満足度についてお聞きしたところ、「満足している」が17.3%、「やや満足している」が42.2%であり、「満足している」と感じている割合は59.5%となっています。

一方、「やや不満である」が6.1%、「不満である」が6.2%であり、「不満である」と感じている割合は12.3%となっており、「満足している」が大きく上回っています。

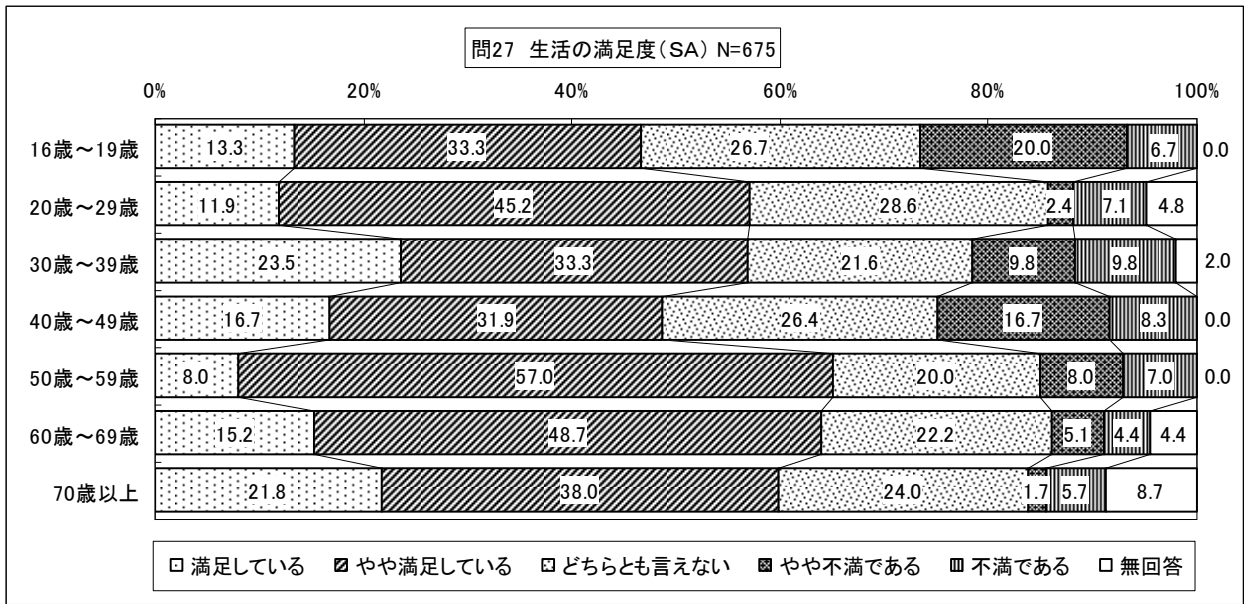
なお、年齢別には、いずれの世代も「満足でしている」が上回りますが、10代及び40代で「不満である」がやや多くなっています。



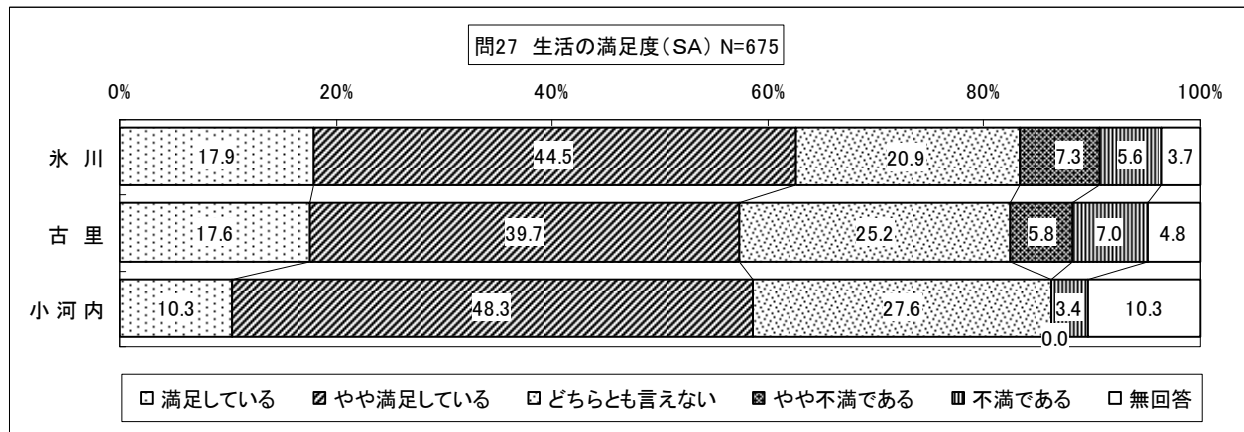
□性別



□年齢別

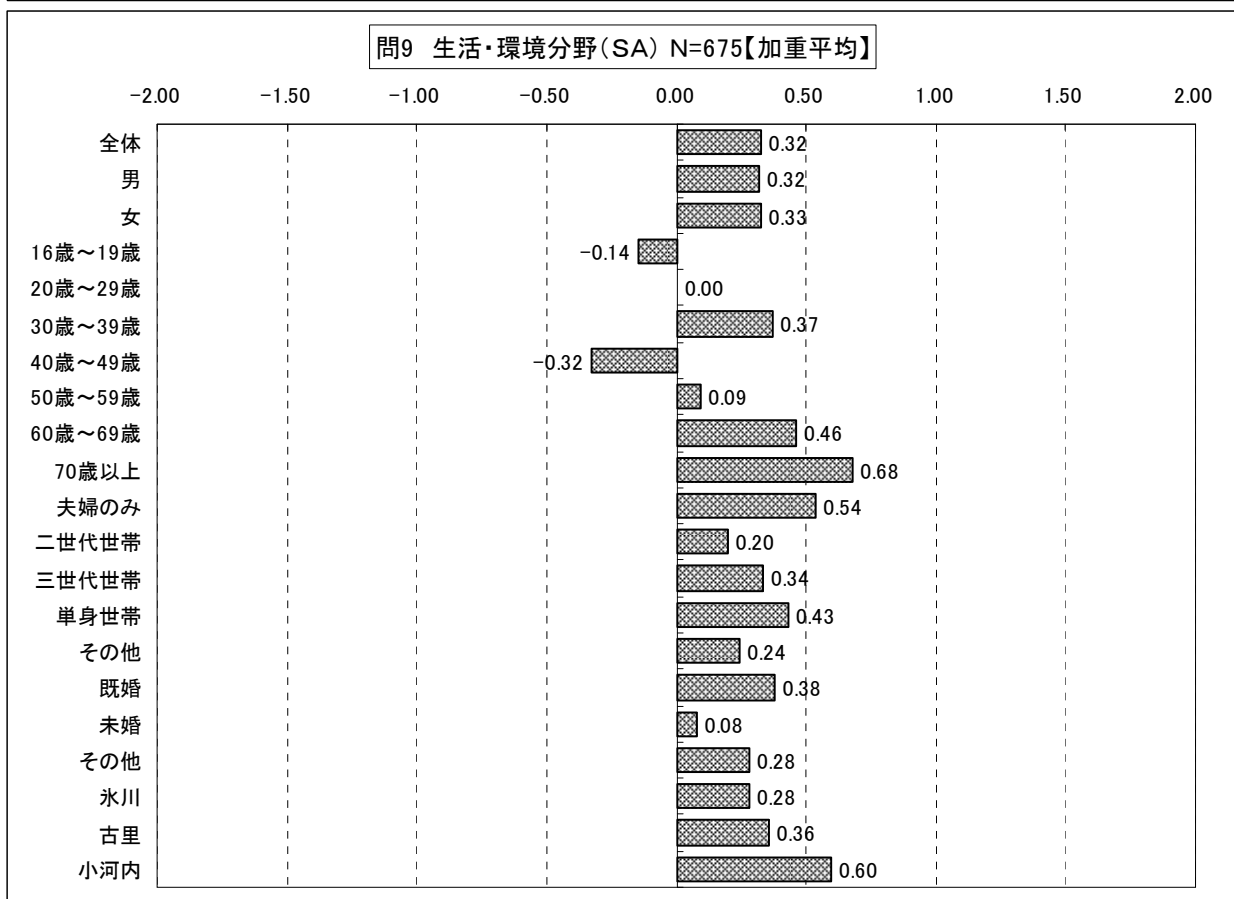
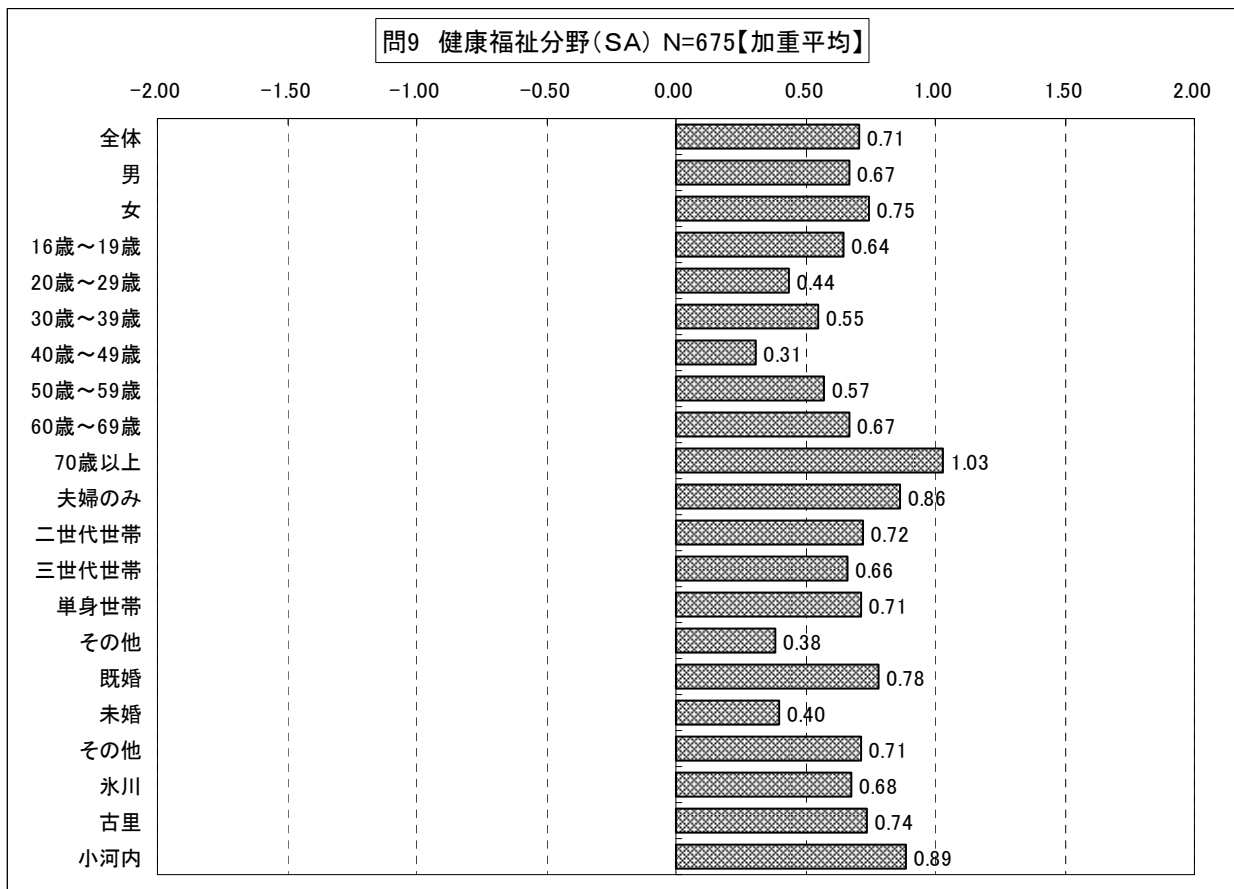


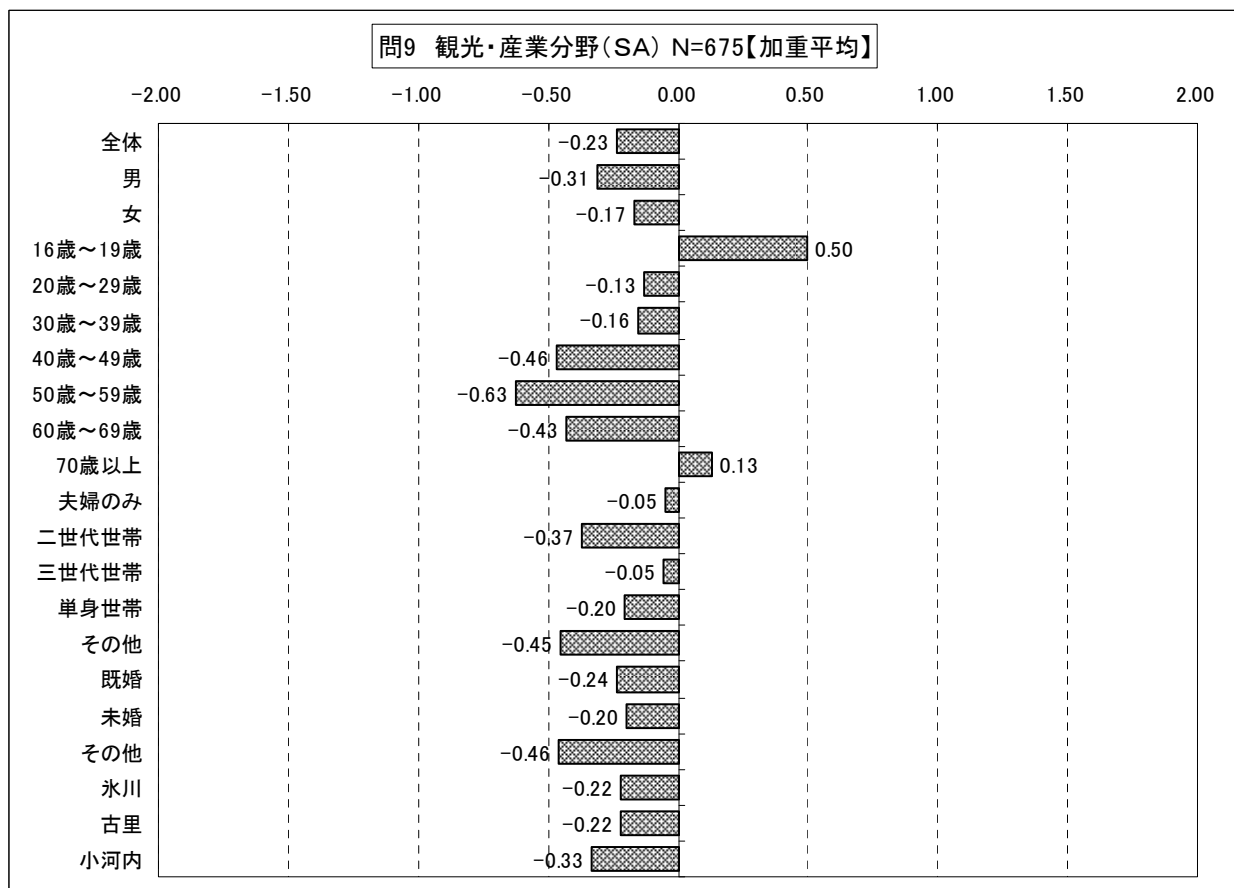
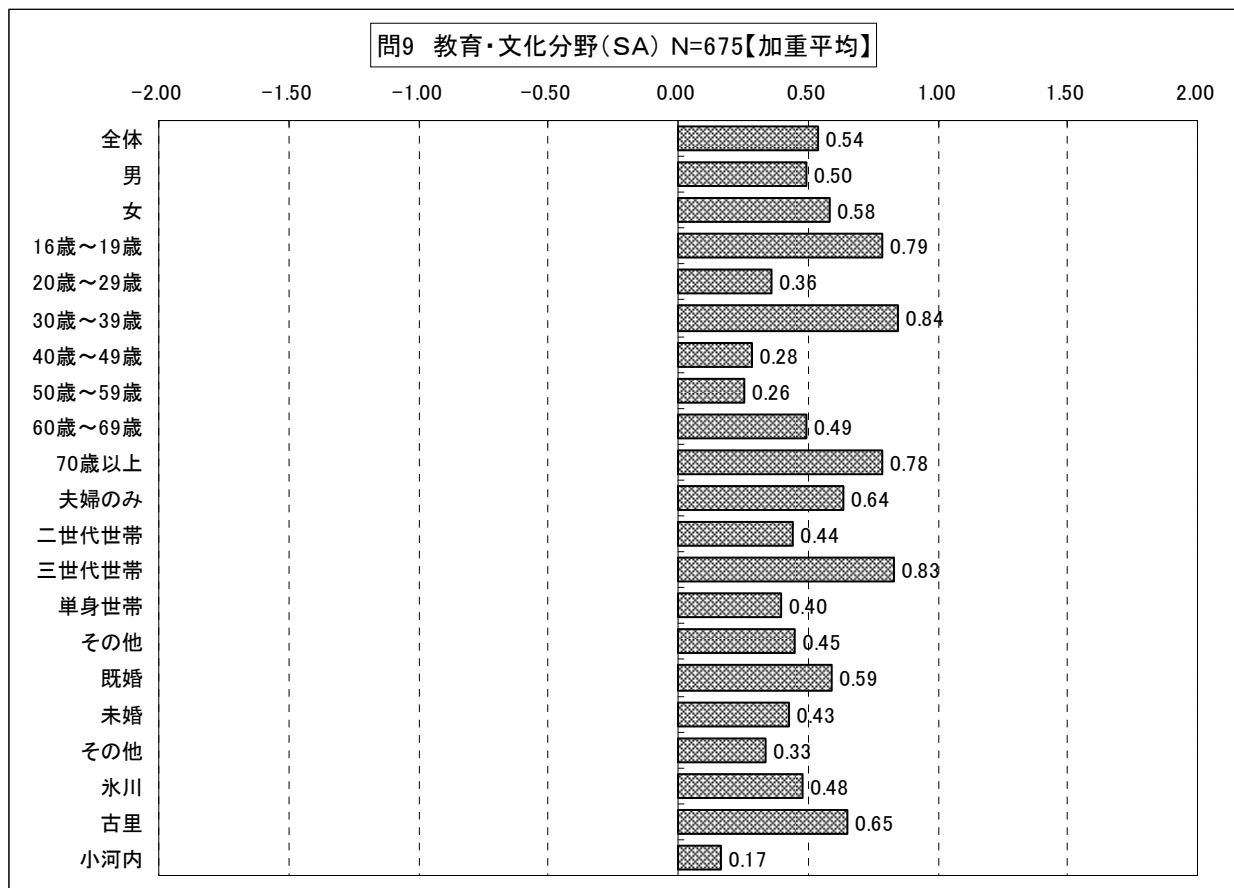
□居住地区別

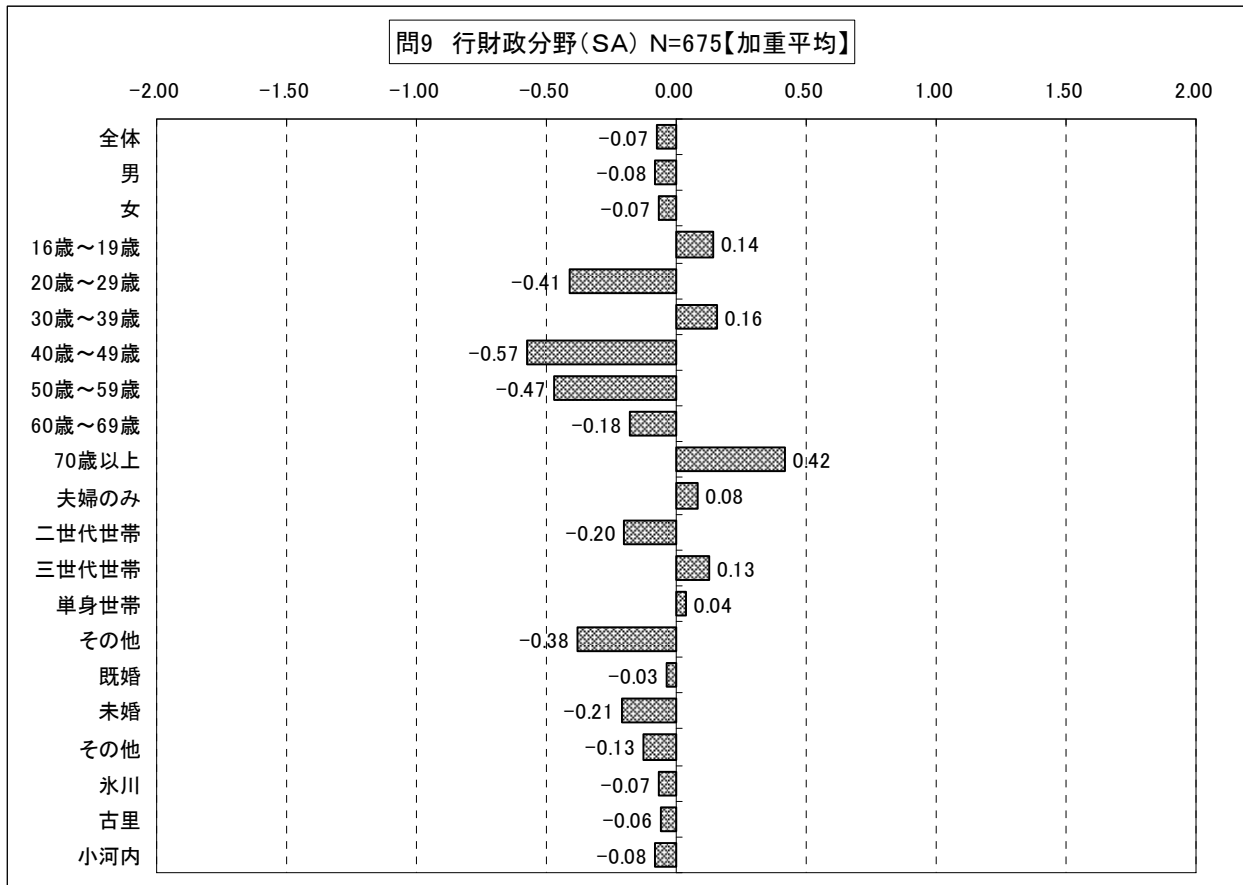


資料編

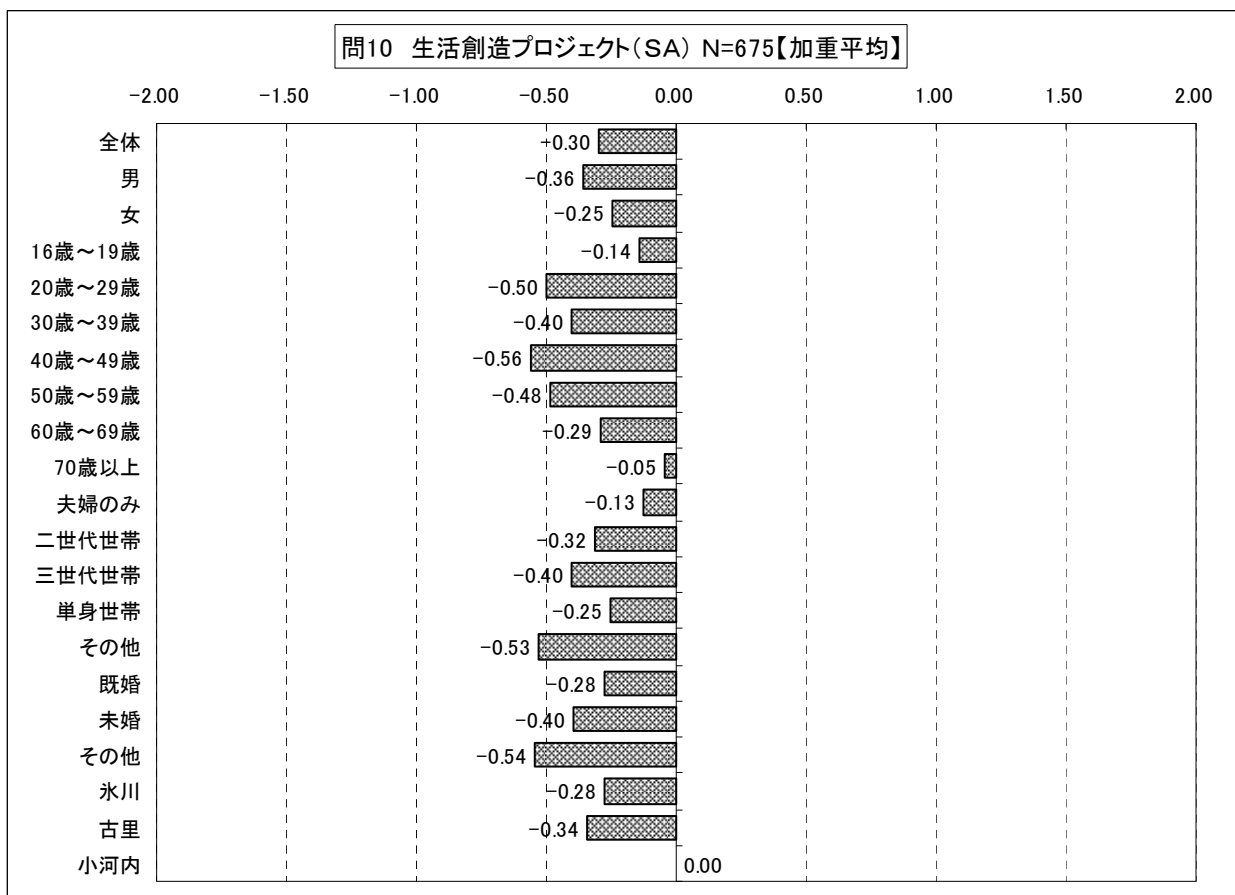
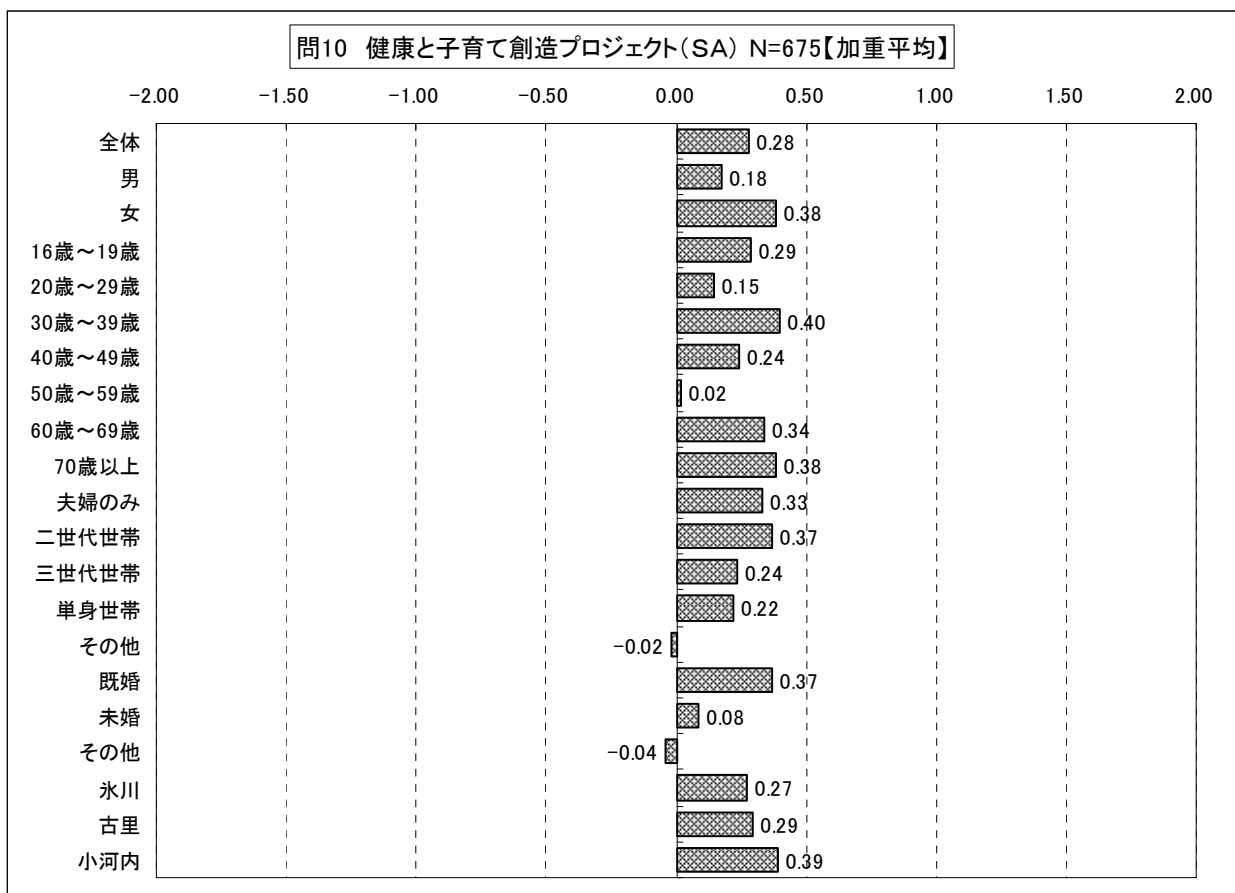
問9 分野別行政運営の満足度

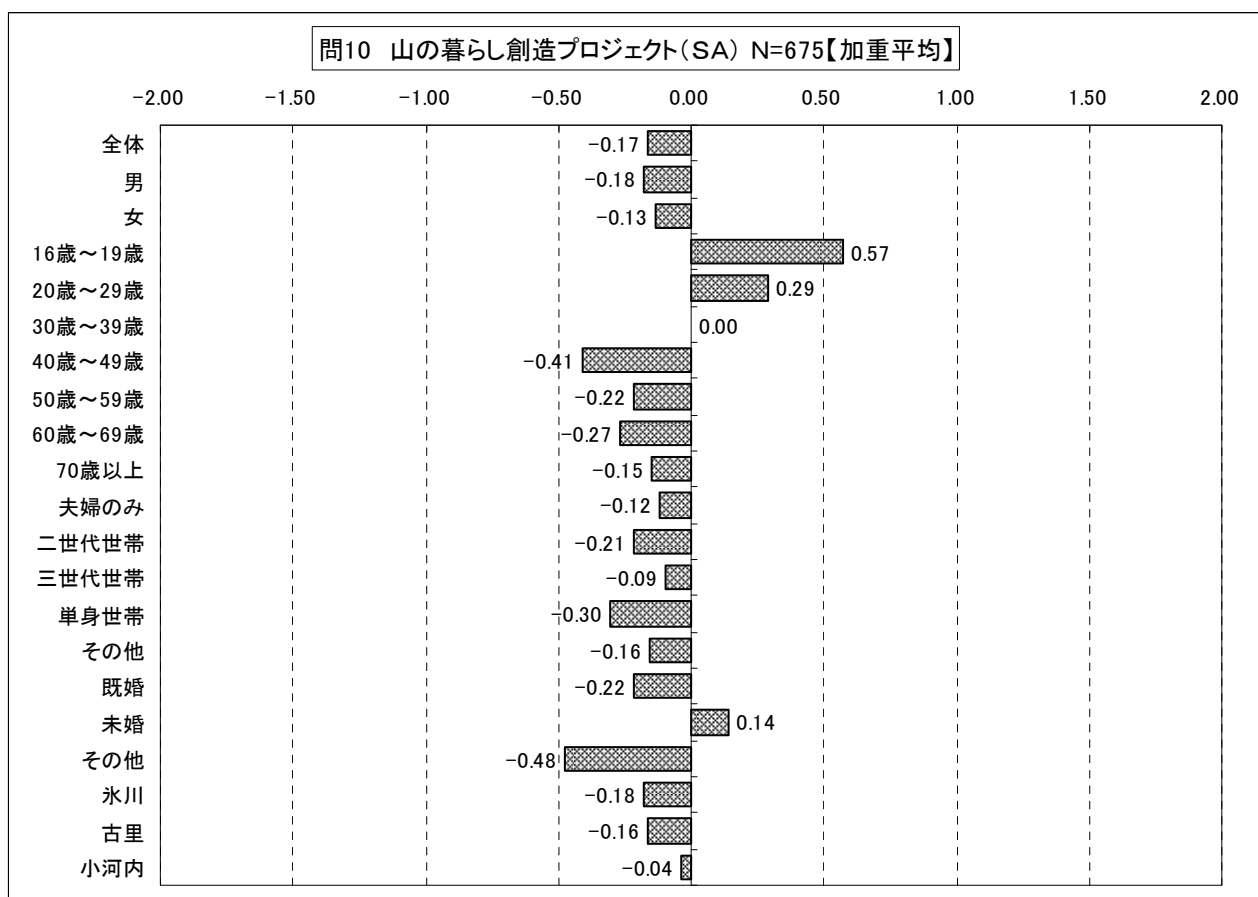
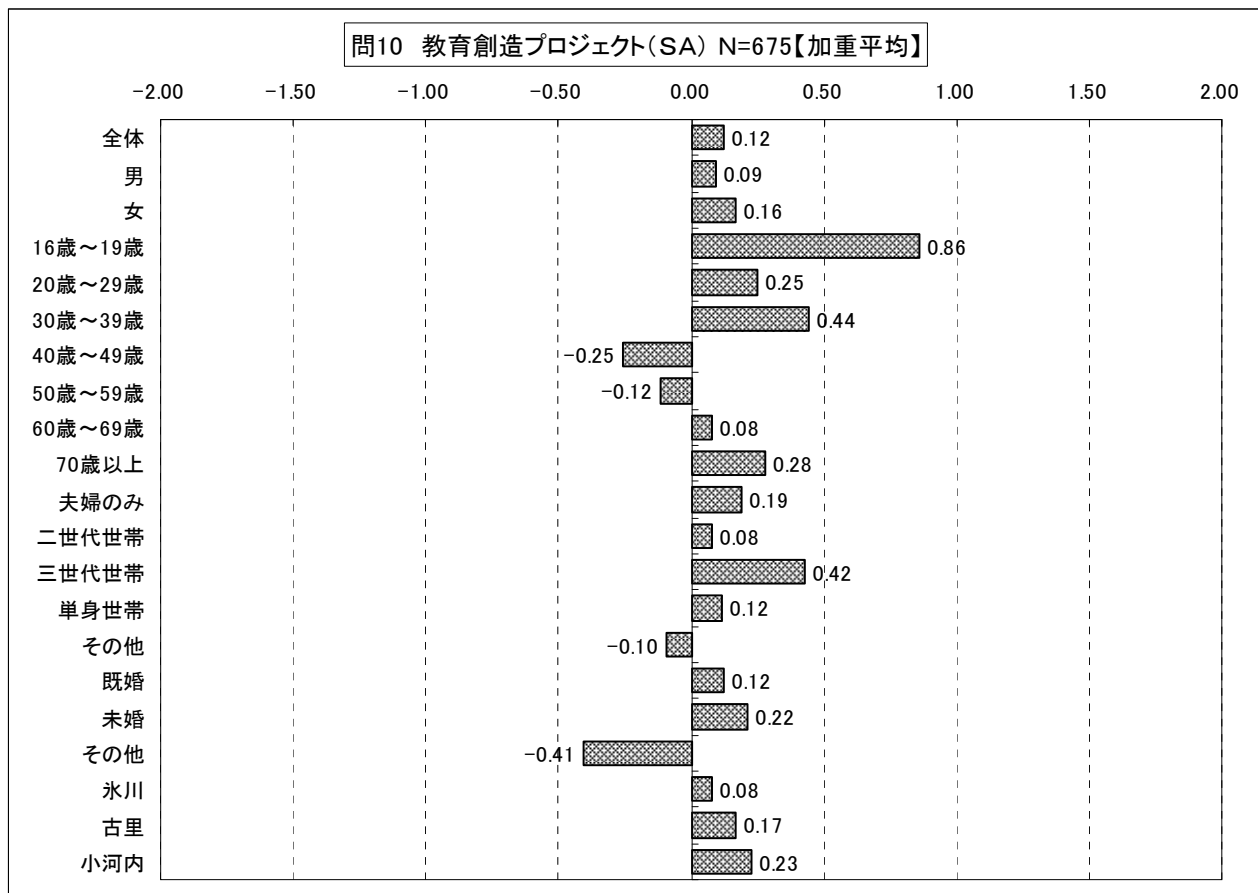


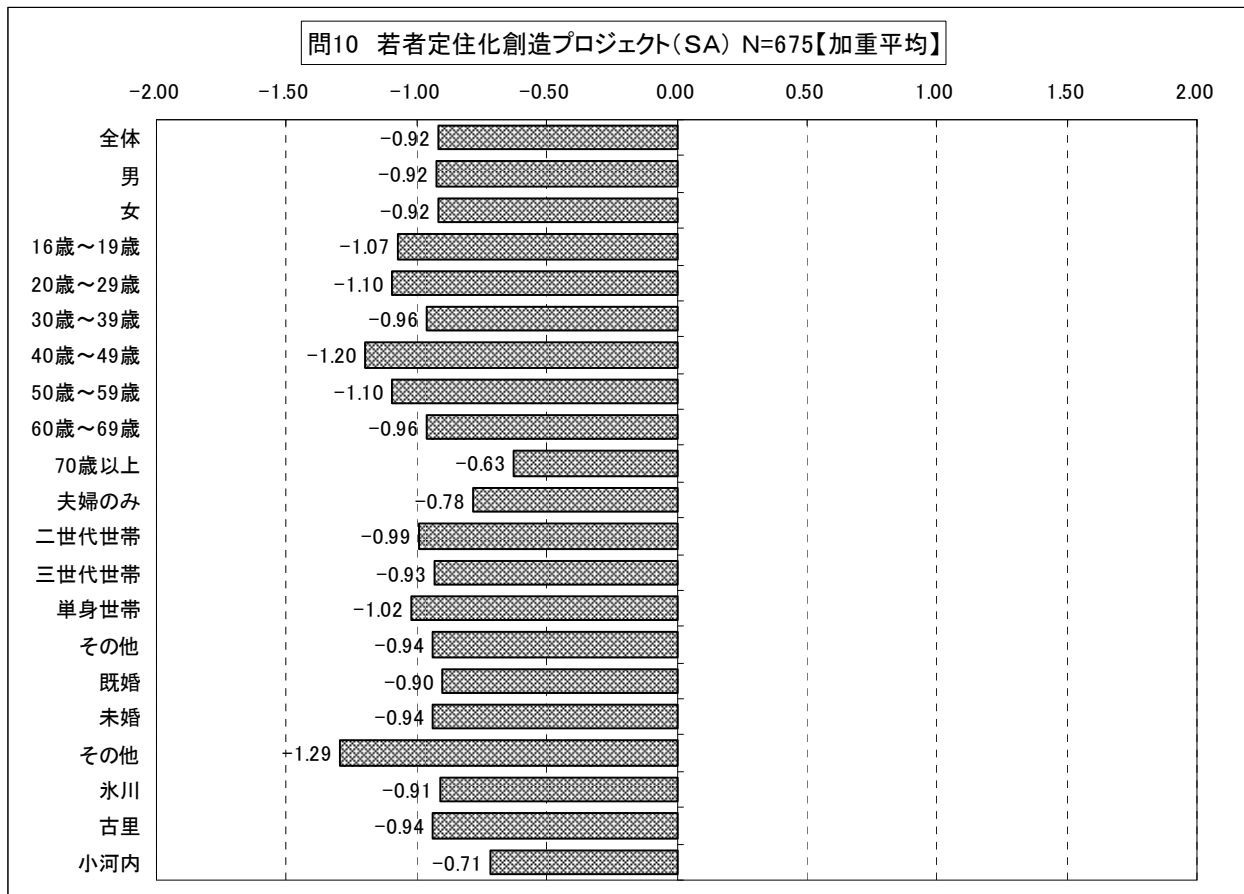




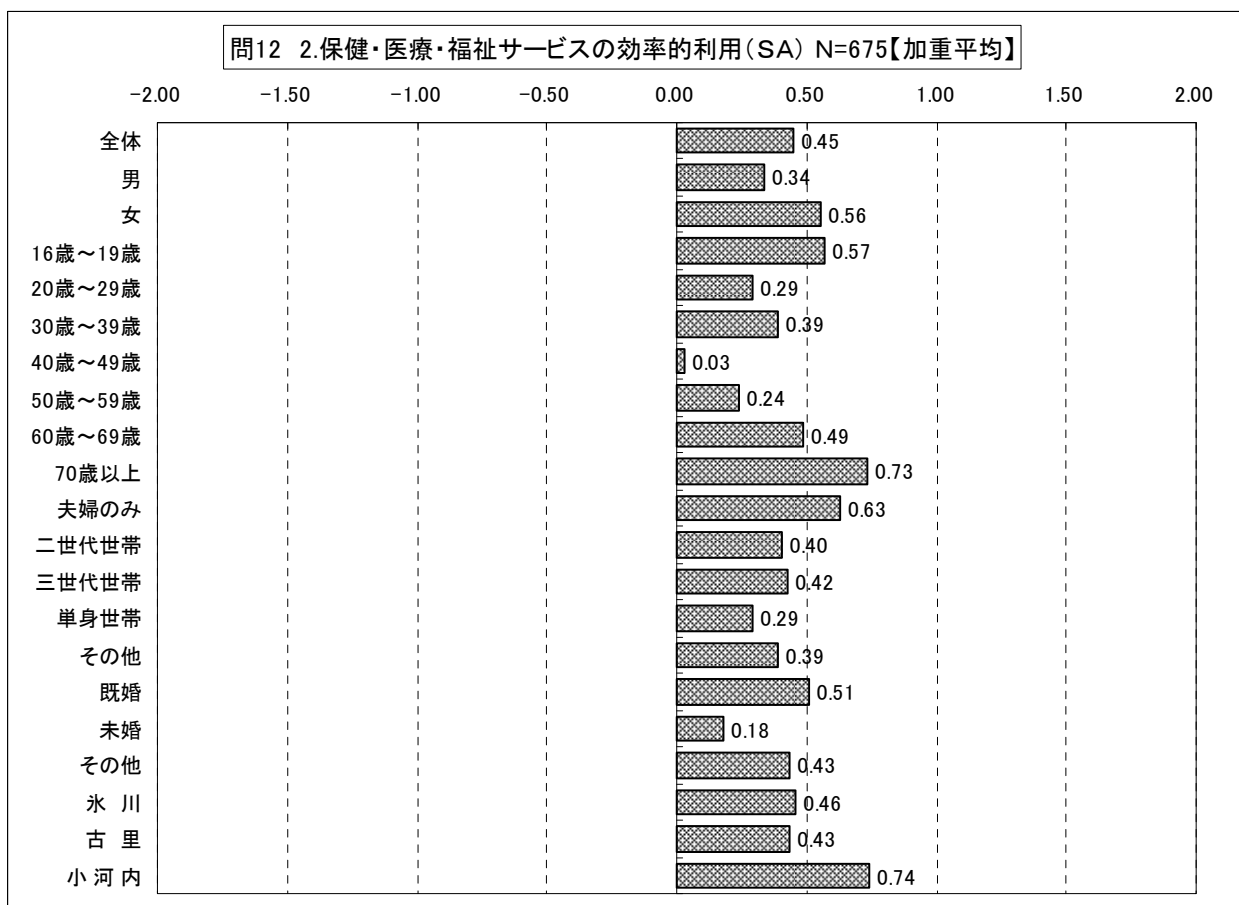
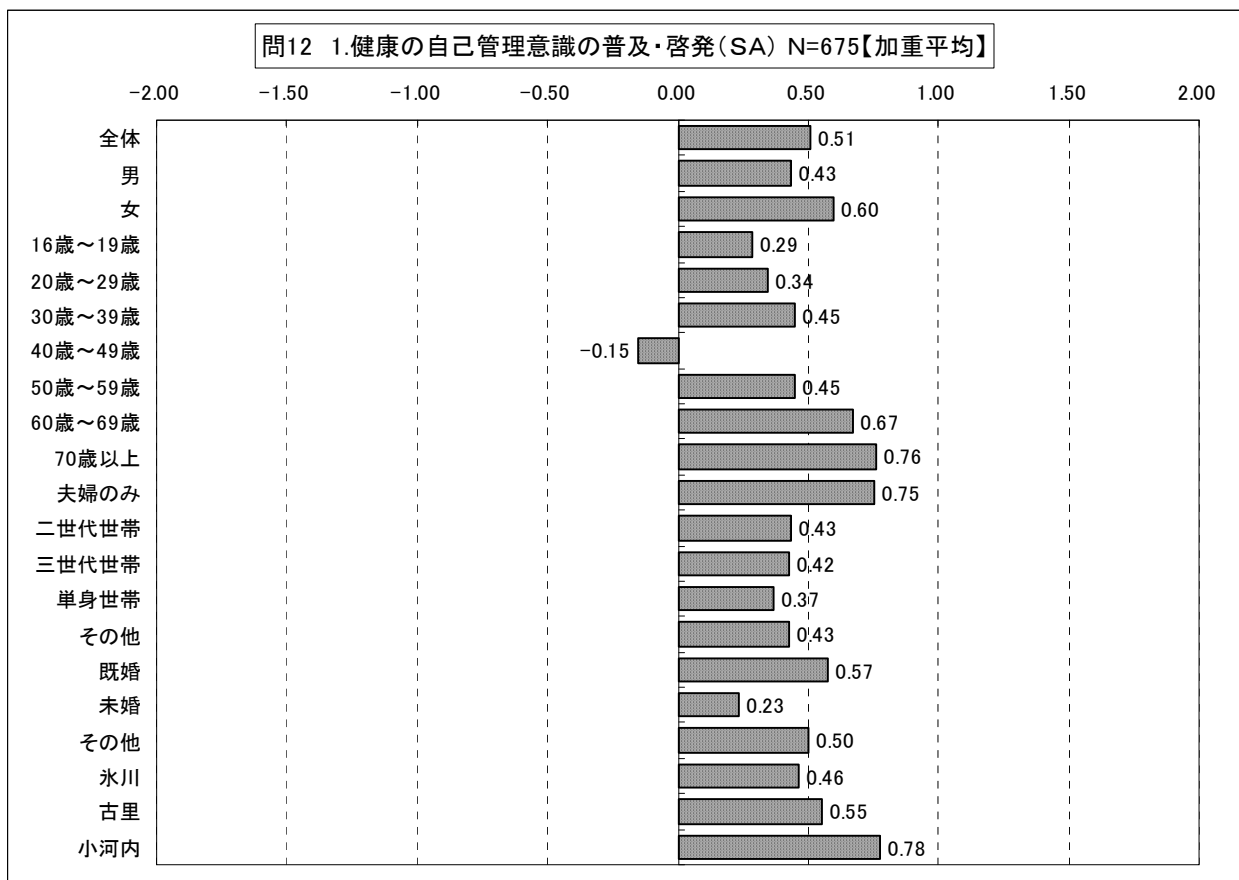
問10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価

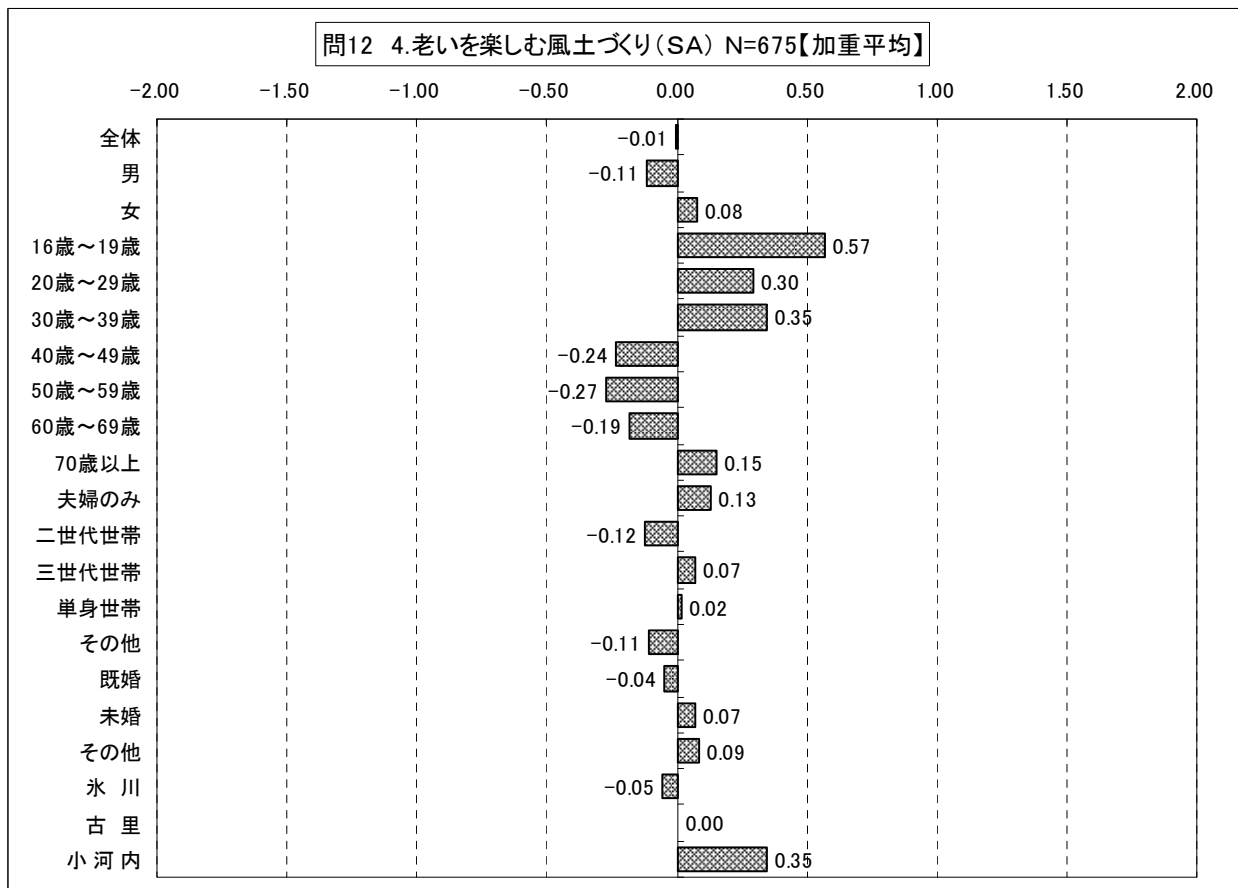
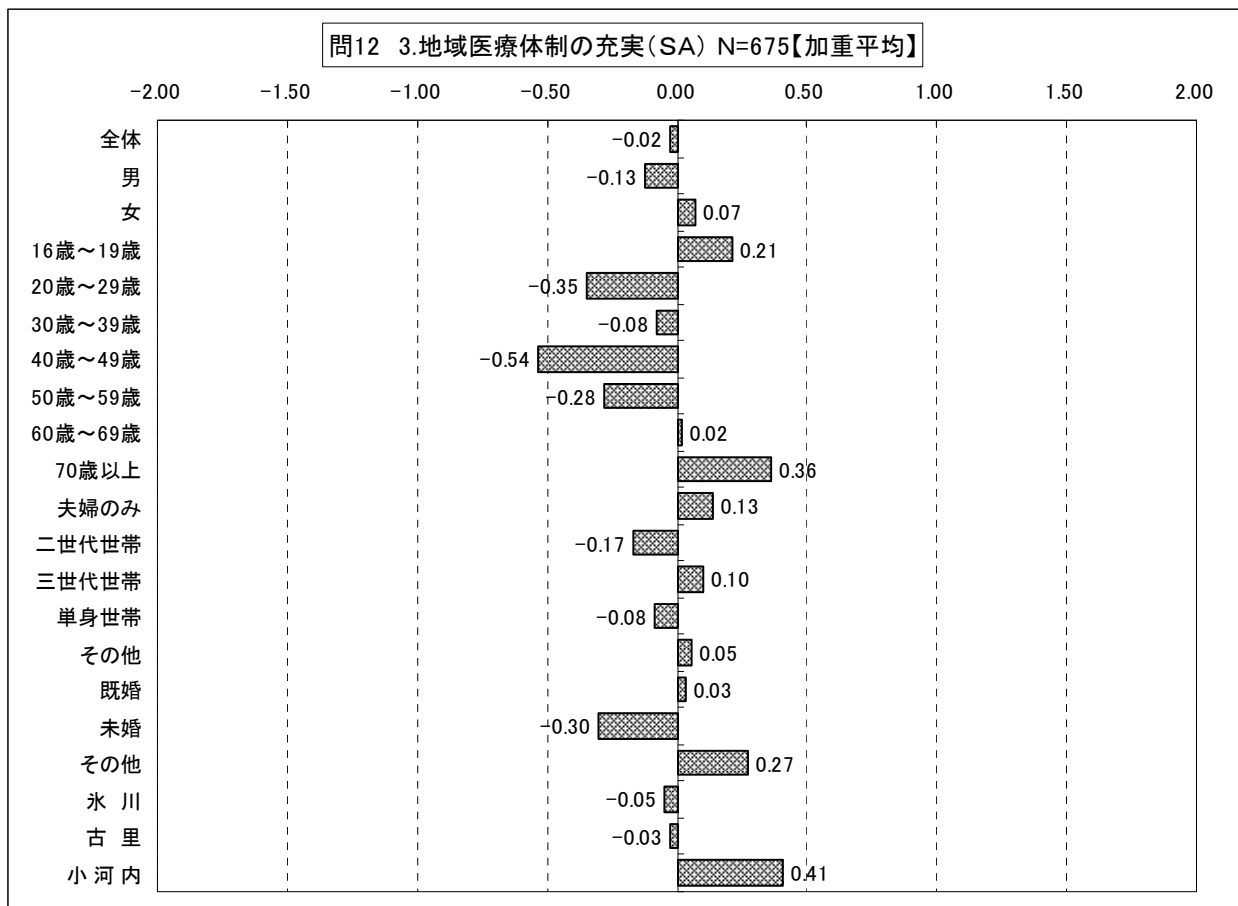




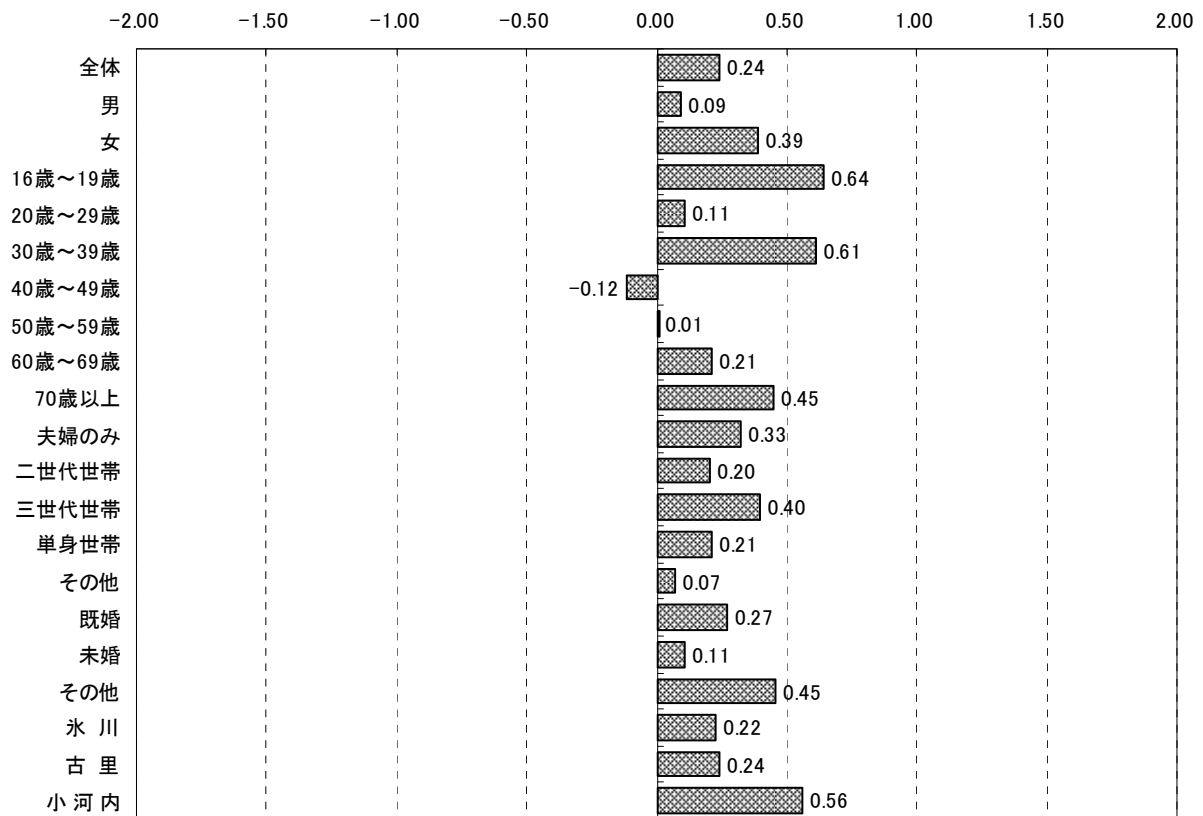


問12 分野別施策の実施状況の満足度

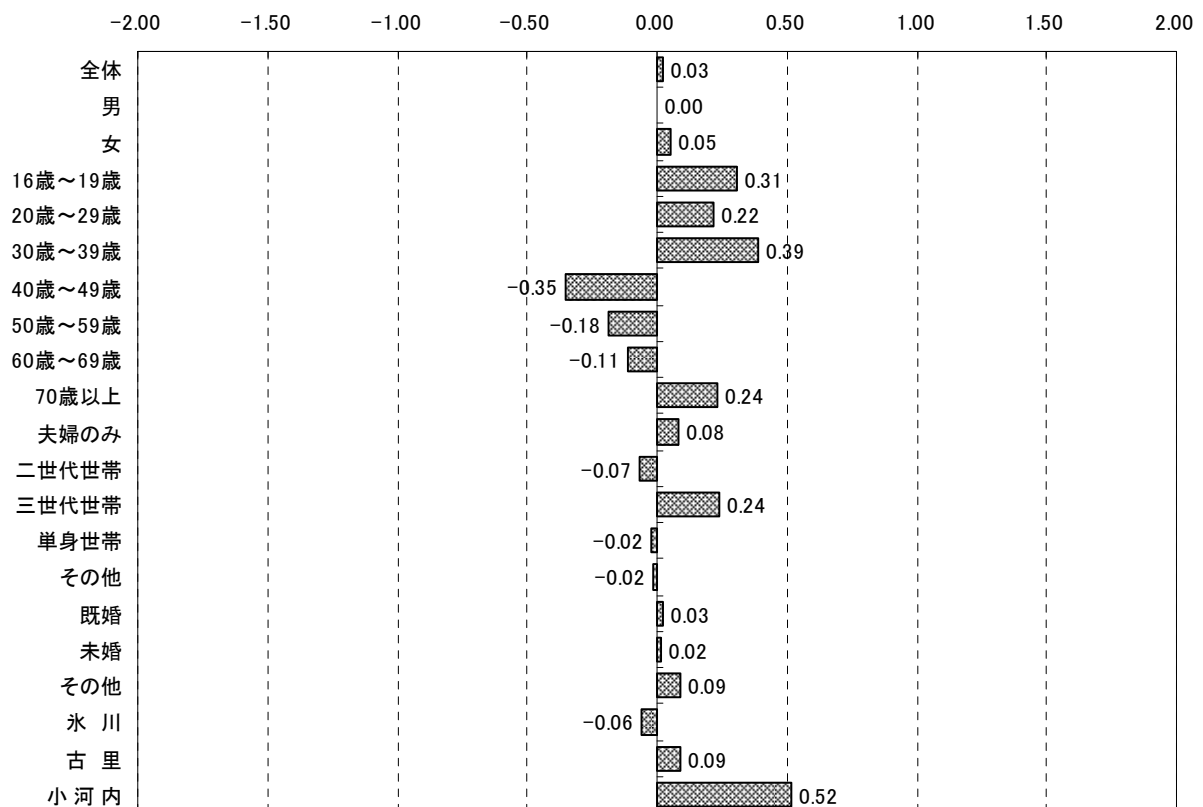


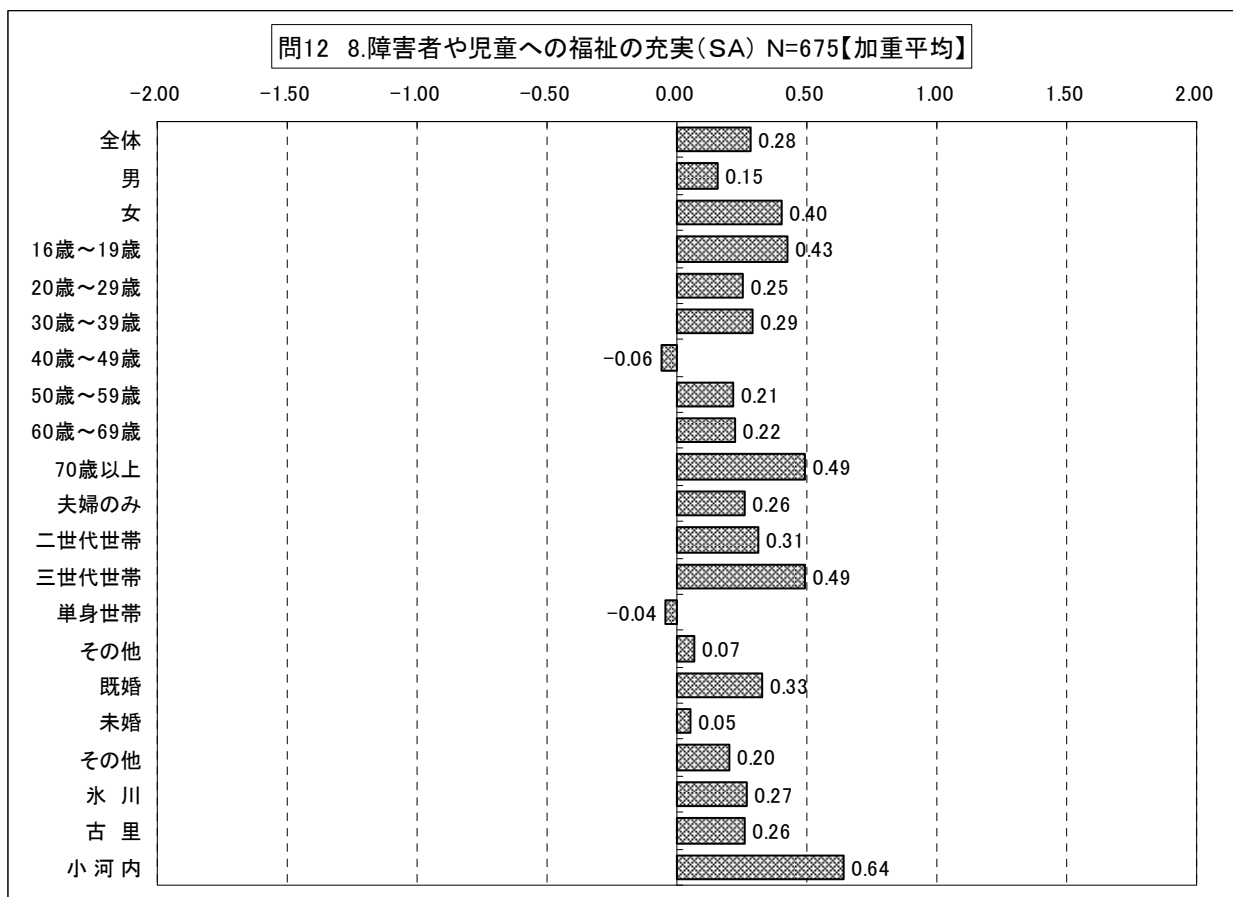
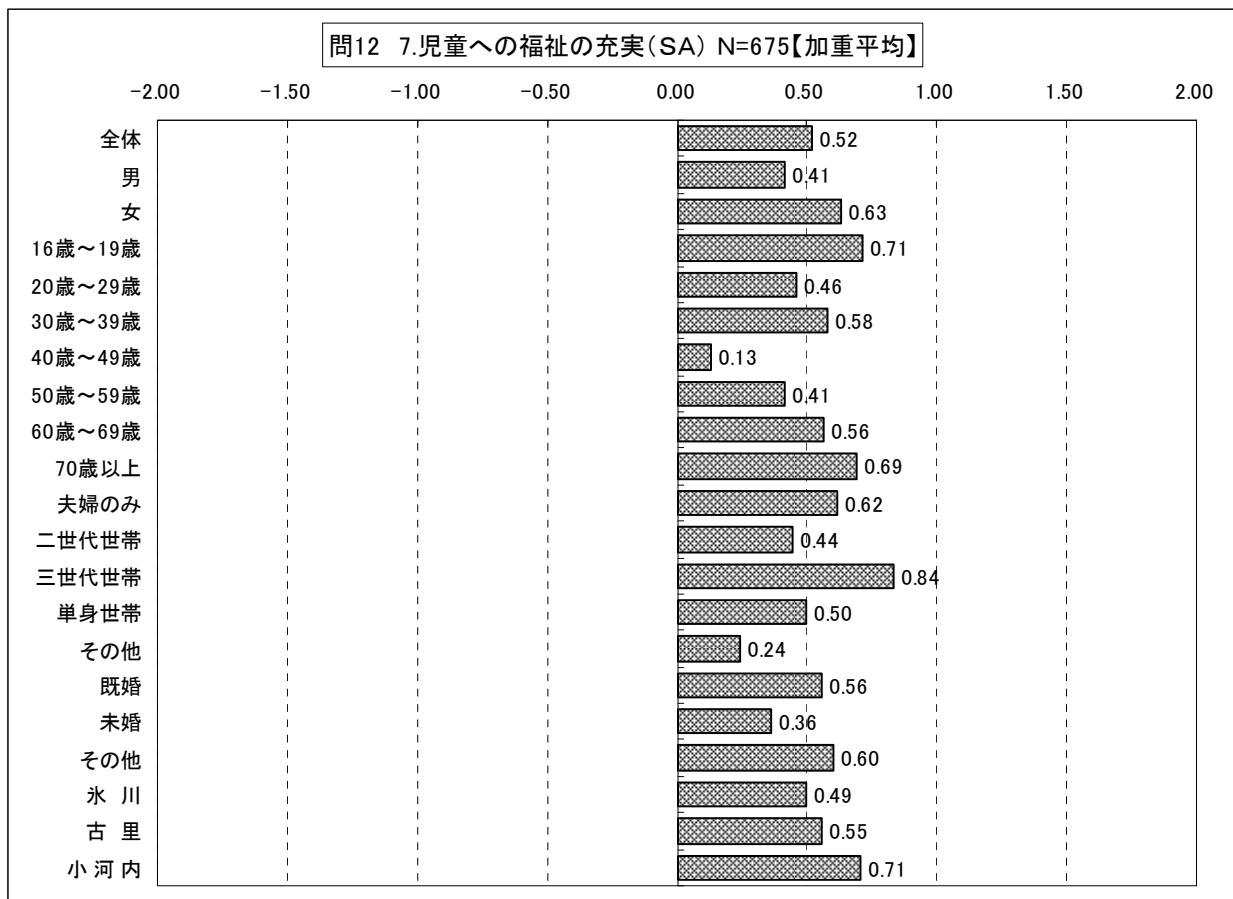


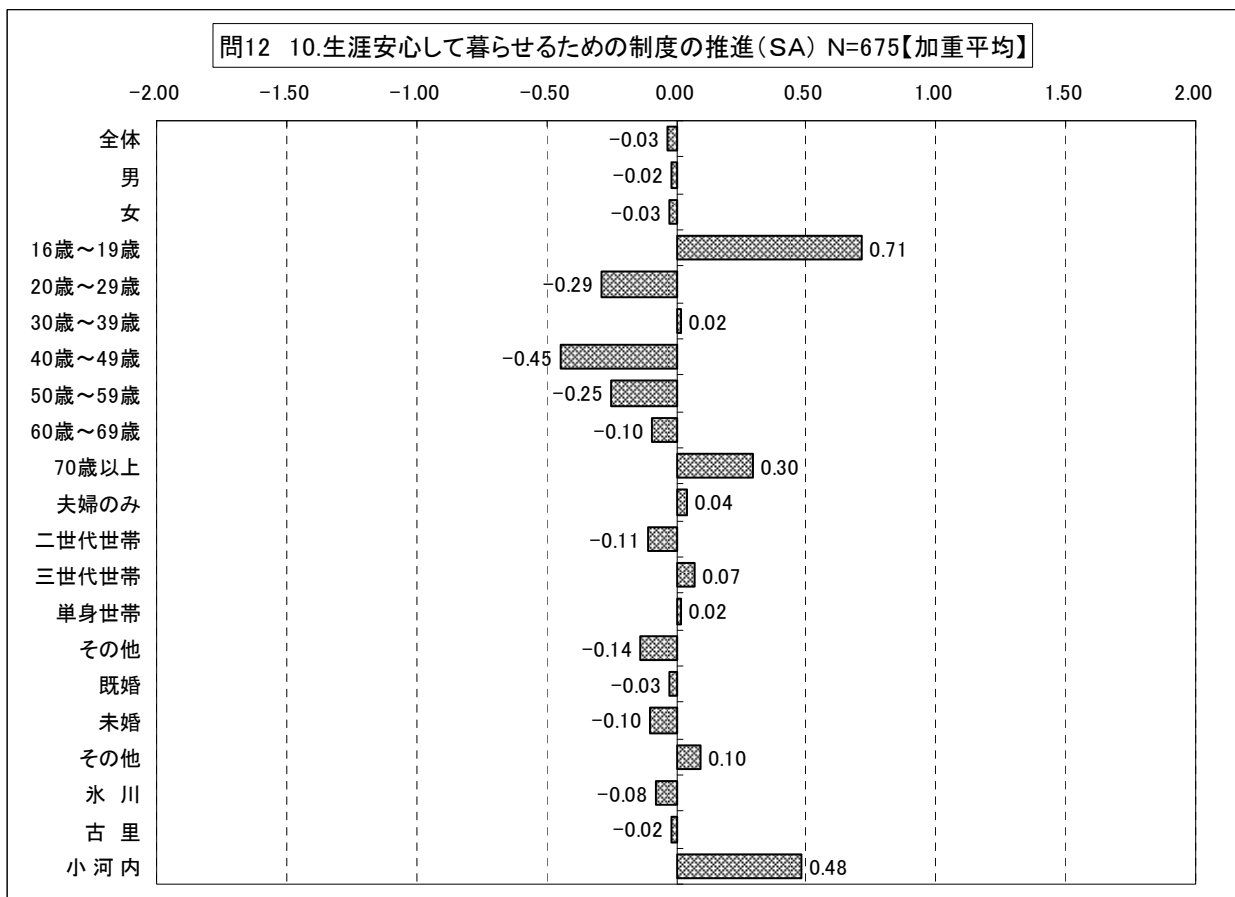
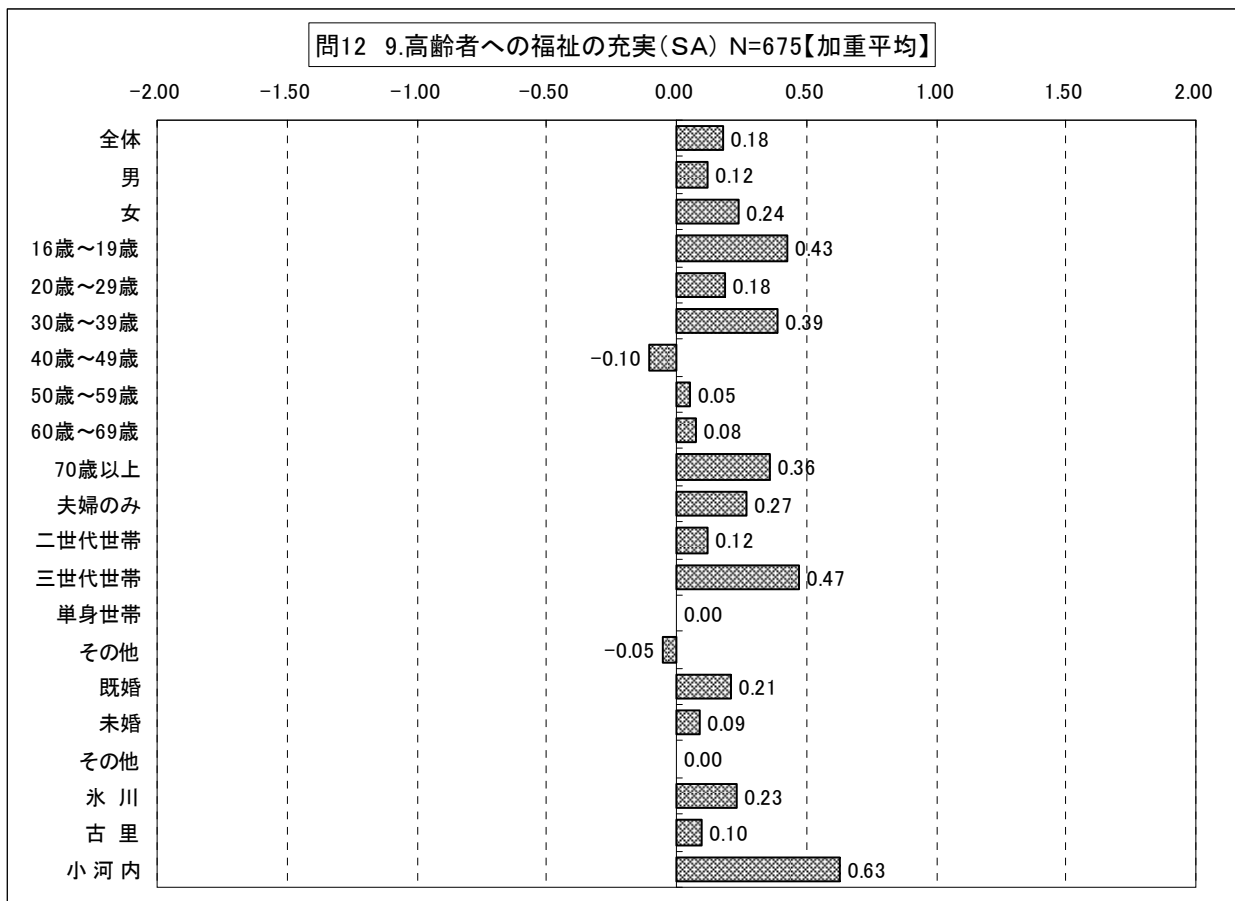
問12 5.地域福祉型福祉サービスの普及・促進(SA) N=675【加重平均】



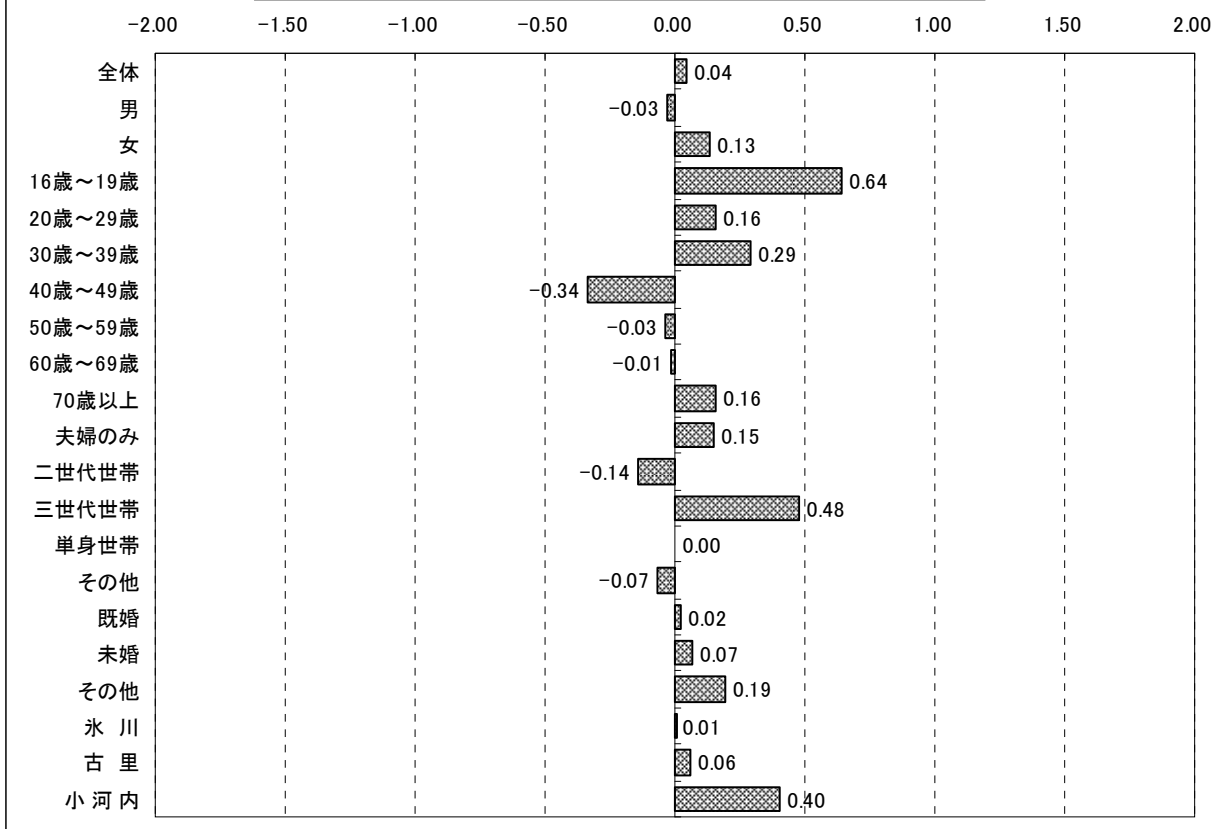
問12 6.地域でおたがいをささえあう環境づくり(SA) N=675【加重平均】



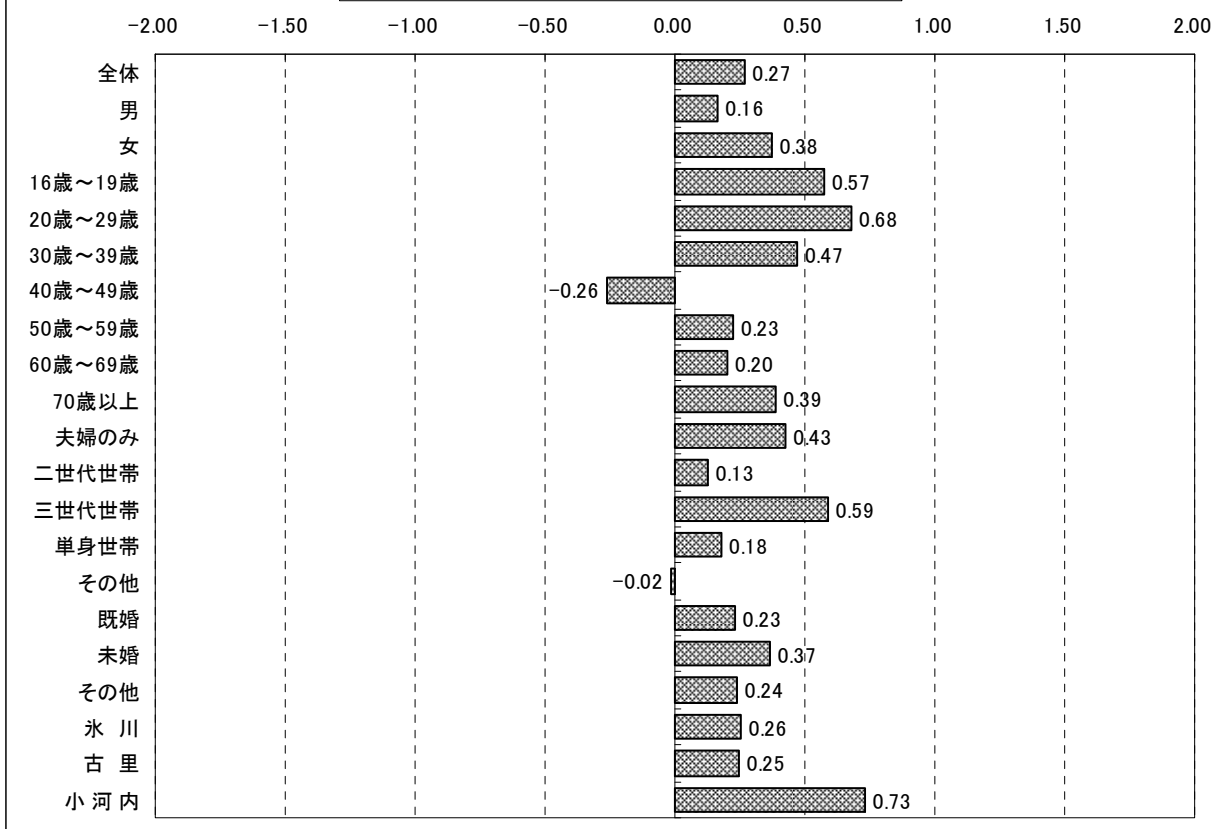


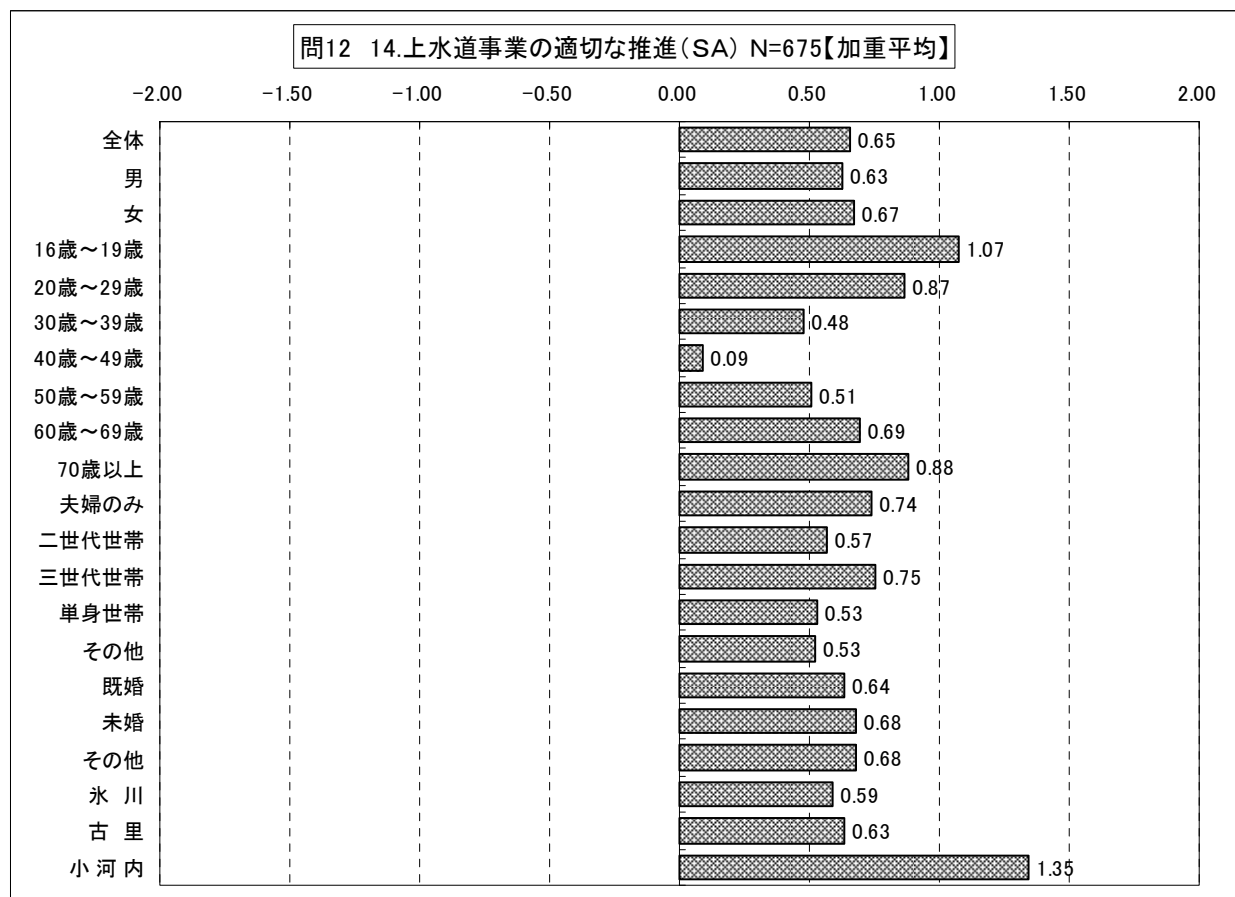
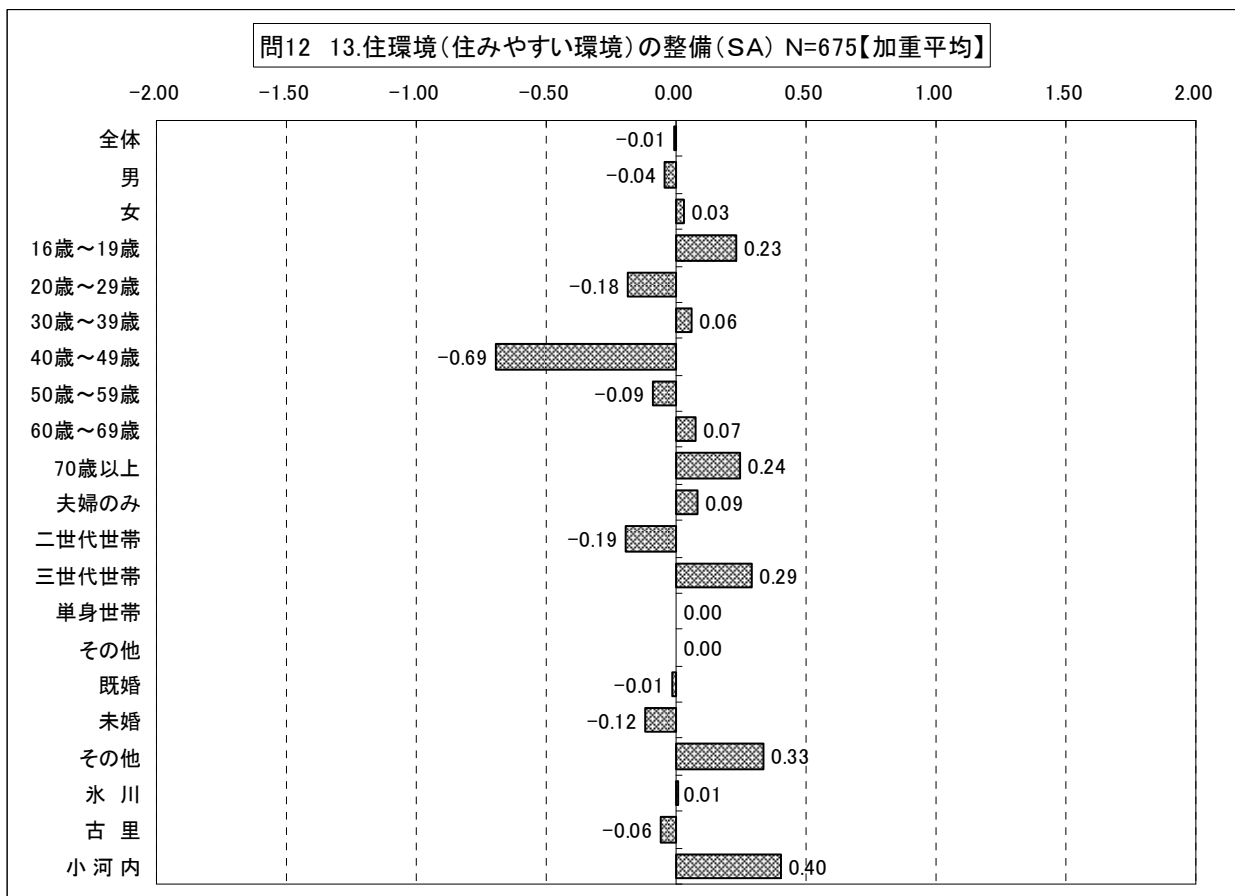


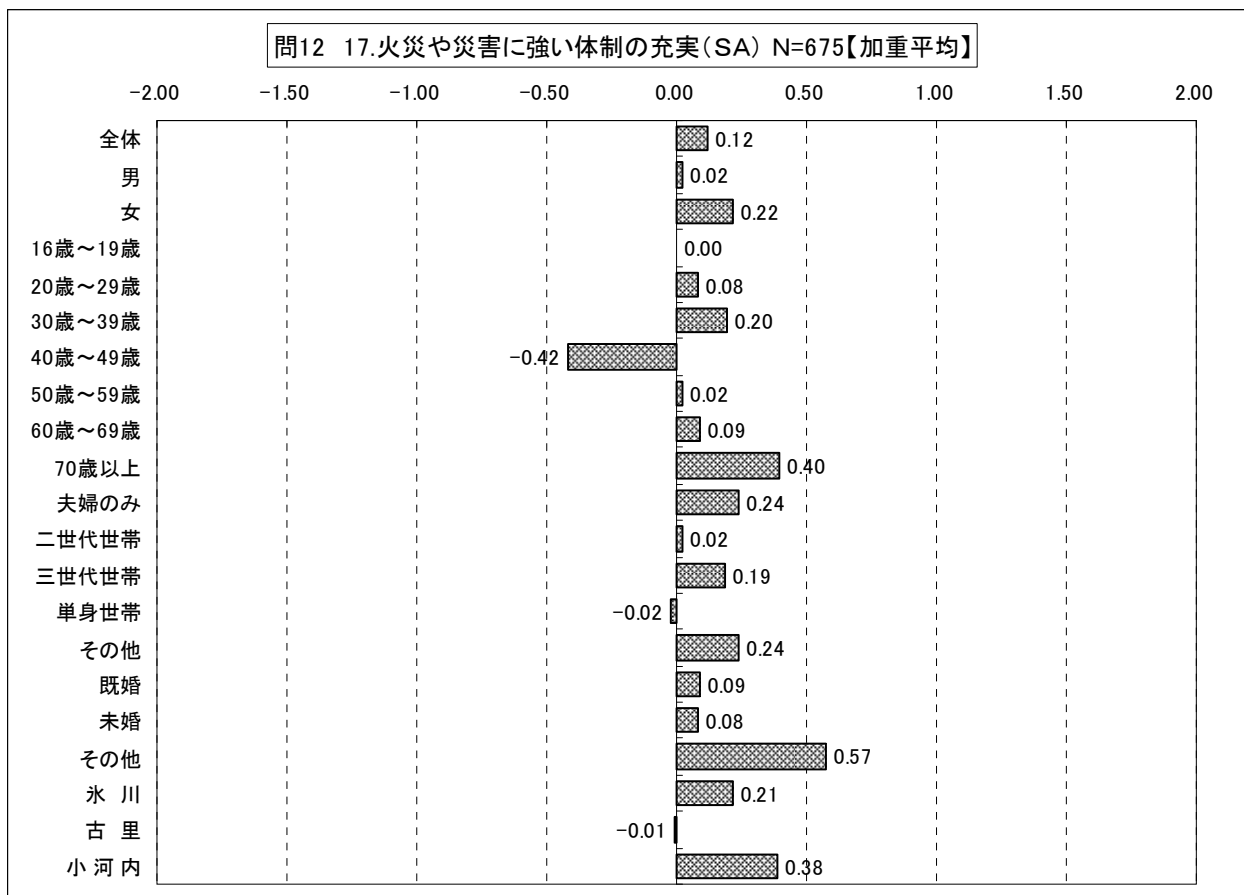
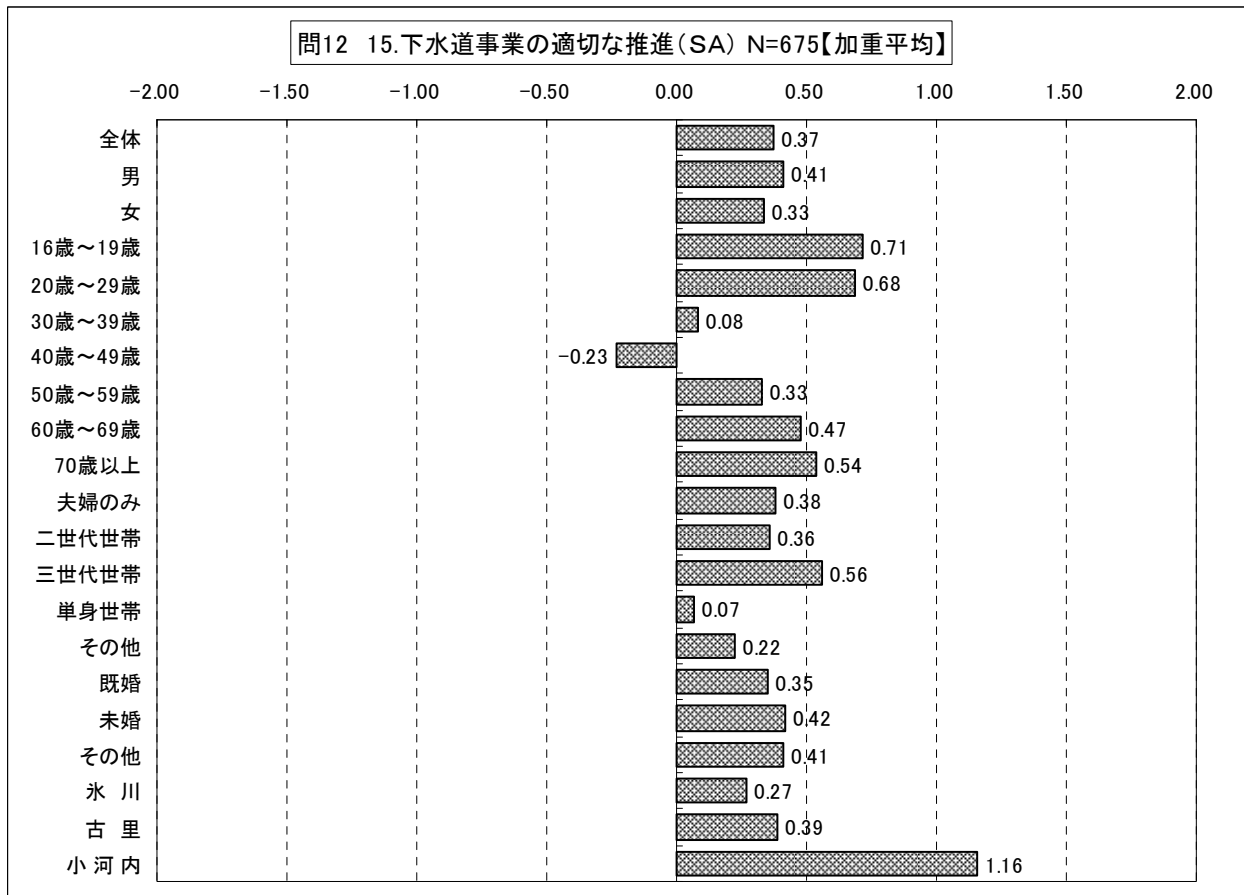
問12 11.地域の特性を活かした環境づくり(SA) N=675【加重平均】

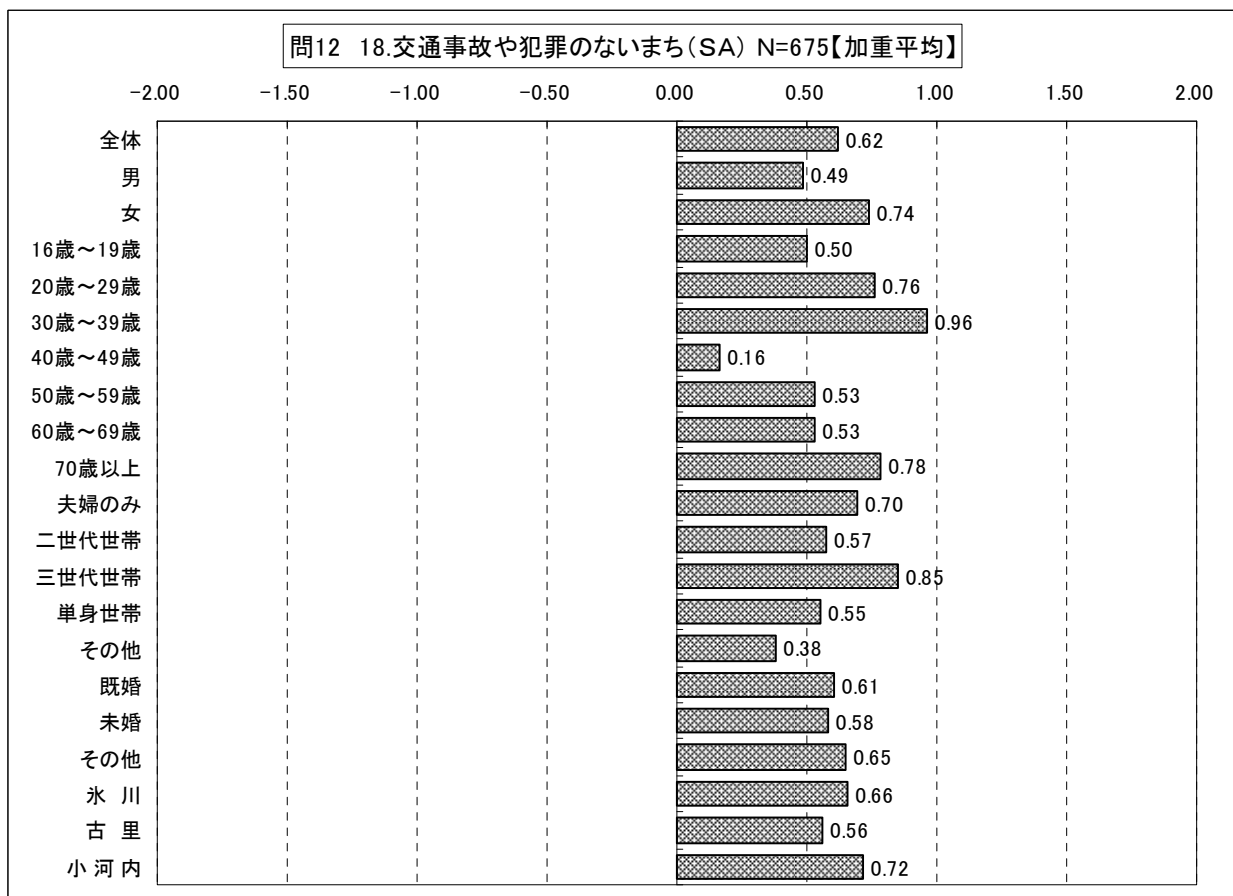
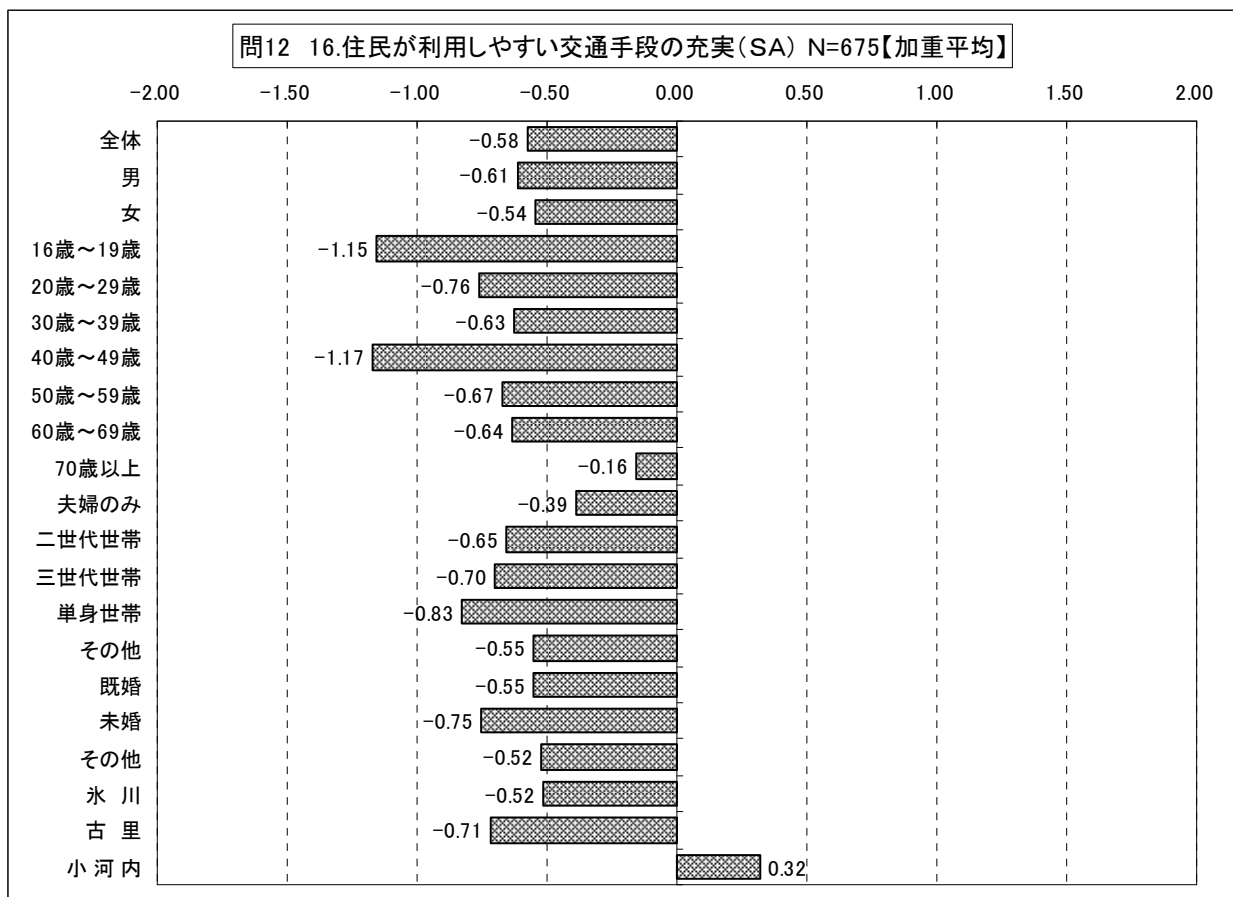


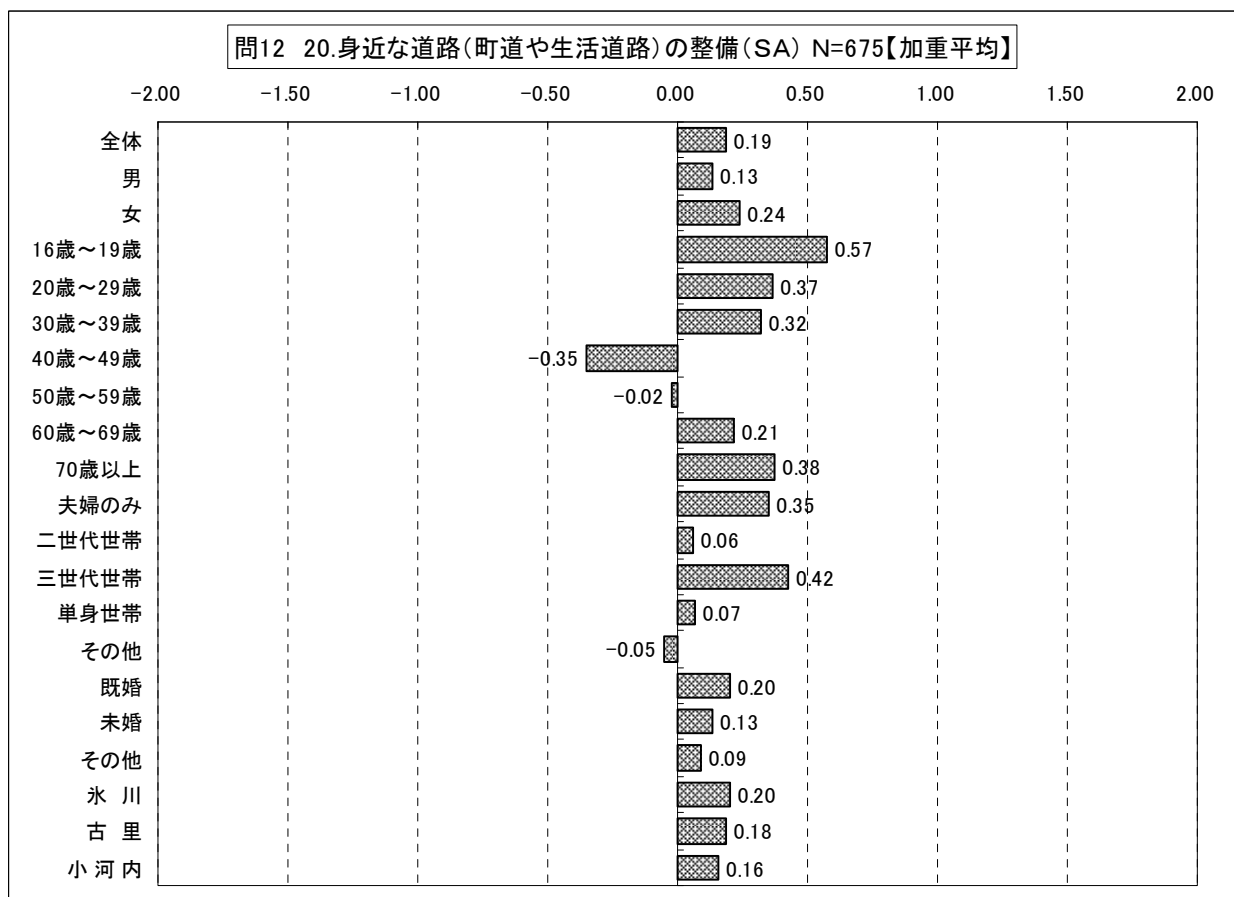
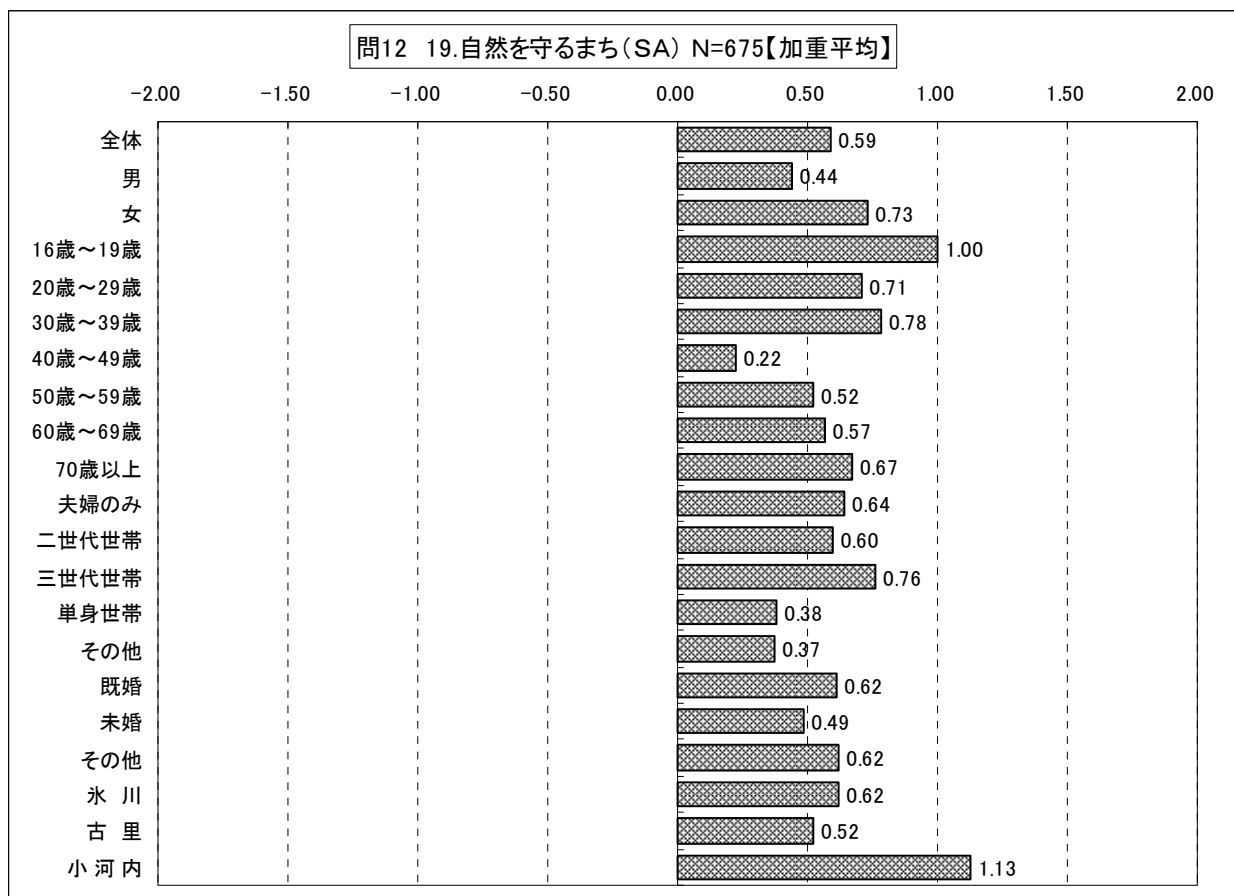
問12 12.環境衛生の充実(SA) N=675【加重平均】

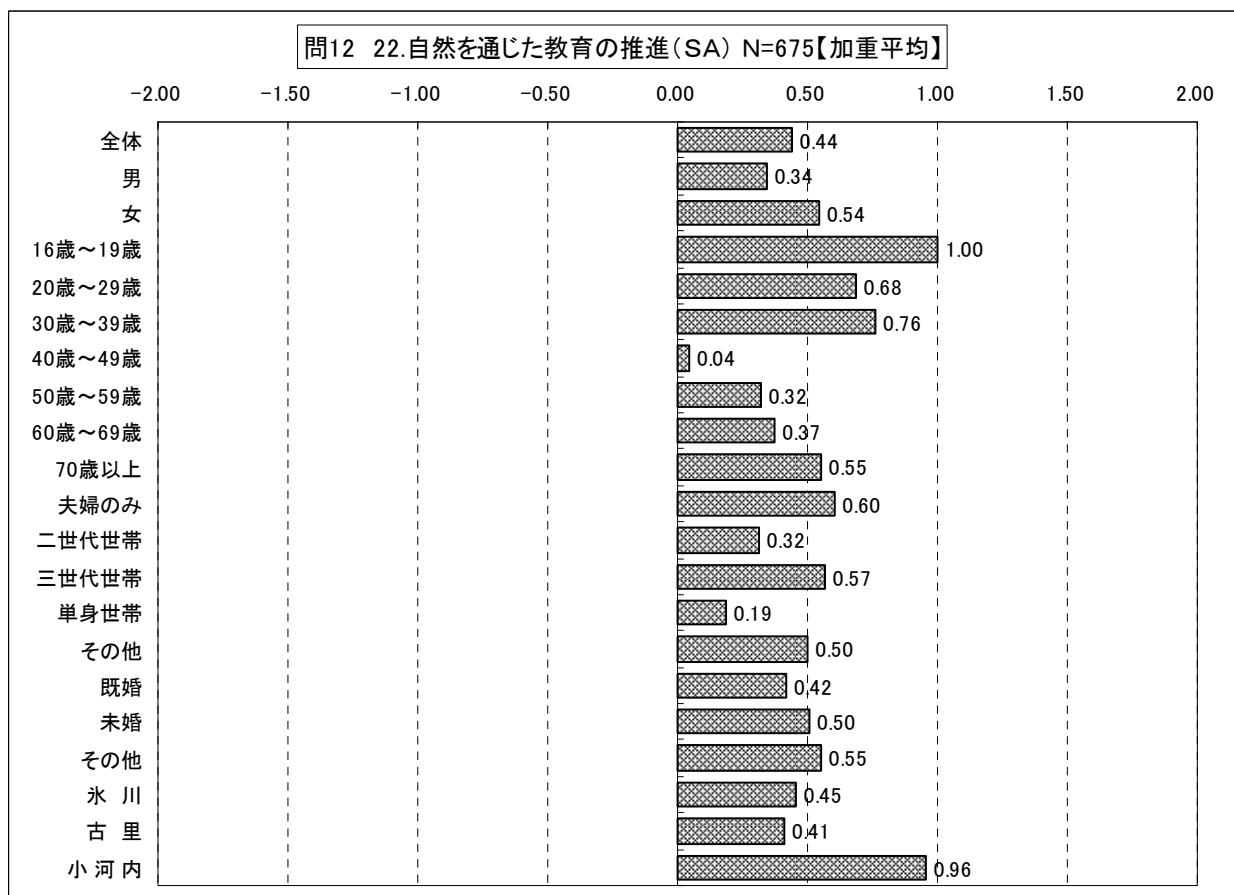
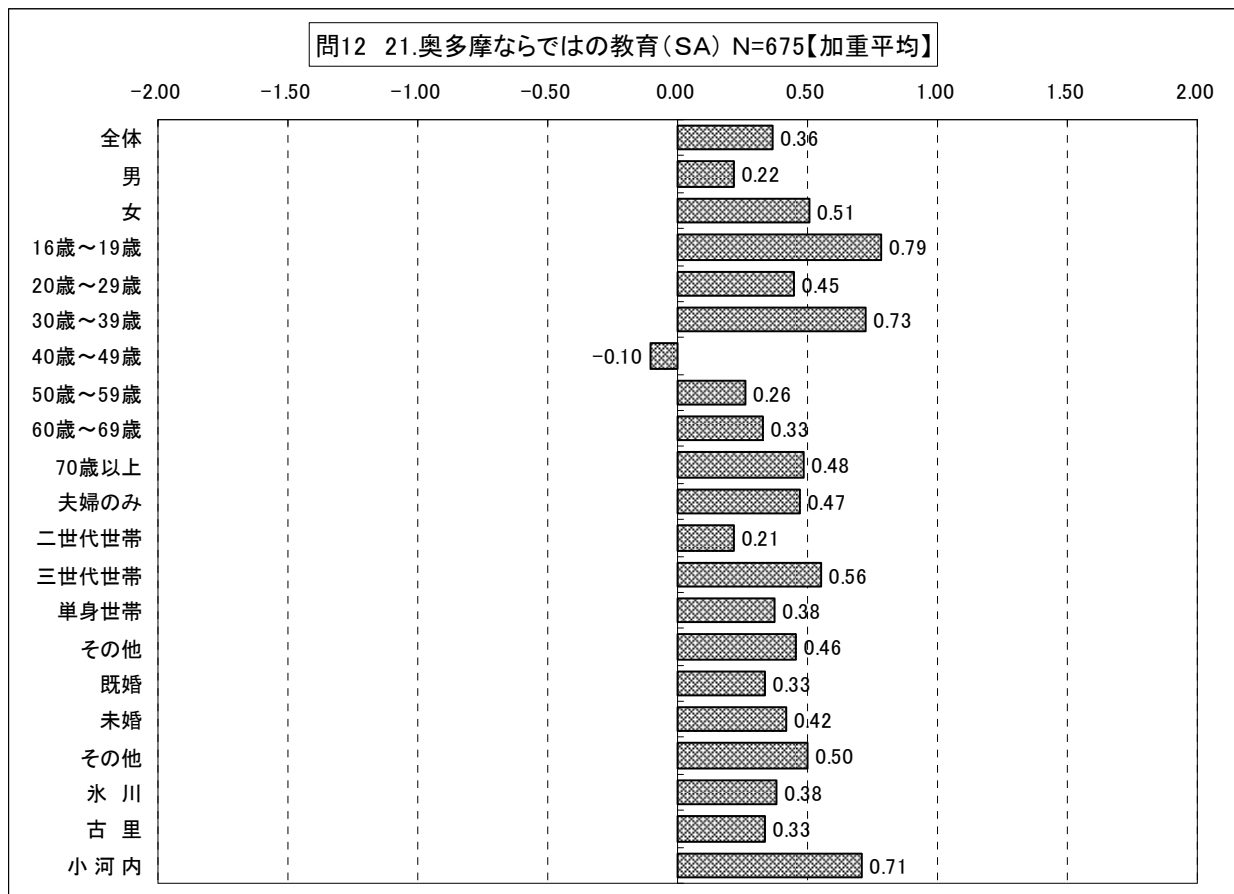


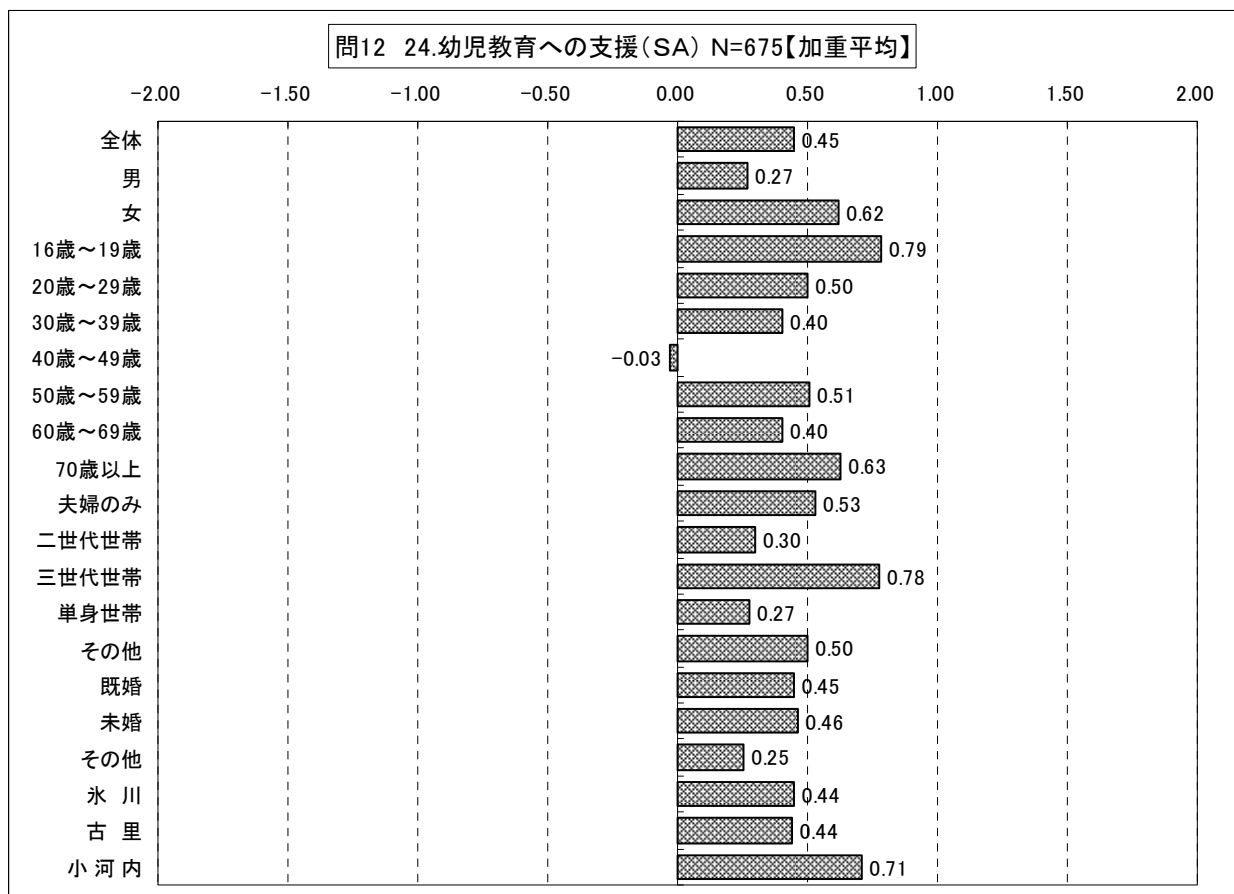
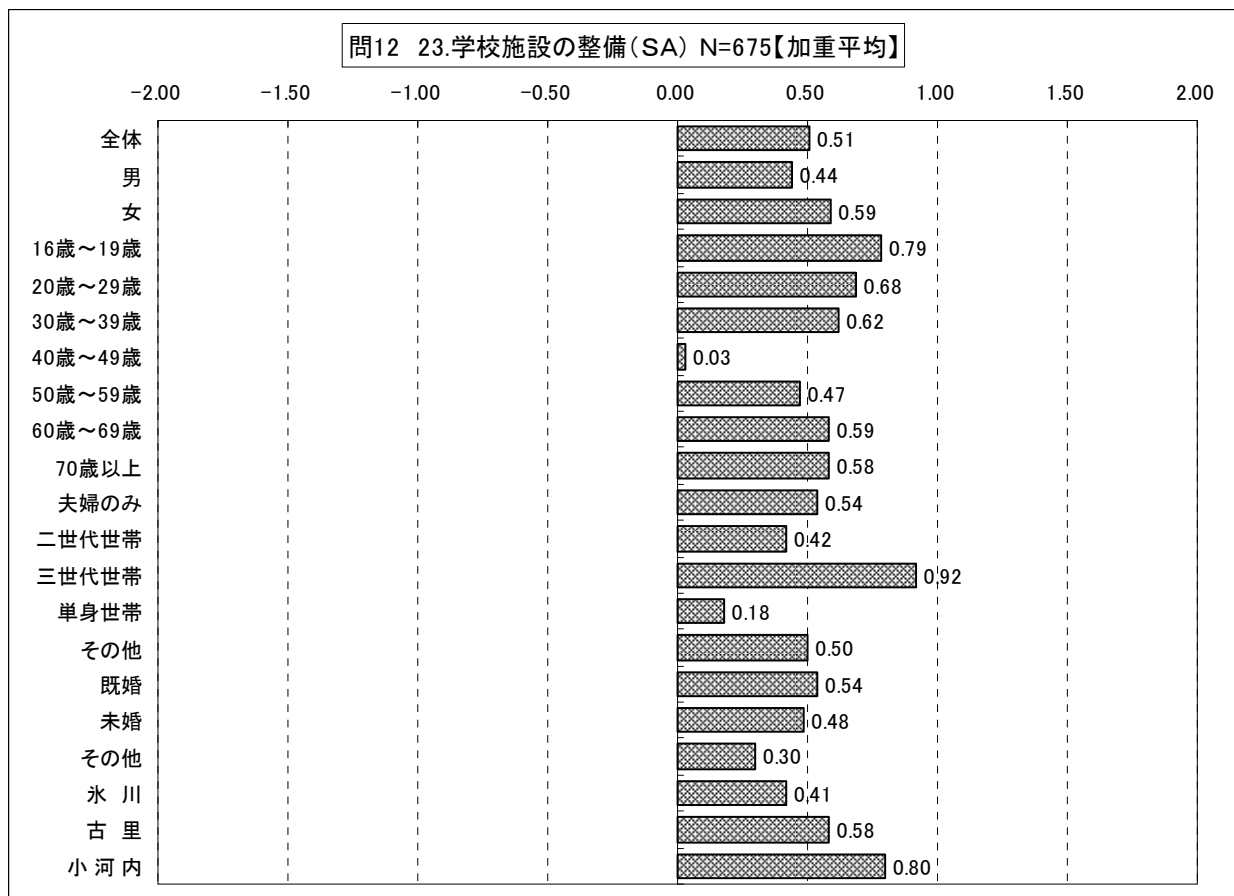


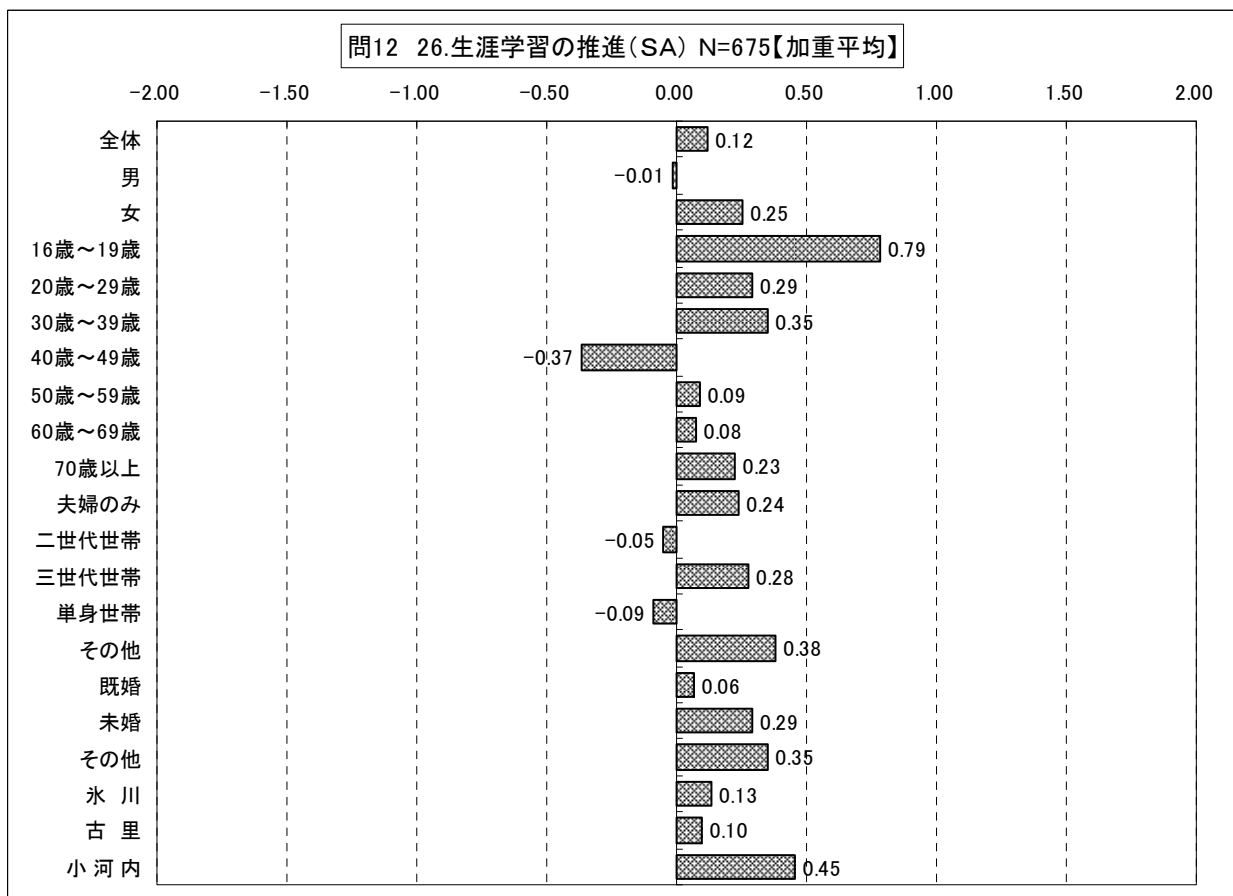
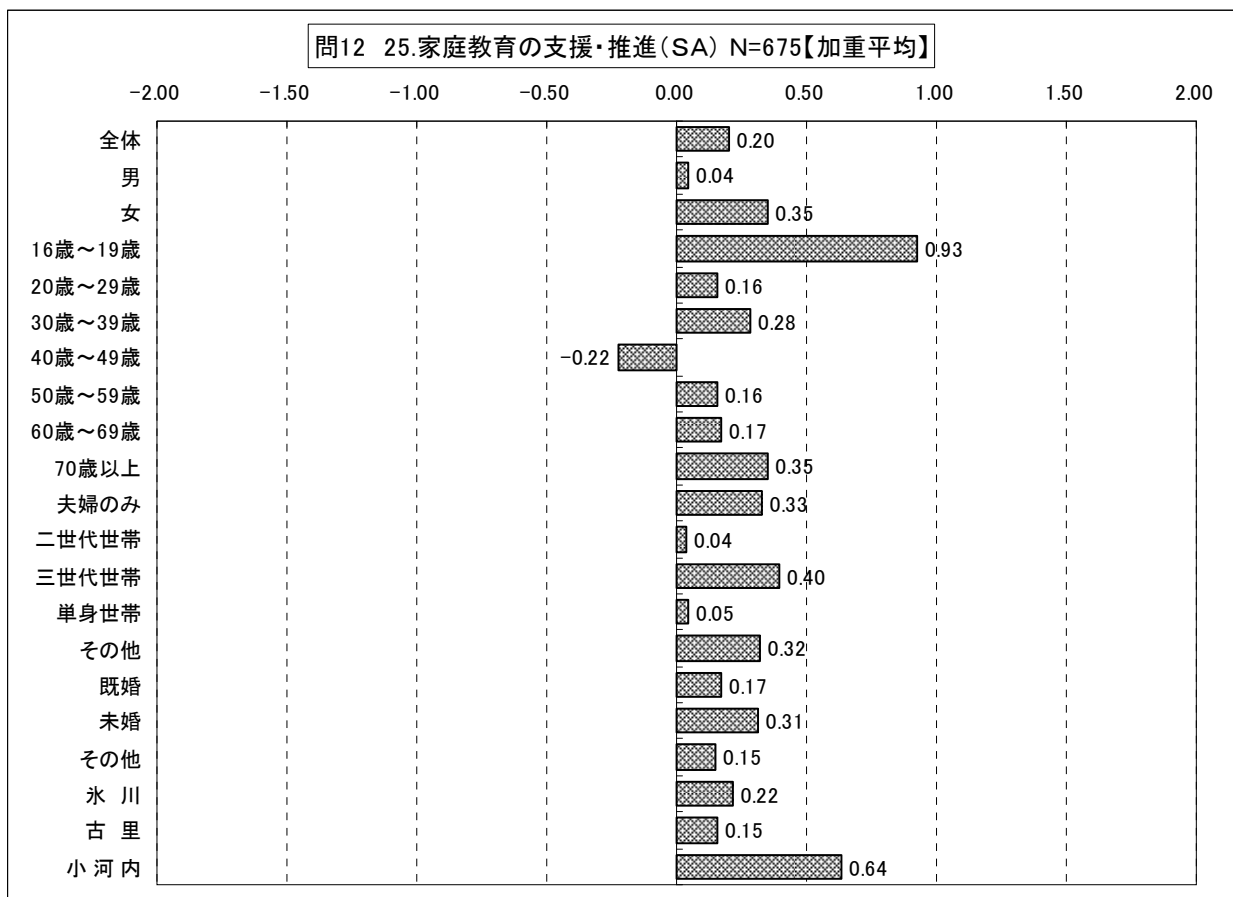


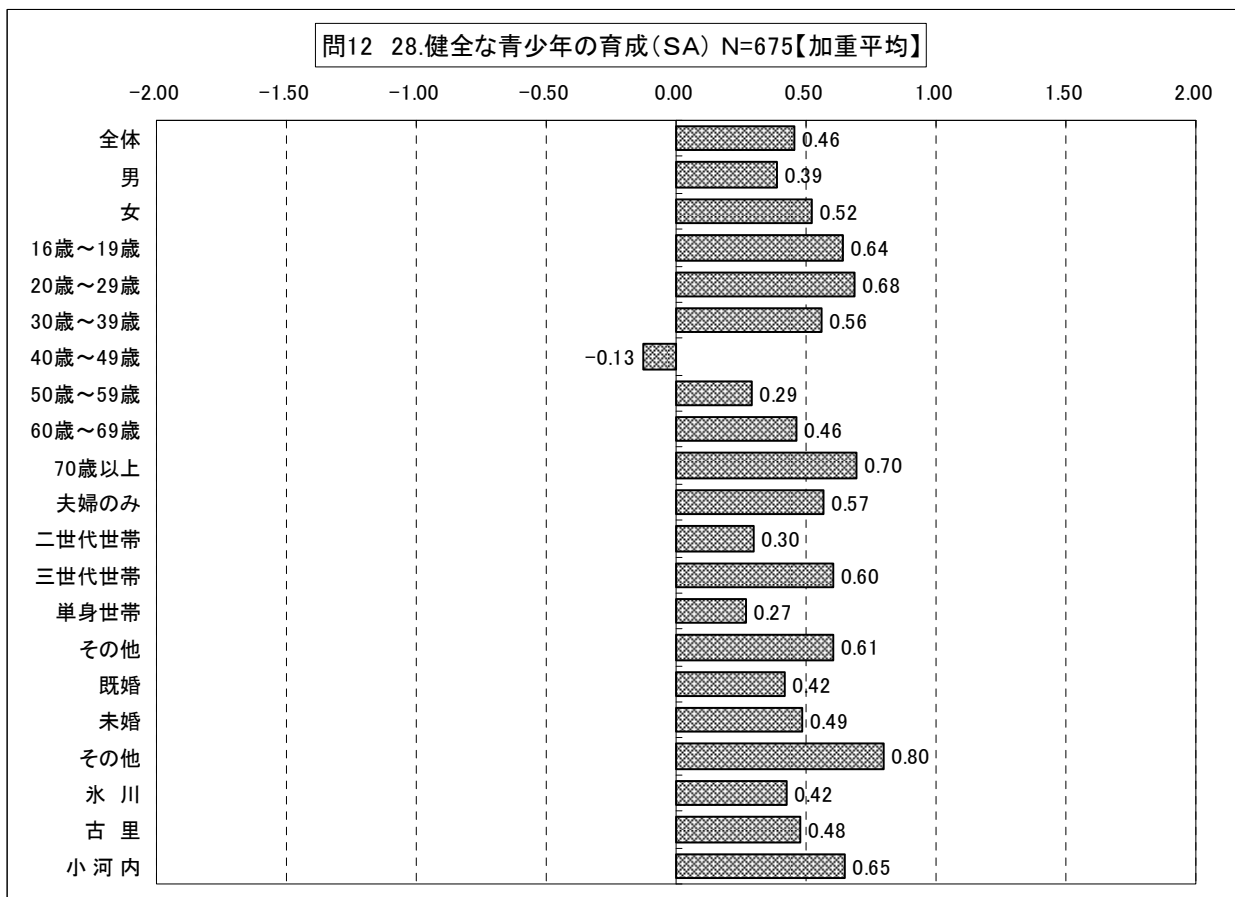
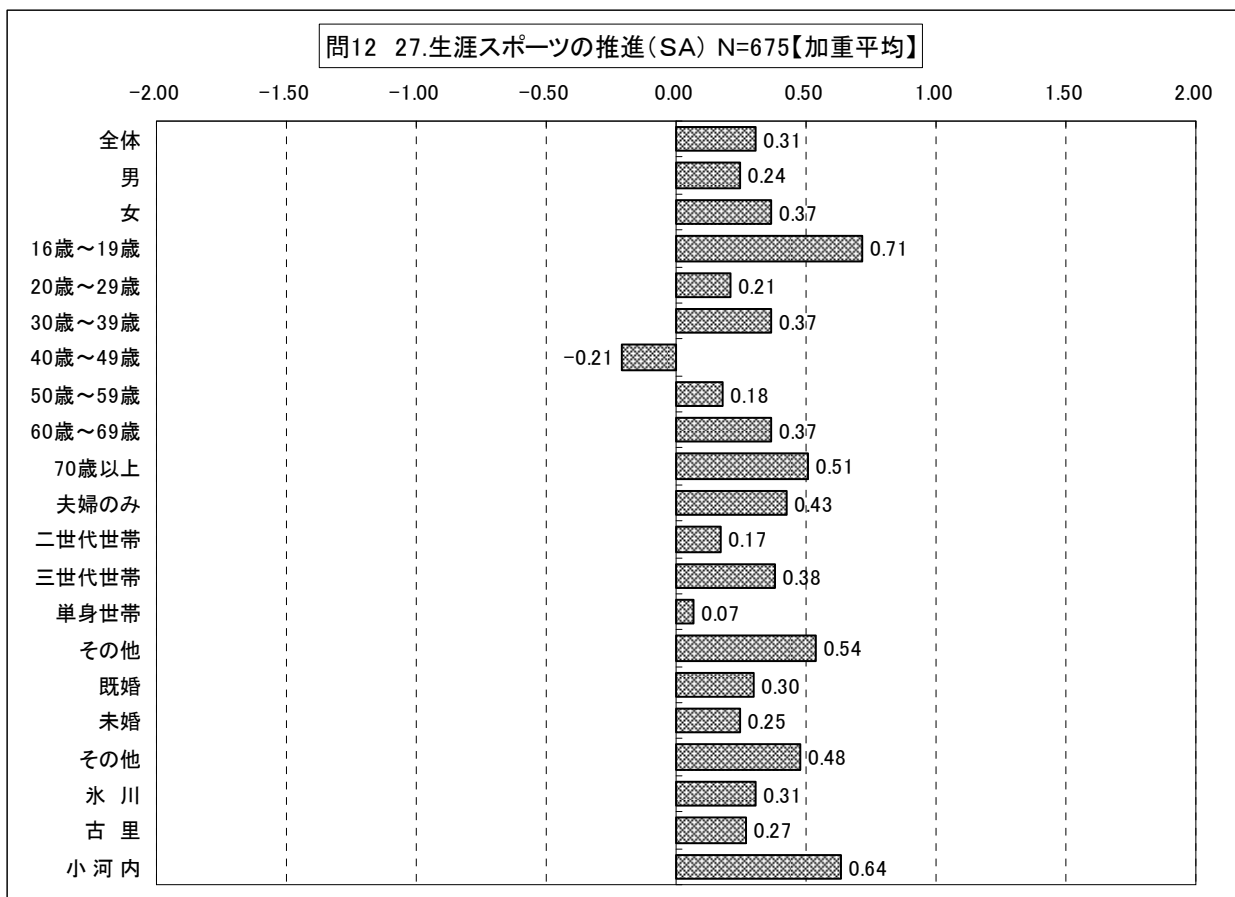


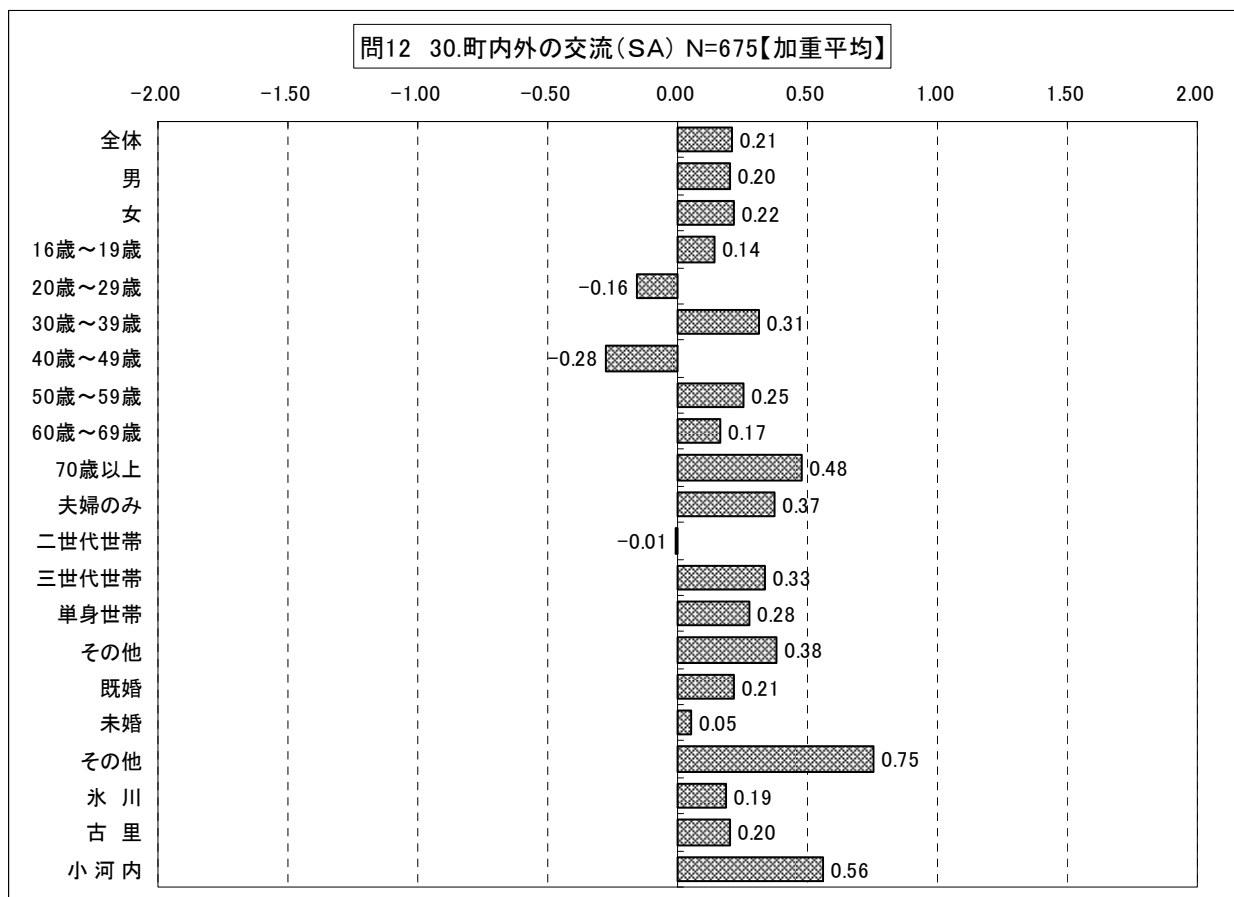
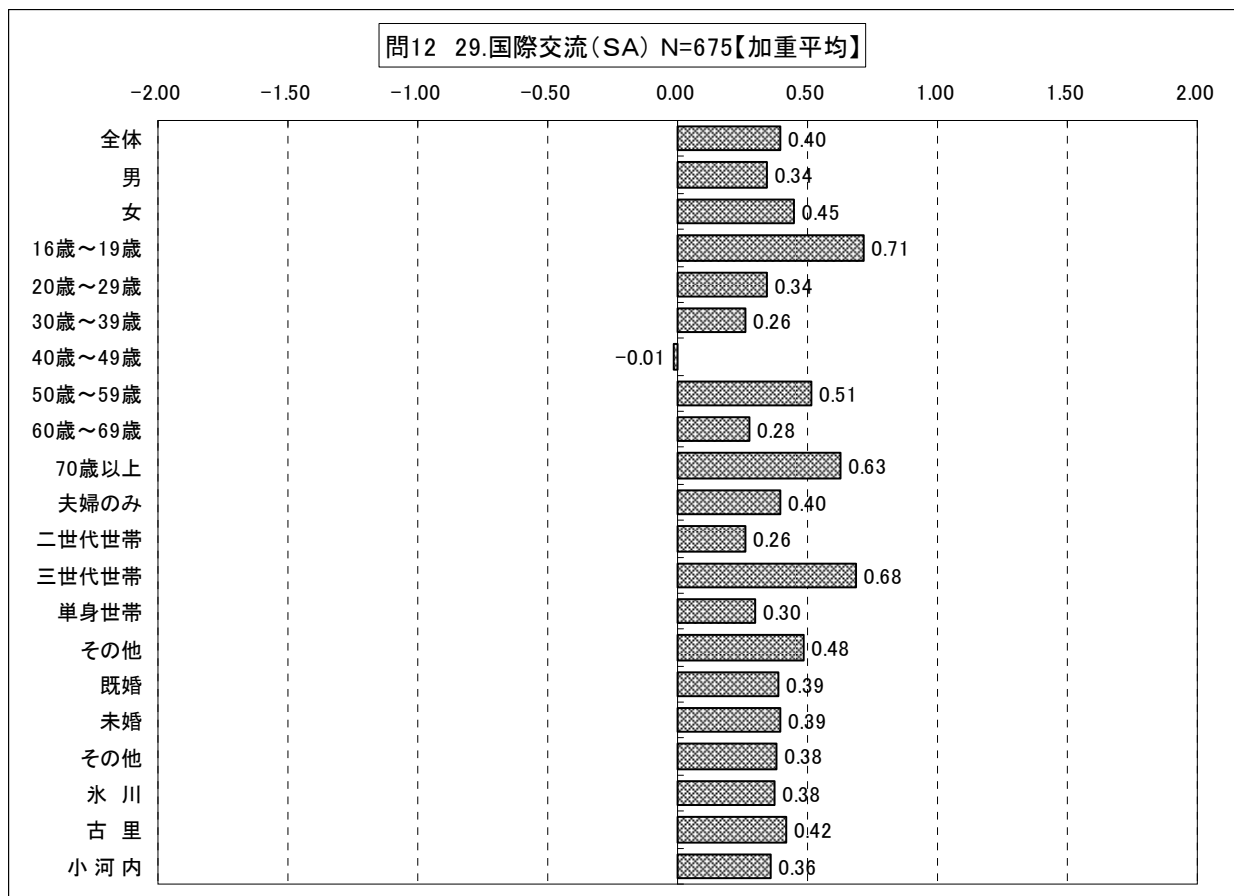


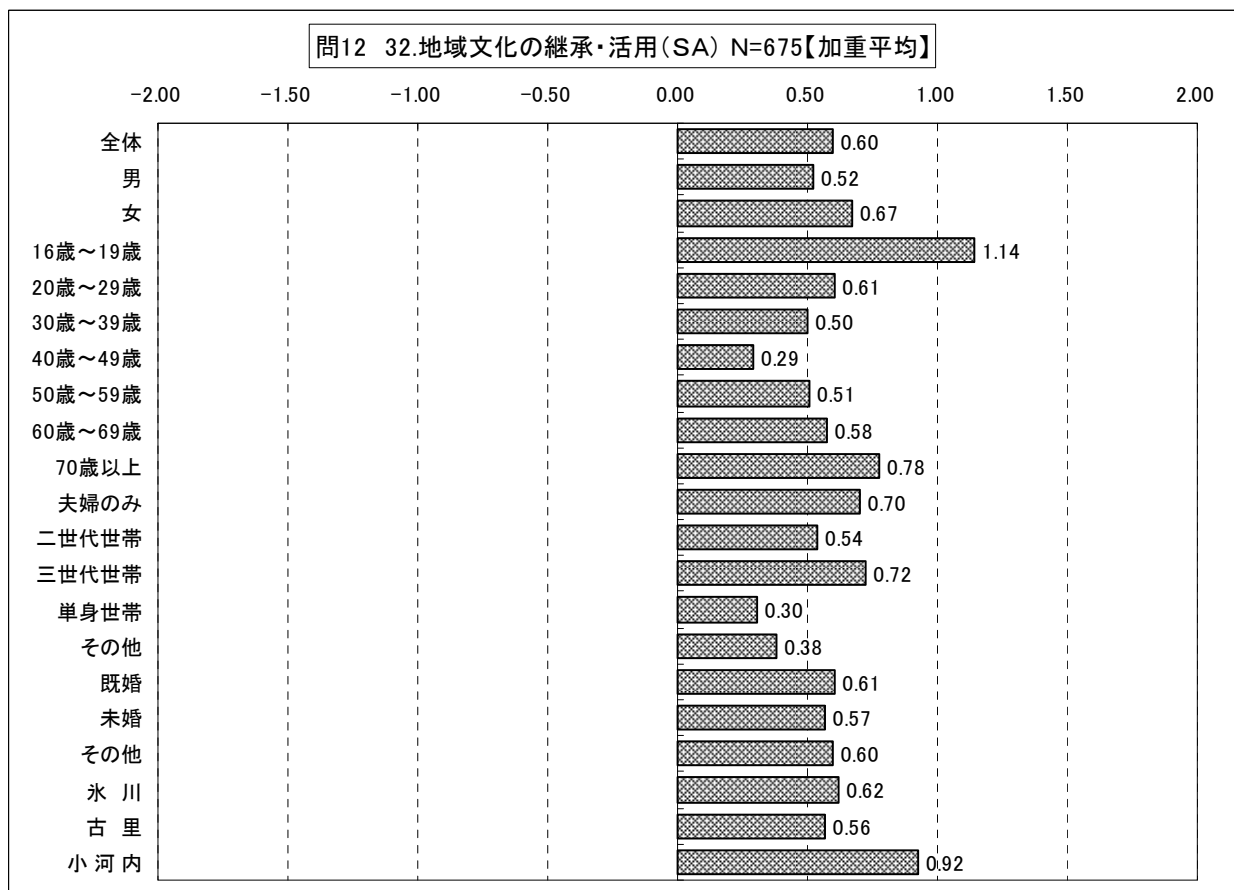
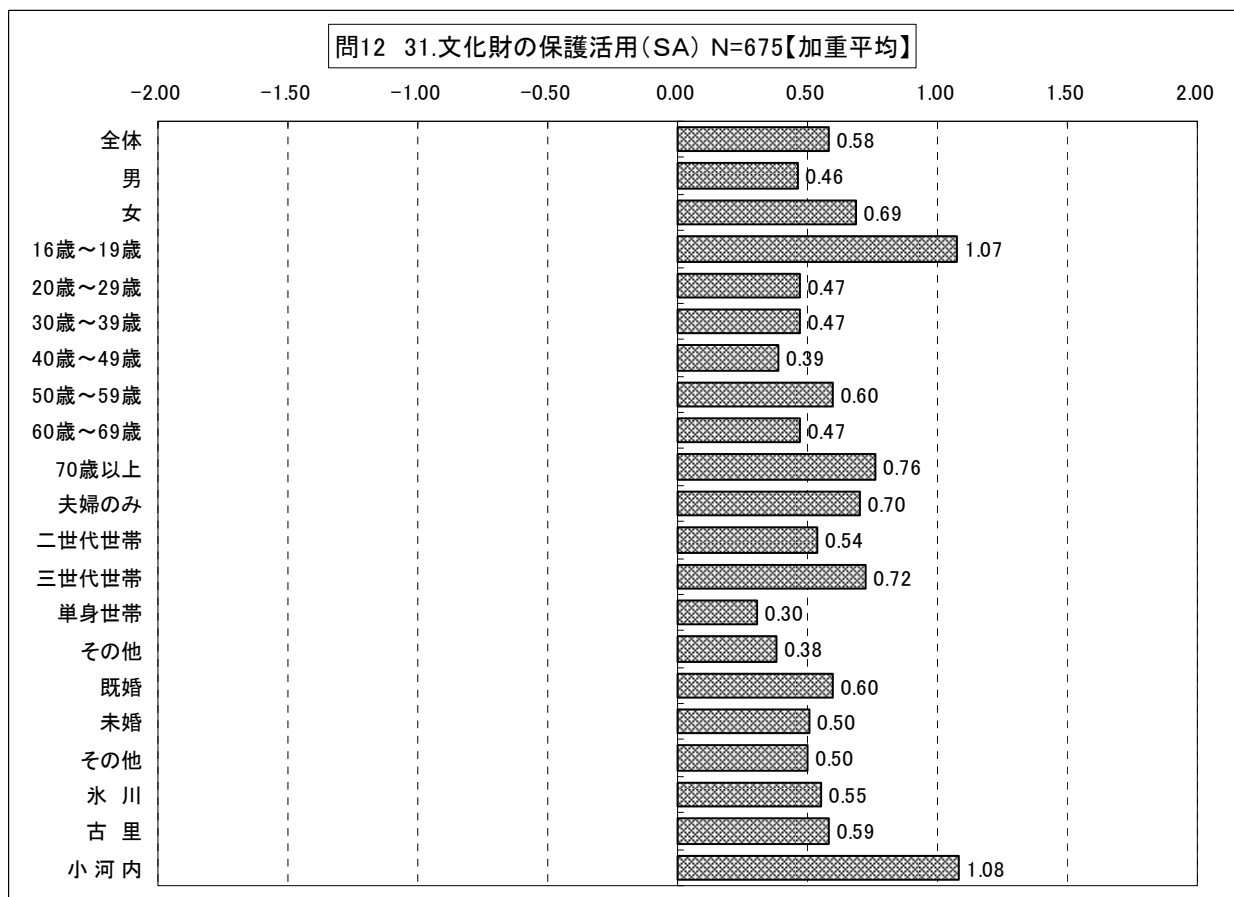


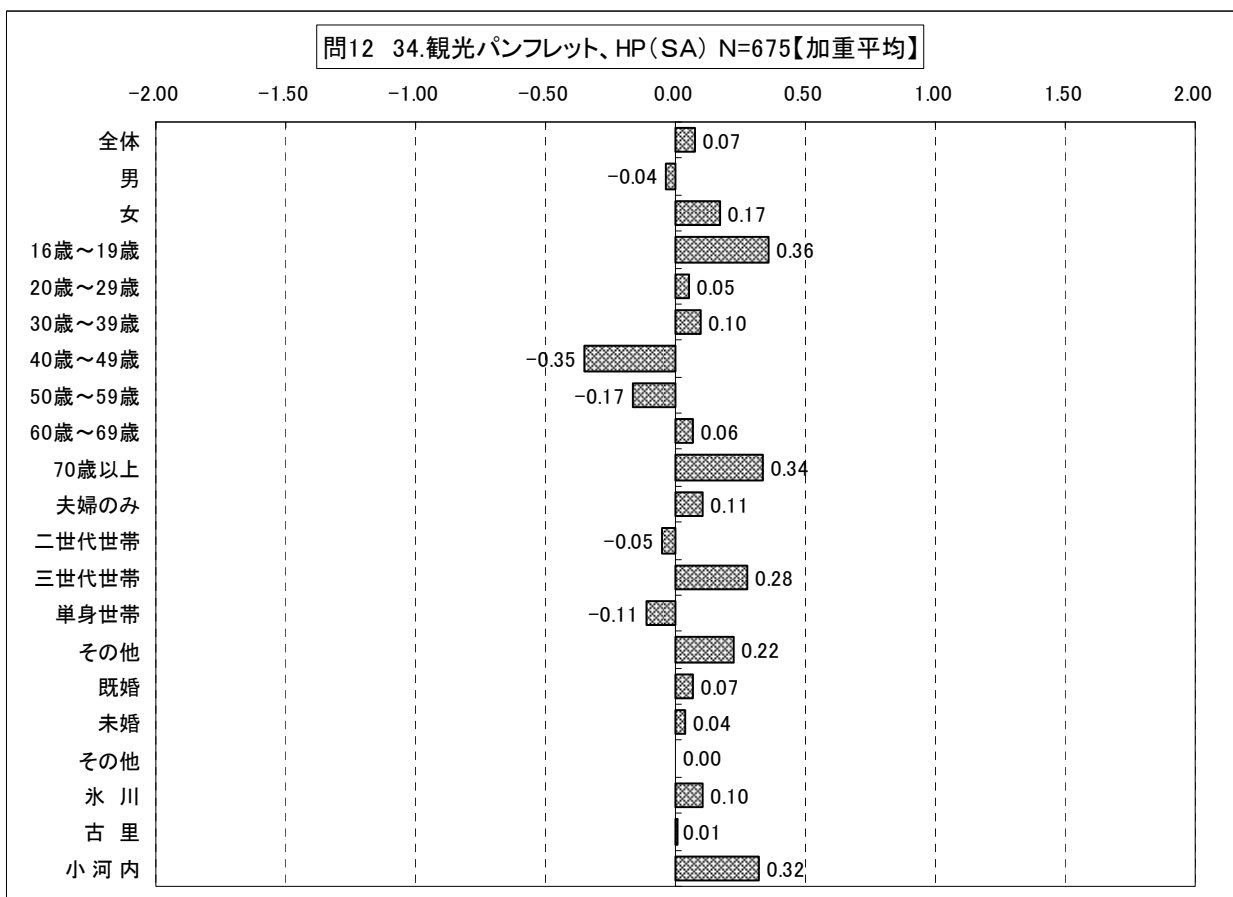
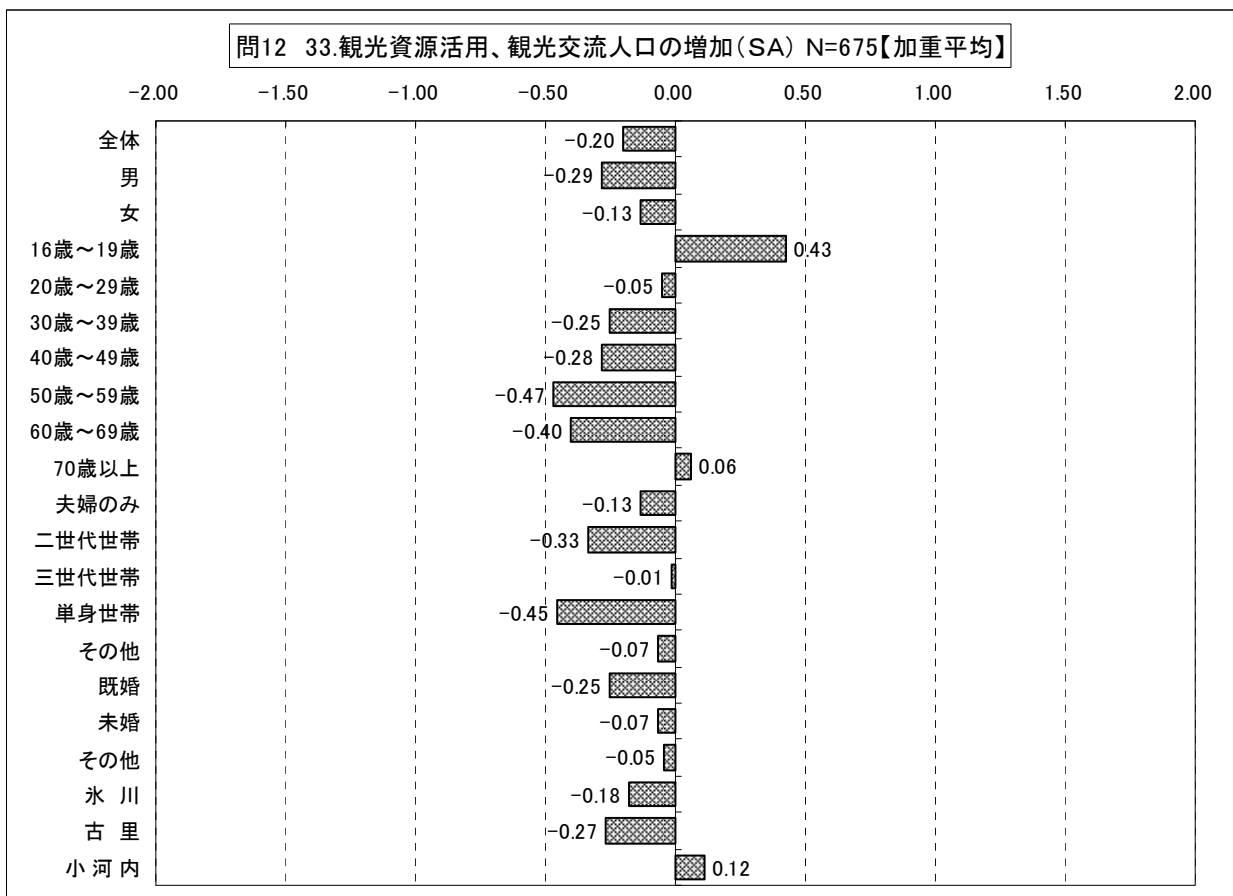


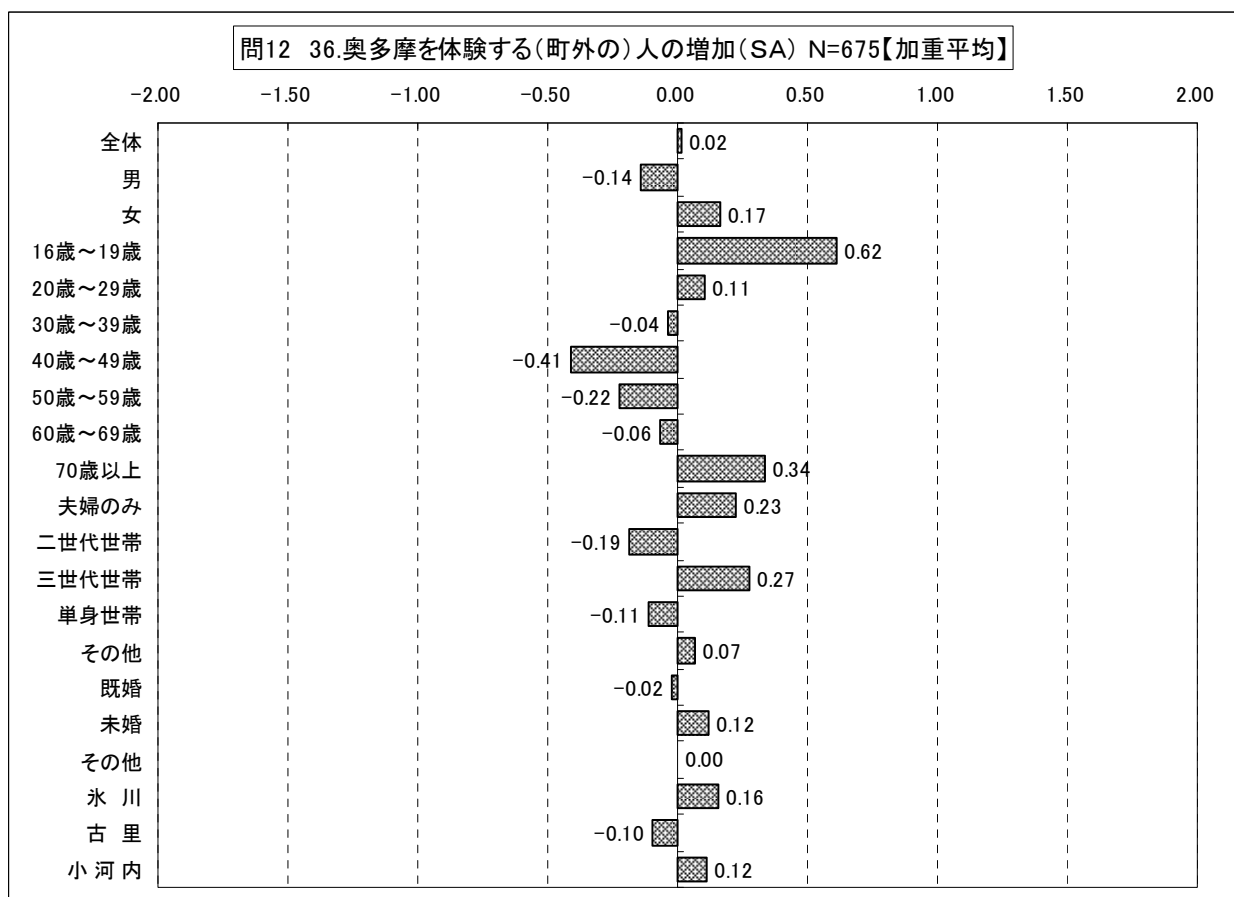
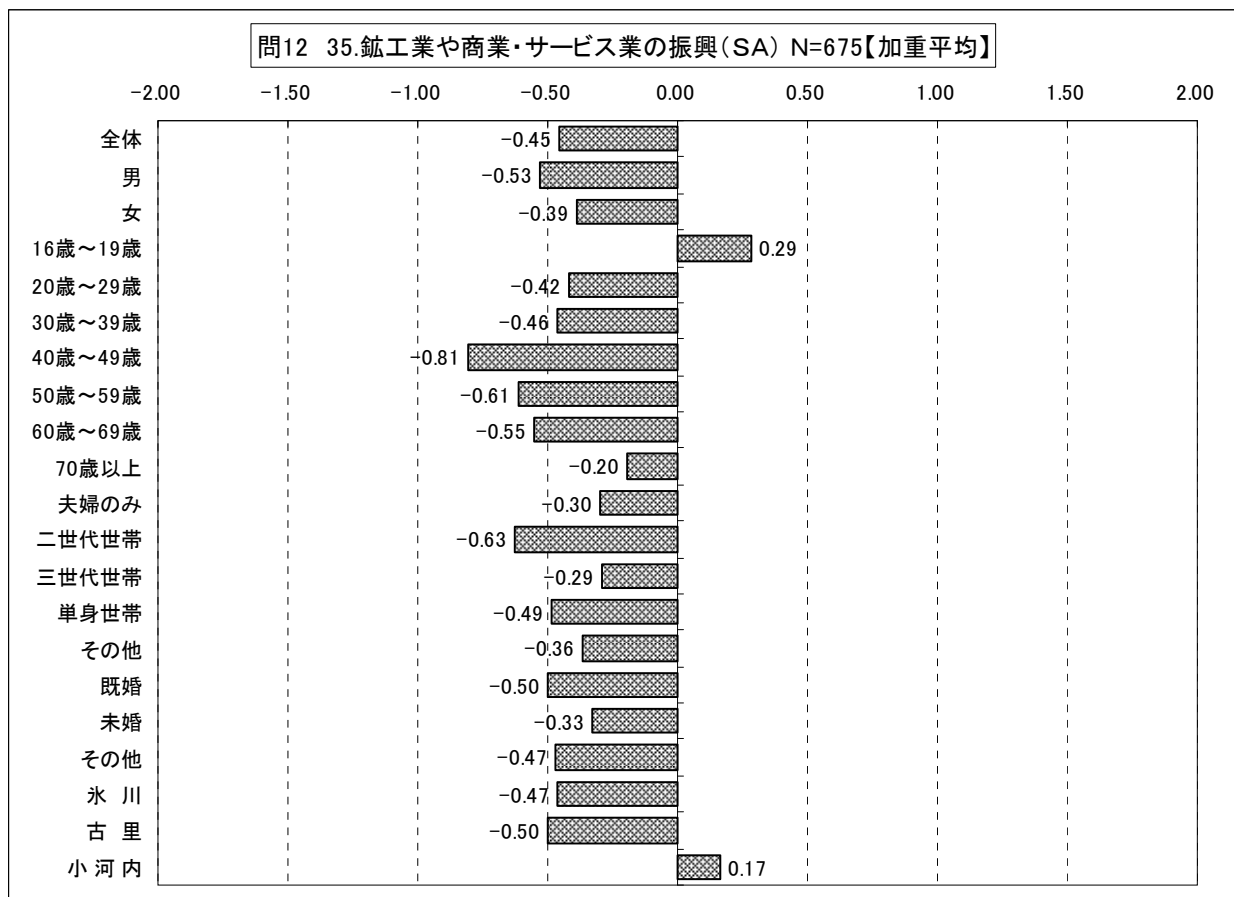


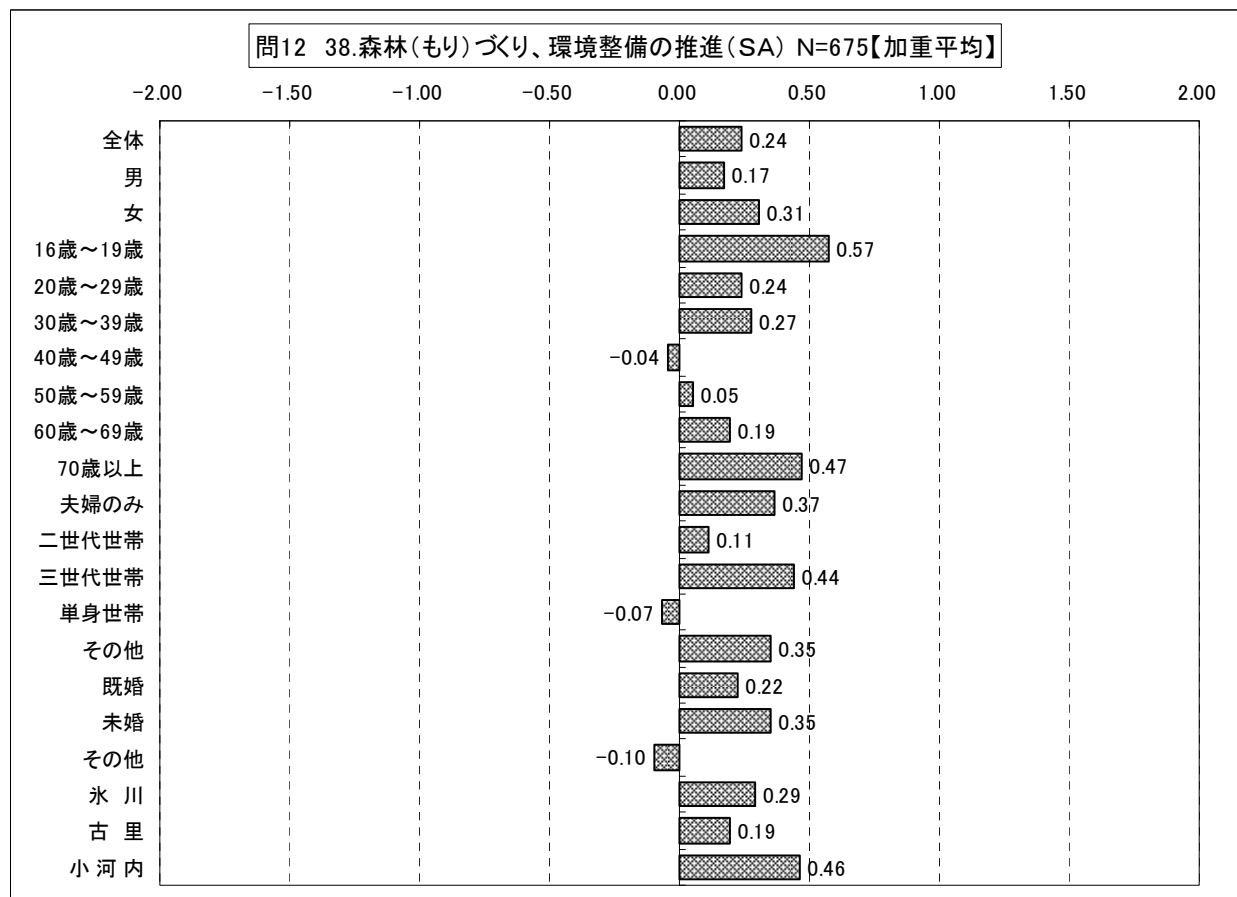
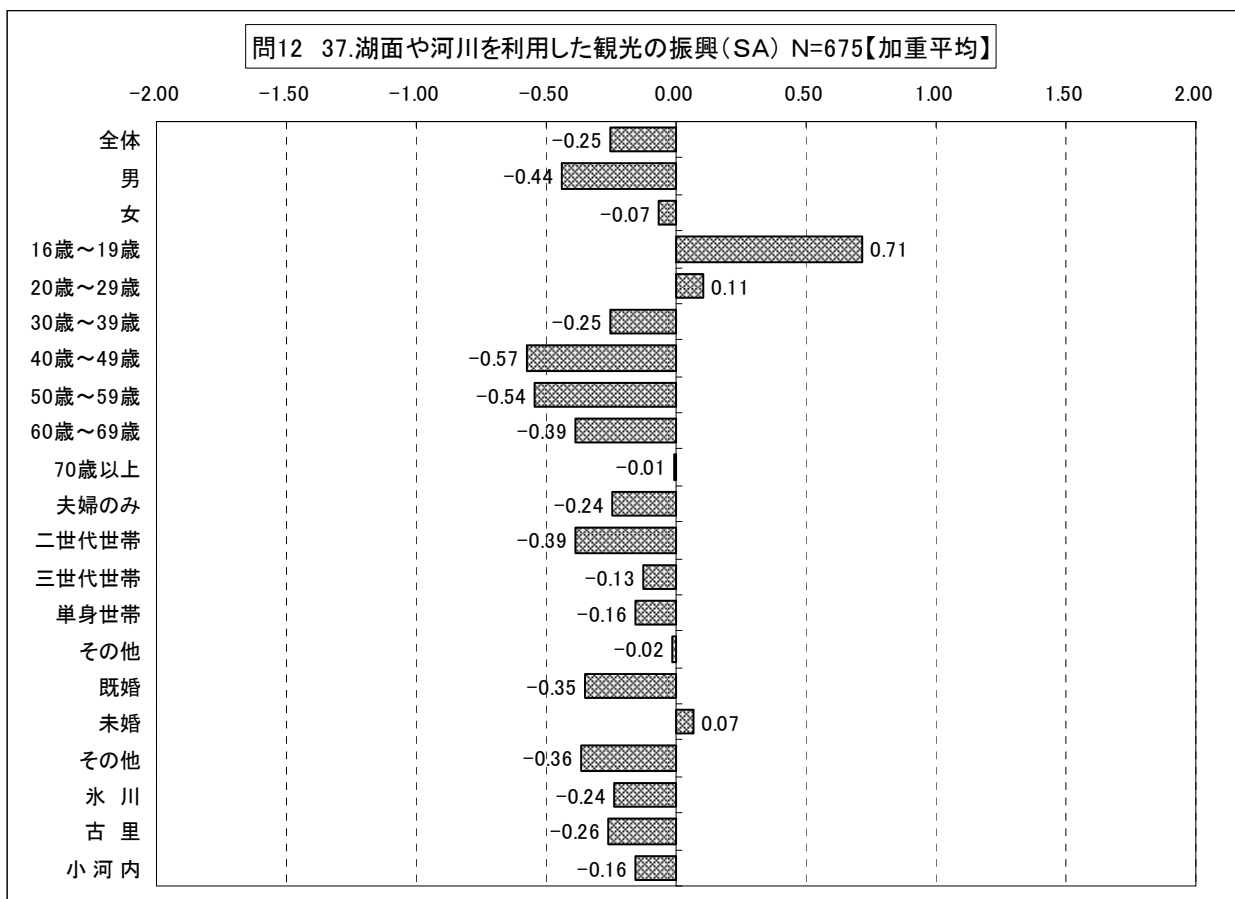


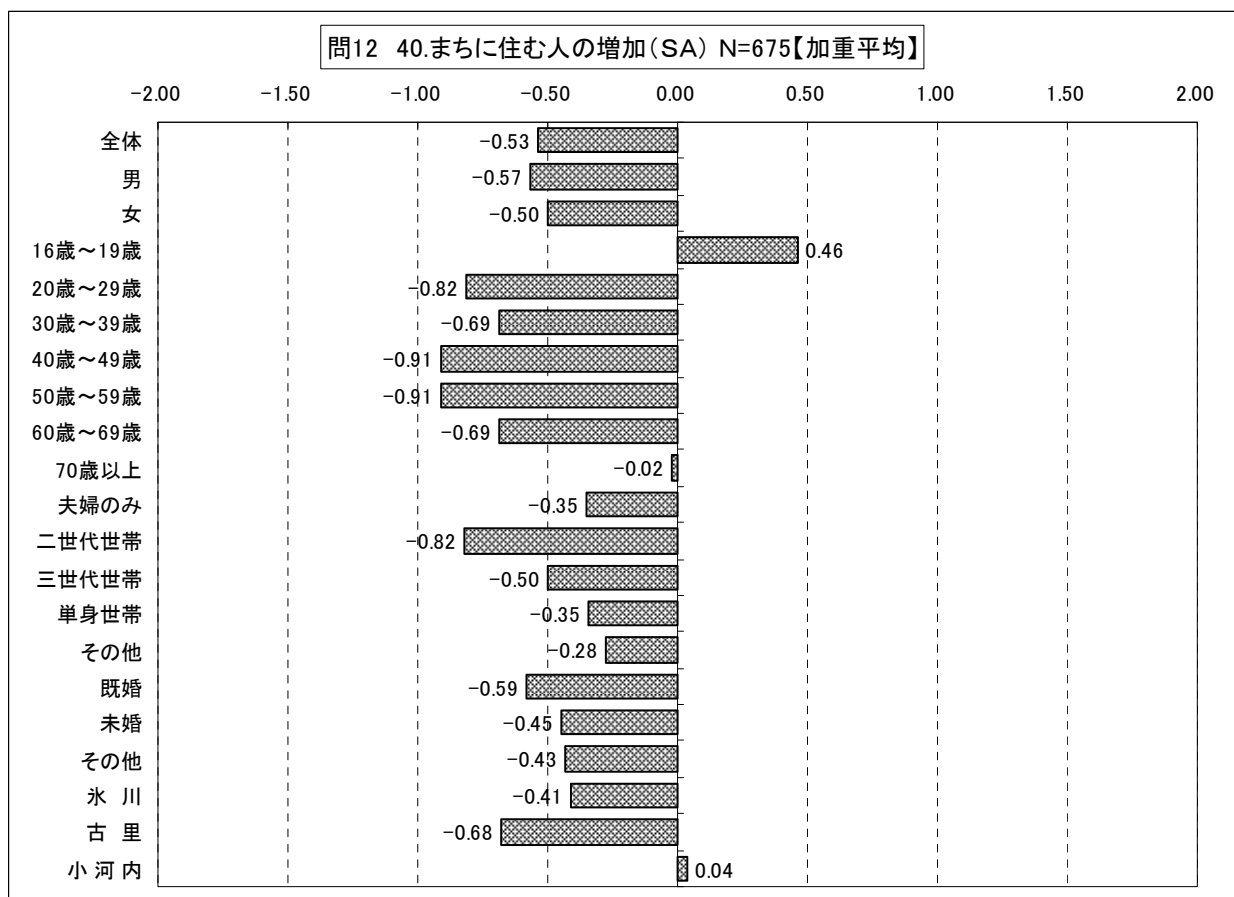
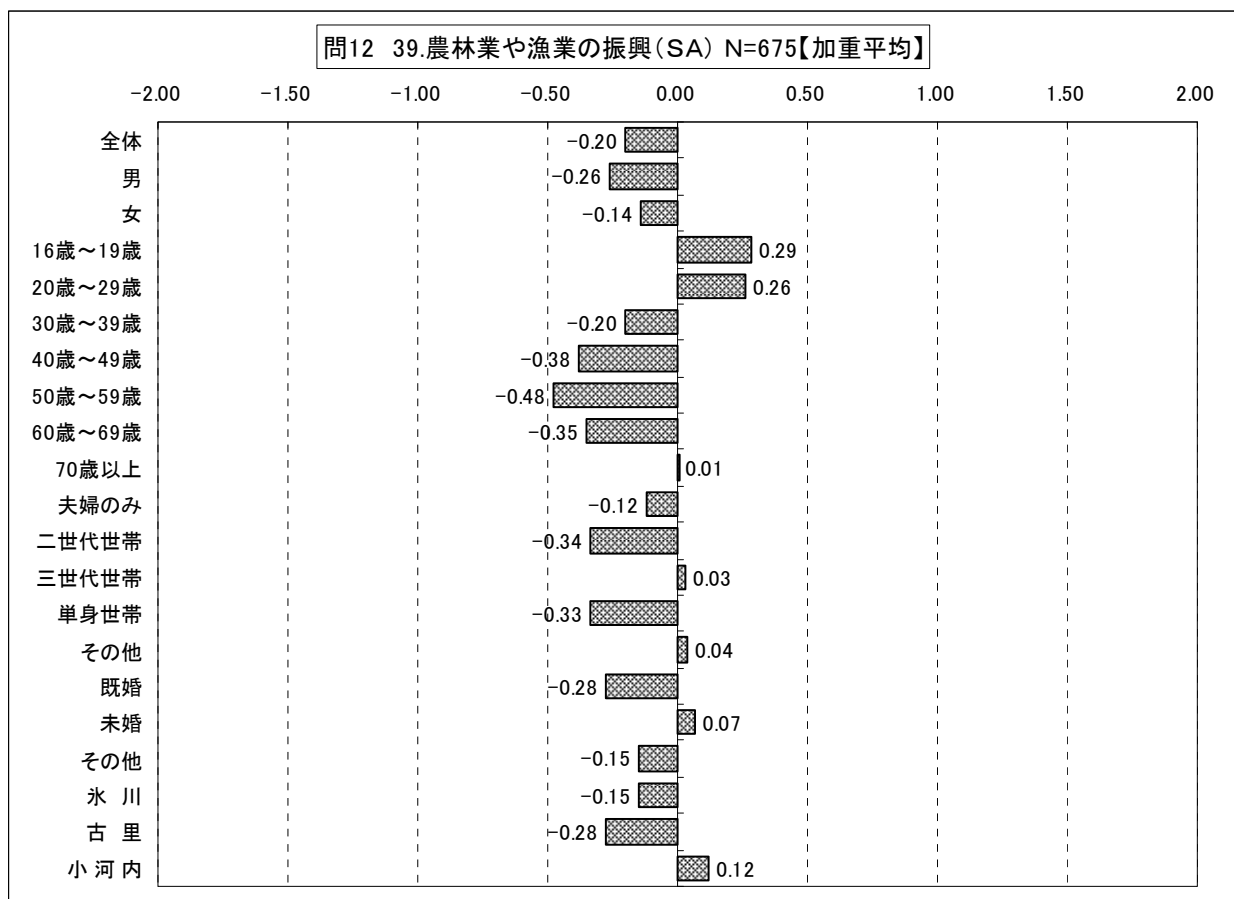


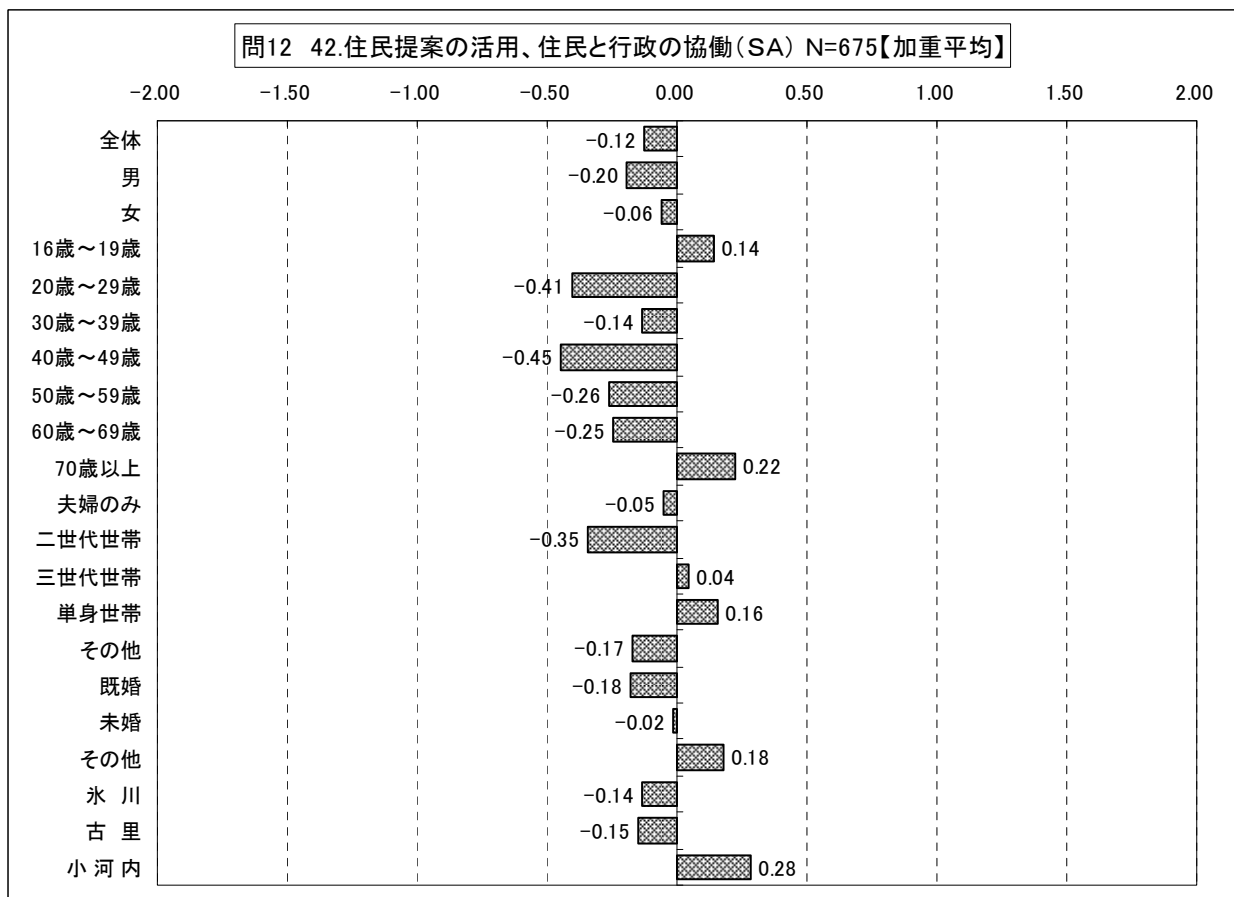
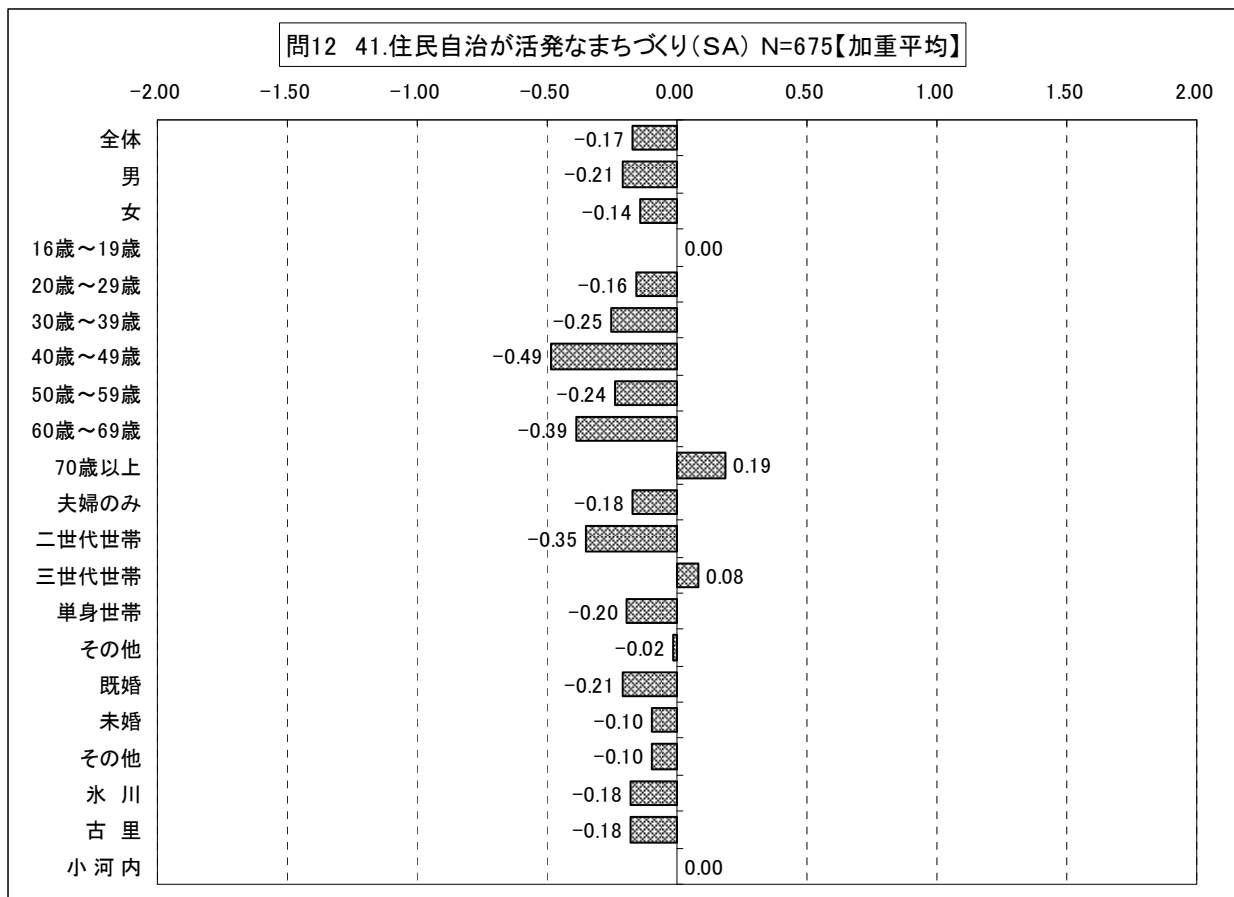


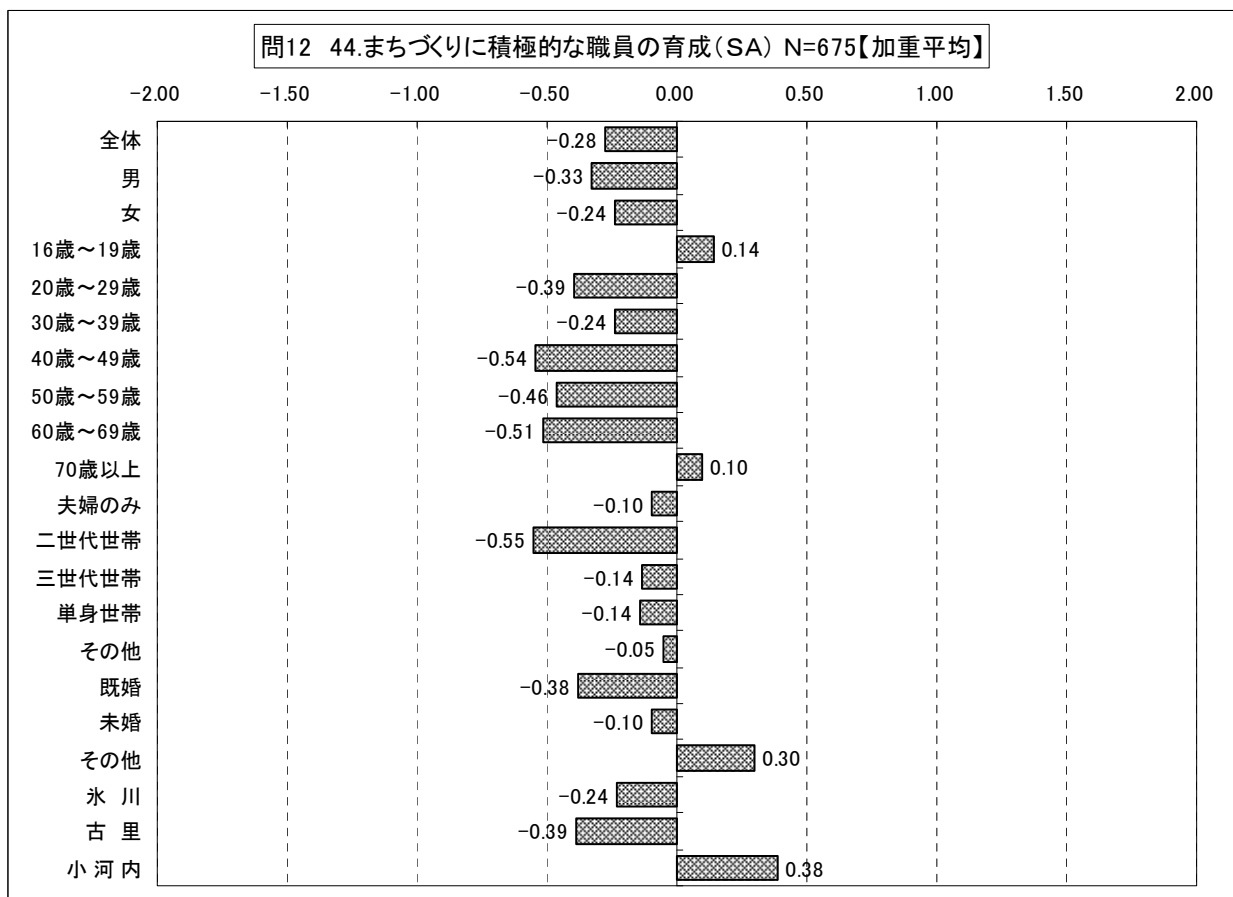
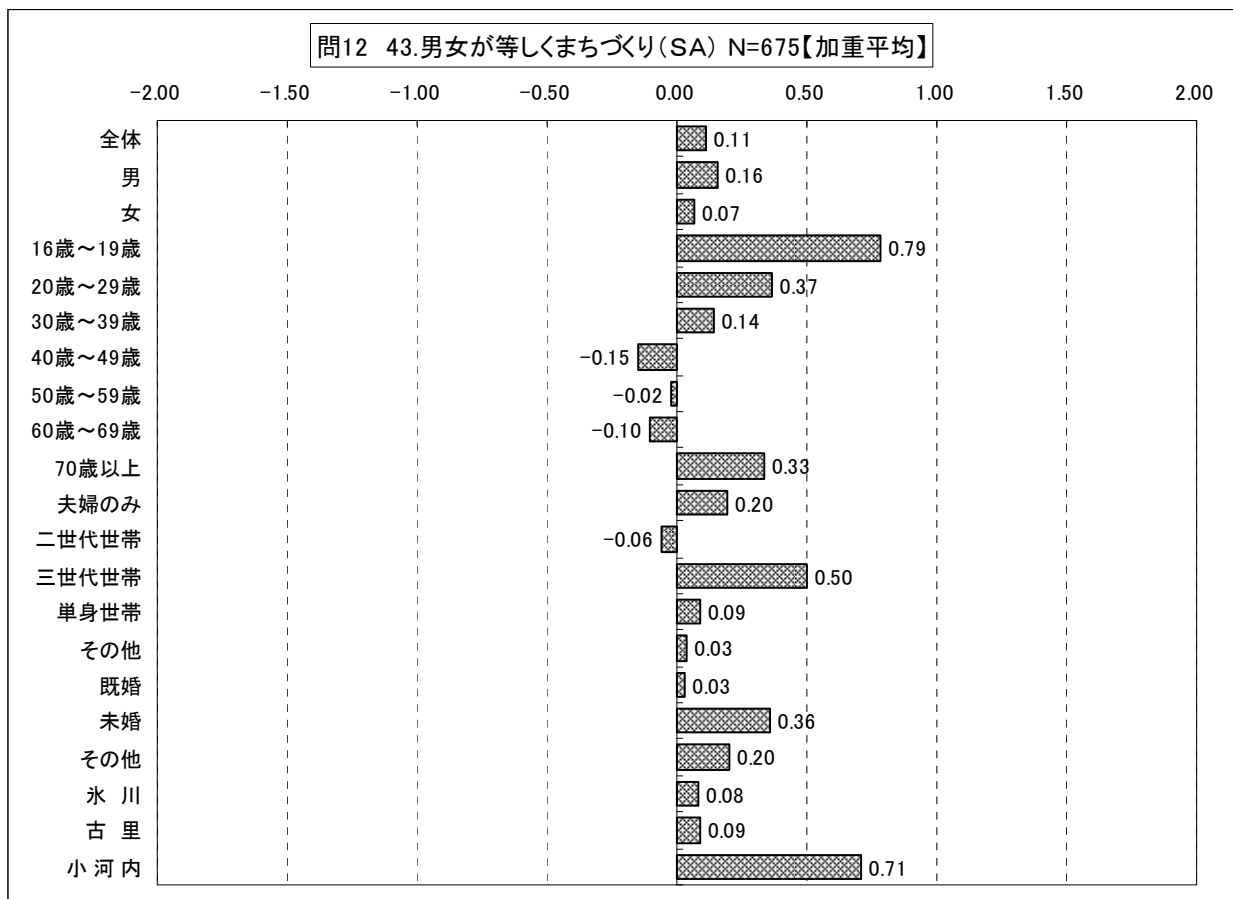


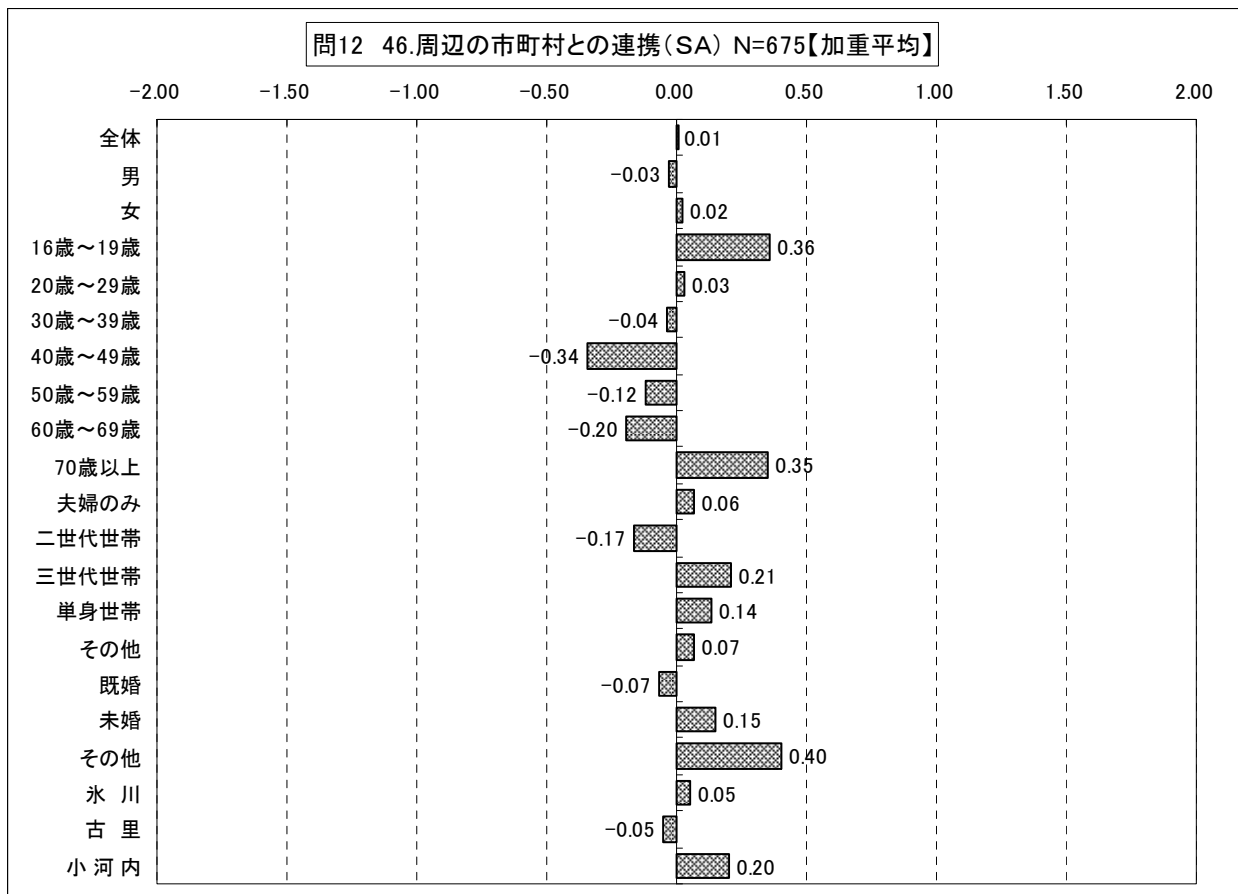
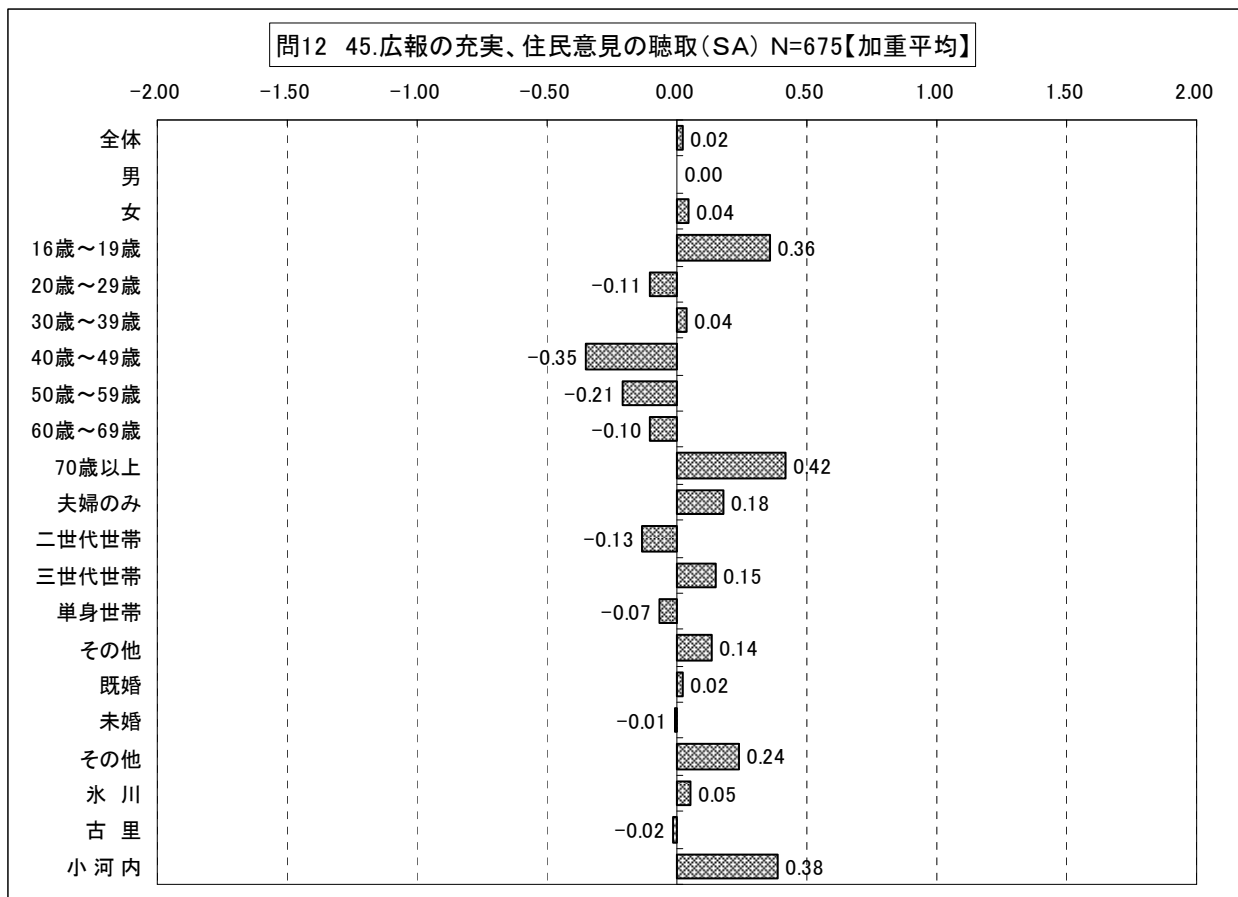


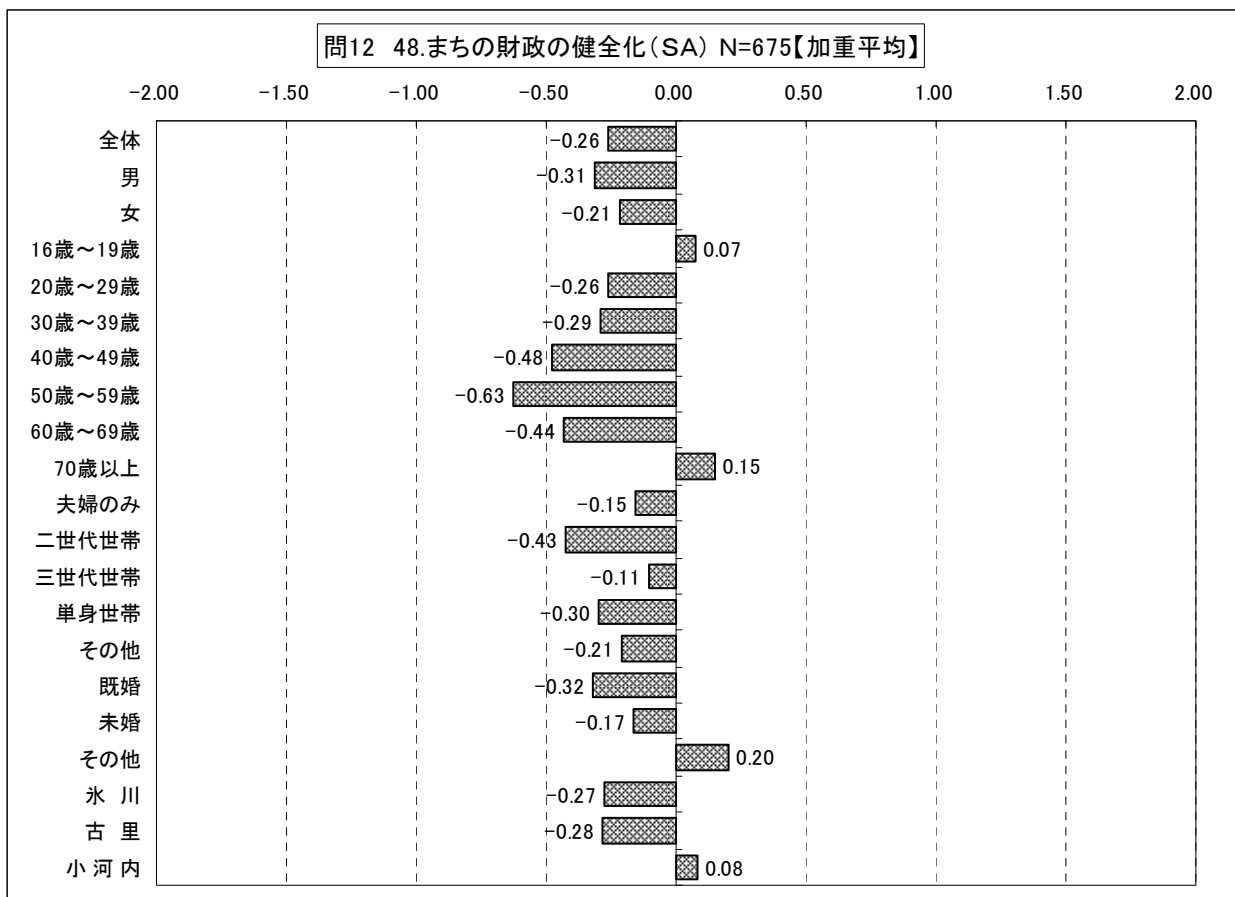
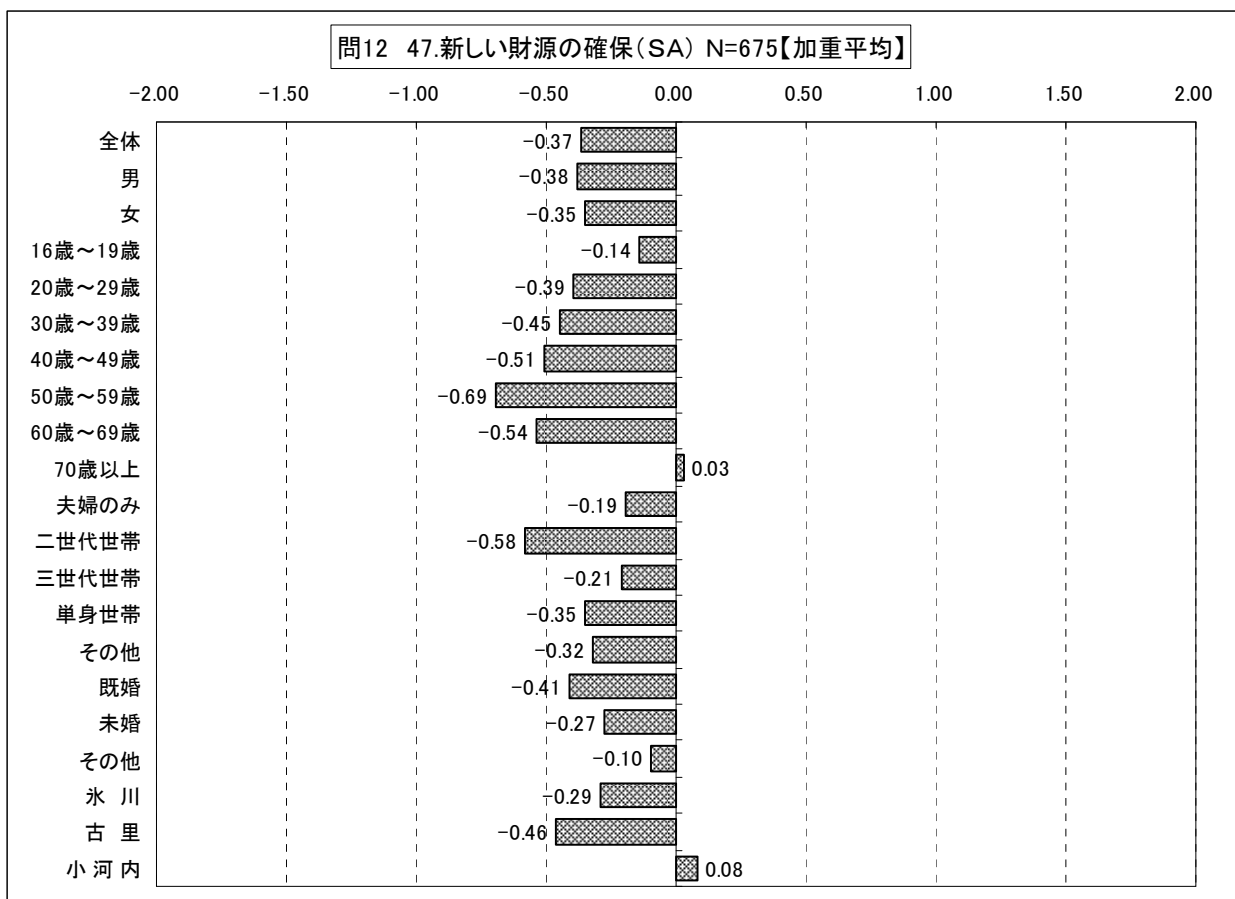




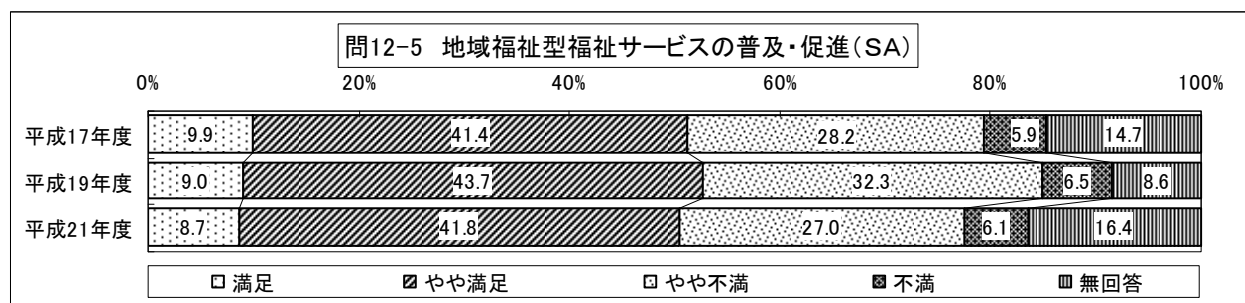
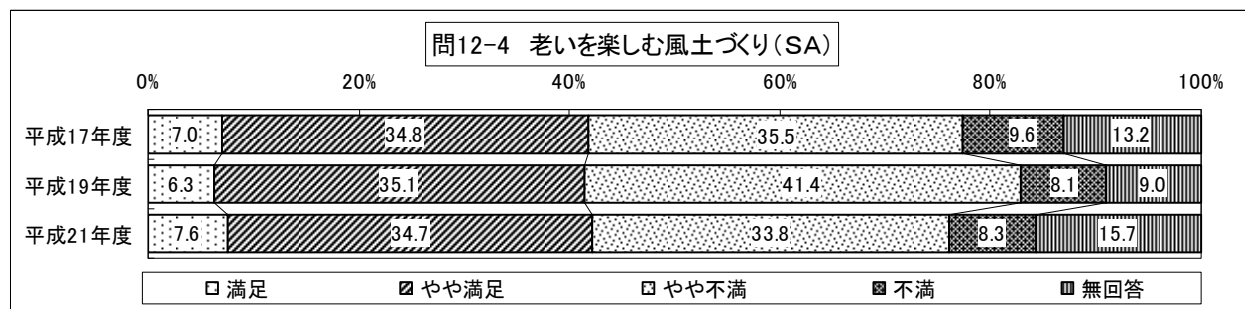
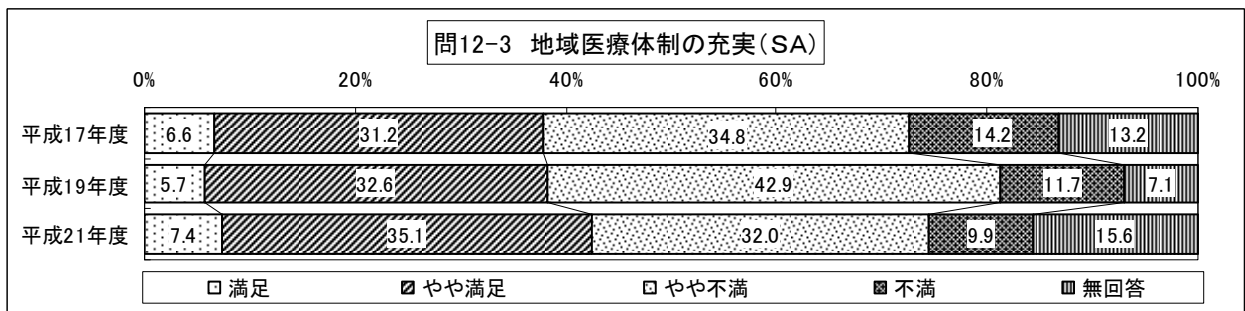
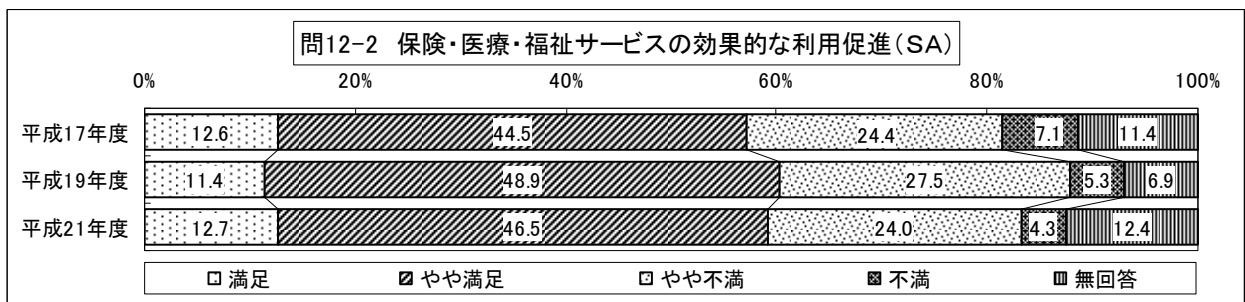
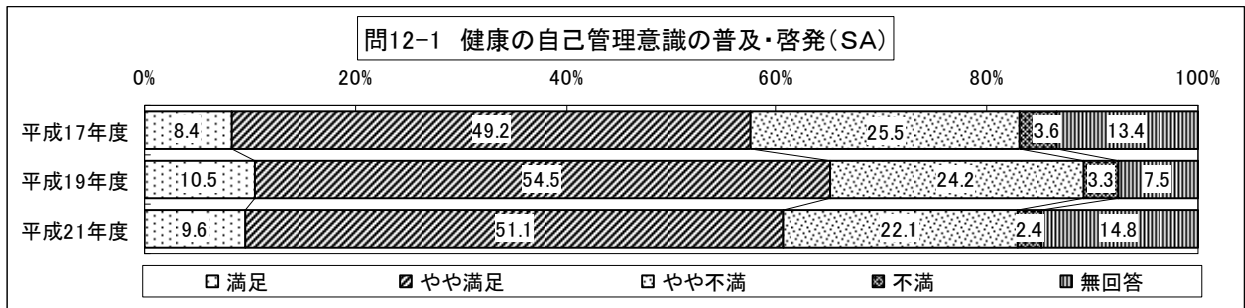


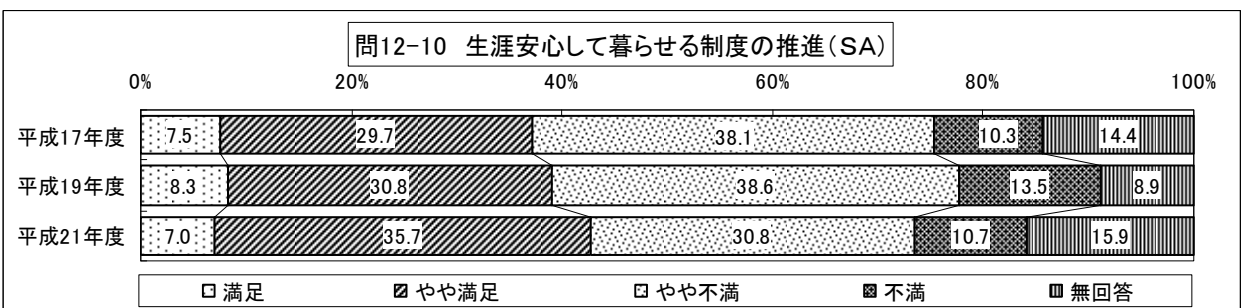
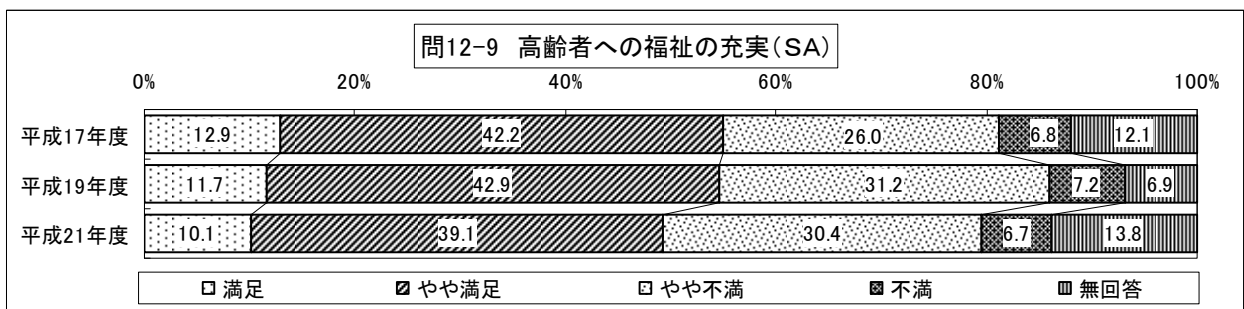
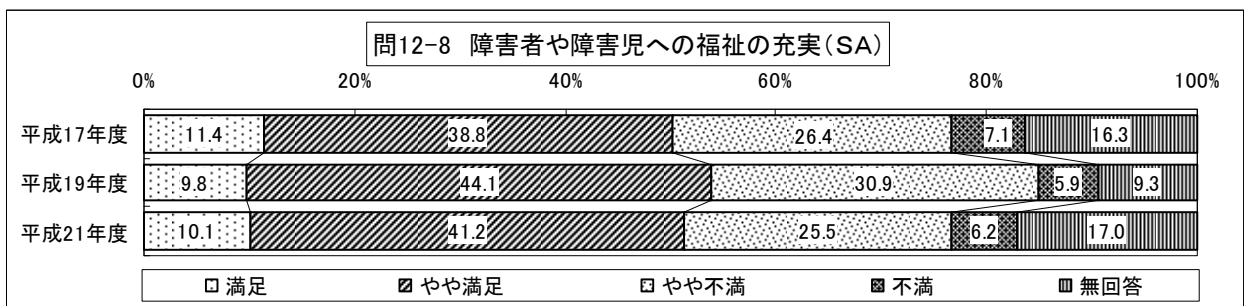
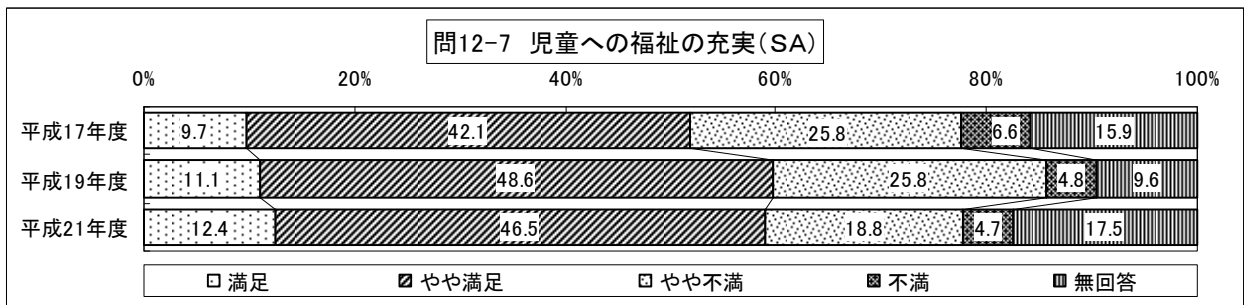
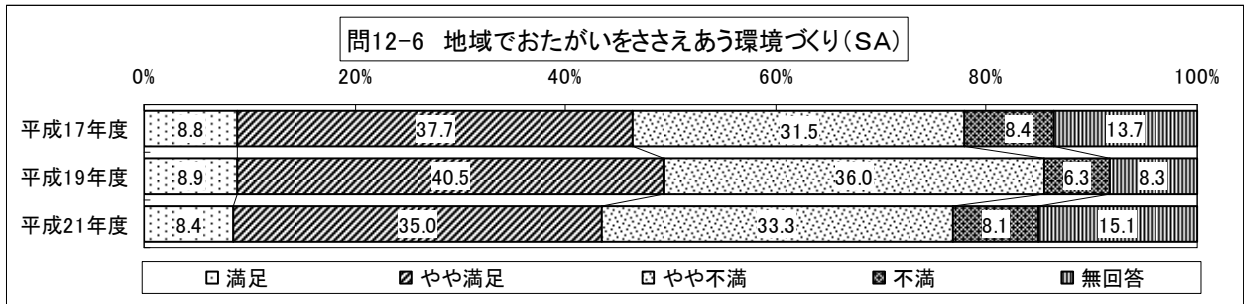


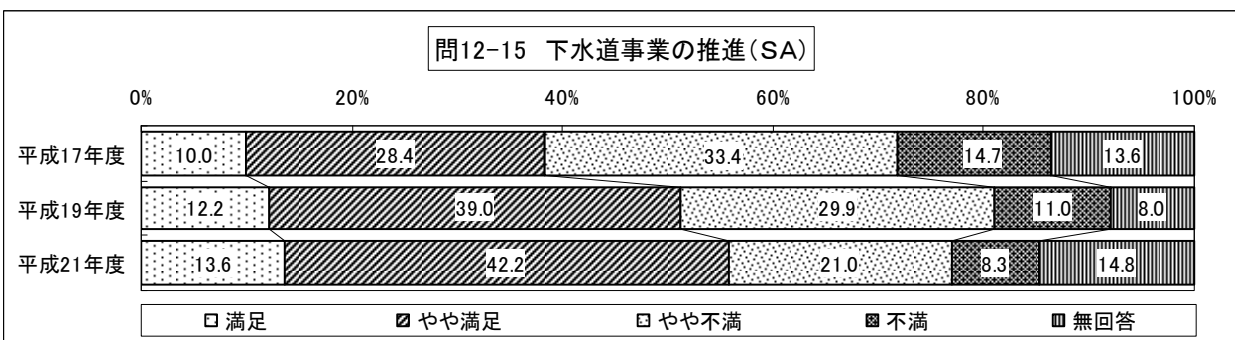
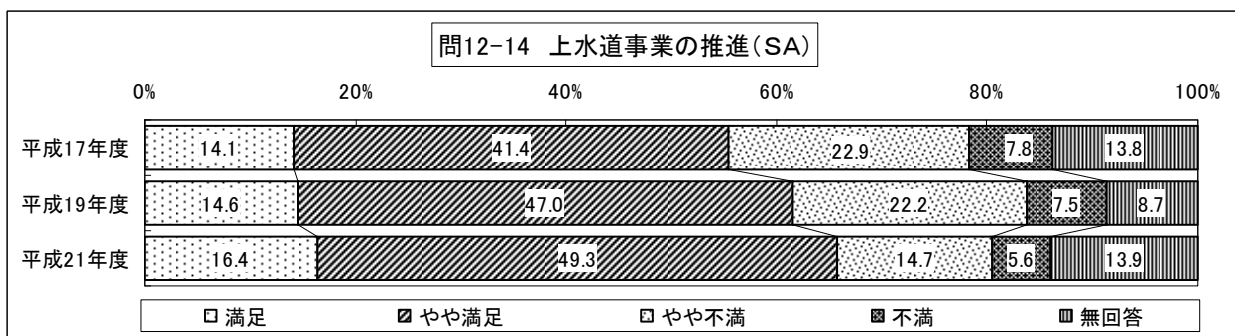
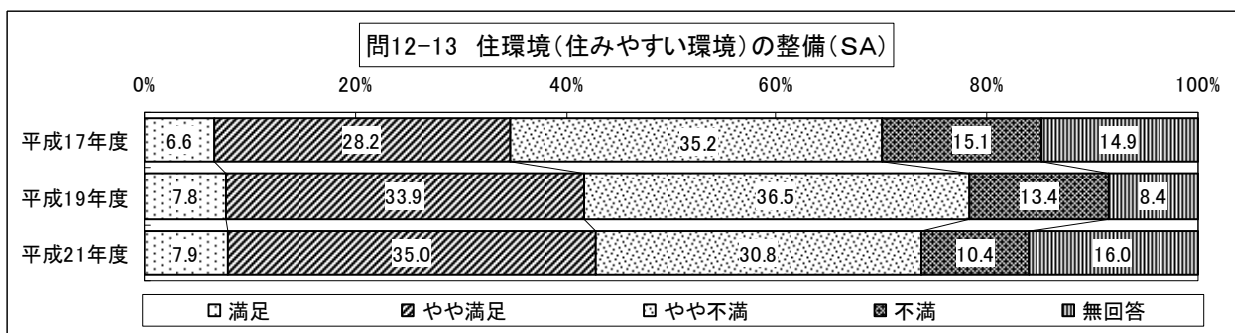
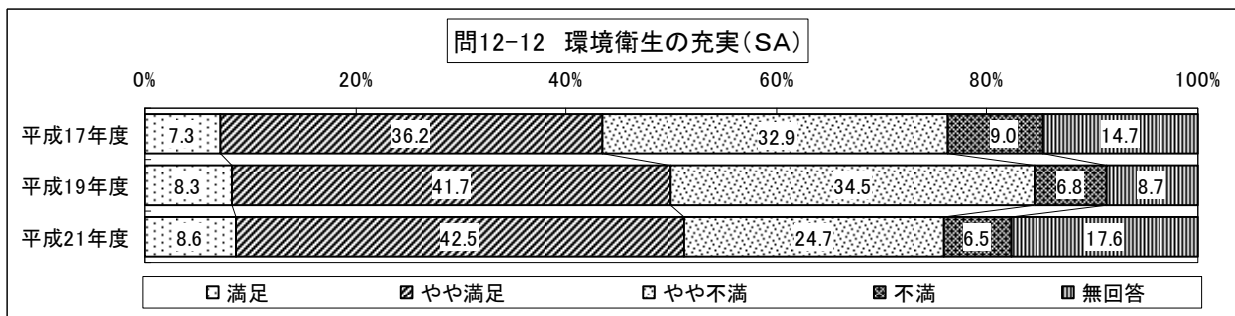
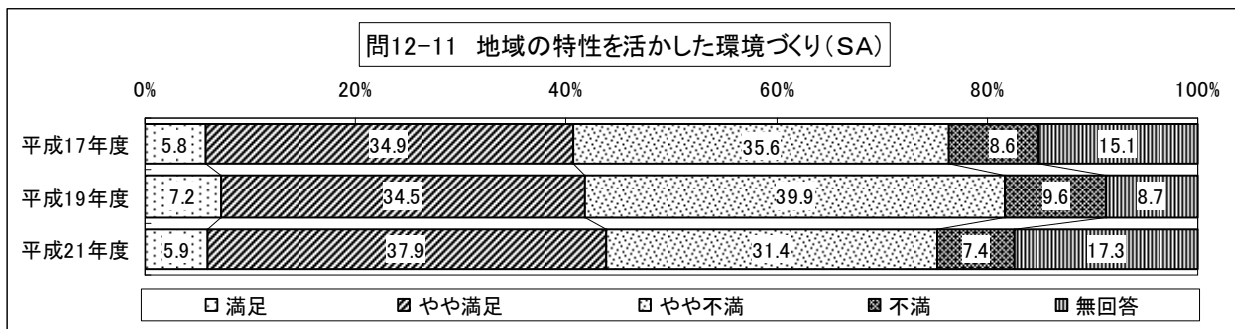


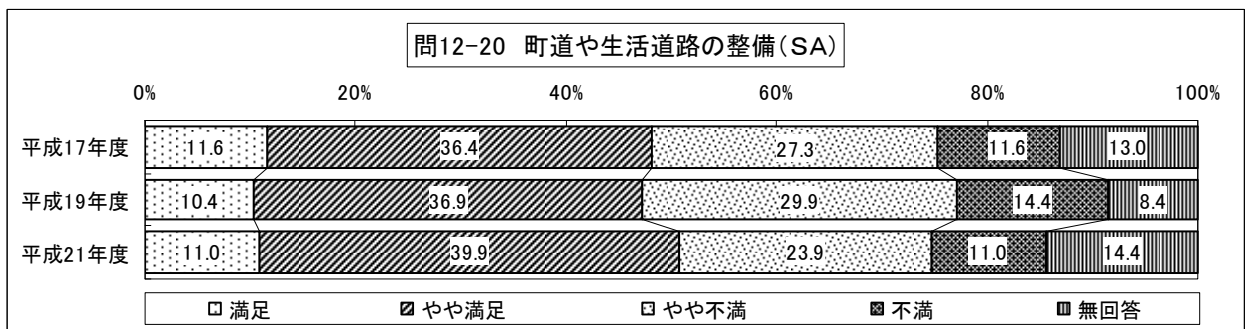
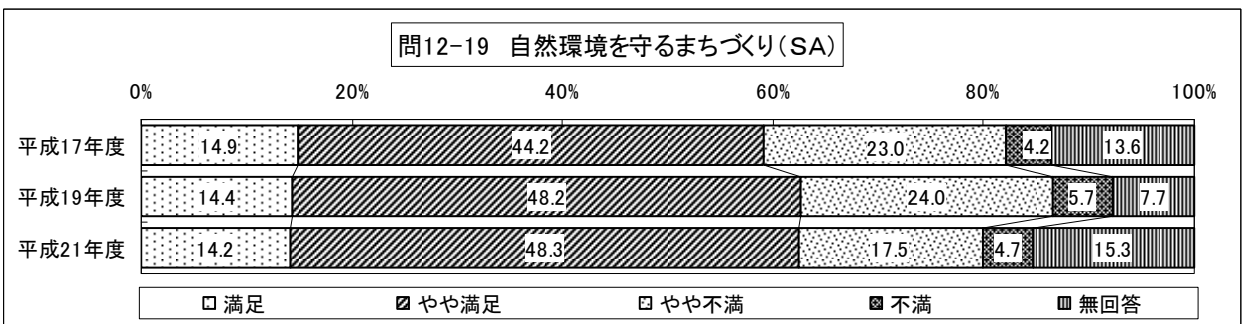
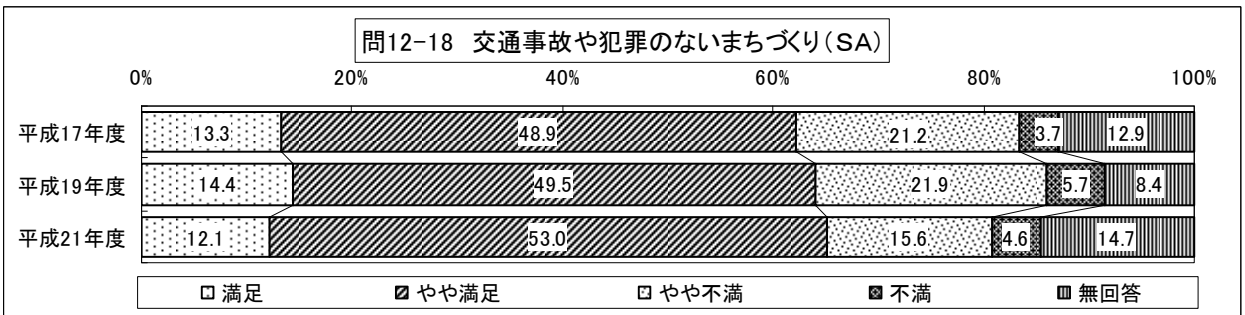
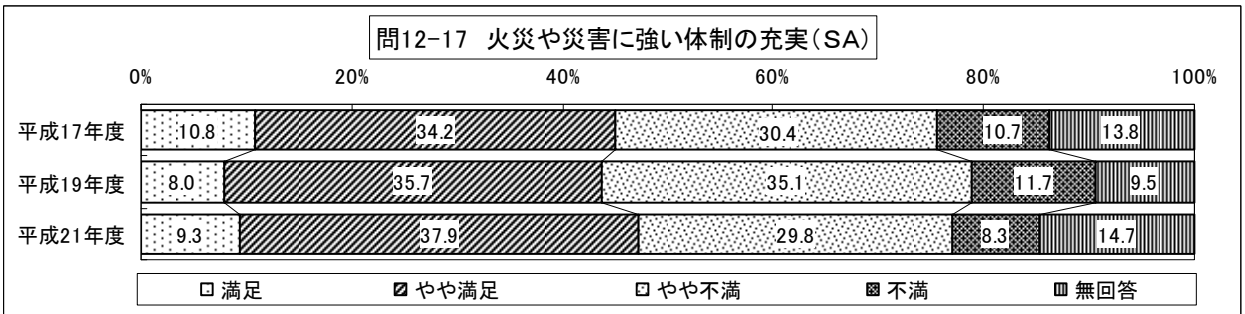
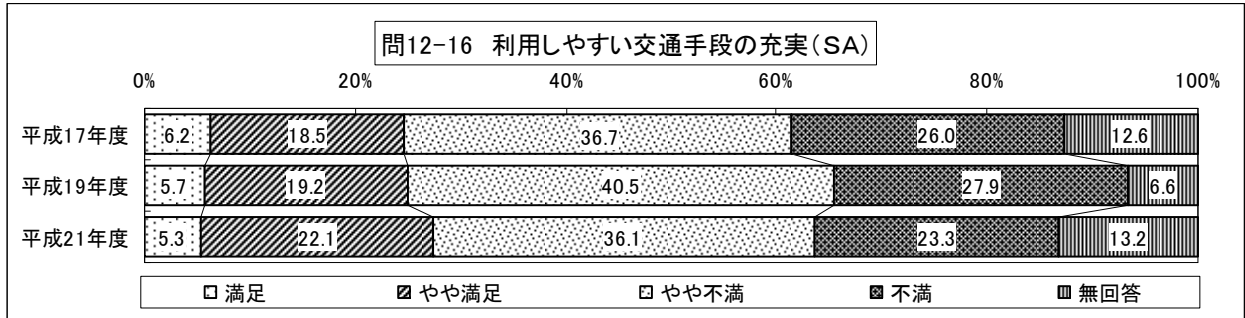


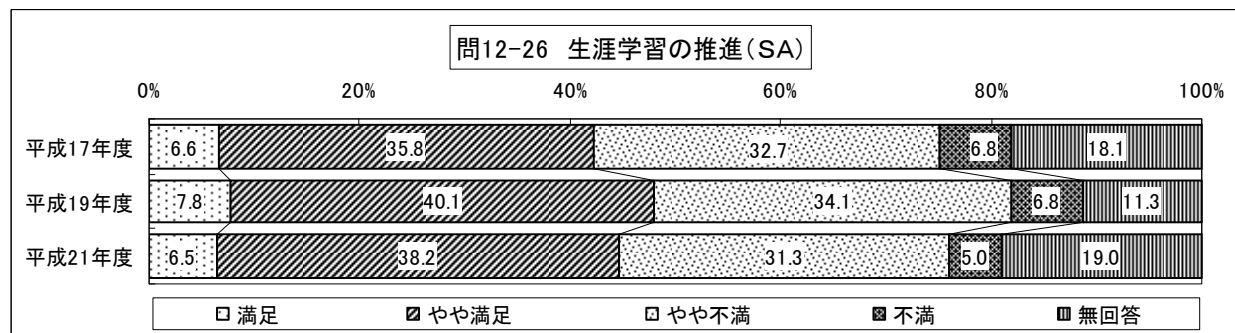
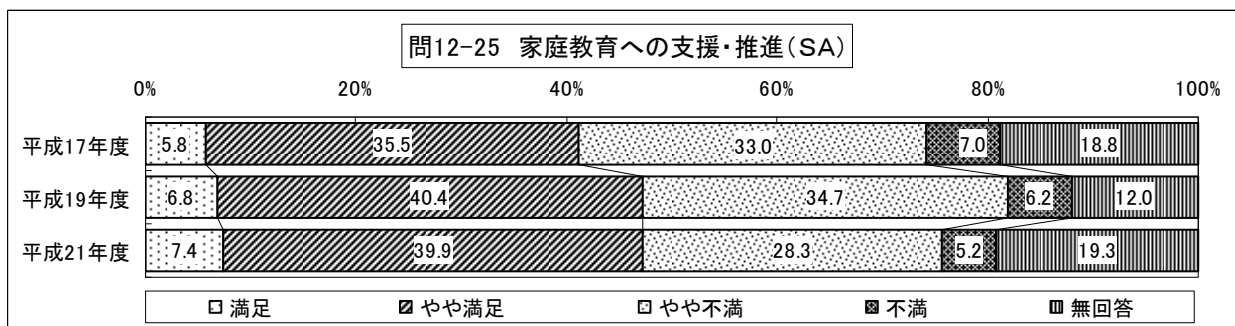
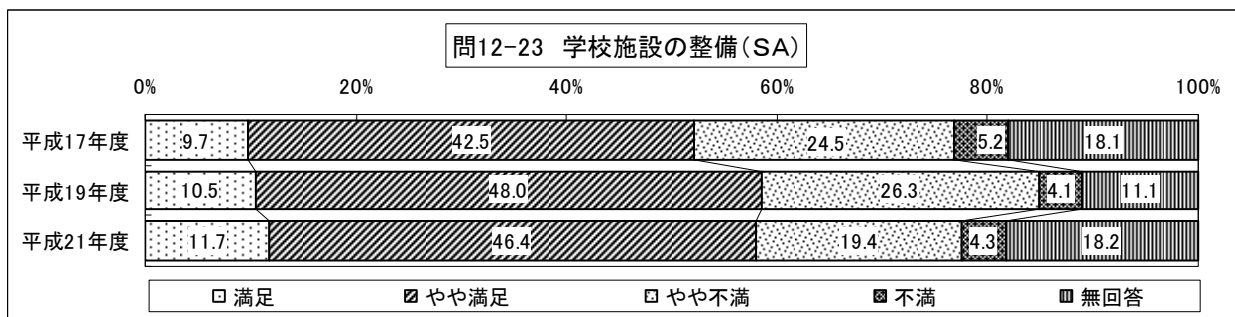
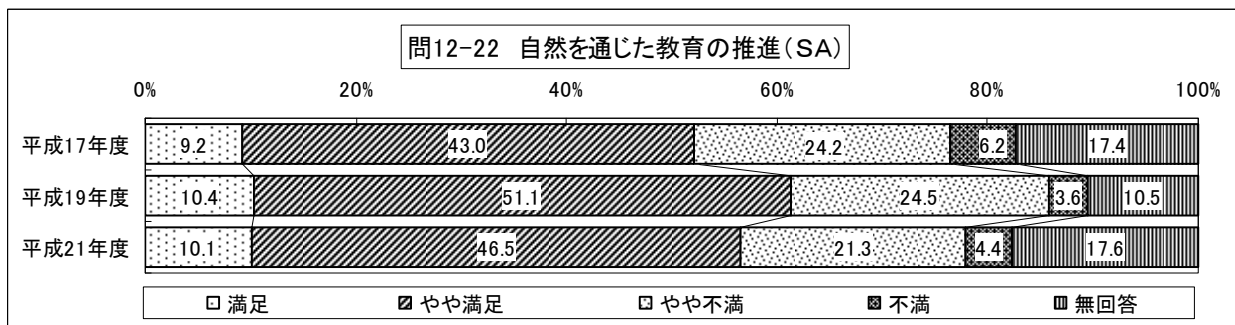
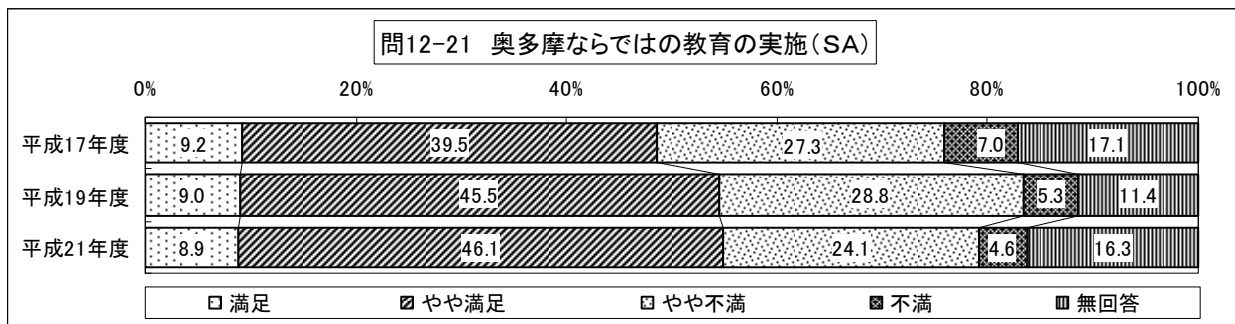
問12 分野別施策の実施状況の満足度（過去調査との比較）

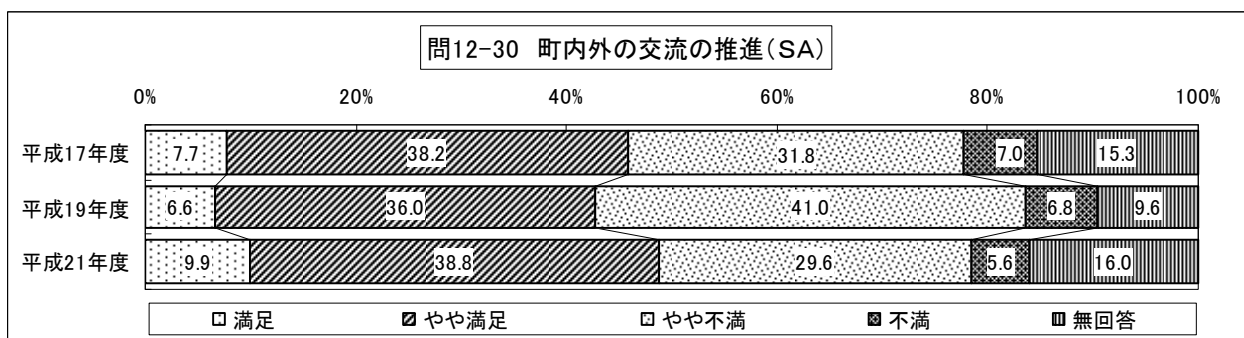
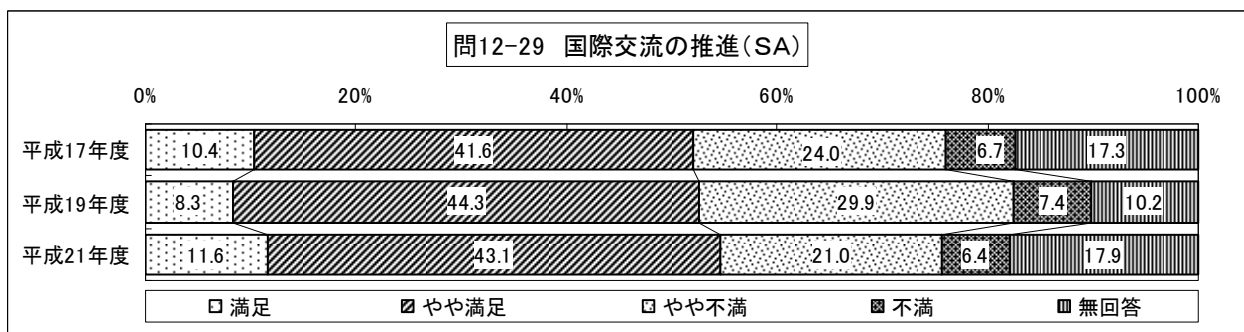
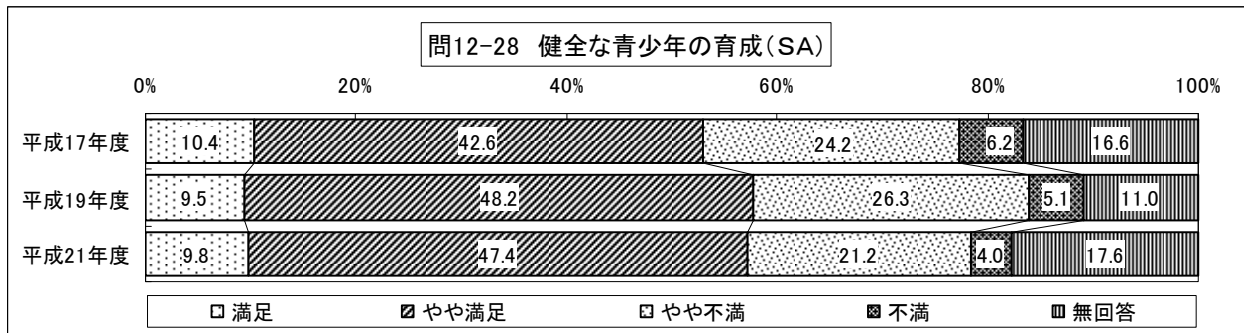
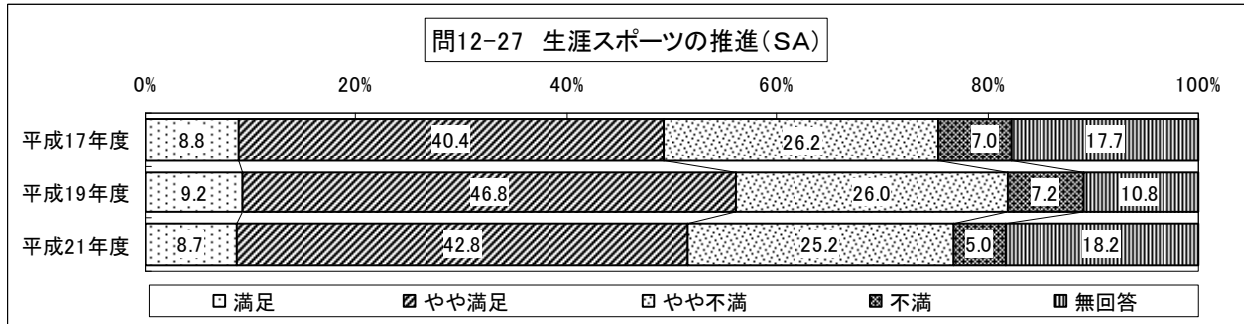
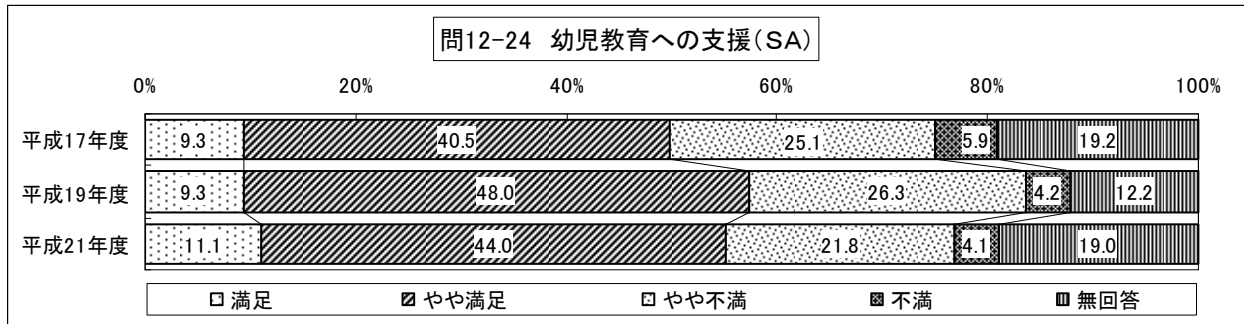


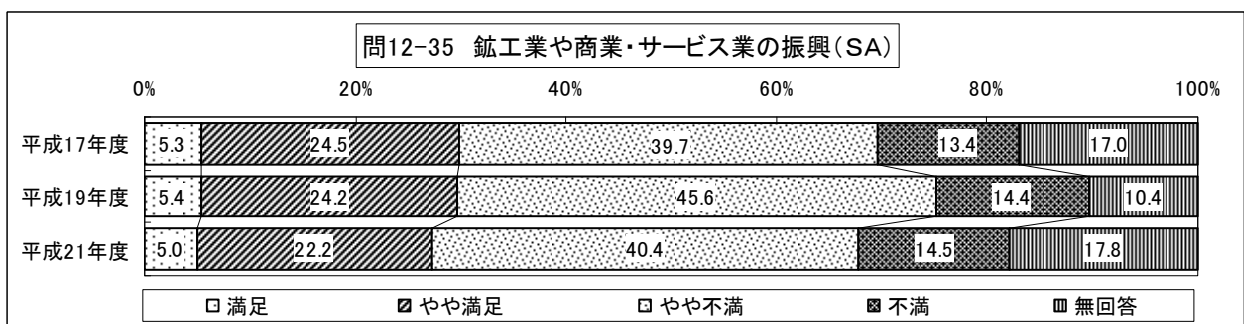
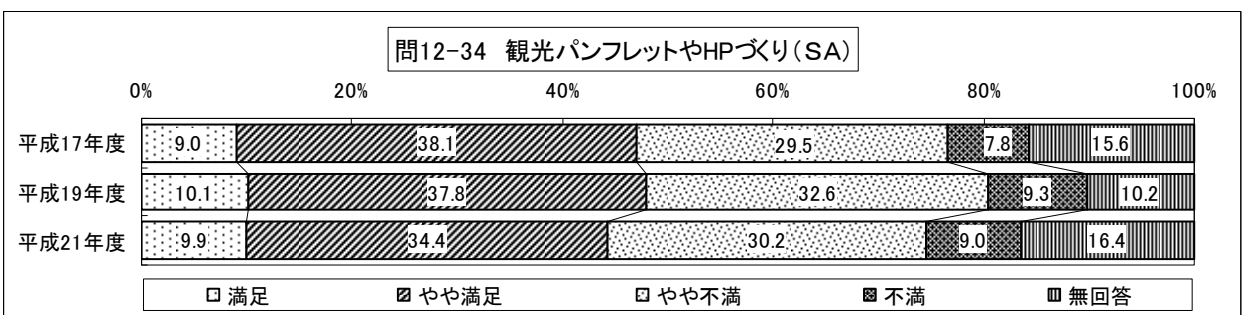
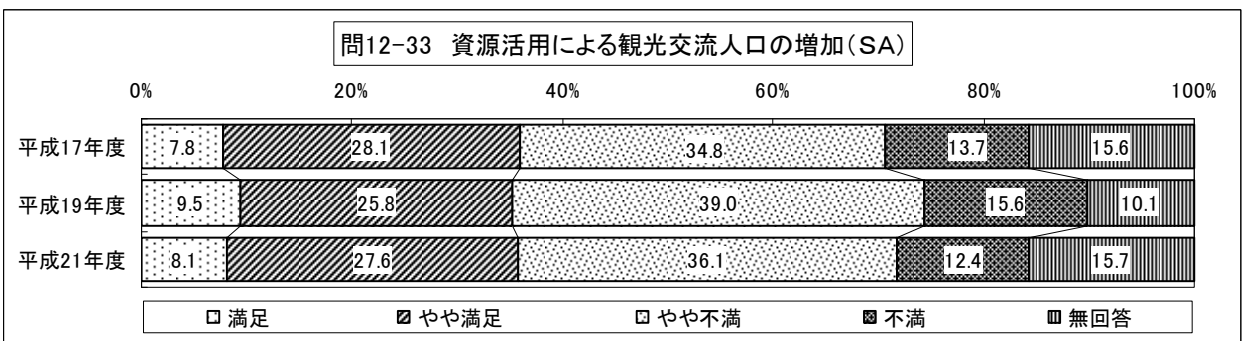
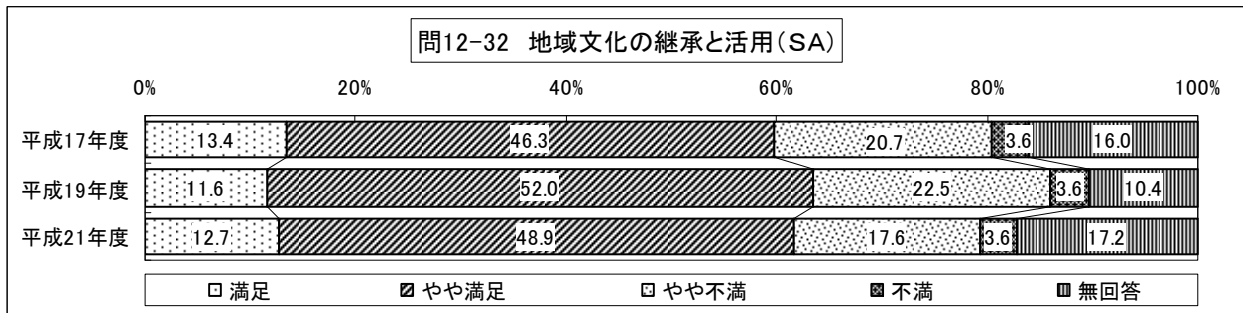
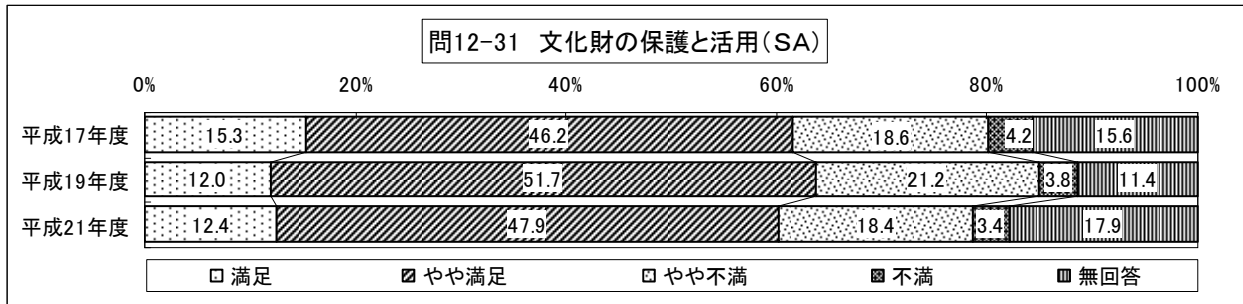


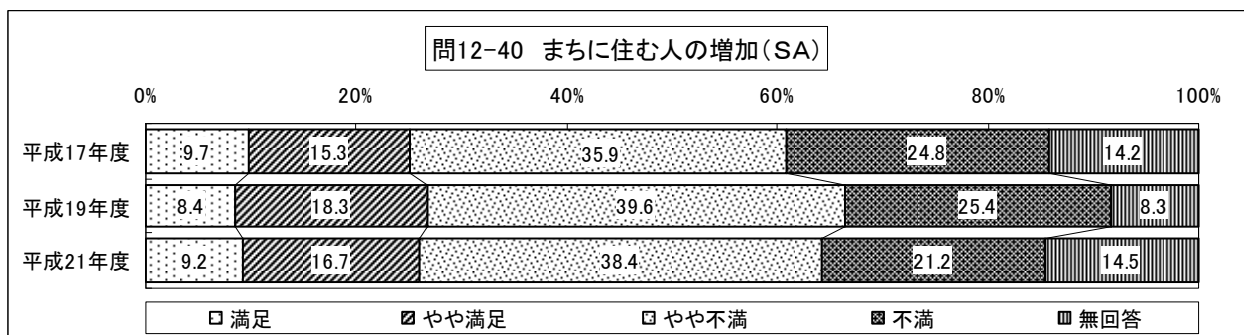
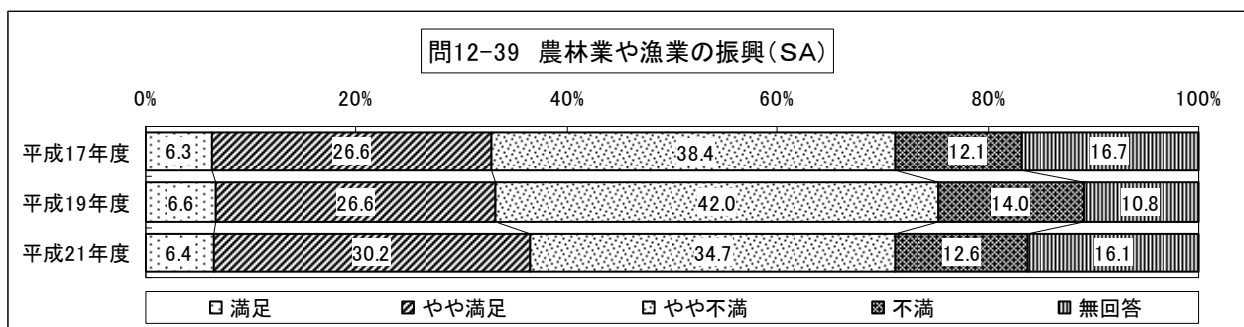
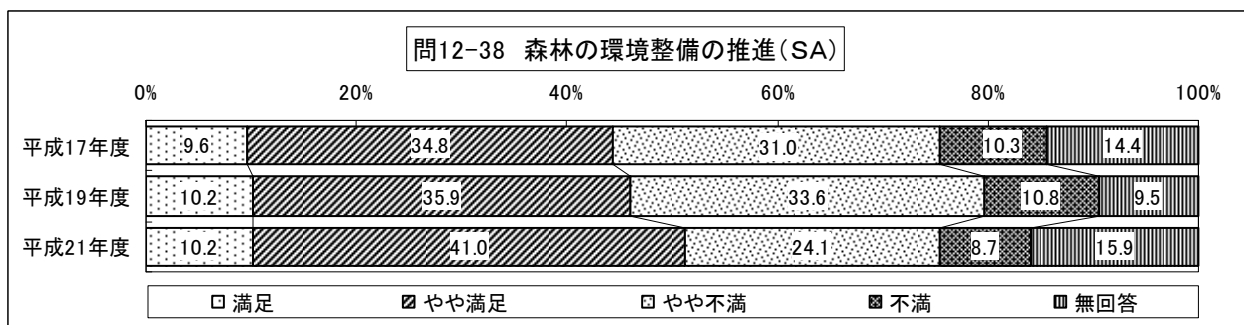
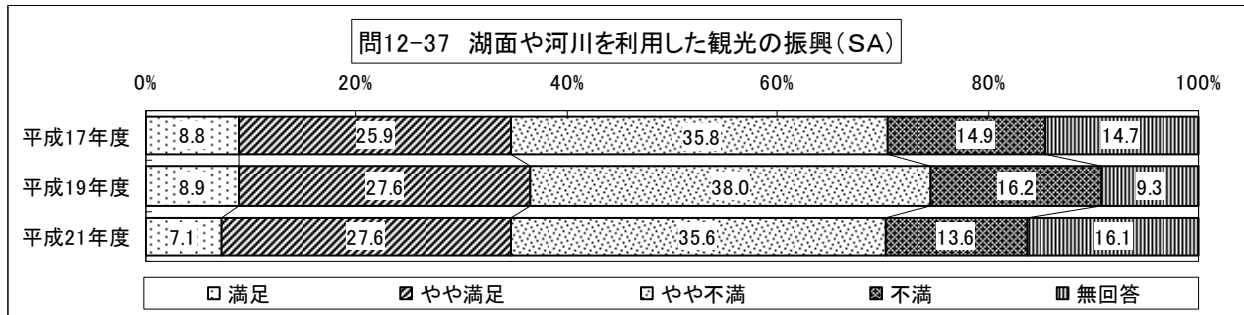
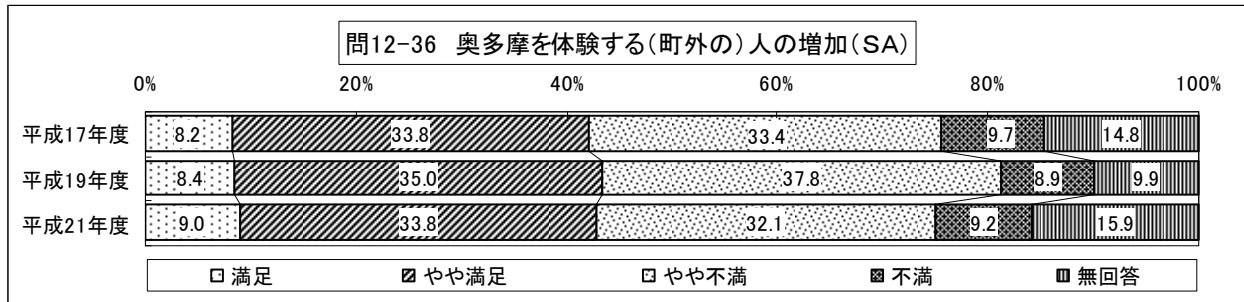


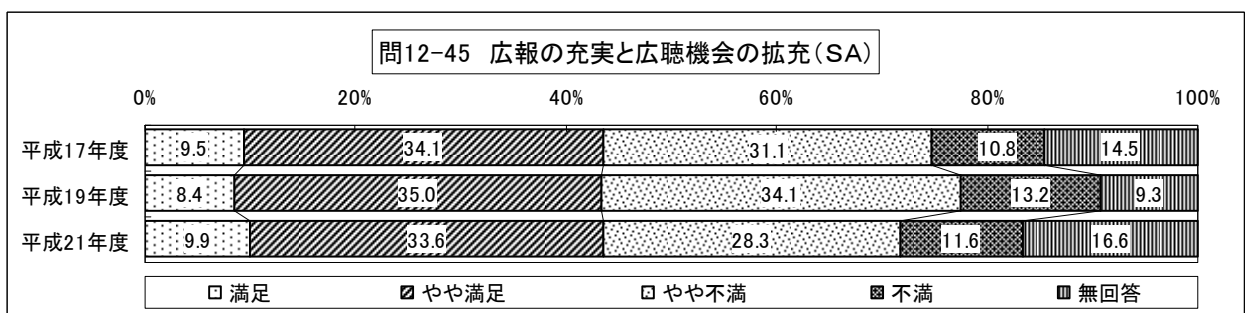
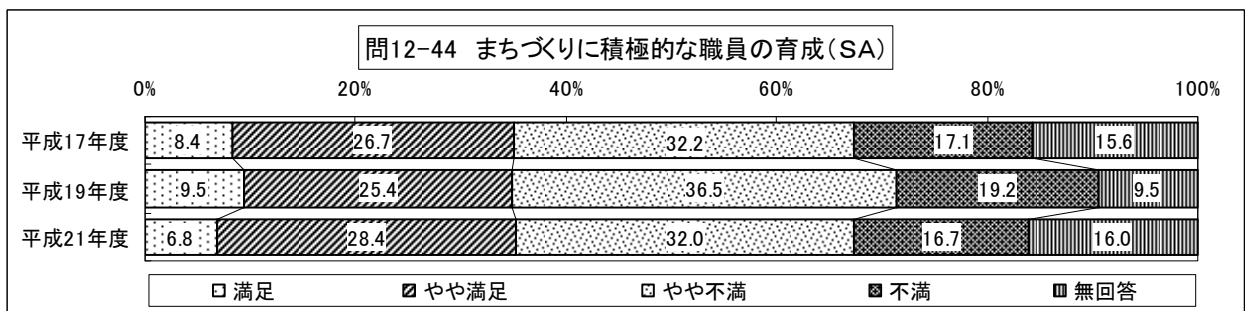
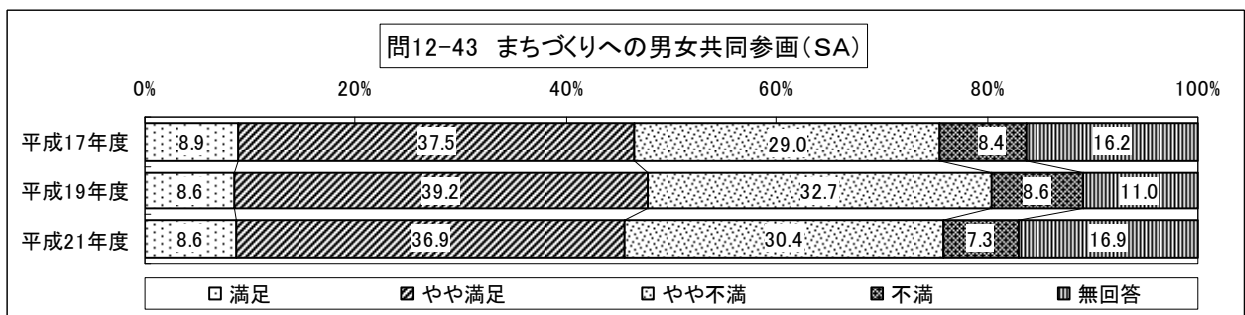
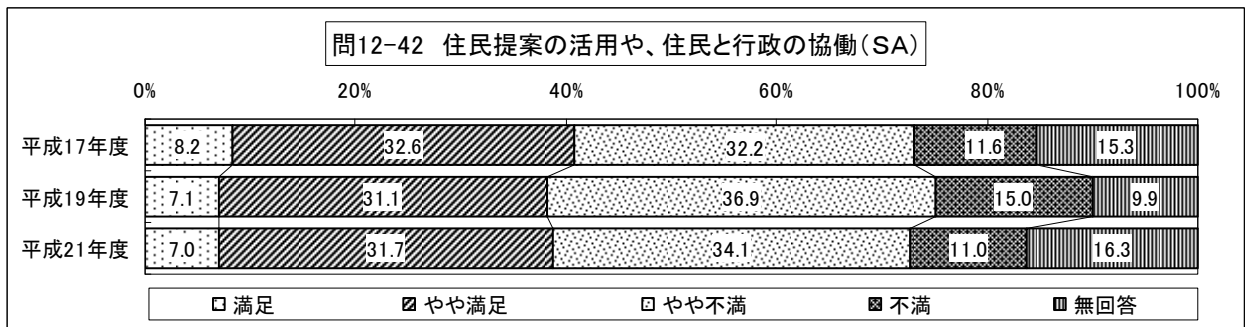
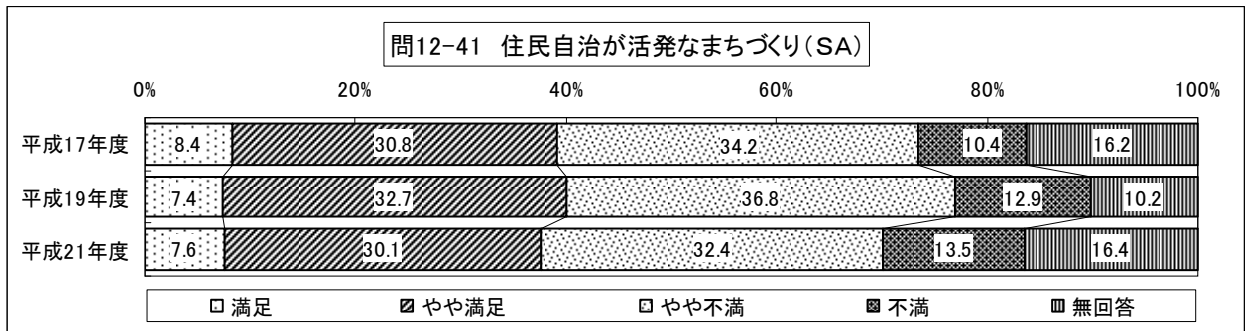


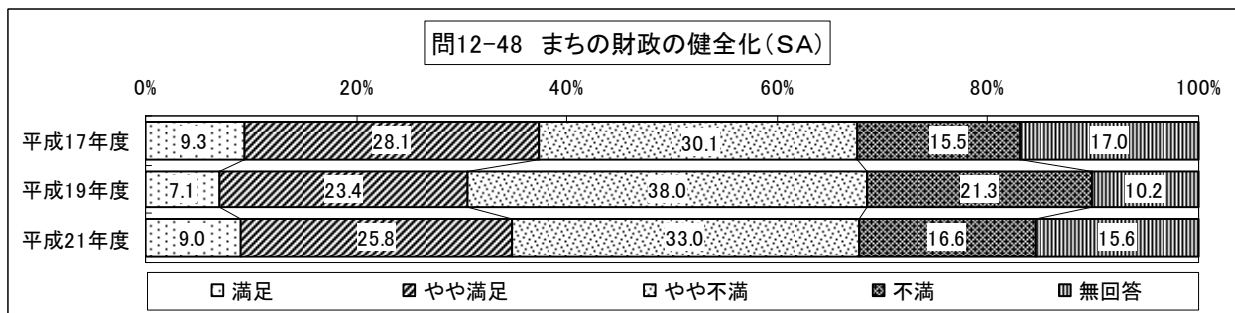
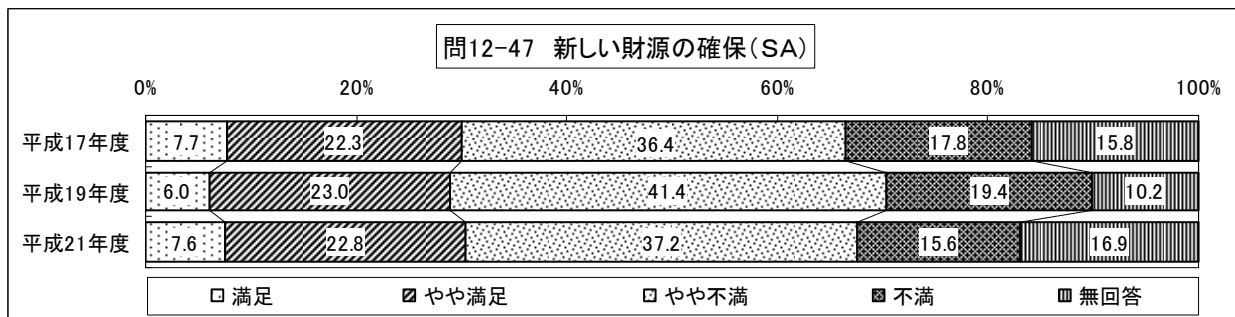
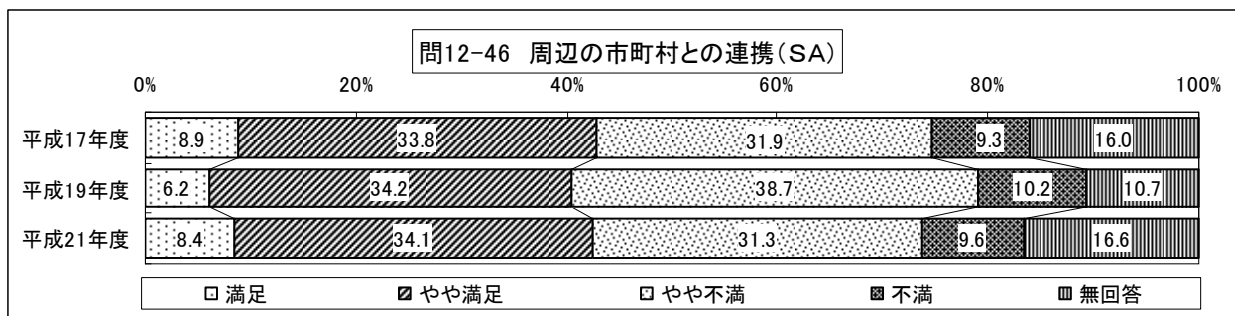




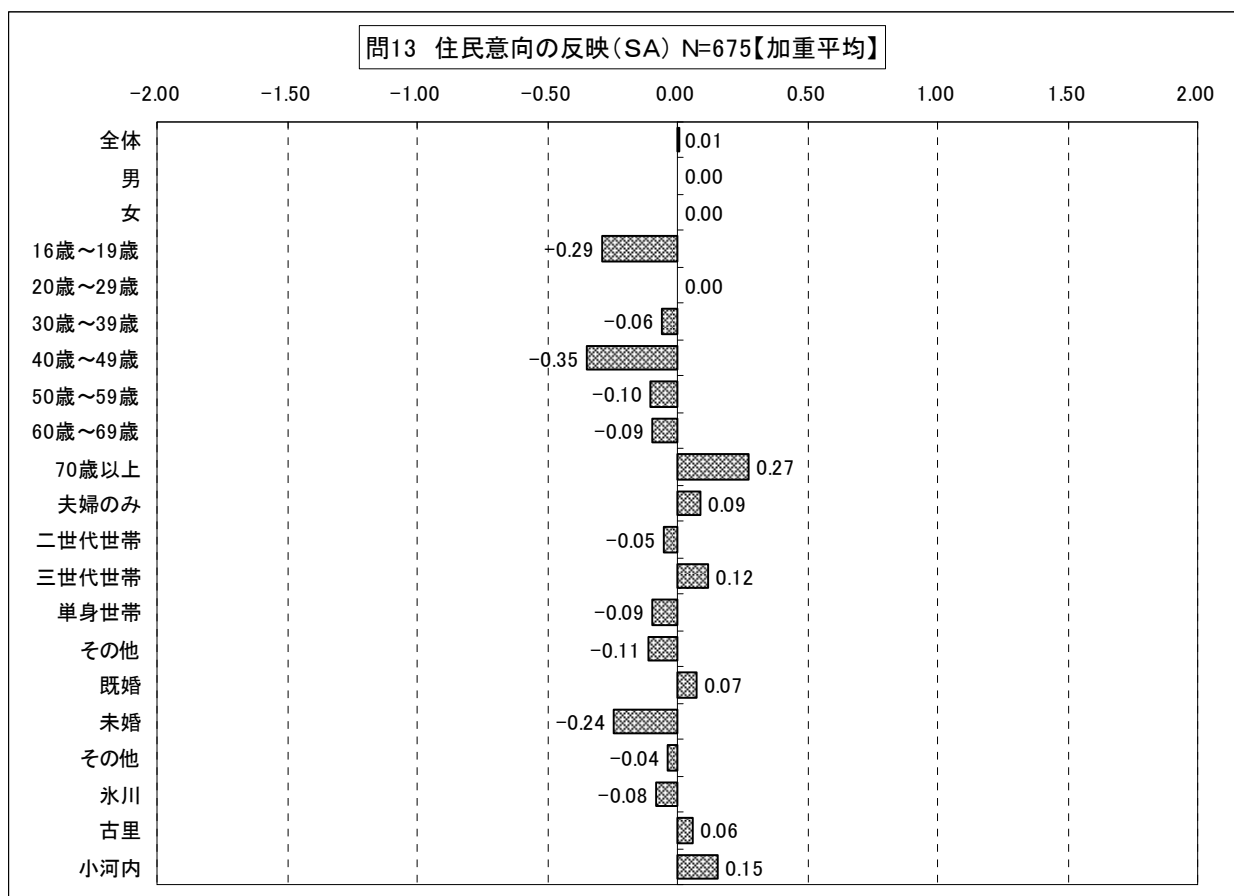




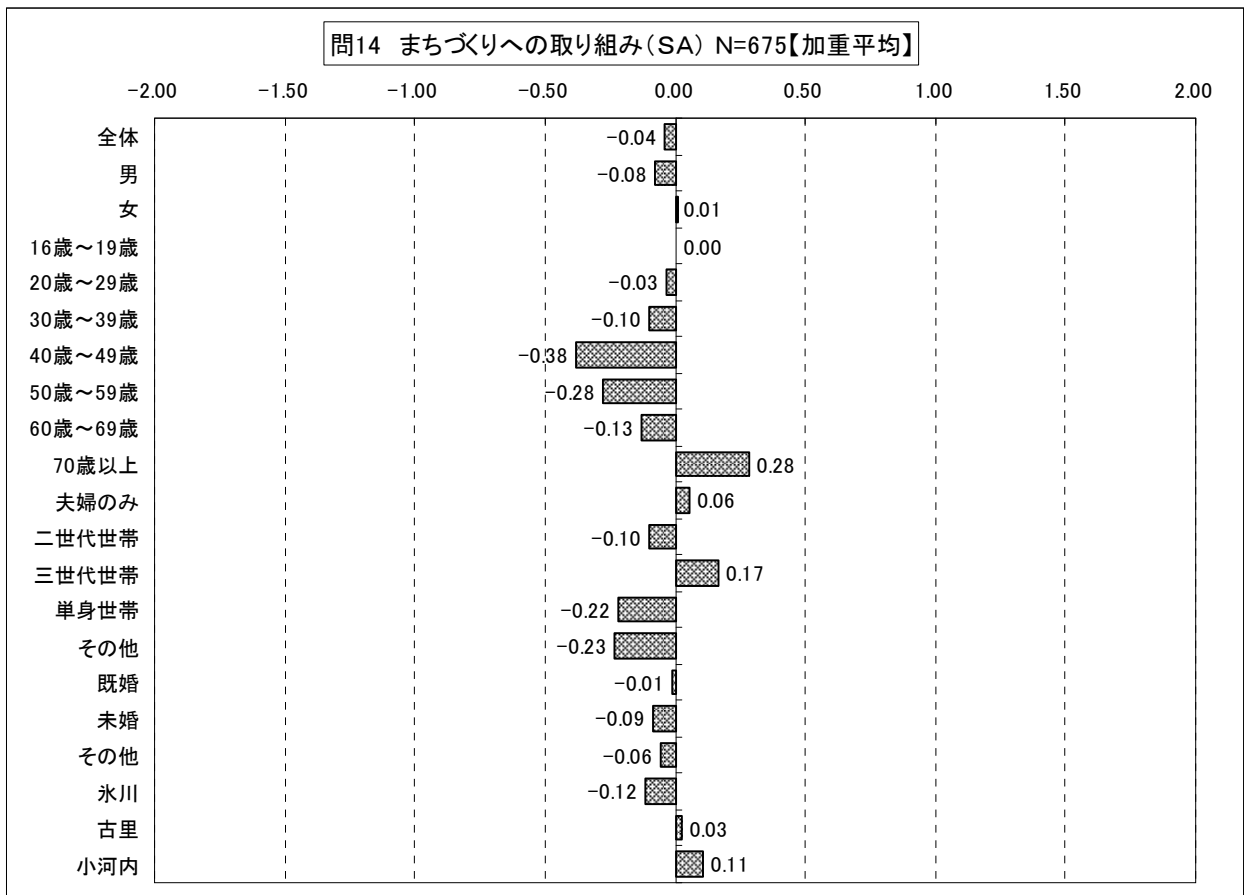




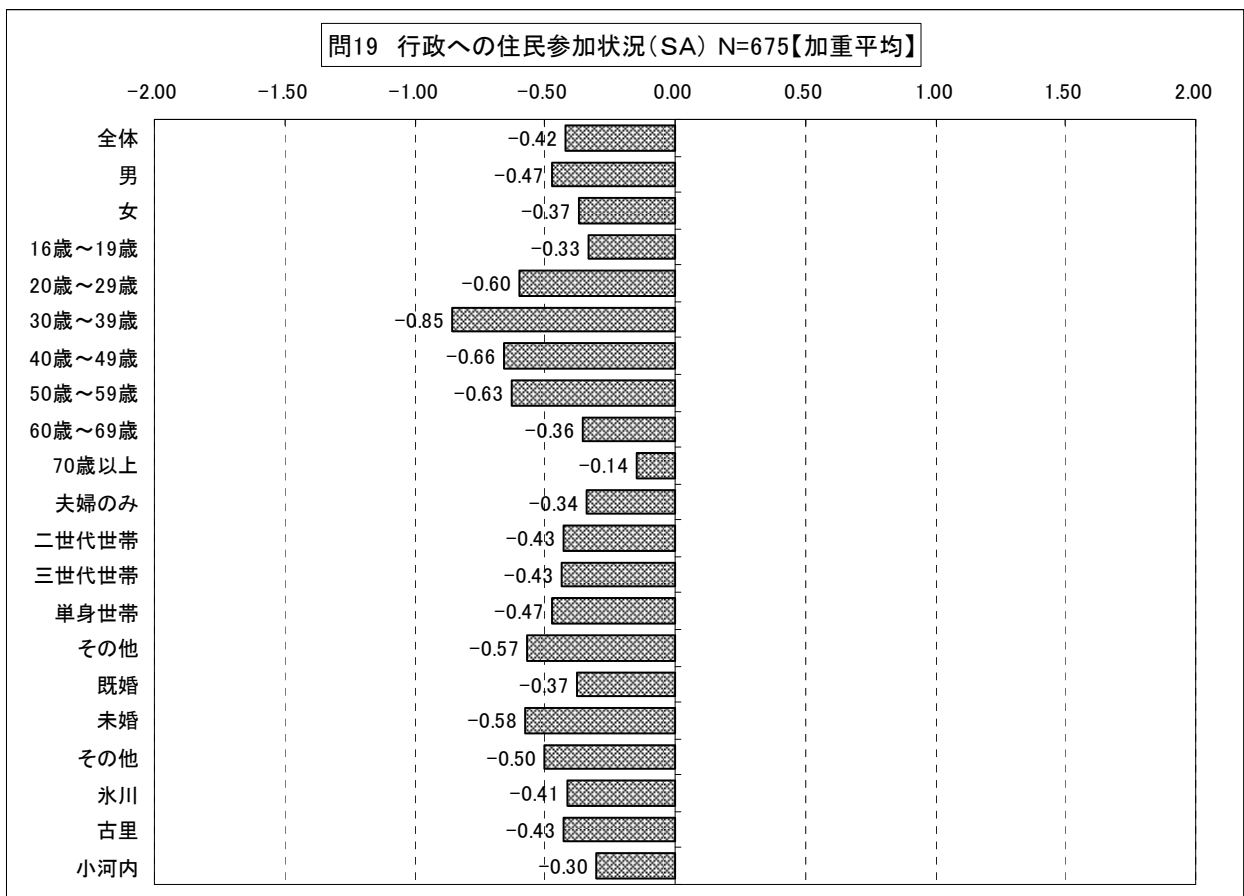
問13 住民意向のまちづくへの反映



問14 まちづくりへの取り組み



問19 行政への住民参加状況



問 27 生活の満足度

